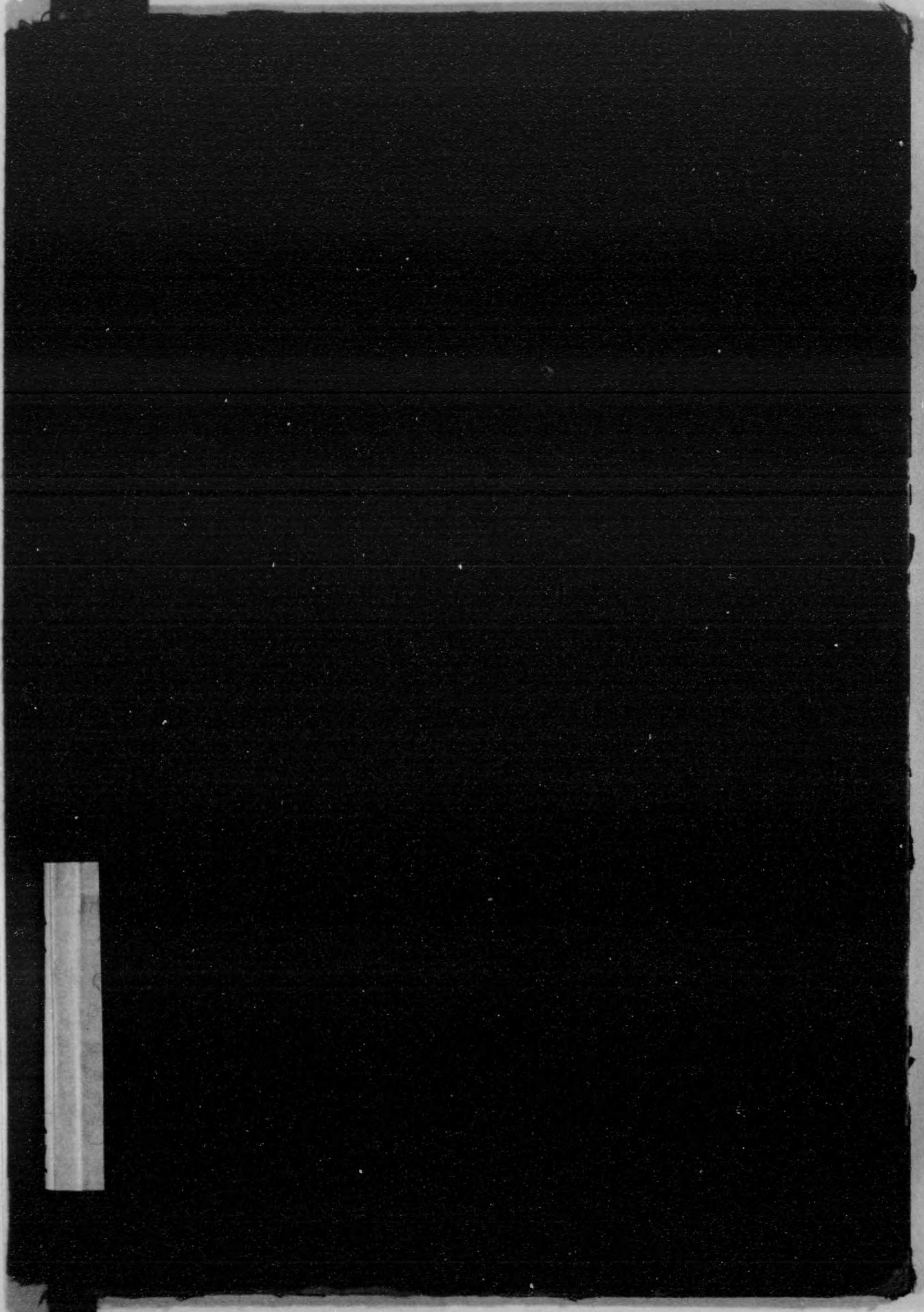




始



15
121

11812

醫學博士 石原忍 講述

トラホーム講習會講義

宮城縣警察部衛生課内

宮城縣私立衛生會

55-12/



大正十一年十一月本會ノ事業トシテ
 陸軍一等軍醫正醫學博士石原忍氏
 ナ招聘シ第五回トラホーム講習會
 ナ石卷町ニ於テ開催セリ依テ今般
 其講演要旨ヲ印刷ニ附シ汎布スル
 コト、セリ

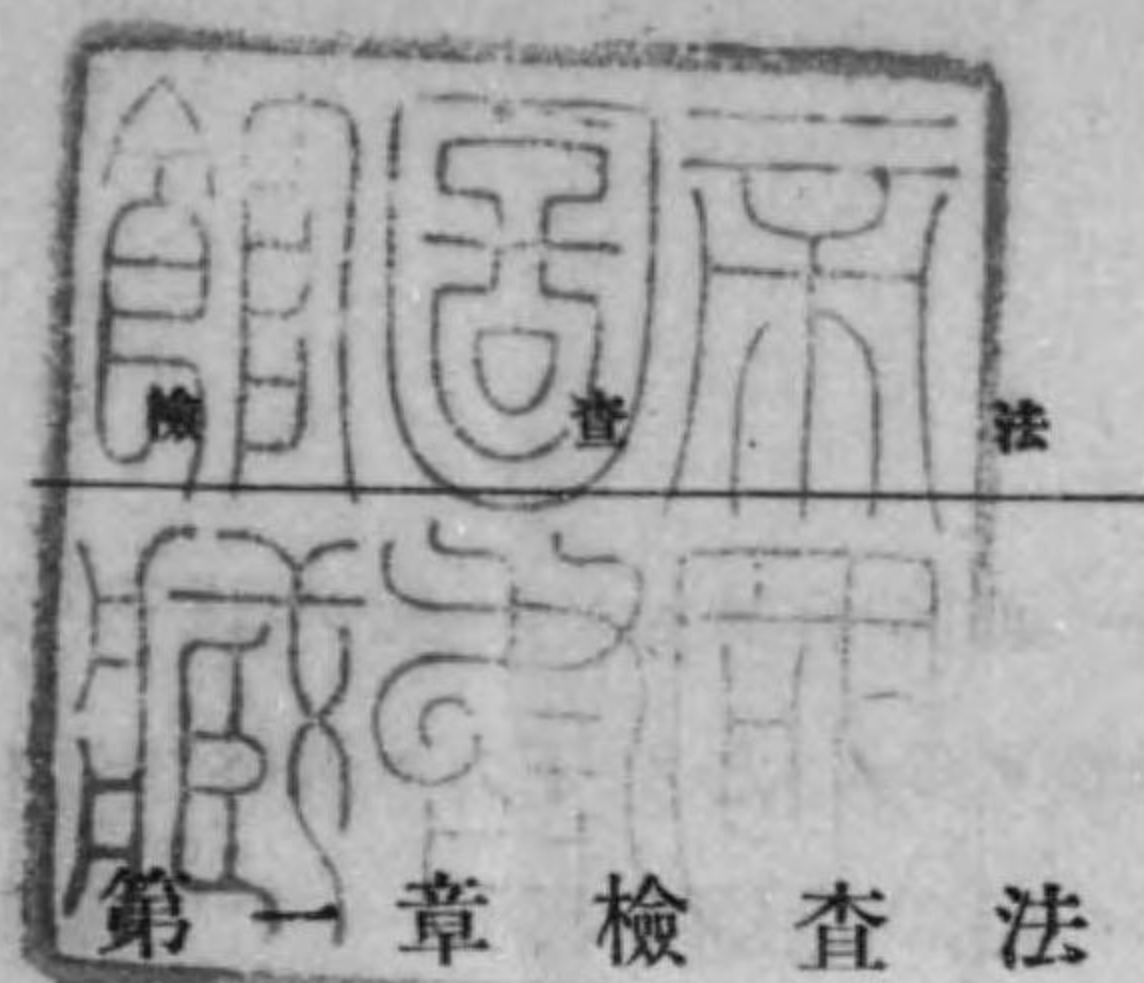
大正十一年四月二十日

宮城縣私立衛生會



目 次

| | |
|---------------------|-----|
| 緒 言 | |
| 第一章 検査法 | 1 |
| 第二章 解剖大要 | 10 |
| 第三章 トラホームハ如何ナル疾患ナリヤ | 19 |
| 第四章 トラホームノ原因 | 23 |
| 第五章 トラホームノ症状 | 25 |
| 第六章 トラホームノ特種型 | 28 |
| 第七章 トラホームノ合併症 | 34 |
| 第八章 トラホームノ経過 | 35 |
| 第九章 トラホームノ診断 | 37 |
| 第十一章 トラホームト鑑別ヲ要スル疾患 | 43 |
| 第十二章 トラホームノ治療法 | 55 |
| 第十三章 トラホームノ由來 | 96 |
| 第十四章 トラホームノ豫防法 | 100 |
| 附 録 一 トラホーム豫防法規 | 105 |
| 附 録 二 トラホーム用藥物及處方 | 123 |



眼ノ検査ニ方リ 注意スベキコトハ 其ノ構造ノ 極メテ精緻ニシテ 僅微ノ異状モ 時トシテ 意外ニ大ナル障碍ヲ 惹起スルコトナリ。故ニ 眼ヲ検査スルニハ 努メテ温和ニ 之ヲ 取扱ヒ 決シテ 暴力ヲ 用ウルコトナク 又 視診ニ際シテハ 綿密ニ 細部ニ至ルマデ 注意スベシ。然ラザレバ 往々ニシテ 重要ナル變化ヲ 見落スコトアリ。

眼ノ検査法ハ 先ヅ 被檢者ヲ 窓ニ面シテ 位置セシメ 手ヲ觸ル、コトナク 外眼ノ狀況ヲ 看察シ 次デ 一方ノ手ノ 示指ト 拇指トヲ 上下ノ 眼瞼ニ當テ、 輕ク 瞼裂ヲ開キ 角膜 及 球結膜ヲ 檢ス。

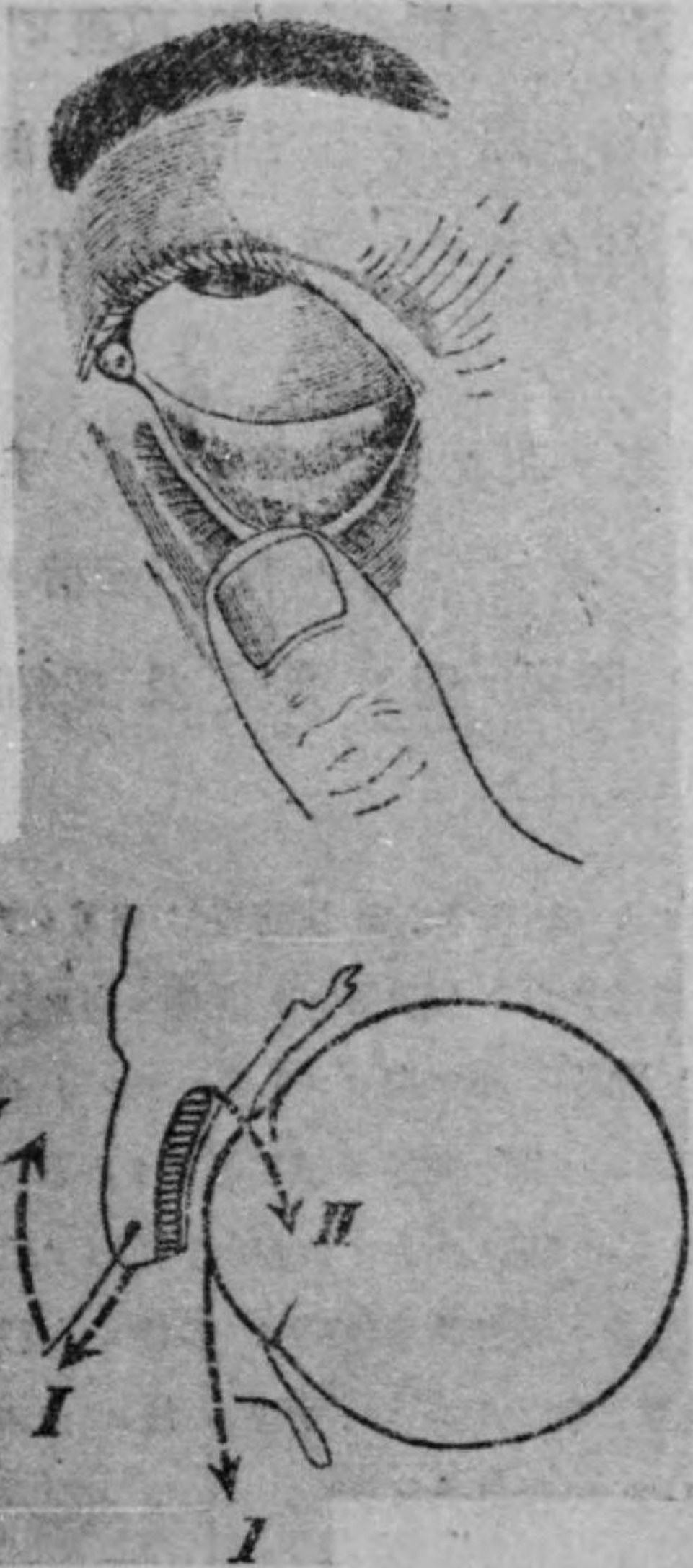
此ノ際 若シ 眼瞼ノ皮膚ガ 糜爛 濕潤セルカ 又ハ 分泌物 脂肪等ガ 附着シアリテ 指ガ滑リテ 不都合ナラバ 少シク 濕ヒタル 棉花ヲ以テ 顯顯側ヨリ 鼻側ニ向ツテ 輕ク 拭ヒ去ルベシ。或ハ 又 羞明 疼痛等アリテ 容易ニ 眼ヲ開クコト能ハザレバ 決シテ 強力ヲ加ヘテ 之ヲ開クベカラズ。斯カル場合ニハ 屢々 角膜ニ 潰瘍等アリテ 暴力ノ爲ニ 容易ニ 穿孔スルコトアルヲ以テ 此ノ場合ニハ 豫メ コカイン水(處方73)ヲ點眼シテ 後 徐々ニ 開クベシ。又 眼瞼痙攣症アル患者ハ 分泌物 涙液等ガ 多量ニ 結膜囊内ニ 蓄溜シ 瞼裂ヲ開クヤ否ヤ 飛ビ出シテ 檢者ノ眼ニ入ルコトアリ。故ニ 此ノ場合ニハ 檢者ハ 自己ノ頭ヲ 若干 側方ニ置キテ 之ヲ 豫防スベシ。

角膜 球結膜ノ次ニハ 瞼結膜 及 穹窿部結膜ヲ見ル。之ガ爲ニハ 眼瞼ヲ 翻轉セザルベカラズ。

下眼瞼ノ翻轉ハ 通常 容易ニシテ 先ヅ 睫毛ニ近キ 皮膚ノ 上ニ 拇指 又ハ 示指ヲ置キ 之ヲ 下方ニ牽引シツ、 被檢者ヲシテ 上方ヲ見シムレバ 通常 瞼結膜ト同時ニ 穹窿部結膜ヲ 見ルコト

ヲ得、(第48圖)

第 48 圖
下眼瞼翻轉ノ圖



第 49 圖
上眼瞼翻轉ノ順序ヲ示ス略圖

上眼瞼ノ翻轉ハ 若干 熟練ヲ 要ス。其ノ 要領ハ 先ヅ被檢者ヲ シテ下方ヲ見シメ 軟骨ノ下縁ヲ 前下方ニ牽引シ 次デ 之ヲ 上方ニ轉ズルト共ニ 軟骨ノ上縁ヲ後下方ニ壓スルコト 第49 圖ノ如シ。

被檢者ニ 下方ヲ見シムルコトハ 時トシテ困難ナルコトアリ。何トナレバ 檢者ノ手ガ眼瞼ニ觸ルレバ 被檢者ハ 通常 反射的ニ 眼ヲ閉ヅ。此ノ際 眼球ハ 上竄スルヲ常トスルヲ以テ 斯カル場合ニハ 一旦手ヲ休メテ 徐ニ 下方ヲ見ル練習ヲサセ 然ル後 再ビ 翻轉ニ着手スルナリ。

上眼瞼翻轉ノ方法ハ 概ネ 三種アリ。

第一法 之ハ一方ノ手ノ拇指ト示指トヲ用ウル方法ニシテ 先ヅ被檢者ヲシテ 下方ヲ見シメ 次デ 示指ノ先端ヲ 眉毛ノ

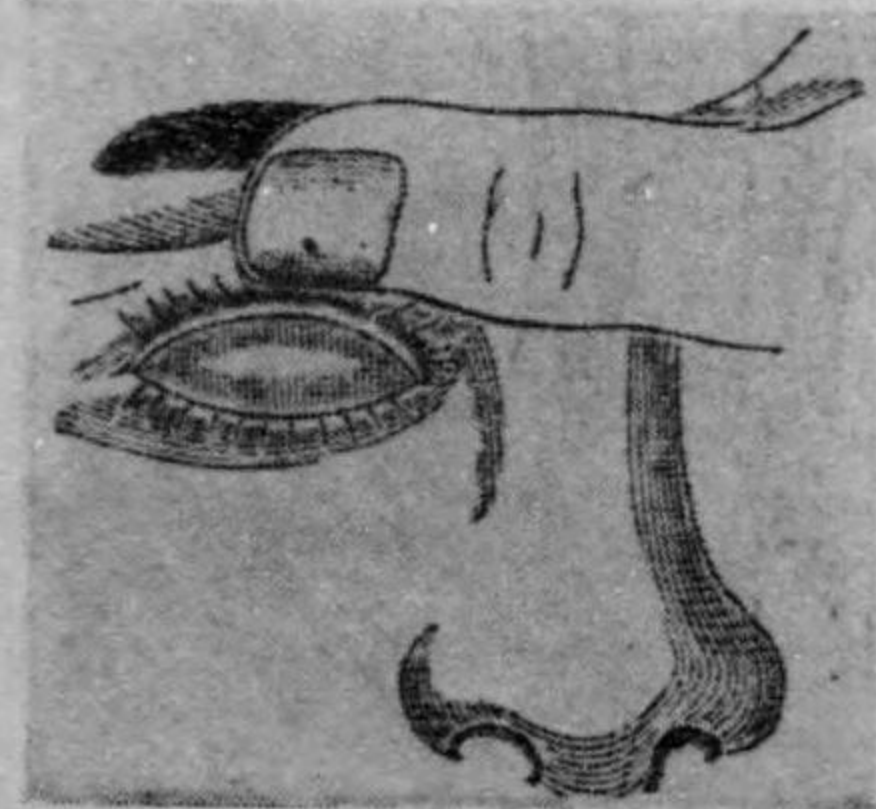
直下ニ當テ 拇指ノ先端ヲ 睫毛ノ附近ニ當テ、 其ノ中間ノ 皮膚ヲ撮メバ兩指ノ間ニ 軟骨上縁ニ近キ部分ノ 皮膚ガ撮ミ得ラル

(第50圖)。



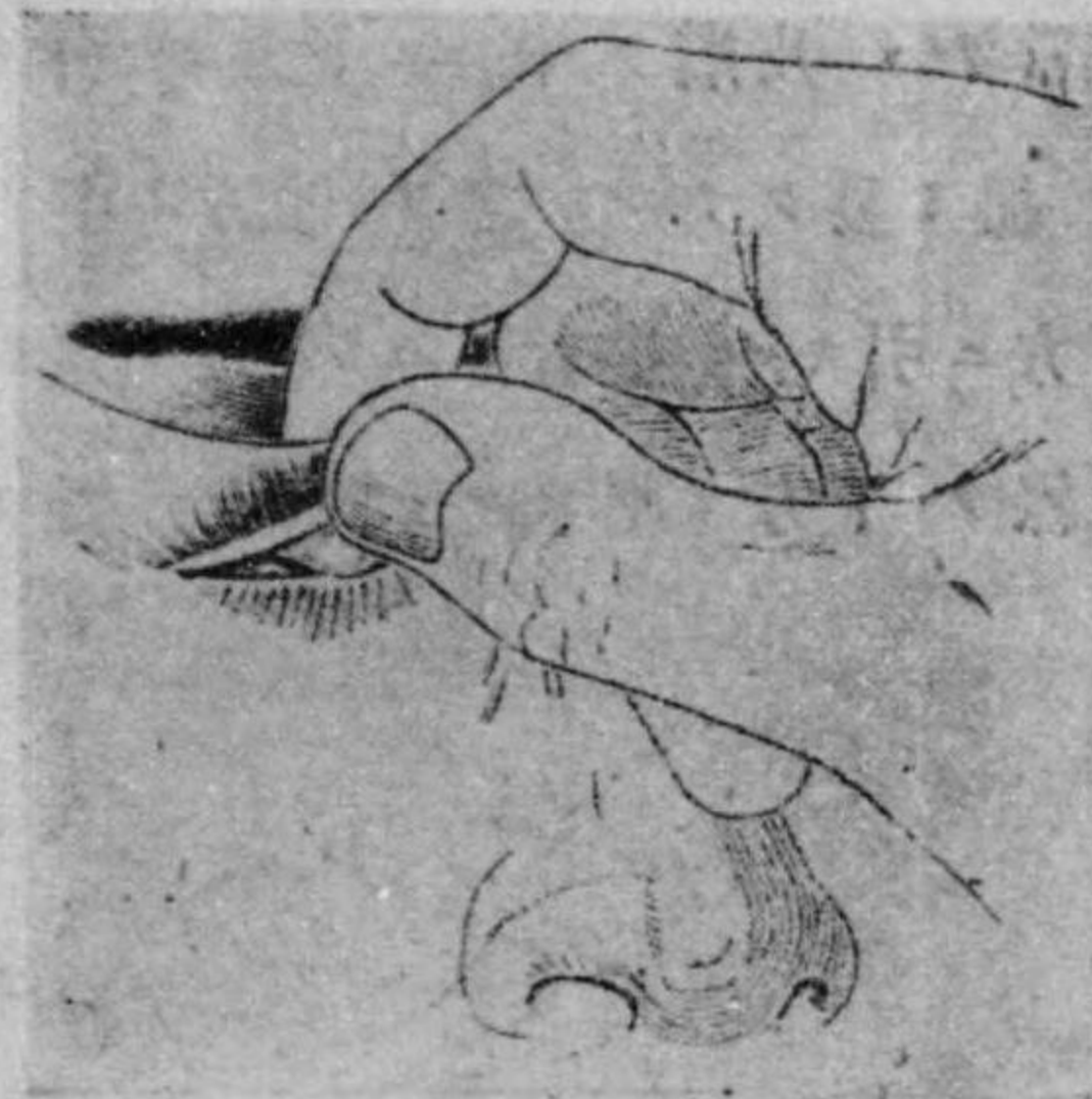
第 50 圖
上眼瞼翻轉第一法ノ一

此ノ時 撮ミタル上眼瞼ヲ 少シク前下方ニ引キツ、 示指ノ先端ヲ以テ 軟骨ノ上縁



第 52 圖
上眼瞼ヲ翻轉シ 固定シタル圖

是ニ於テ 拇指ノ先端ヲ 示指ノ掌面ニ沿ウテ 手前ニ滑ラスレバ 拇指ノ先端ト 示指第三節ノ中腹トノ間ニ 軟骨中央部ノ 皮膚ガ撮マレ 軟骨下縁ハ 眼球ヲ離レテ 前方ニ向フ(第51圖)。



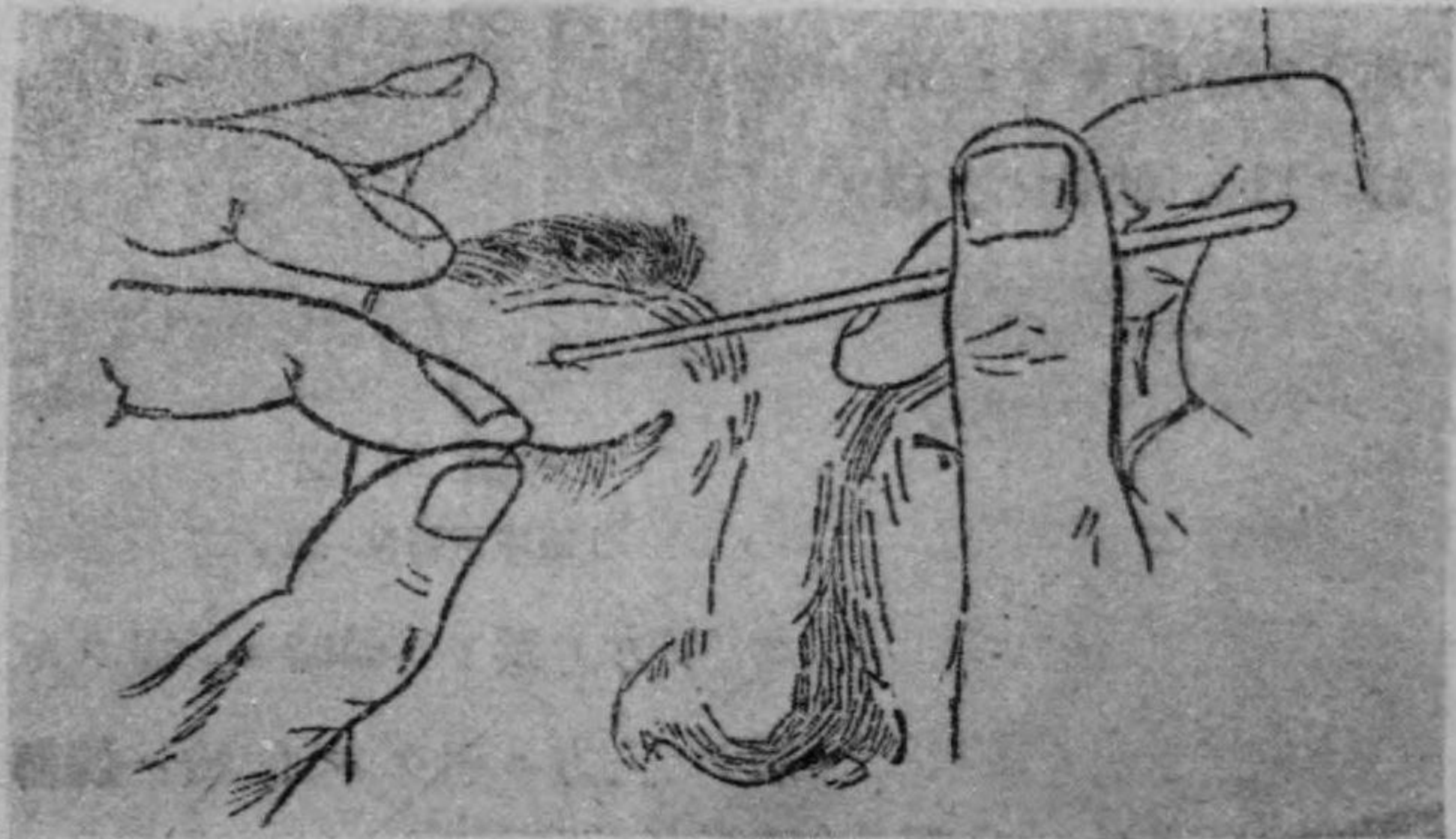
第 51 圖
上眼瞼翻轉第一法ノ二

ヲ 下方ニ壓シ 同時ニ 撮メル皮膚ヲ 上方ニ引ケバ 眼瞼ハ 翻轉シ得ラル 次デ 拇指ヲ以テ 其ノ皮膚ヲ 眼窩上縁ノ骨ニ對シテ壓迫

シ 示指ヲ除キテ 上眼瞼ヲ翻轉シタル状態ニ固定ス (第52圖)。

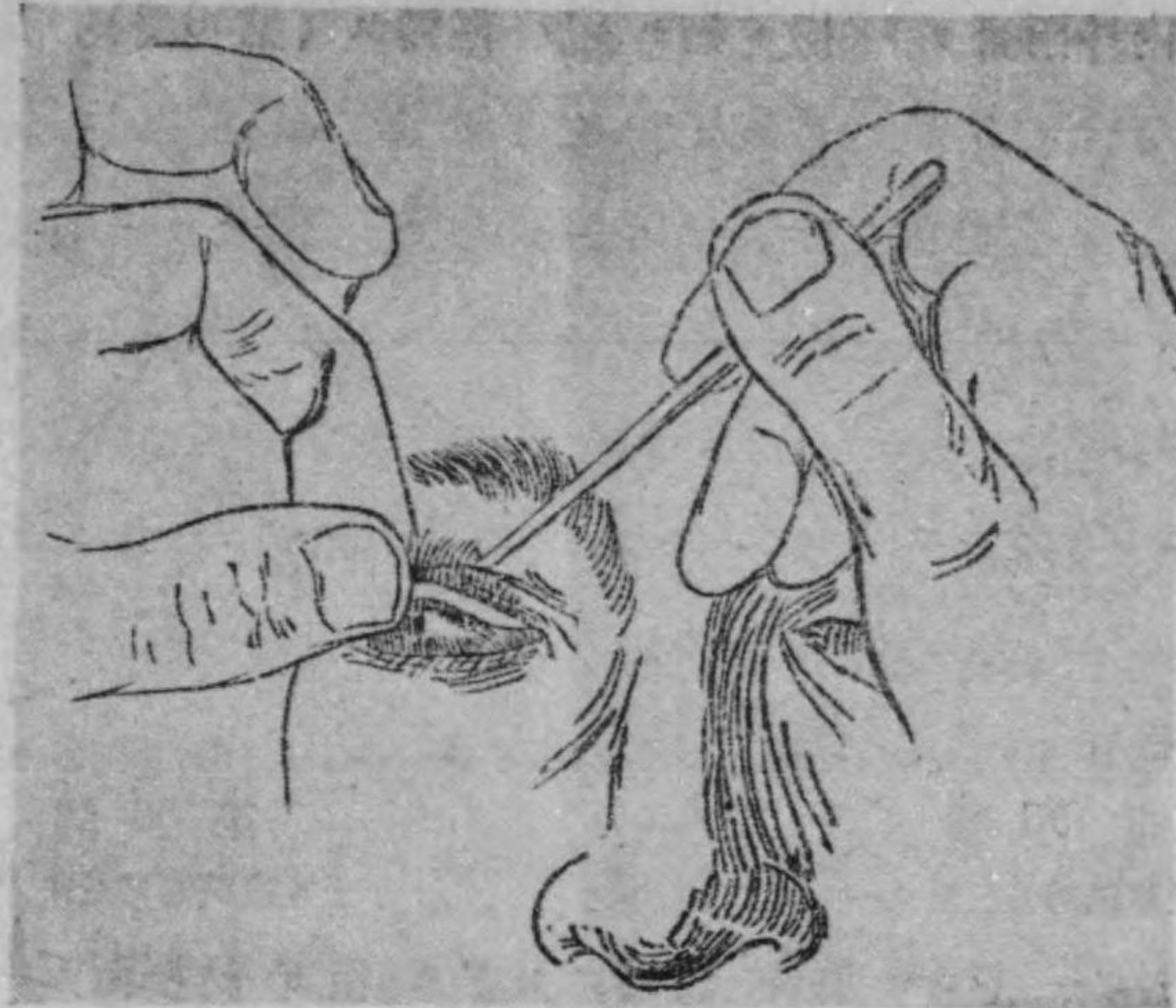
コノ方法ハ 最モ簡單ナレドモ 皮下ニ 脂肪組織ノ 少ナキ場合 (西洋人ノ眼瞼ニハ 脂肪ナシ) 皮膚面ノ 滑澤ナル場合 (糜爛セルトキ又脂肪ヲ塗布セルトキ等) 眼瞼痙攣症ノ 存スル場合 下方ヲ見ルコトノ 出来ザル場合 結膜ノ 収縮セル場合 (トラホーム等) 等ニハ 成功セザルコト 屢々アリ。故ニ 若シ 此ノ法ニテ 成功セザル場合 若クハ 一層 緩和ナル方法ヲ 用キント 欲セバ 次ノ第二法ヲ 試ムベシ。

第二法 此ノ法ハ 補助トシテ 硝子棒 或ハ 之ニ類似ノ 木片等ヲ 用ウ。即チ 先ヅ 硝子棒ヲ 横ニ 軟骨上縁ノ 高サノ 皮膚ノ 上ニ 當テ、皮膚ヲ 僅ニ 上方ニ 引キ上グレバ 睫毛ハ 上方ニ 起キテ 撮ミ易クナル。之ヲ 他方ノ手ノ 拇指ト 示指トニテ 撮ミ 前方ニ 引キ 被檢者ニハ 下方ヲ 見シメ 硝子棒ヲ 以テ 徐ニ 軟骨上縁ヲ 下方ニ 壓スルト 同時ニ 撮ミタル 睫毛ヲ 上方ニ 引キ舉グ



第 53 圖

上眼瞼翻轉第二法ノ一



第 54 圖

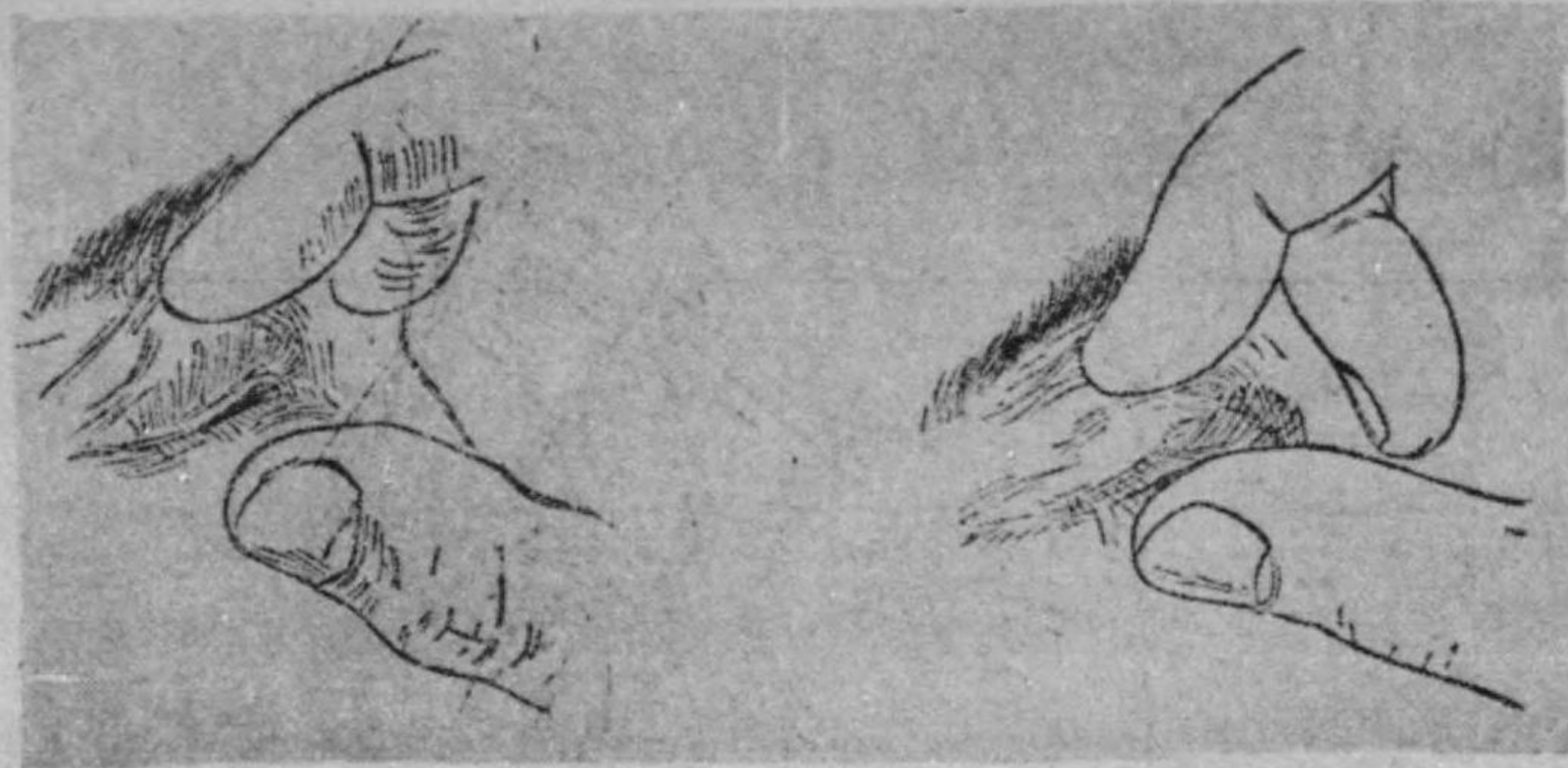
上眼瞼翻轉第二法ノ二

レバ可ナリ (第53圖 及 第54圖)。

熟練スレバ 硝子棒ノ代リニ 一方ノ手ノ 指 (例バ 拇指ノ 挠骨側) ヲ 用キテ 此ノ法ヲ 行フコトヲ 得。然レドモ 日本人ノ 睫毛ハ 概シテ 短カク 且ツ トラホームノ 時ハ 睫毛ガ 屢々 亂生シ 短小トナルコトアルヲ 以テ 斯カル場合ニハ 此ノ法ハ 用ヒ難シ。

第三法 此ノ法ハ 前二法ノ 用ヒ難キ時 又ハ 前二法ニテ 成功セザル時ニ 用ウルモノナリ 即チ 一方ノ手ノ 示指ヲ 上眼瞼ノ 約中央ニ 置キテ 其ノ 皮膚ヲ 上方ニ 押シ上グレバ 軟骨下縁ハ 眼球ヲ 離レテ 前ニ 向フ (第55圖)。是ニ 於テ 拇指ヲ 以テ 下眼瞼ヲ 押シ上ゲテ 上眼瞼ト 眼球トノ 間ニ 入レ 拇指ト 示指トヲ 以テ 上

眼瞼ヲ内外両面ヨリ撮ム如クシテ翻轉ス(第56圖)。



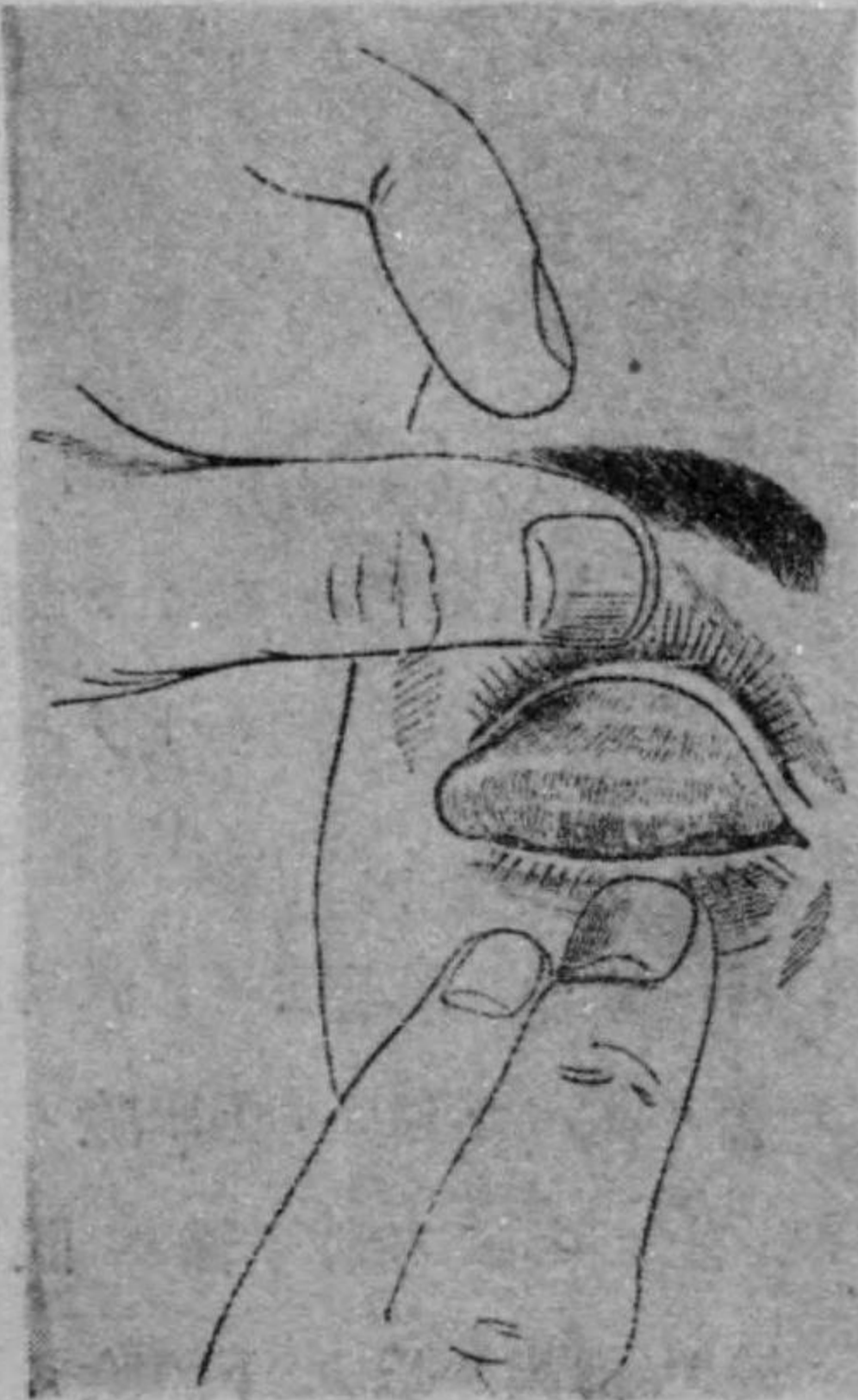
第 55 圖

上眼瞼翻轉第三法ノ一

第 56 圖

上眼瞼翻轉第三法ノ二

此ノ方法ハ多クノ場合成功スレドモ指ガ結膜面ニ觸ル、



第 57 圖

上穹窿部検査法

ヲ以テ傳染ノ危険アリ。故ニ已ムヲ得ザル場合ノ外用キザルヲ可トス。

以上ノ方法ニテ上眼瞼ヲ翻轉シ瞼結膜ヲ見ルコトヲ得レドモ上穹窿部ヲ見ルニハ更ニ若干ノ操作ヲ要ス。其ノ最も簡單ナルハ翻轉シタル上眼瞼ヲ之ヲ固定セル拇指ニテ強ク上方ニ牽引シ被檢者ヲシテ下方ヲ見シメツ、他方ノ拇指或ハ示指ト中指トヲ以テ下眼

瞼上ヨリ眼球ヲ少

シク後方ニ壓シ込ム様ニスレバ通常上穹窿部ヲ見ルコトヲ得(第57圖)。

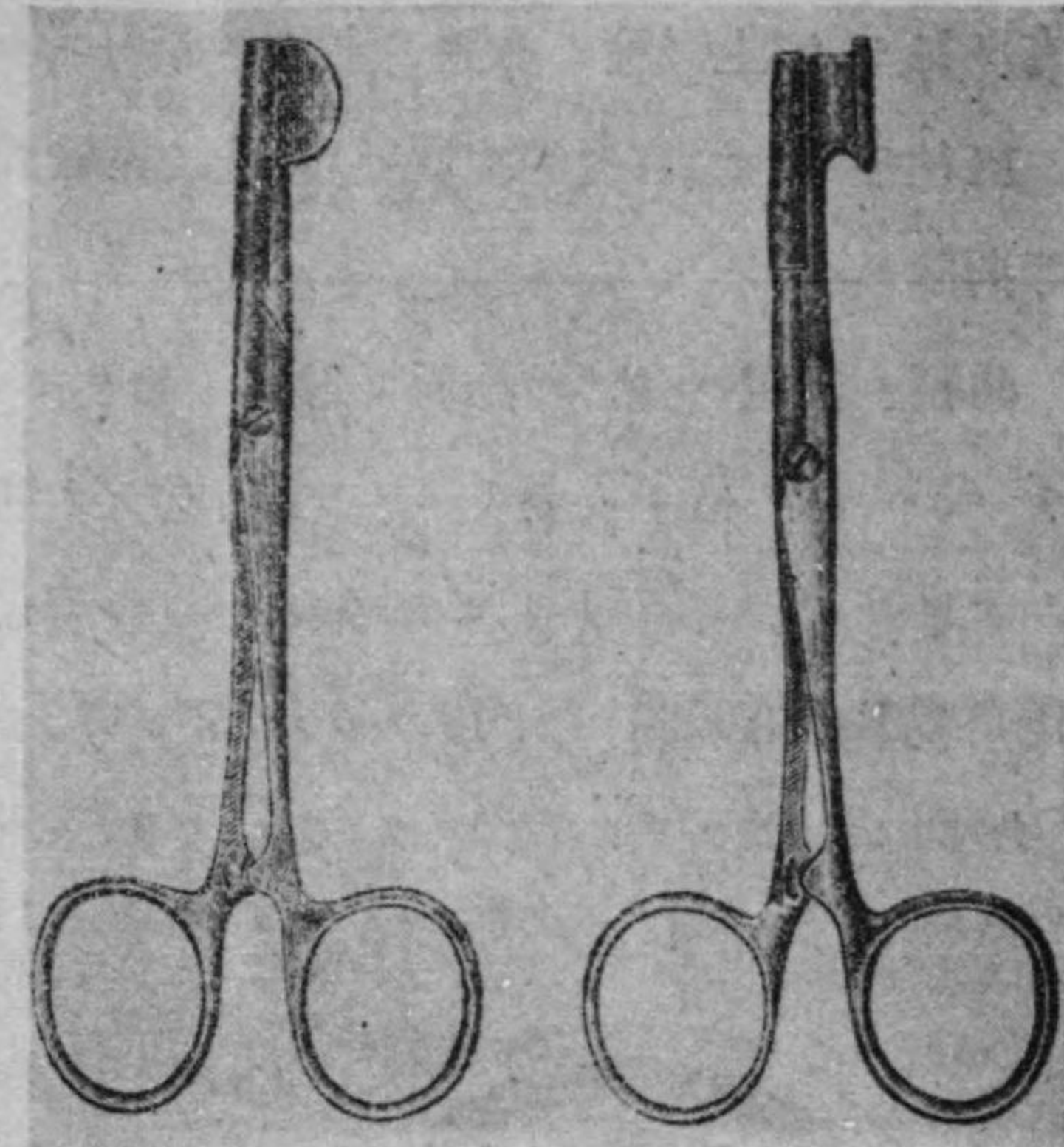
又場合ニ依リ二重翻轉器(第58圖)

ヲ用ヒ睫毛ヲ夾ミテ二重翻轉ヲ行ヒ

上穹窿部ヲ現ハスコトヲ得(第59圖)。

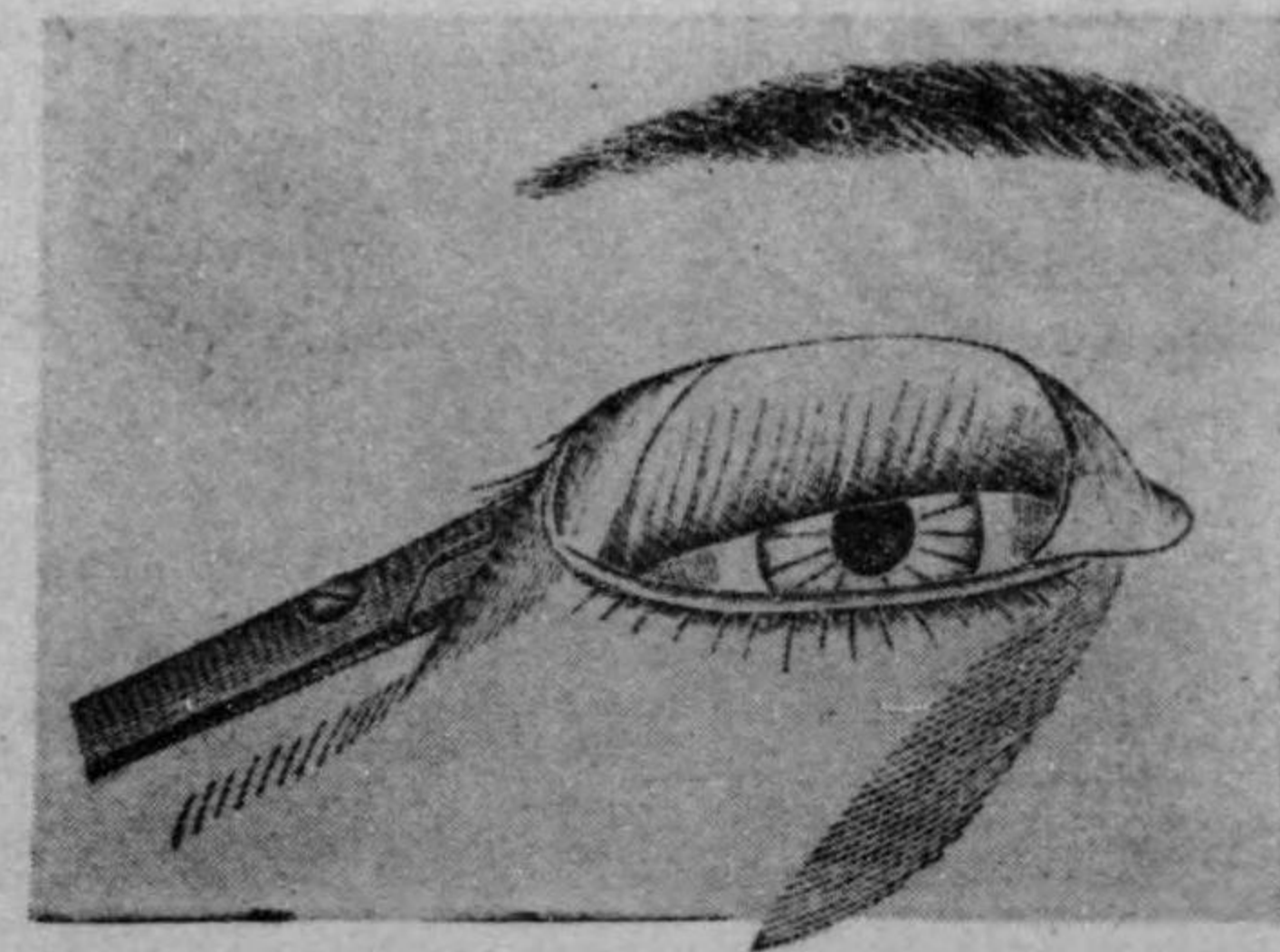
但シ若干ノ疼痛アリ。

診断用 手術用



第 58 圖

水尾氏二重翻轉器



第 59 圖

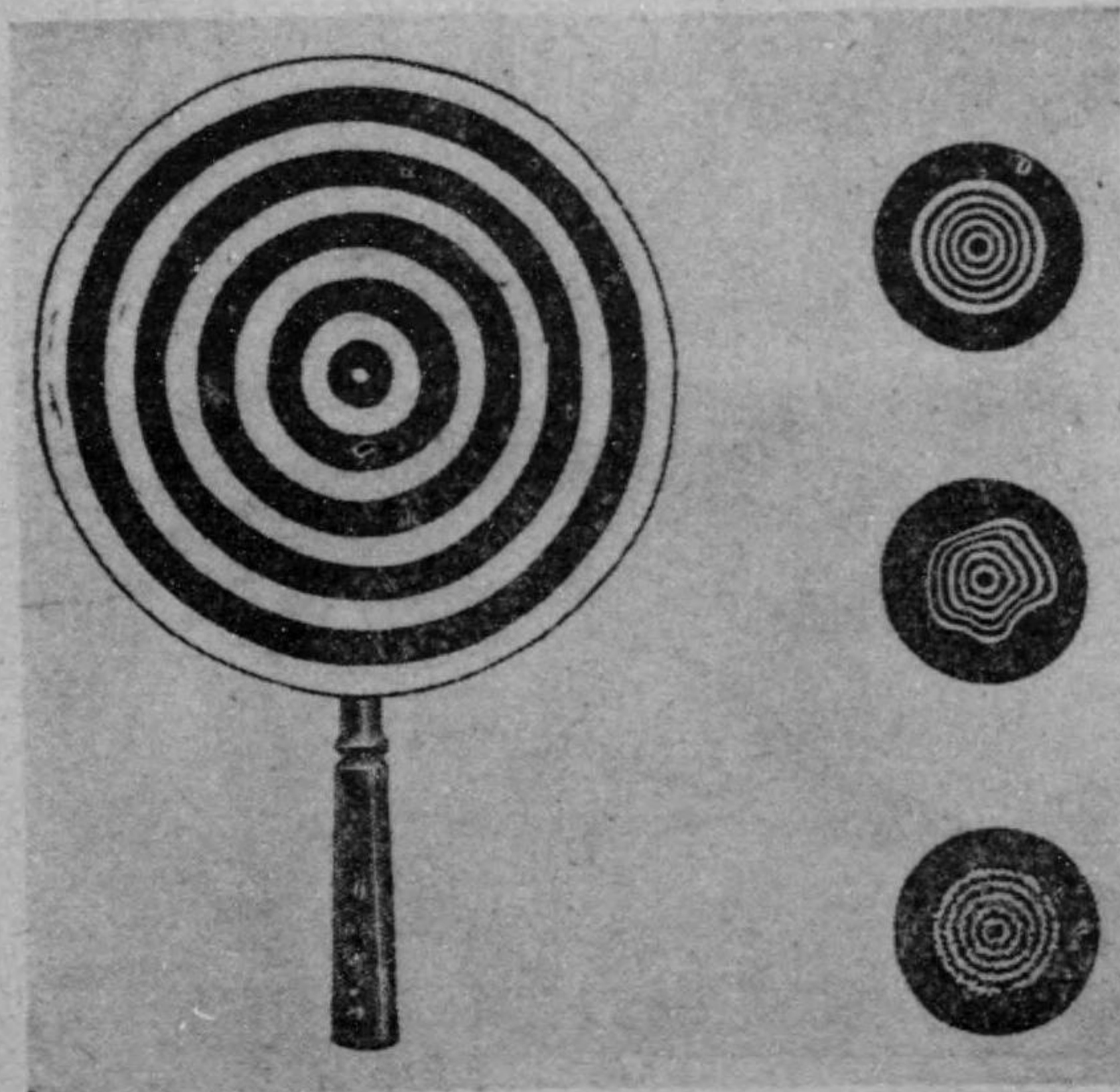
上眼瞼二重翻轉ノ圖

次ニ半月状皺襞ヲ検査ス。其ノ法ハ被檢者ヲシテ強ク外下方ヲ見シメ上眼瞼ノ鼻側ヲ上方ニ牽引スルナリ。

既往症竝ニ自覺的症狀ハ以上ノ諸検査ノ間ニ必要ナル事項ヲ問診ス。

角膜ノ表面ハ恰モ凸面反射鏡ノ如キモノナルヲ以テ之ニ障子或ハ窓ノ格子ノ如キモノヲ映ラシテ見レバ其ノ表面ガ平カナリヤ又不平ナリヤヲ知ルコトヲ得。プラチドー Placido 氏角膜計 (第60圖) ヲ用ウレバ最モ可ナリ。

角膜計ノ使用法ハ先ヅ被檢者ヲ窓ヲ背ニシテ位置セシメ檢者ハ之ニ對シテ窓ニ面シ角膜計ヲ其ノ表面ヲ被檢者ニ向ケテ被檢眼前約15厘米ニ視線ニ垂直ニ保持シ



第60圖
プラチドー氏角膜計



正常角膜

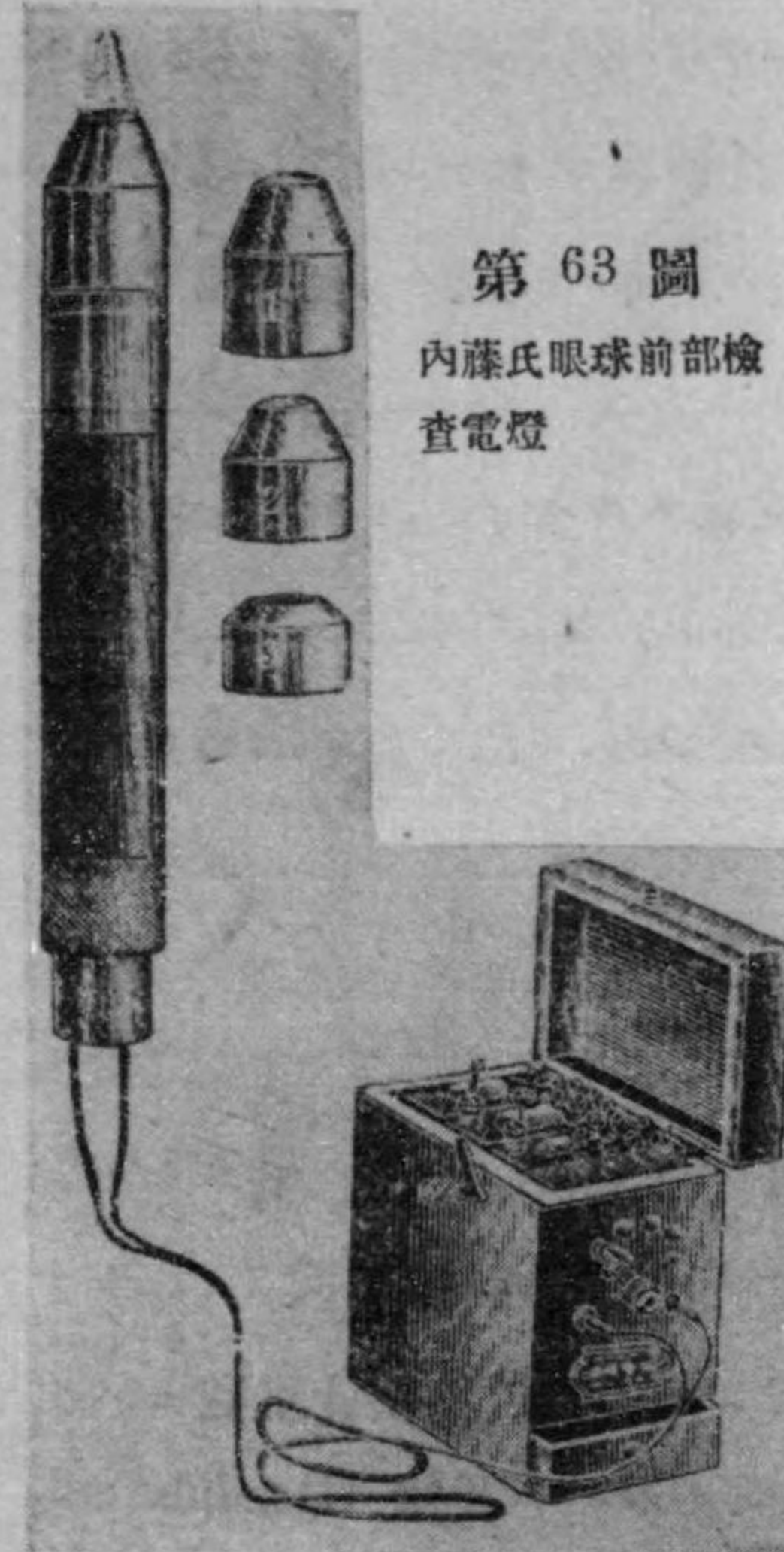


角膜翳



角膜炎

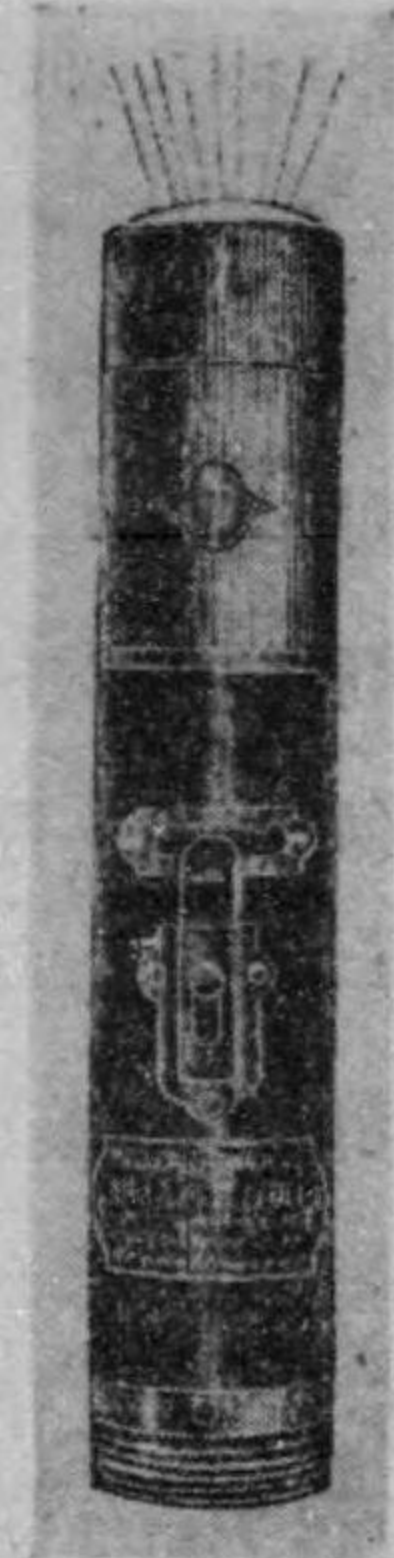
第61圖
角膜面ニ映シタル角膜計



第63圖
内藤氏眼球前部検査電燈

圓輪ノ中心ヲ注視セシメツ、視キ孔ヨリ角膜面ニ映シタル圓輪ノ狀況ヲ檢スルナリ。

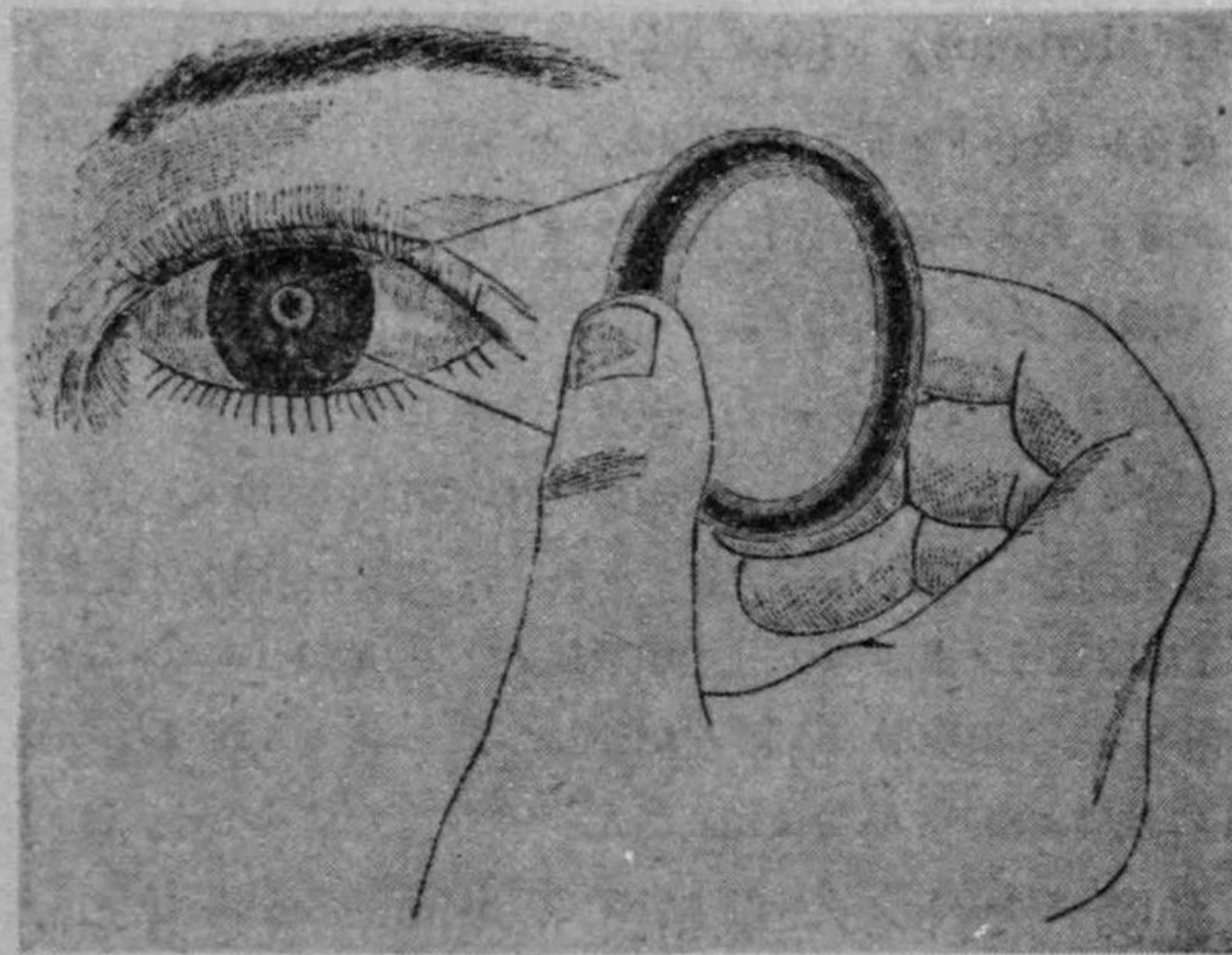
(第61圖)



第62圖
診断用携帯電燈

第64圖 斜照法ノ圖

角膜ニ潤濁アリ又ハ血管ノ進入セル場合ニ其ノ極メテ淡キ時ハ斜照法ヲ用キテ檢スルヲ可トス。其ノ法ハ強キ



光線ヲ以テ斜ニ角膜ヲ照スモノニシテ 携帶電燈 (第62圖 第63圖) ヲ用ウレバ 最モ簡單ナレドモ 確實ナルハ 暗室ニ於テ 13—20 D ノ凸レンズヲ以テ 光ヲ集メ 其ノ燒點ノ強キ光ヲ以テ斜ニ照スナリ (第64圖)。

角膜潰瘍ノ有無 及 其ノ形狀ヲ検査スルニハ フルオレスチン液 (處方66) ヲ以テ 染色スルヲ可トス。即チ 此ノ液ヲ 1—2滴點眼シ 數秒時ノ後 食鹽水 又ハ 硼酸水ニテ洗ヘバ 潰瘍ノ部分ハ 黃綠色ニ染マリテ 著明ニ見ユ。

第二章 解剖大要

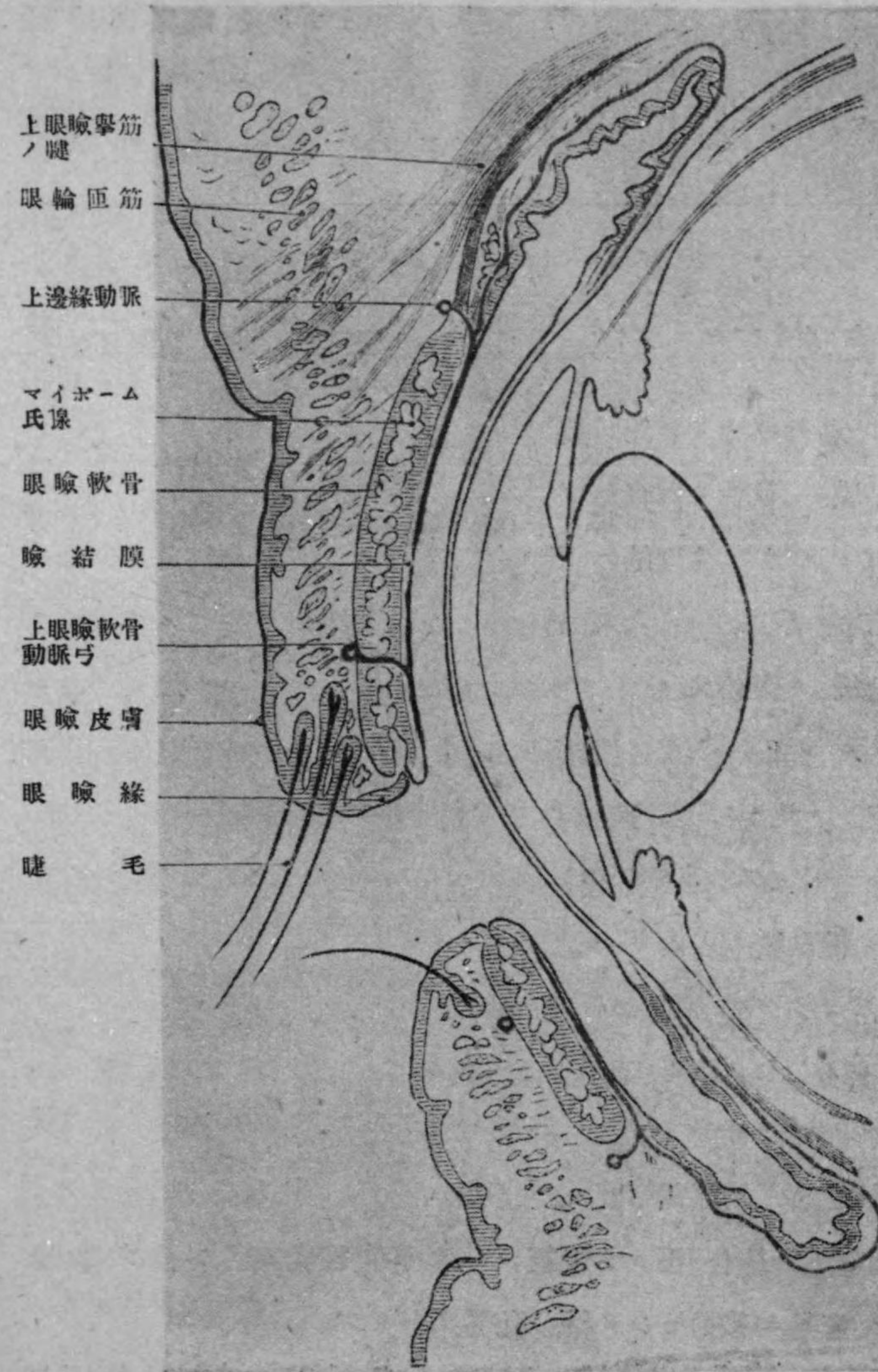
眼瞼ノ組織ヲ 前面ヨリ 後面ニ向ツテ 順次ニ 數ヘ舉グレバ

1. 皮膚 2. 眼輪匝筋 3. 眼瞼軟骨 4. 瞼結膜 トナル (第65圖)。此ノ中 眼瞼軟骨 Tarsus ハ 眞ノ軟骨組織ニハアラズ 硬キ 結締織ニシテ 此ノ中ニ マイボーム氏腺 Glandula tarsalis (Meibomi) ト稱スル 脂腺 多數 相平行シテ 存在ス (第66圖)。

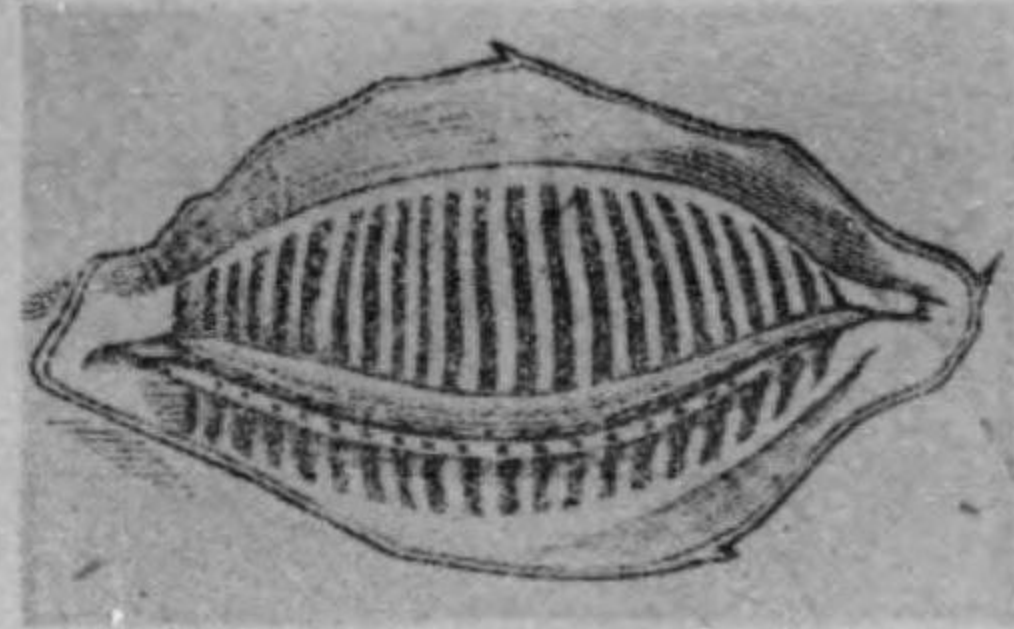
皮膚ト 軟骨トノ間ニハ 西洋人ニハ 脂肪ナキモ 日本人ニハ 約76%ニ 脂肪アリ。之ガ爲ニ 邦人ノ眼瞼ハ 若干 腫レタル如クニ見ユ。眼瞼ノ前面ト 後面トノ 移行部チ 眼瞼縁 又ハ 縁間部ト云ヒ 其幅 約2mmアリ。此ノ部ト 皮膚トノ境界 即チ 前縁ハ 鈍圓チ成シ 睫毛 3—5列ニ生ズ。後縁 即チ 結膜トノ界ハ 殆ンド 直角チ成シテ 其ノ稍々前方ニ マイボーム氏腺ガ一列ニ開口シ 肉眼ニテ 小ナル點ノ如クニ見ユ。眼瞼縁ノ 上皮ハ 皮膚ノ構造チ有スルチ以テ 皮膚ト 結膜トノ境界ハ 其ノ後縁ナリトス。

上眼瞼軟骨ノ 上縁ニハ 上眼瞼舉筋ノ 腱ノ一部ト ミュルレル Müller 氏平滑筋トガ 附着ス。上眼瞼舉筋ノ 腱ノ大部分ハ 然シ 之ヨリ 尙 前方ニ走ツテ 輪匝筋ノ 間チ通過シ 皮膚ニ達ス。軟骨上縁ノ 附近ニ クラウゼ Krause 氏腺アリテ 粘液チ分泌ス。

結膜ヲ 大別シテ 瞼結膜 Conjunctiva palpebralis 球結膜 Con-



第65圖 眼瞼縦断面



第 66 圖

眼瞼ノ皮膚ヲ去リテ、マイボーム氏腺ノ走行ヲ示ス

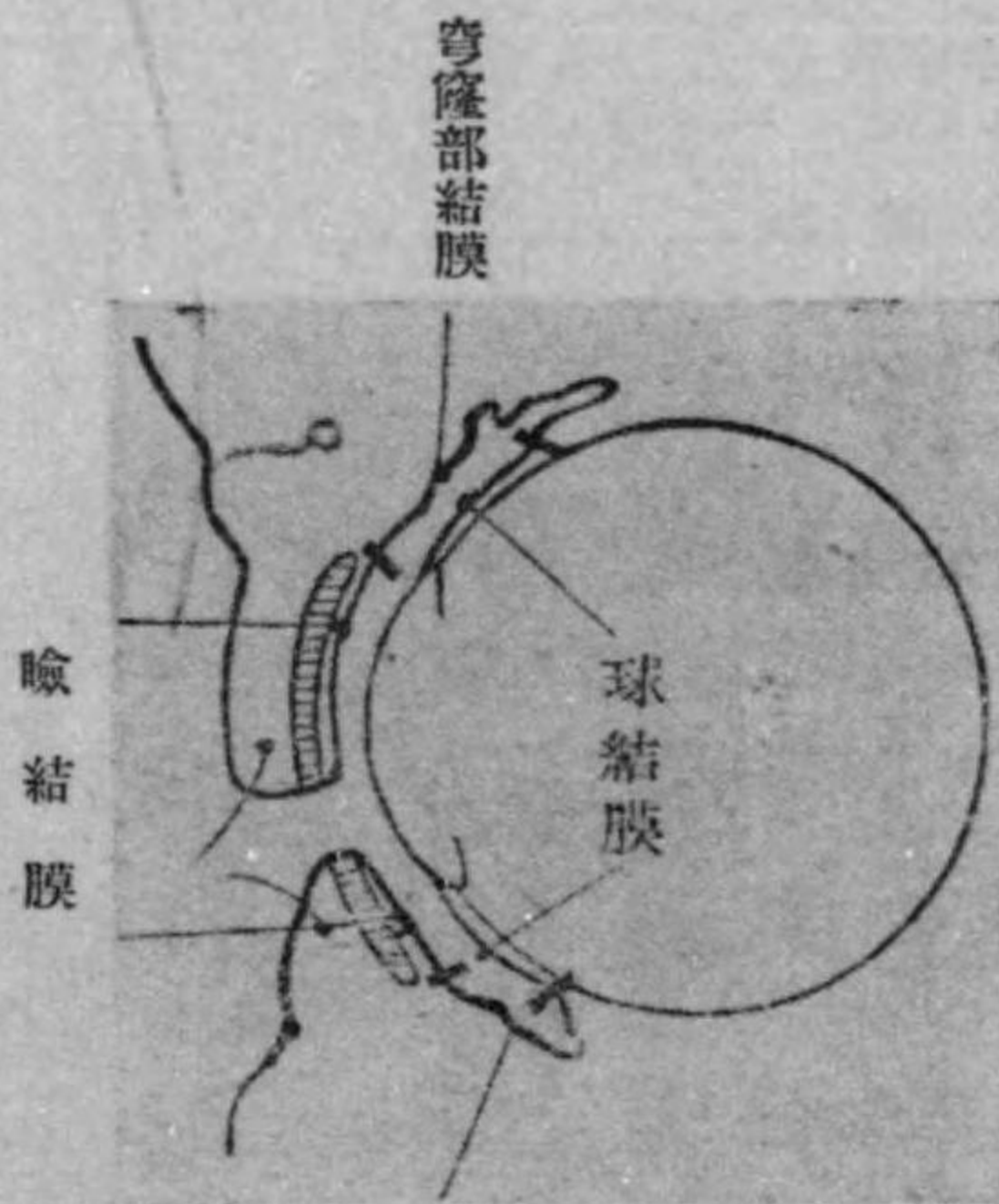
ハ其ノ移行部ナリ (第67圖)。

瞼結膜ハ軟骨ニ固着シテ移動セシメ難ク生理的ニ乳嘴ヲ有ス。乳嘴トハ元來結膜固有層ノ突起ヲ意味スルモノナルガ故ニ上皮ノ表面ハ平坦ナルコトモ又凹凸不平ナルコトモアリ (第68圖)。而シテ瞼結膜ノ表面ハ大部分平滑ニシテ唯穹窿部ニ近キ一部分ノミ稍々不平ナリ。

球結膜及穹窿部結膜ハ角膜縁ニ近キ一部分ヲ除クノ外下層組織トノ結合極メテ鬆粗ニシテ彈力纖維ニ富ミ且ツ皺襞アリテ容易ニ移動セシメ得。乳嘴ヲ有セズ。

結膜ノ上皮ハ眼瞼縁ト角膜縁トニ近キ部分ノミガ重層扁平上皮ニシテ他ハ悉ク

conjunctiva bulbi 及穹窿部結膜 Conjunctiva fornicalis ト成ス。瞼結膜ハ一ニ軟骨部結膜 Conjunctiva tarsalis ト稱シ軟骨面ヲ被ヘル部分球結膜ハ鞏膜ヲ被ヘル部分ニシテ穹窿部結膜



穹窿部結膜

瞼結膜

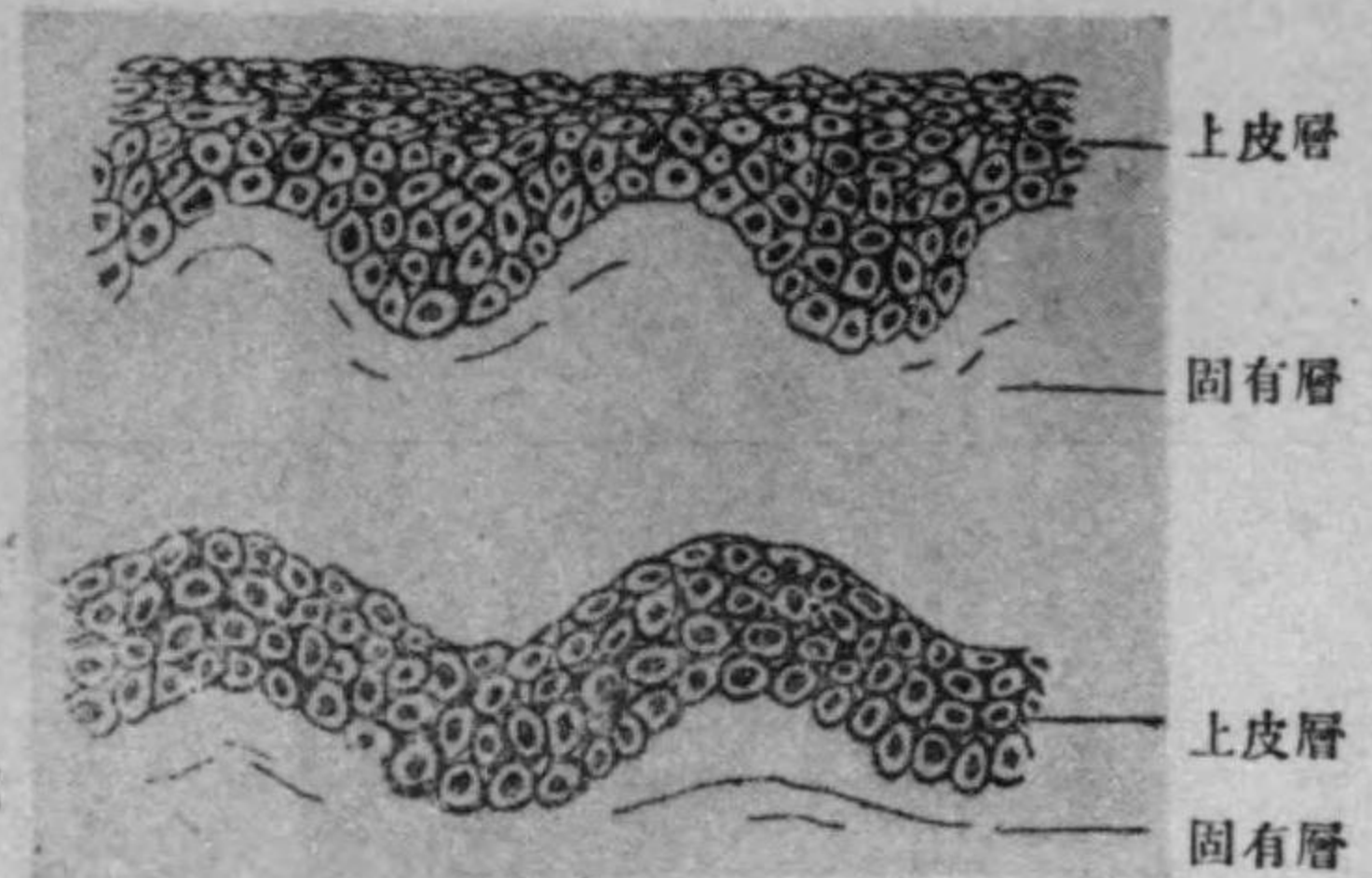
球結膜

第 67 圖

結膜ノ名稱ヲ示ス略圖

穹窿部結膜

重層圓柱上皮ナリ。上皮中所々ニ盃狀細胞 (第69圖 第70圖) アリテ粘液ヲ分泌ス。結膜固有層ニハ結締組織纖維縱横ニ走リテ網ノ如クナリ其ノ間ニプラズマ細胞アリ。而シテ此ノプラズマ細胞ノ最モ多キハ瞼結膜ト穹窿部結膜トノ境界ノ附近ニシテ之ヨリ上下ニ至ルニ從ヒ漸次減少シ球結膜ニハ極メテ少數ナリ。フツクスFuchs氏ハ斯ノ如キ結締組織中



上皮層

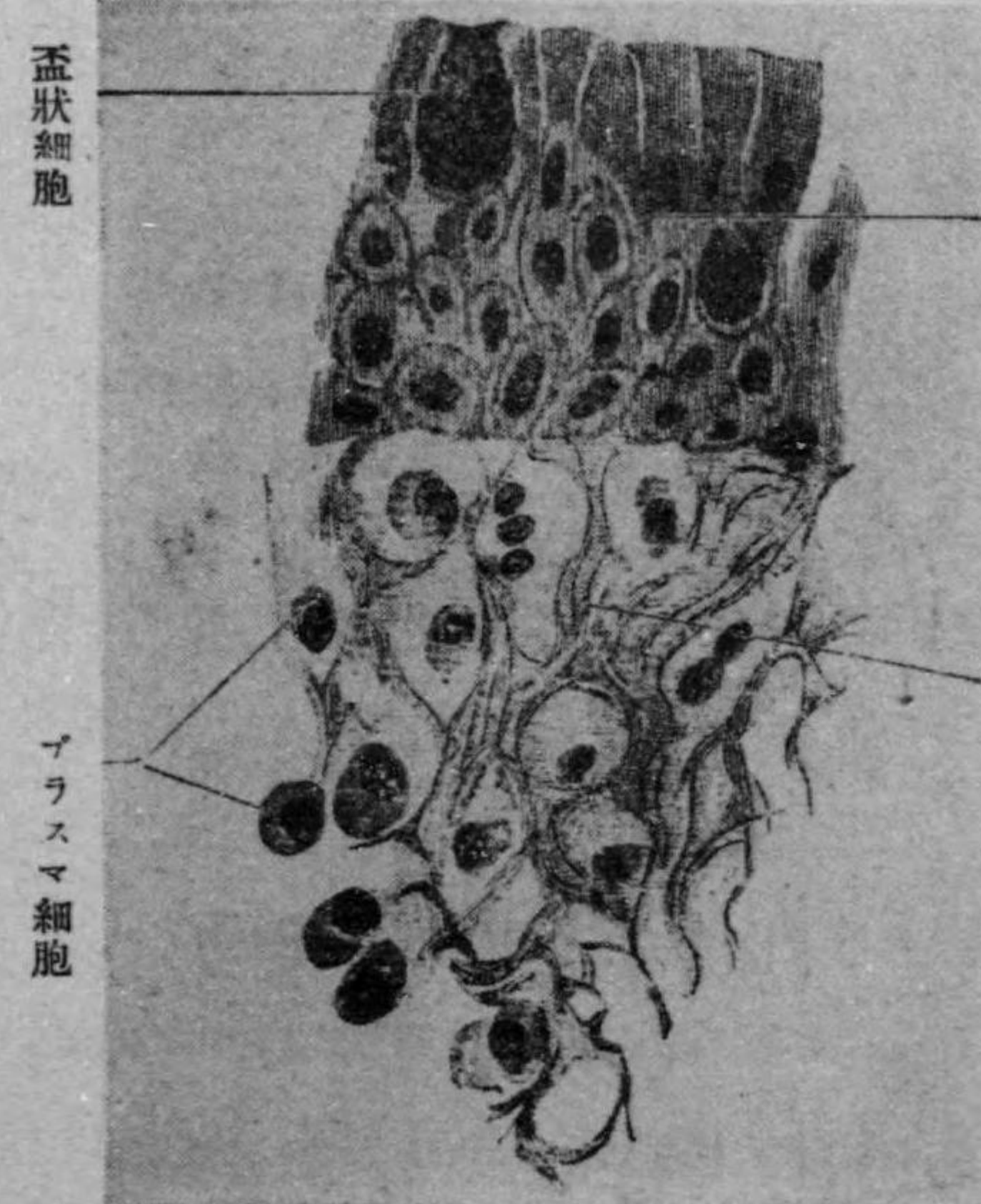
固有層

上皮層

固有層

第 68 圖

乳嘴ノ二種ヲ示ス



盃狀細胞

上皮層

プラズマ細胞

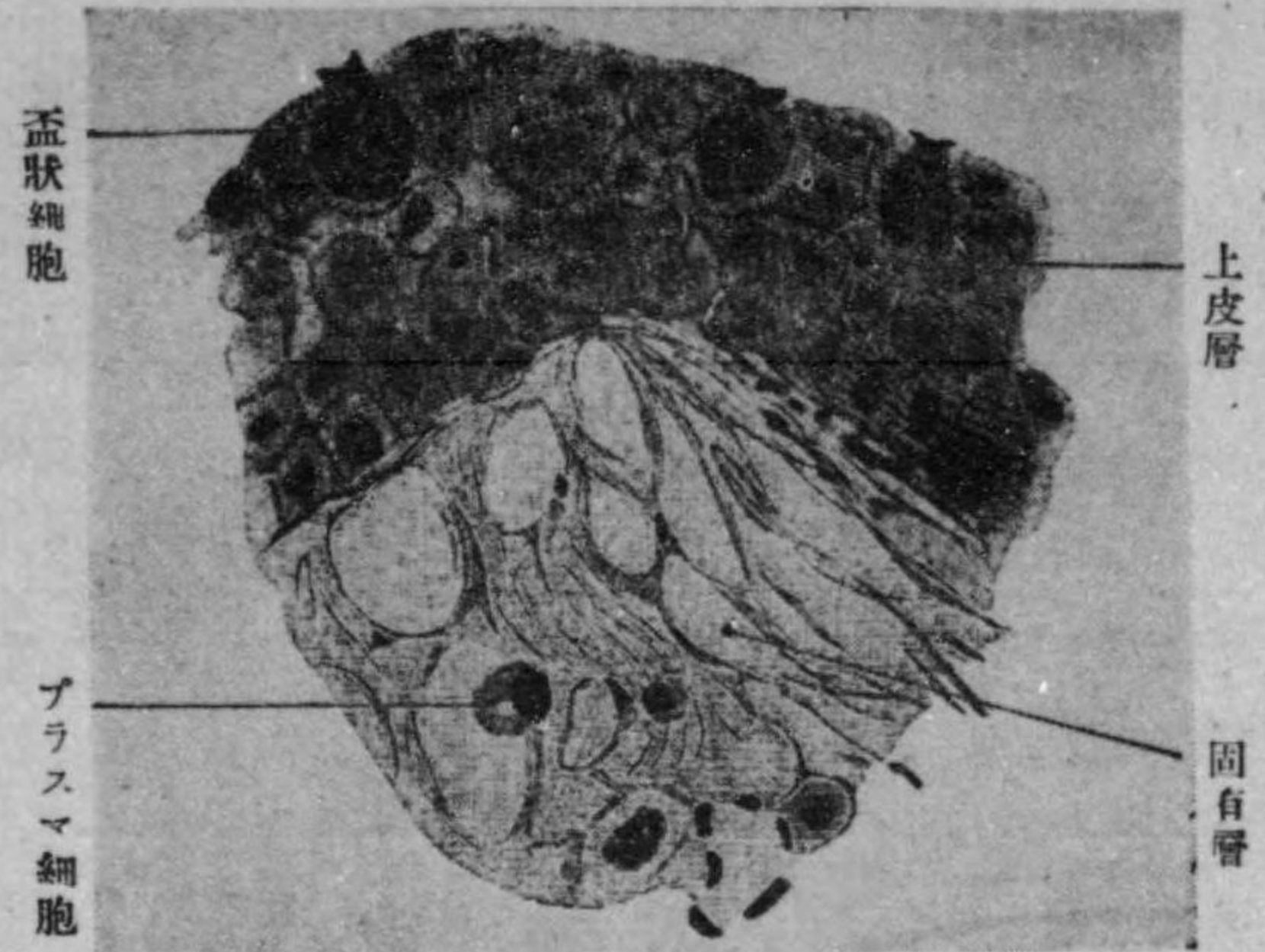
固有層(腺樣層)

第 69 圖 重層圓柱上皮ヲ有スル瞼結膜

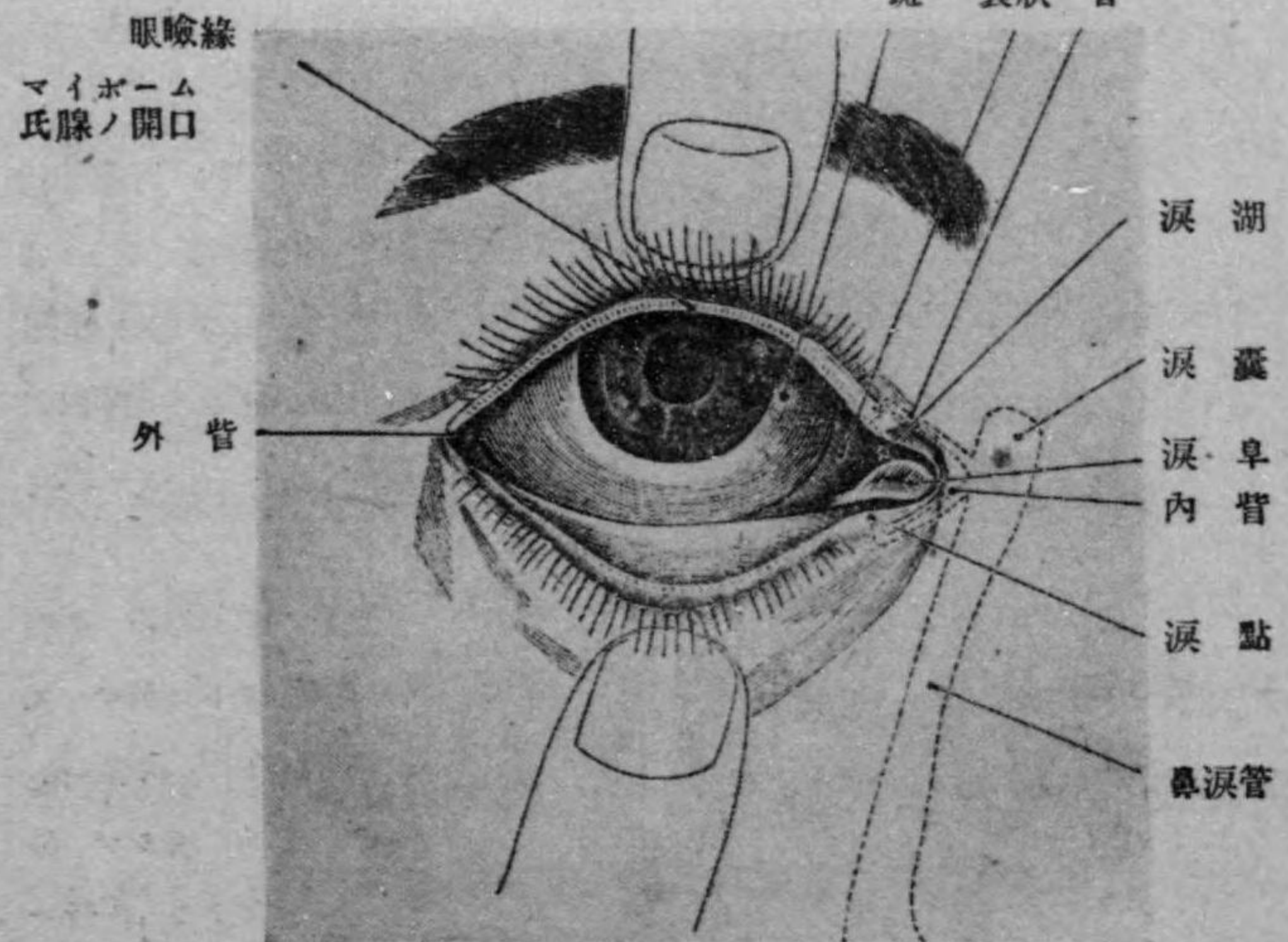
ニ細胞ノ入レル組織ヲ腺樣組織 Adenoides Gewebe ト名ヅケタリ。

即チ瞼結膜ト穹窿部結膜ハ腺樣組織ニシテ球結膜ハ然ラズ。腺樣組織中ニ生理的ニ濾胞が存在スルヤ否ヤニ就キテハ定説ナシ。

上下ノ眼瞼縁ハ鼻側ト顚側トニ於テ互ニ相癒合シテ内管及外管ヲ成ス。而シテ外管ハ銳角ヲナシ内管ハ稍々半圓形ニ彎入シテ涙湖 Lacus Iacimalis



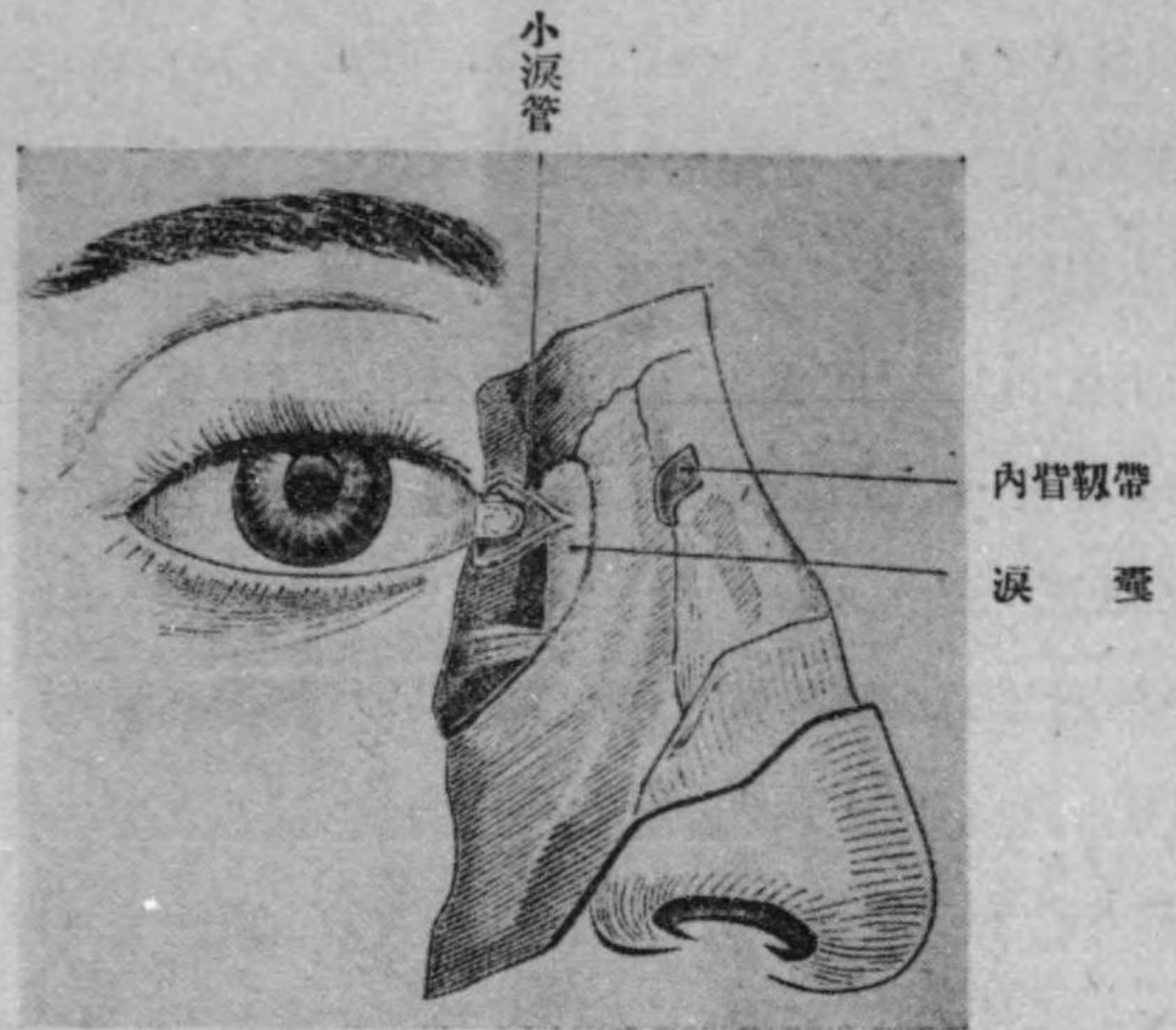
第70圖 重層扁平上皮ヲ有スル球結膜



第71圖 外眼解剖圖

下鼻道

小涙管
半月狀皺襞
眼瞼裂斑



第72圖 涙器解剖圖

ヲ成ス。涙湖ノ中ニハ 涙阜 Caruncula lacrimalis ト稱スル所ノ 稍々隆起セル島アリ。之ハ 皮膚ト 粘膜トノ 兩性ヲ有シ 十數本ノ 極メテ細キ 毛ヲ生ズ。此ノ毛ノ毛囊ニハ 大ナル脂腺 多數 附着シテ 肉眼ニテ 小ナル 黃色ノ點トナリテ見ユ。

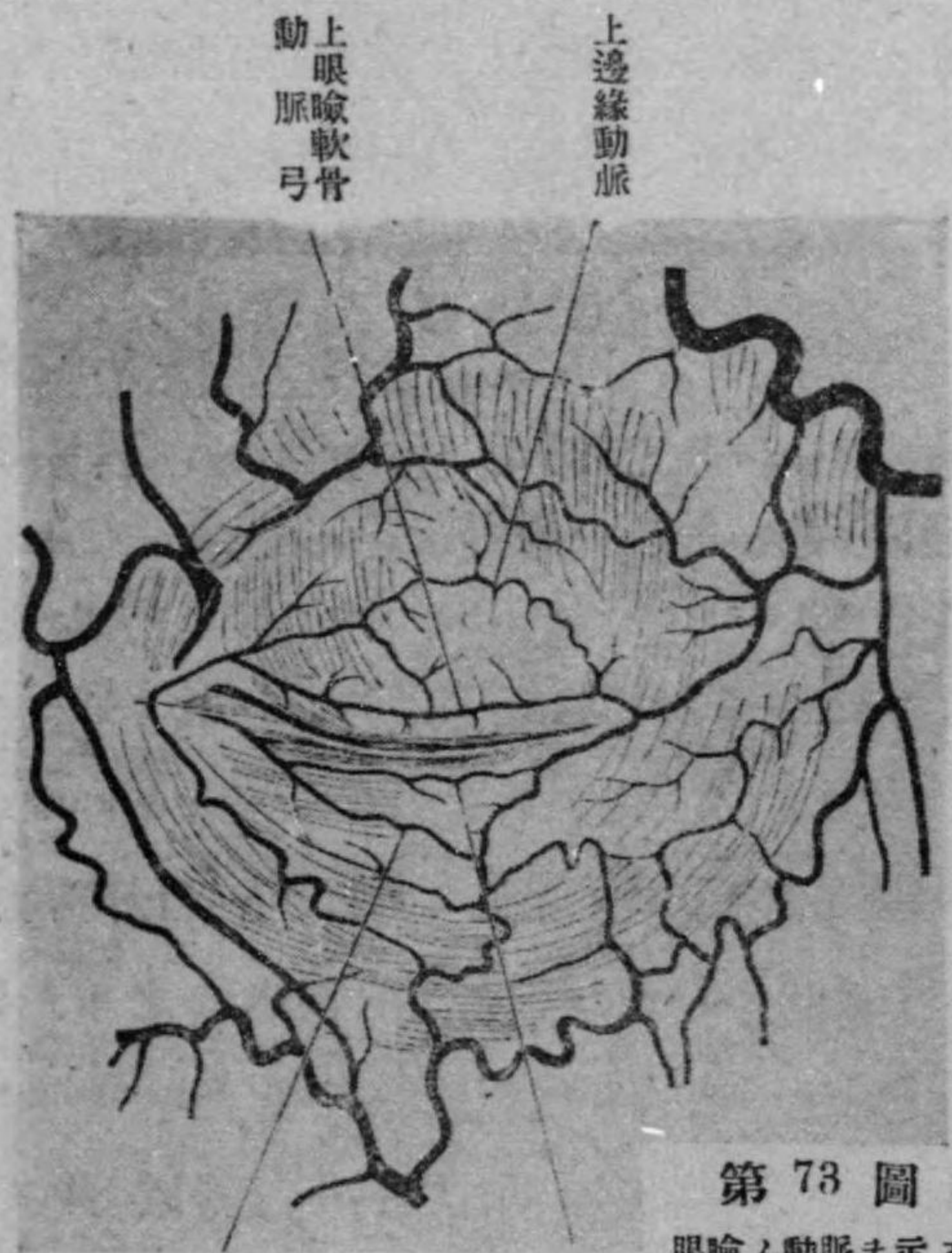
涙阜ノ附近ニ於テハ 球結膜ガ 第71圖ニ於テ見ルガ如キ 半月狀ノ 皺襞ヲ成ス。之ヲ 半月狀皺襞 Plica semilunaris ト稱シ 動物ニ見ル 瞬膜ノ遺物ナリ。涙湖ノ入口ニハ 上下眼瞼縁ニ 各一箇ノ 涙點 Punctum lacrimale アリ。涙液ハ 之ヨリ入りテ 上下ノ 小涙管 Ductus lacrimalis ヲ通リ 涙嚢 Saccus lacrimalis ニ入り 鼻涙管 Ductus nasolacrimalis ヲ經テ 下鼻道 Meatus nasi inferior ニ注グ。

球結膜ニハ 眼裂部ニ一致シテ 組織ノ 肥厚部アリ。帶褐黃色ニシテ 殊ニ 老人ニ著明ナリ。之ハ 外界ノ 刺激ノ爲ニ起リタル 生理的產物ニシテ 眼瞼裂斑 又ハ 脂肪斑

Pinguecula ト云フ。脂肪ニハアラザレドモ色ノ黄色ナルヨリ斯ク名ヅケタルナリ。

以上ハ主トシテ上眼瞼ニ就キテ述ベタルモノナレドモ下眼瞼ハ上眼瞼ニ比シテ高サガ低ク厚サガ厚ク眼瞼縁ガ圓ク軟骨モ小サクシテ眼瞼舉筋ナク、瞼結膜ハ唯前半部ノミ軟骨ニ固着シ睫毛ハ上眼瞼ノモノヨリ短カクシテ其數モ少ナク又血管ノ狀況ヲ異ニス。

血管ハ上下ノ内外眼瞼動脈ガ軟骨ノ前面ニ於テ眼瞼縁ヨリ2-3耗 距リタル所



動下
脈
瞼
軟
弓
骨

下
邊
緣
動
脈

ニテ 横ニ結合シテ 上下ノ 眼瞼軟骨動脈弓 Arcus arteriosus tarsei superior et inferior ナ成シ 上眼瞼ニテハ之ヨリ軟骨ヲ貫通スル小ナル枝ヲ出シテ 瞼結膜ニ至ル。下眼瞼ニ於テハ 通常 此ノ枝ヲ出サズ。此ノ動脈弓ノ外 軟骨ノ上縁(下眼瞼ニテハ下縁)ニ沿ヒテ上(下) 邊緣動脈 Arteria marginalis superior (inferior) ガ 横ニ 走り之ヨリ又 枝ヲ出シテ 結膜ノ大部分ニ分布ス(第 73 圖 第 65 圖)。

結膜ノ淋巴管ハ 耳前淋巴腺 耳下淋巴腺 及 顎下淋巴腺ニ集マル。故ニ 結膜ノ 烈シキ炎症ノ際 是等ノ腺ガ 腫脹ス。

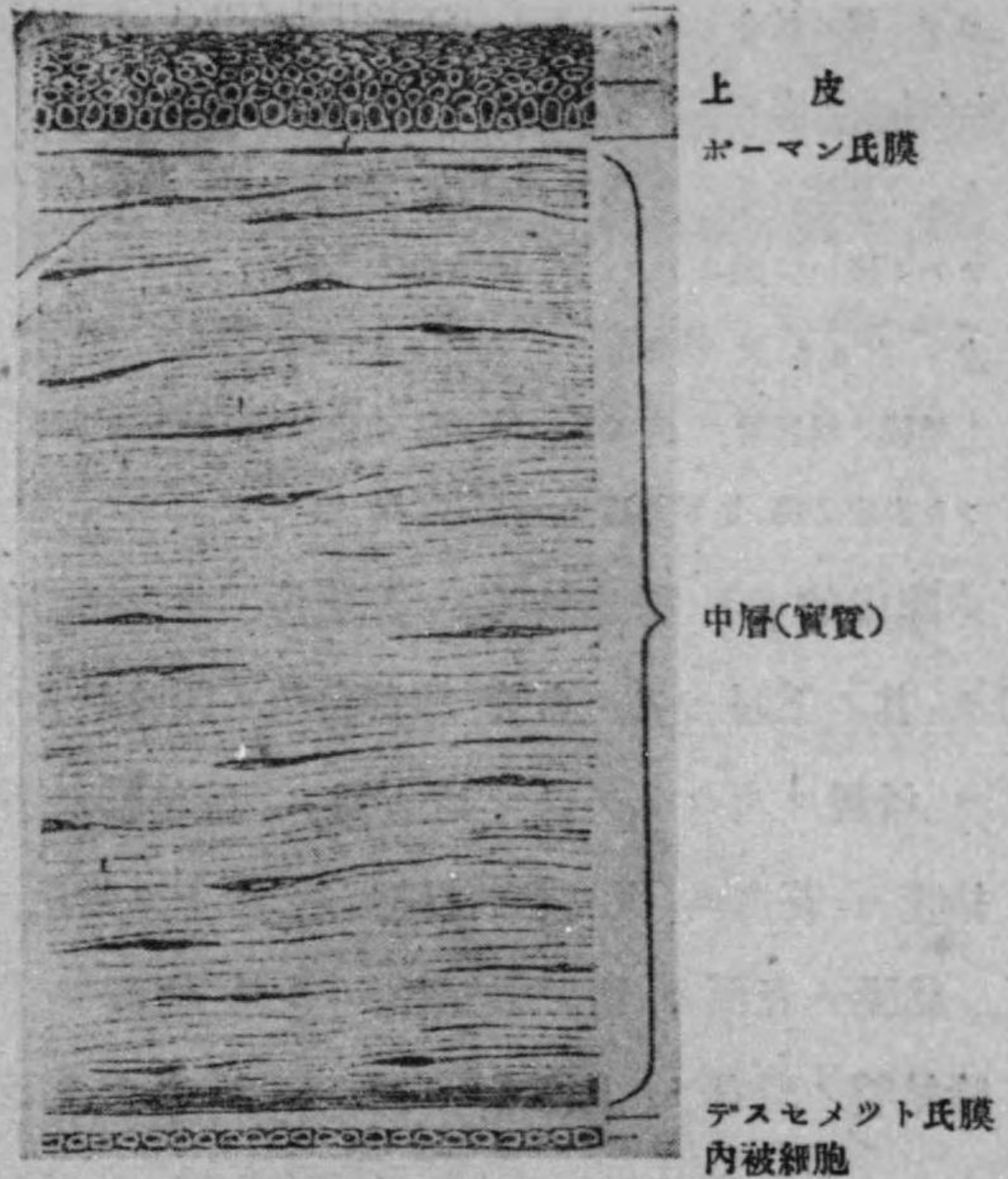
臨床的ニハ 健康結膜ハ 菲薄透明ニシテ 殆ンド 無色ナルヲ以テ 其ノ下層ニアル血管 帶黃白色ノ眼瞼軟骨 腿様白色ノ鞏膜 等ヲ 透視スルコトヲ得。之ガ爲メ 瞼結膜ハ 若干 黄色ヲ帶ビ 球結膜ハ 蒼白ニ 又 穹窿部結膜ハ 少シク紫色ニ見ユ。

結膜ノ表面ハ 概シテ 平滑ニシテ 濕潤シ 光澤ヲ有ス。タゞ上眼瞼結膜ノ 眦部ト 上縁トハ 時トシテ 若干 紅色ヲ帶ビ 且ツ 粗糙ナルコトアリ。

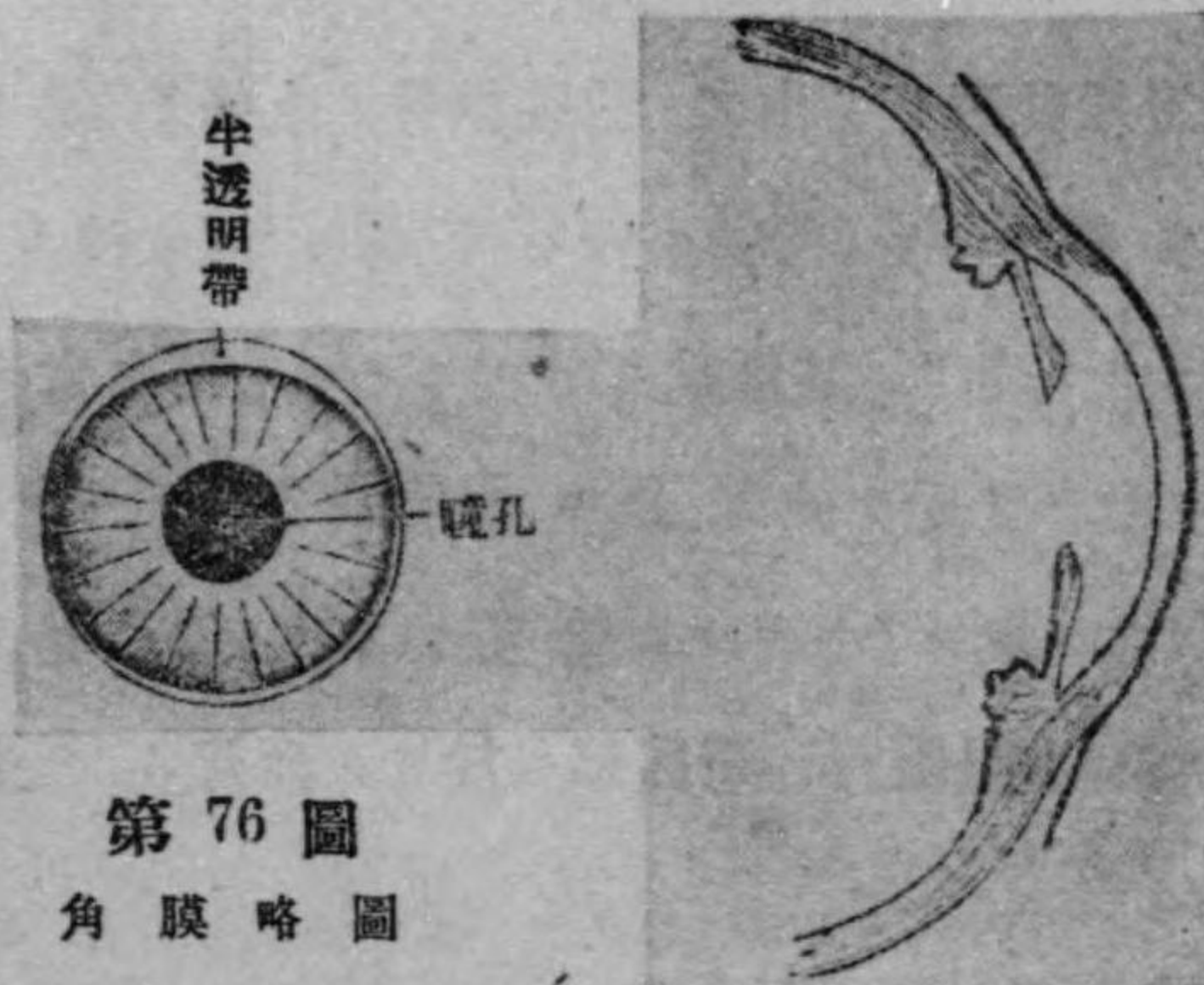
結膜ノ血管走行ノ狀ハ トラホーム ノ 診斷ニ 必要ナリ。上眼瞼結膜ニテハ 上邊緣動脈ヨリ出テ 眼瞼軟骨ノ上縁ヲ 超エテ來ル所ノ血管 約十本 整然トシテ 相平行シテ 恰モ 河ノ流レノ如ク 縦ニ 眼瞼縁ニ向ツテ走り 其兩端ニアルモノハ 稍々太ク 且長クシテ 眼瞼縁ニ沿ウテ走ル。又 別ニ 眼瞼縁ヲ 距ルコト2-3 耗ノ所ニ 軟骨ヲ貫通シ來ル 小ナル血管 五六本出デ、恰モ 鳥ノ足ノ如ク 分岐ス。下眼瞼 及 穹窿部ニ於ケル血管ノ 走行ハ 通常 不規則ナリ。

角膜ハ 厚サ 約1耗ノ 透明ノ 膜ニシテ 1. 重層扁平上皮

2. ボーマン氏膜
 3. 中層(實質)
 4. デスメット氏膜 5. 内被細胞
 ノ5層ヨリ成ル
 (第74圖)。而シテ
 其ノ上縁鞏膜ト
 ノ境界部ニ半月
 狀ノ半透明帯アリ
 テ之ト透明ナル
 角膜トノ境界ハ
 正シキ弧線ヲ成ス
 (第76圖)。此ノ理



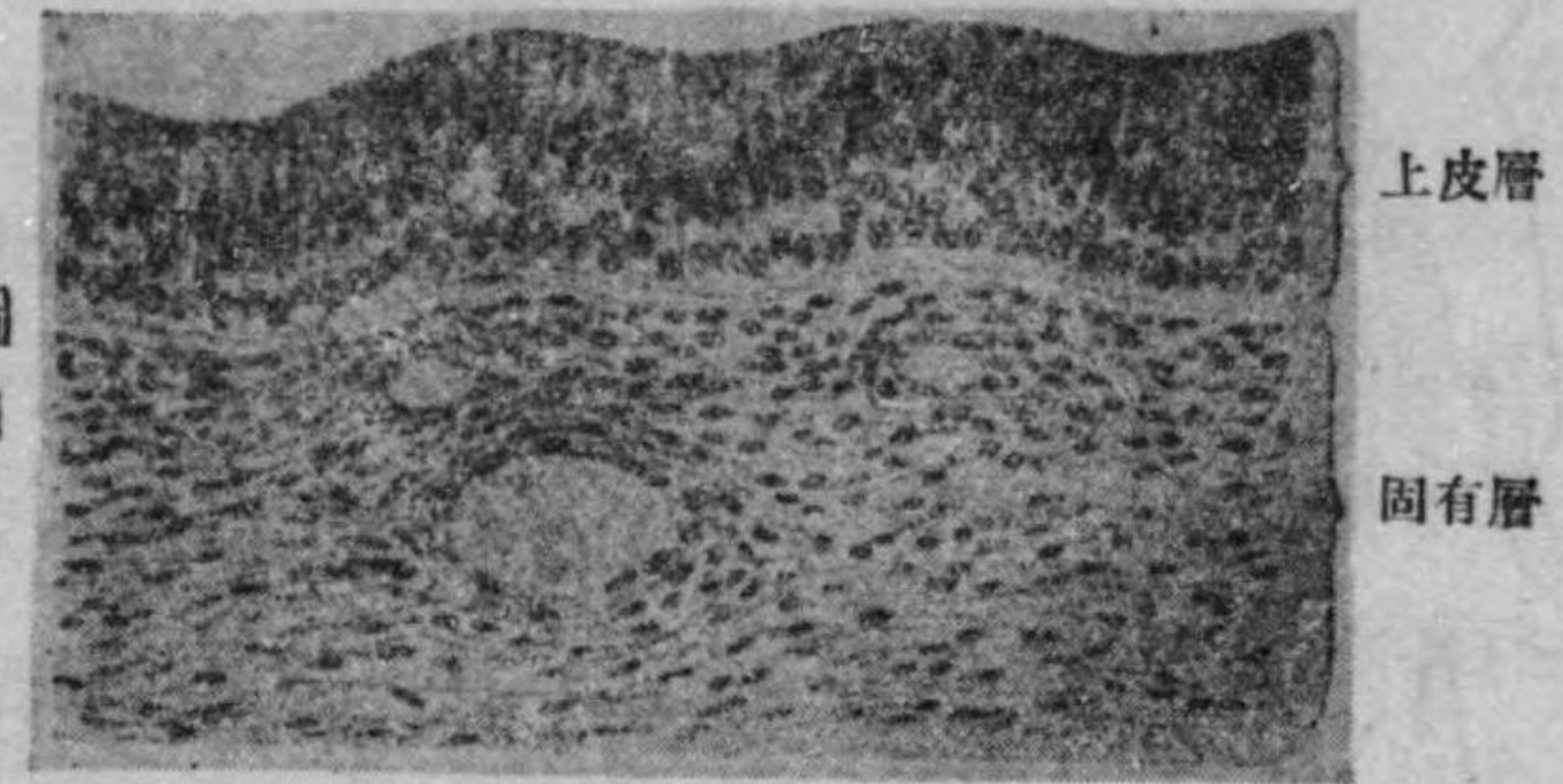
第74圖
角膜組織圖



第76圖
角膜略圖

第77圖
角膜ト鞏膜トノ境界線ヲ示ス

由ハ鞏膜ト角膜トノ境界ガ第77圖ノ如ク斜ニシテ鞏膜ガ斜ニ角膜ヲ被フヲ以テナリ。而シテ其ノ傾斜ノ度ガ角膜ノ上縁ニ於テ最モ強キヲ以テ此ノ部ニ於テ最モ著明ノ半透明部ヲ現ハスナリ。



第78圖
涙嚢組織圖

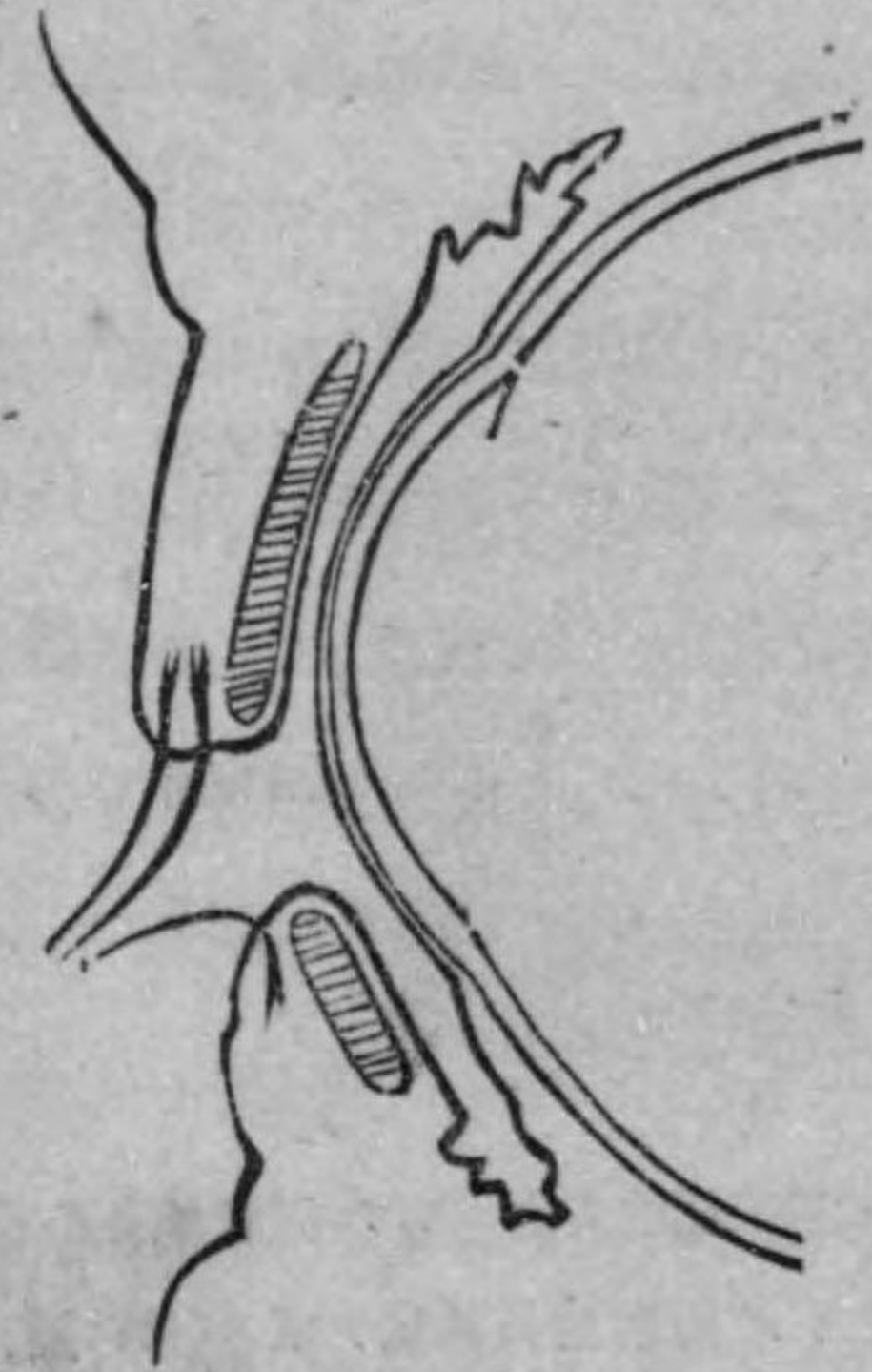
涙嚢ノ粘膜ハ瞼結膜及穹窿部結膜ニ類似シ重層圓柱上皮ニシテ盃狀細胞アリ。又固有層ニハ結締織網中ニ多數ノ淋巴細胞アリテ所謂腺樣組織ヲ成ス(第78圖)。

第三章 トラホームハ如何ナル疾患ナリヤ

トラホームノ原因ガ未ダ發見セラレザル今日此問題ヲ簡單ニ解決スルコトハ甚ダ困難ナリ。

トラホームハ人類結膜ノ特殊ノ傳染病ニシテ其ノ本體ハ結膜腺樣層ノ汎發性慢性増殖性炎症ニシテ其ノ結果顆粒及乳嘴ヲ發生シ終ニハ癍痕形成ノ轉歸ヲ取ルモノナリ。結膜ノ外トラホームハ角膜及涙器ヲモ侵ス。

トラホームノ病變ヲ次ノ略圖ニ就キテ説明スレバ第79圖ハ健康結膜ニシテ結膜ハ菲薄透明ニシテ表面平滑ナリ。

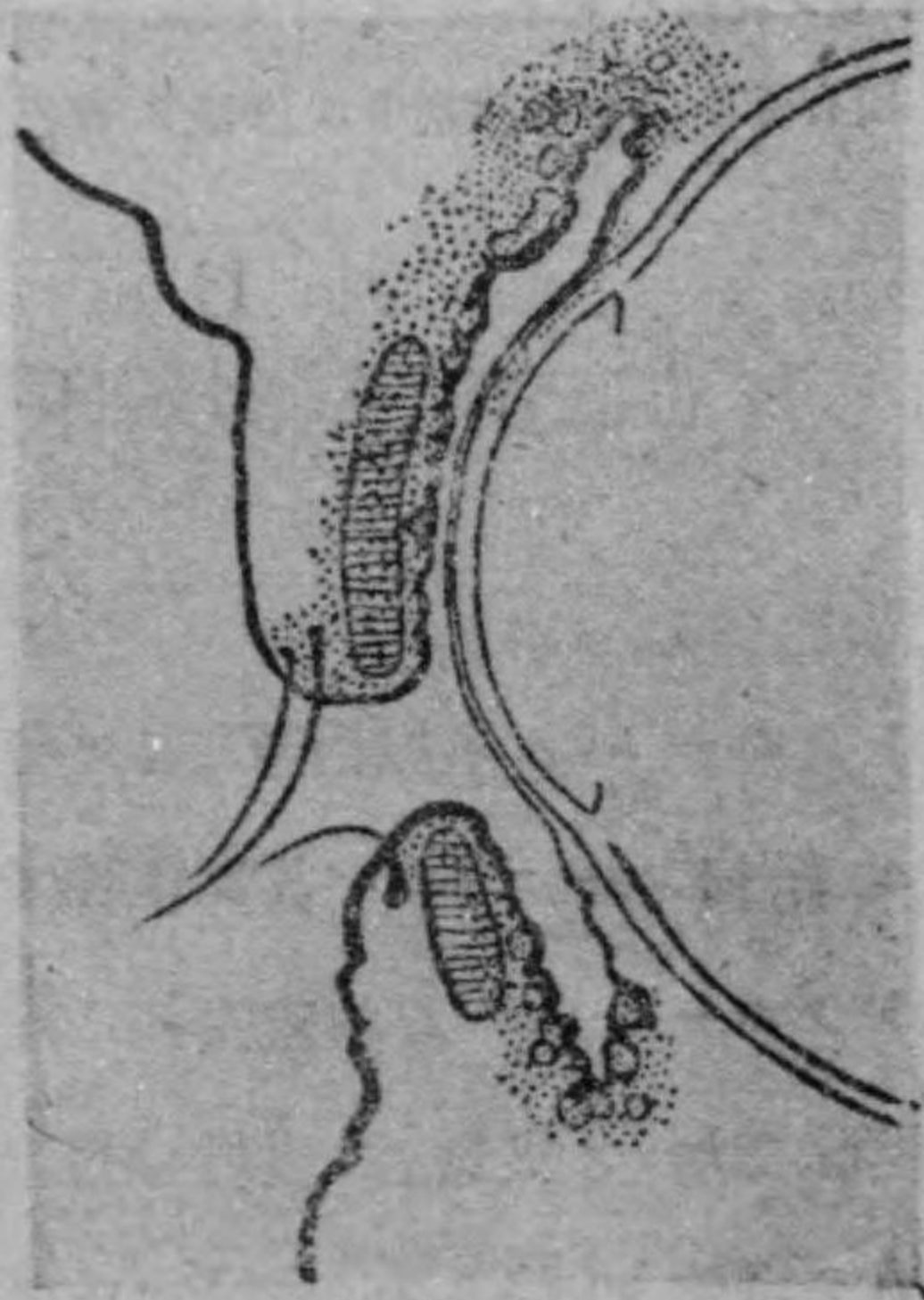


第79圖
健康眼断面略圖

膜モ共ニ著シク肥厚シ結膜ノ表面ニハ隆起ト陷凹トガ生ジテ粗糙ニ見ユ。此隆起ハ即チ临床上ノ乳嘴ニシテ陷凹ハ所謂トラホーム腺ナリ。

ミュルレル氏平滑筋モ亦侵サレテ上眼瞼下垂ス。

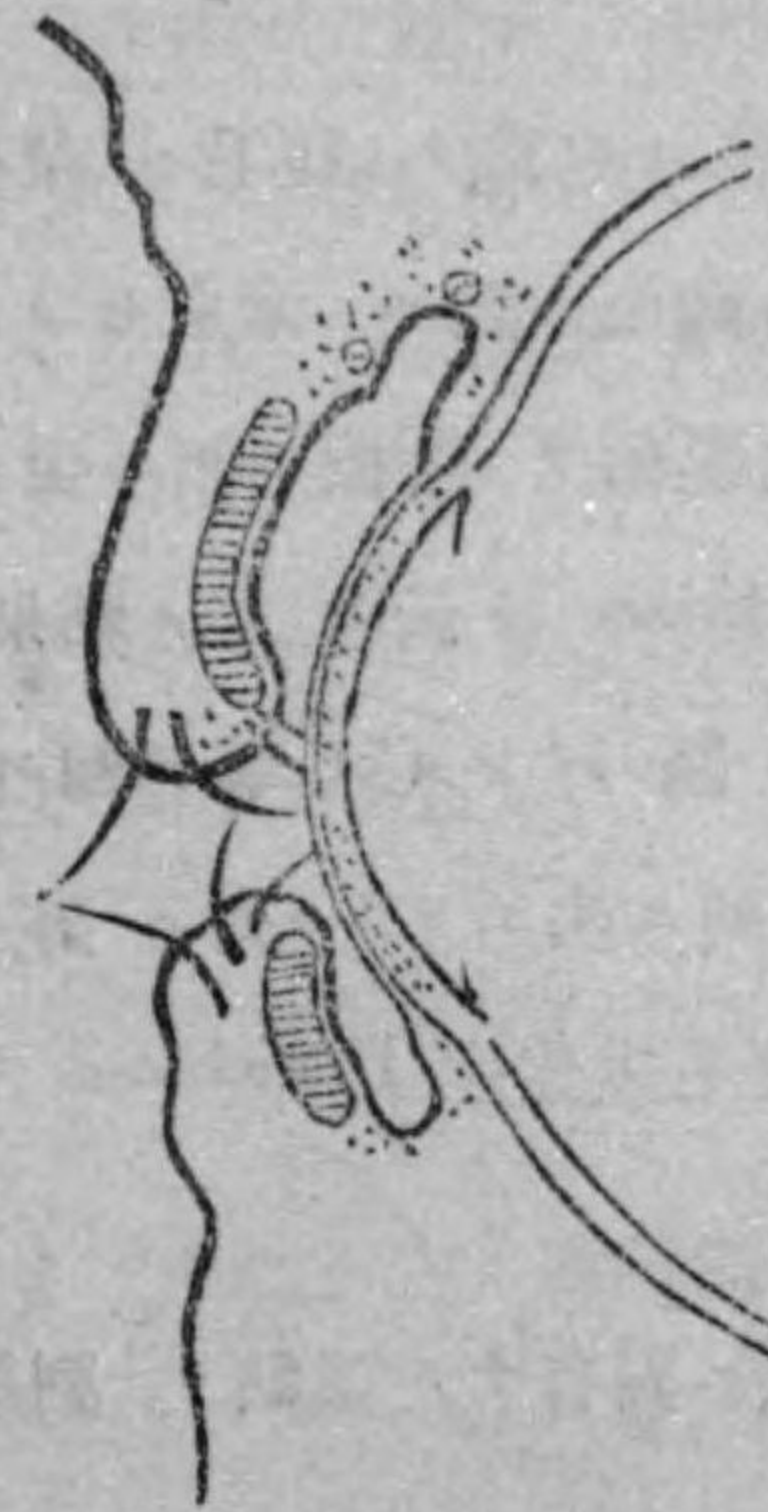
第80圖ハトラホームノ病勢ノ旺盛ナル時期ヲ示セルモノニシテ眼結膜ト穹窿部結膜ニハ汎發性ノ細胞ノ浸潤アリ。之ガ爲メ临床上結膜ハ肥厚溷濁シテ血管及マイボーム氏腺ヲ透視スルコト能ハズ。且ツ此ノ浸潤ハ眼瞼ノ深部ニマデモ及ボシ眼瞼軟骨モ結



第80圖
トラホームノ旺盛期

上皮ニハ細胞ノ浸潤アリ。且ツ盃狀細胞増加シテ盛ニ粘液ヲ分泌ス。

腺様層ノ浸潤中ニ多數ノ顆粒アリ。上皮ノ直下ニアルモノモ亦深部ニアルモノモアリ。又相隣接セル顆粒ノ融合シテ大顆粒トナリタルモアリ。



第81圖
トラホームノ癩痕期

球結膜ハ通常トラホームノ爲ニ著シキ變化ヲ受クルコトナク唯附近炎症ノ餘波ヲ受ケテ若干ノ充血ト細胞ノ浸潤トアルノミナレドモ又時トシテ膠様ノ顆粒ヲ發生スルコトアリ。

角膜ノ上縁ニハ細胞集積シ之ヨリ角膜表層ニ蔓延シテ临床上ノパンヌスヲ成ス。

トラホームガ斯ノ如キ状態ニテ一定時期ヲ經過スレバ顆粒ノ大部分ハ吸收セラレテ其ノ跡ニハ癩痕ヲ作ル。

斯ノ如ク顆粒モ浸潤モ悉ク癩痕化シテ收縮スルトキハ其ノ結果第81圖ニ示スガ如ク結膜面ハ平滑トナリ上皮ハ扁平トナリテ盃狀細胞ヲ失ヒ分泌減少シテ眼内乾燥ノ感アリ。

甚シキ場合ニハ 結膜ノ表層 角化シテ 脂肪ヲ取り 結膜乾燥症 Xerosis conjunctivae トナルコトアリ。

穹窿部結膜ハ 萎縮シテ 皺襞ヲ失ナヒ 眼球ノ運動 障碍セラレルコトアリ。即チ 後眼球癒着症 Symblypharon posterius ナリ。

眼瞼軟骨ハ 萎縮 彎曲シテ 藥研狀トナリ 爲ニ 眼瞼内翻症 Entropion ヲ起スコトアリ。

眼瞼縁ハ 鈍圓トナリ 睫毛根ノ 癢痕化スル爲メ 睫毛ハ 榮養 障碍ニ陥リテ 短カクナリ 且ツ 彎曲シ 癢痕ノ爲ニ 牽引セラレテ 排列 不規則トナリ 瞬目スル毎ニ 角膜面ヲ 摩擦スルニ至ルコトアリ。此ノ状態ヲ 睫毛亂生症 Trichiasis ト云ヒ 其ノ結果 眼瞼内翻症 ト同ジク 角膜ニ 浸潤 潰瘍 翳 バンヌス 等ヲ起ス。睫毛亂生症ノ 特別ノ 場合ニ 睫毛ガ 二列ニ生エテ 一列ハ 外ニ 向ヒ 一列ハ 内ニ向フコトアリ。之ヲ 睫毛重生症 Distichiasis ト云フ。

以上述ベタル所ヲ總括シ トラホーム ニ固有ナル諸點ヲ 列擧スレバ 次ノ如シ。

1. トラホーム ハ 主トシテ 結膜腺様層ノ 汎發性ノ 細胞ノ 浸潤ニシテ 之ニ 顆粒ノ發生ヲ 伴フモノナリ。
2. トラホーム ハ 眼瞼ノ深部ヲモ 侵ス。
3. トラホーム ノ顆粒ハ相融合スルコトアリ。之レガ爲メ 屢々膠様ノ觀ヲ呈ス。
4. 角膜ニ バンヌスヲ 起スコトアリ。又 涙器ヲ 侵スコト

アリ。

5. トラホーム ハ 最後ニハ 必ズ 癢痕トナリ 之ガ爲メ 眼瞼内翻症 睫毛亂生症 眼球癒着症 結膜 及 角膜ノ乾燥症 等ヲ起スコトアリ。

顆粒 ハ組織學上 細胞ノ集落ニシテ 此ノ細胞ニ 三種 アリ。即チ 周邊ノ 數層ハ 小ナル 淋巴細胞ニシテ 内部ニハ 稍々大ナル 上皮様細胞 密集シ 其ノ間 所々ニ 大ナル 小體細胞 アリ。而シテ 此ノ小體細胞ガ 如何ナル意味 アルモノナルカハ 今日 尙ホ 不明ナリ。

トラホーム ニアラザル 良性ノ濾胞ハ 組織學上 トラホーム顆粒ト 同様ナリ。

第四章 トラホームノ原因

トラホームノ 傳染病ナルコトハ 今日之ヲ 疑フモノナク 又 實際 トラホームノ分泌物ヲ採リテ 之ヲ 健康結膜ニ 移植スレバ 屢々 トラホームガ 起ル。然レドモ 此ノ移植試験ノ 成績ハ 他ノ 傳染性結膜炎 例ヘバ コツホ ウキークス菌結膜炎 重桿菌性結膜炎 膿漏性結膜炎 等ノ如ク 殆ンド 百發百中ト云フコトヲ得ズ。但シ 炎症 熾ナル トラホームノ 分泌物ヲ 其ノ結膜上皮ト 共ニ取り 之ヲ 他ノ人ノ 結膜上皮ヲ 傷ケ置キテ 移植シタル場合ニハ 從來ノ 報告ニテハ 多クハ 陽性ノ 成績ヲ得タリ。而シテ 此ノ場合ノ 潜伏期ハ 大約 7日ナリ。

又眼科醫がトラホームニ罹リタル例ハ甚ダ多ク彼ノキネー氏ガトラホームニ因リテ失明セシコトハ有名ナル事實ナリ。其他一家内ニトラホームガ蔓延シ或ハ又從來トラホームノ無カリシ土地ニ鐵道ガ出來テトラホームガ輸入セラレ又アメリカニテハ移民ノ進入ト共ニトラホームガ増加シ移民制限ト共ニ減少スルコト等何レモトラホームノ傳染性ナルコトヲ證明スルモノナリ。

トラホームノ傳染病ナルコトガ知ラレタル以來多クノ學者ハ其ノ原因ヲ發見セントシテ努メ細菌學上數多ノ研究行ハレタレド今日マデ一トシテ成功シタル者ナシ。即チ今日ニテハトラホームノ病原體ハ細菌ニアラズト云フコト殆ンド確實トナレリ。

西曆1907年プロワツエークハルベルスラツテル Prowazek-Halberstädterノ兩氏ガジャワニ於テトラホームノ研究ヲ爲シ居リタル際結膜上皮中ニギームザ氏染法ヲ以テ染色スル一種ノ原始小體ヲ發見シ之ヲ報告セリ。之ハ今日一般ニプロワツエーク小體ト稱ヘ結膜上皮ノ原形質中ニ存スル微小ナル點狀物ノ集合ナリ。之ガ殆ンドトラホームト初生兒膿漏眼ト婦人ノ生殖器トニノミ發見セラル、所ヨリ之ヲ以テトラホームノ原因ナラント云ヒ或ハトラホームト初生兒膿漏眼ト婦人生殖器トノ關係ヲ論ズル人アレドモ未ダ確定セラレズ。

トラホームノ小體ト膿漏眼及生殖器ノ小體トハ或ハ別種ノモノナルカモ知レズ。又之ヲ以テトラホームノ原因トナスニハ次ノ如キ不合理アリ。

プロワツエーク小體ハ通常病症ノ増悪シタル際ニノミ發見セラレ炎性症狀ノ盛ナラザルトキハ假令トラホームハ進行スルモプロワツエーク小體ハ發見セラレズ。又プロワツエーク小體ハ硝酸銀療法ニ依リテ容易ニ消滅スレドモトラホームハ夫レニモ拘ラズ進行スルコト。又新鮮ナル分泌多キトラホームニモ每常發見セラル、ニアラズ。其ノ發見セラル、場合ニモ甚ダ少數ニシテ多クノ標本中若干チ發見スルニ止マルチ常トスル等他ノ結膜炎ノ病原體トハ大ニ其ノ趣ヲ異ニス。

然シ之ヲ以テ直チニプロワツエーク小體ハトラホームノ原因ニアラズトモ云ヘザレバ尙ホ研究ヲ要ス。

トラホームノ病原體ハ斯ノ如ク不明ナレドモトラホームヲ猿ニ移植シテ試験スレバトラホームノ病毒ハ比較的抵抗力弱キモノ、如シ。即チ乾燥スレバ容易ニ其傳染力ヲ失ヒ攝氏五十度ノ温度ニ三十分間置ケバ死滅ス。但シ之ハ猿ニ就キテノ試験ナレバ之ヲ以テ直チニ人類ノトラホームニ適用シ得ルヤ否ヤハ疑問ナリ。

第五章 トラホームノ症狀

トラホームハ稀ニハ急性ニ始マルコトアレドモ之ハ例外ニシテ通常ハ極メテ徐々ニ始マリ慢性ノ經過ヲ取り患者ハ往々ニシテ自カラトラホームニ罹レルコトヲ知ラズシテ數

月又ハ數年ヲ經過シ身體検査等ノ場合ニ始メテ發見セラレコトアリ。又感覺遲鈍ノ人ハトラホームガ全ク癍痕化シテ治癒スルマデ遂ニ知ラズシテ終ルコトアリ。然レドモ通常ハ炎症ノ程度ニ從ヒ多少トモ一般結膜炎ノ自覺症狀ヲ呈ス。即チ羞明流涙分泌臉縁膠着灼熱又ハ異物ノ感眼精疲勞一時的ノ視力障碍等ナリ。癍痕期ニ至レバ分泌減少シテ眼内乾燥ノ感アリ。又鼻涙管狹窄症ヲ貽セバ流涙止マズ。若シ角膜ニ炎症起レバ羞明流涙疼痛等著シク又瞳孔領侵サレレバ視力減退ス。

他覺的ニハ球結膜ハ通常變化ナク唯時トシテ若干充血シ又稀ニハ顆粒ノ發生ヲ見ルコトモアリ。

トラホームノ主ナル變化ハ穹窿部結膜及臉結膜ニ在リ。半月狀皺襞モ亦通常穹窿部ト同様ノ變化ヲ起ス。トラホームノ初期ニ於テハ穹窿部結膜發赤肥厚シテ溷濁シ其ノ中ニ顆粒アリ。上臉結膜ハ内外眥部ニ近キ部分先ヅ發赤シ表面粗糙ニシテ中ニ顆粒ノアルコトモアリ。時期が進メバ顆粒ハ漸次其數ヲ増シ穹窿部ニ於テハ屢々念珠狀ニ羅列シ著シキ場合ニハ累々トシテ宛モ鷄冠狀ニ隆起スルコトアリ。臉結膜モ亦時期ノ進ムニ從ヒ病變結膜ノ全般ニ擴ガリ發赤肥厚溷濁シテ乳嘴増殖シ帶黃灰白色ノ小顆粒其ノ間ニ散在シ溷濁ノ爲ニ血管ヲ透視スルコト能ハズ。乳嘴増殖ノ著シキ場合ニハ結膜面一帶宛モ天鵝絨ノ如ク顆粒ハ其下ニ埋沒シ

テ見エザルコトアリ。

是レ等ノ病變ハ治療ヲ加ヘズシテ放置スレバ通常數年間繼續シ終ニ顆粒モ肥厚モ乳嘴モ共ニ漸次消退シテ癍痕期ニ入ル。

癍痕ハ以前顆粒ノ存在セシ場所ニ最モ著明ニ現ハル。此處ニ最初微小ナル白色ノ索狀又ハ樹枝狀ノ癍痕ガ若干陷凹シテ乳嘴ノ間ニ現ハル。次デ周圍ノ肥厚シタル組織モ亦漸次癍痕化スレバ癍痕ハ網狀トナリ網眼ニハ尙ホ乳嘴増殖シテ若干隆起シ白キ癍痕ト赤キ乳嘴トガ雜然トシテ相和ス。時期が進メバ此ノ癍痕ノ網ガ漸次幅廣クナリ反對ニ網眼ノ乳嘴ハ漸々狹小トナリ高サモ減ジ色モ褪メ遂ニ肥厚シタル組織ノ大部分ガ癍痕化スレバ其ノ部ハ再ビ菲薄トナリ表面平滑ニシテ癍痕ノ厚キ部分ハ臙樣蒼白色ヲ呈シ又其ノ薄キ部分ハ下層ノ赤色ヲ透視シテ若干紫色ヲ帶ブ。此ノ時期ニハ通常軟骨モ亦萎縮シテ薄ク小サクナリ且ツ若干彎曲ス。病變ノ輕キ場合ニハ癍痕モ亦表在性ニシテ時トシテ肉眼ニテハ殆ンド見得ザル程ノ小ナル癍痕ニテ治癒シ臨床上全ク健康ニ復シタルカト思ハルモノモアリ。

トラホームノ此ノ癍痕期ニ屢々顆粒ノ發生スルコトアリ。此ノ場合ニハ顆粒ハ好テ凝葛樣ノ大顆粒トナリ半透明ニシテ膠樣ノ光澤ヲ呈シ壓搾スレバ容易ニ破壊スルガ如キ状態ニ在ルコトアリ。

トラホームノ癩痕期ニハ通常深部ノ組織モ亦癩痕ニ陥リ萎縮ス。其ノ高度ナル場合ニハ軟骨彎曲シテ藥研狀ヲ成シ眼瞼縁ハ内方ニ向ヒ睫毛ガ角膜ヲ摩擦スルニ至ルコトアリ。此ノ状態ヲ眼瞼内翻症ト云フ。眼瞼縁ハ圓クナリ睫毛亂生シテ睫毛亂生症睫毛重生症ヲ起スコトアリ。又瞼球癒着症結膜乾燥症瞼裂縮小症等トナルコトモアリ。

トラホームハ結膜ノ外向ホ角膜ヲ侵シテパンヌスヲ成シ又涙器ヲ侵シテ涙囊トラホームヲ起ス。而シテパンヌスガ癩痕化スレバ角膜翳トナリテ屢々視力障碍ヲ貽シ涙囊トラホームガ癩痕化スレバ鼻涙管狭窄症トナリテ涙流症ヲ貽ス。

第六章 トラホームノ特種型

1. 急性トラホーム

トラホームガ稀ニ急性ニ始マルコトアリ。之ガ如何ナル原因或ハ動機ニ因リテ起ルカハ不明ナレドモ以前全ク健康ナリシ眼ニ一般急性結膜炎例ヘバ膿漏性結膜炎コツホウキークス菌結膜炎等ト同様ノ程度ニ急激ニ發病シ烈シキ自覺的及他覺的症狀ヲ呈シ普通ノ慢性トラホームトハ臨床上全ク異ナレル所見ト經過トヲナス一種ノトラホームアルコトハ我國ノ如キトラホーム國ニ於テハ多クノ人ノ早晚認

メザルベカラザル所ナリ。

急性トラホームハ最初急性結膜炎ノ症狀ヲ以テ發病シ自覺的羞明流淚灼熱異物感壓迫感眼瞼ノ重感刺痛等アリ。凝固性强キ漿液性粘液性ノ分泌物ヲ出シ睡眠中ニハ瞼縁ノ膠着スルヲ常トス。他覺的ニハ初期ニハ結膜若干充血シ瞼結膜ノ管部ニ乳嘴ノ増殖アルノミナレドモ數日ニシテ炎症ハ著シク高度ニ達シ球結膜モ亦汚穢暗紅色ニ充血ス。瞼結膜ハ著シク充血腫脹潤濁シテ乳嘴増殖シ且ツ浮腫アリ。爲ニ結膜面ハ一般ニ光澤ヲ呈スルモ表面平滑ナラズシテ細カキ乳嘴一面ニ發生シ血管ヲ透視シ得ズ。穹窿部結膜モ亦潤濁腫脹シテ血管ヲ透視シ得ズ。且ツ浮腫アリテ横走セル數條ノ皺襞其ノ面ニ突隆ス。

第2週ニハ既ニ腫脹セル結膜内ニ點々顆粒ノ存在ヲ認ムルコトアリ。又第3週ニハ既ニ固有ノパンヌスヲ起スコトアリ。

3—4週ノ後腫脹及浮腫ハ漸次減退シテ乳嘴及顆粒益々著明トナリ通常2—3箇月後ニハ若干ノ微細ナル癩痕ヲ貽シテ治癒スルモノナレドモ時トシテ慢性トナリテ數年間繼續スルコトアリ。

急性トラホームノ他ノ急性結膜炎ト異ナル所ハ 1. 乳嘴ノ増殖強キコト 2. 殆ンド分泌物ヲ見ザルニ拘ラズ睡眠中瞼縁ノ膠着スルコト 3. 硝酸銀療法ノ殆ンド効ナキコト 4. 多クハ一眼ニ始マリ通常5—7日ノ後他眼ニ發病スルコト 5. 結膜上皮中ニ屢々プロワツエーク小體ヲ發見スルコト 6. 經過中ニトラホームノ症狀ヲ現ハスコト等ナリトス。

慢性トラホームノ經過中ニ急性結膜炎ノ症狀ヲ發スルコト屢々アリ。之モ亦廣義ノ急性トラホームナルベクレドモ通常之ヲ急性トラホームトハ云ハズ。

2. 膠様トラホーム

トラホーム既ニ癩痕期ニ入リテ炎症減退シ組織ノ肥厚乳嘴ノ増殖等亦著シカラザル時尙ホ屢々顆粒ヲ發生スルコトアリ。此ノ場合ニハ殊ニ穹窿部ニ於テハ通常凝葛様ノ大顆粒トナリ結膜面ニ隆起シ淡黄色半透明ニシテ膠様ノ光澤ヲ呈シ好デ相融合シテ花壇狀ヲ成シ壓スレバ容易ニ破壊シテ内容ヲ漏出ス。斯ノ如キ膠様ノ顆粒ハトラホームニ特有ニシテ良性ノ濾胞ニハ決シテ見ザル所ナリ。從テ診斷上極メテ必要ナリ。

臉結膜ノ顆粒ハ稀ニ膠様ノ觀ヲ呈スルコトアレドモ多クハ之ヨリ小ニシテ隆起セズ稍々白色ヲ呈シ境界判然トシテ膠様ナラズ。

膠様顆粒ハ又特種ノ性質ヲ有シ球結膜加之角膜ニモ發生スルコトアリ。

膠様顆粒ノ著シク發育セルトラホームヲ特ニ膠様トラホーム Sulziges Trachom (Stellwag) ト云フ。

3. トラホーム性パンヌス

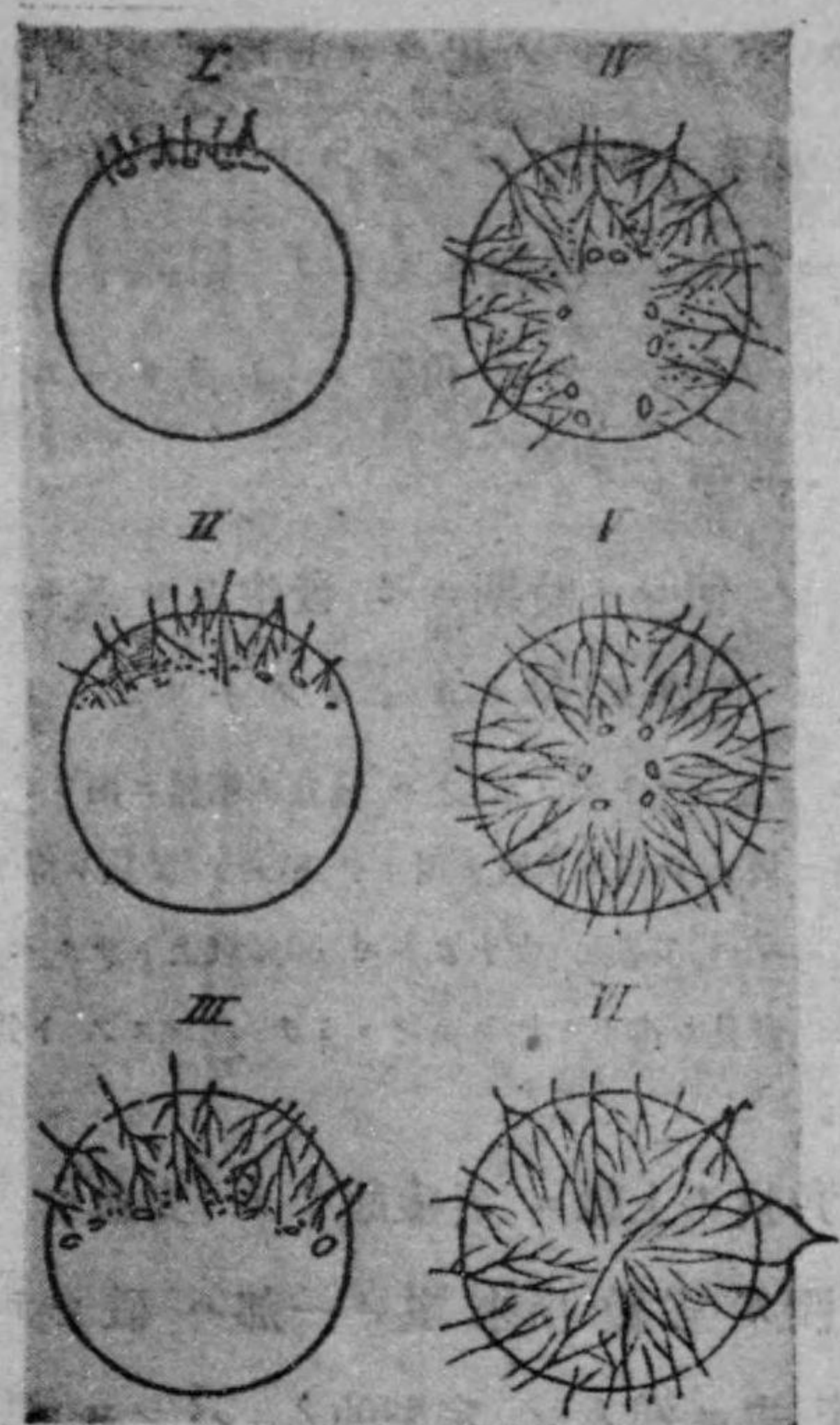
パンヌス Pannus トハ角膜表層ガ炎症ノ爲ニ滲濁シテ之ニ血管ノ進入セル状態ヲ謂フ。昔シハトラホームノ時臉結膜ガ粗糙ニナリ。之ガ爲ニ角膜ガ摩擦セラレテパンヌスガ起ルモノト考ヘタレドモ事實ハ之ニ反シパンヌスノ發生ハ結膜

面粗糙ノ度トハ全ク無關係ニシテ結膜ガ既ニ癩痕トナリ全ク平滑ナル時ニモ亦屢々パンヌスノ起ルコトアルヲ以テ此說ハ信ジ難シ。殊ニ近年研究ノ結果パンヌス中ニ顆粒モ證明セラレ汎發性ノプラスマ細胞ノ浸潤モアリテ組織學上トラホームノ病變ニ一致セルヲ以テ之ガ角膜ノトラホームナルコトハ一般ニ信ゼラル、ニ至レリ。

パンヌスハトラホームノ何レノ時期ニモ發生スレドモ常ニ先ヅ結膜ガ侵サレ後ニ角膜ガ侵サル、モノナリ。

トラホームノ何%位ニパンヌスガ起ルカト云フニ之ハ検査ノ精粗ニ由リテ成績ニ著シキ相違アリ。例ヘバ暗室ニ於テ角膜増大鏡ヲ用キテ始メテ發見シ得ラルルガ如キパンヌスヲモ悉ク計上スレバ其數ハ少ナクモ50%以上トナルベク又診察室ニ於テ肉眼ヲ以テ容易ニ發見シ得ルガ如キモノ、ミチパンヌスト爲セバ其數ハ大約20%前後トナルベシ。

パンヌスノ起ル初メハ角膜ノ上縁ニ炎症起リテ充血シ角膜表層ニ小ナル點狀ノ浸潤ガ多數出來其ノ一部ハ破レテ潰瘍トナル。次デ結膜ノ血管之ニ進入シ定型的ノパンヌスヲ成ス。一定時日ノ後ニハパンヌスハ通常自然ニ治癒シ其ノ部ニ表面ノ不平ト翳トヲ貽シ若干ノ血管尙ホ之ニ進入シアリ。斯クシテ一旦治癒スレドモ多クハ反覆再發シテ漸次進行ス。此ノ場合ニハ嚮ニ侵サレタル部分ノ下縁ニ更ニ新ラシキ浸潤ヲ生ジ前述ノ如キ經過ヲ取リテパンヌストナリ翳トナル。パンヌスハ斯ノ如クシテ間歇的ニ角膜中心ニ向ツテ下方ニ半月狀ヲ成シテ進行シ瞳孔ノ中央部ニ至レバ通



第 82 圖

トラホーム性パックス進行ノ状ヲ示ス

ト爲ス。又血管進入ノ特ニ著シキヲ血管性パックス Pannus vasculosus ト云フ。パックスガ治癒スレバ其ノ部ニ若干ノ翳ト表面ノ不平トヲ貽シ通常細小ナル血管之ニ進入ス。翳ノ薄キモノハ肉眼ニテハ容易ニ發見シ難クレドモ角膜上縁ノ半月狀ノ半透明部ヲ注意シテ見レバ其ノ境界健康眼ノ如ク整然タラズシテ不

常停止シ之ヨリ進マザルカ或ハ左右ノ角膜縁ニ接シタル部分ガ著シク下方ニ進ミテ馬蹄狀トナリ又輪狀トナリ終ニ全パックストナルコトアリ。

パックスノ進行スル際ニハ羞明流涙灼熱異物ノ感疼痛等ノ自覺症狀増悪ス。

臨床ニパックスヲ分ツテ

1. 淡性パックス Pannus tenuis.
2. 濃性又肉性パックス Pannus crassus s. carnosus.

正腺腫トナリ角膜ニ向ヒテ雲脚狀ノ突起ヲ出セルヲ以テ容易ニパックス後ノ翳ヲ診斷スルコトヲ得。又微細ナル表面ノ不平ハブラチドー氏角膜計ヲ以テ發見スルコトヲ得。

パックス後ノ翳ニ血管ノ入りタルハパックスニアラズ。パックスハ前述ノ如ク角膜表層ノ炎症ニシテ自覺的羞明流涙等ノ刺激症狀アリ。表面粗糙ニシテ之ニ近キ球結膜充血スレドモ翳ハ癢痕ニシテ刺激症狀ナク表面滑澤ニシテ結膜ニ充血ヲ見ズ。

パックス後ノ翳ハ健康角膜ニ比シ抵抗力弱キヲ以テ時トシテ膨出シテ角膜膨脹症 keratektasia e' panno トナルコトアリ。

4. 涙囊ノトラホーム

涙囊壁ノ組織ハ前述ノ如ク險結膜及穹窿部結膜ニ類似スルヲ以テ從テトラホームニ罹リ易シ。然レドモ外部ヨリ診斷スルコト困難ナルヲ以テ唯トラホームノ癢痕期ニ流涙症ヲ訴フルモノ多キコト及慢性涙囊炎ヲ合併スルコト屢々ナル等ノ事實ヨリ間接ニ涙囊ノトラホームニ罹リ癢痕收縮ノ爲メ鼻涙管狹窄症ヲ起シタルコトヲ知ルニ過ギズ。

ゼーミツシユ Saemisch 氏ノ調査ニ據レバ 60 人ノトラホーム患者中涙囊炎 27 人鼻涙管狹窄症 11 人アリタリト云フ。又先年河本博士ガトラホームノ一患者ヨリ摘出セラレタル涙囊壁ニ組織學上トラホーム性變化アリタルヲ見タリ。斯ノ如キ事實ヨリ涙囊ガ屢々トラホームニ罹ルコトハ疑ナキモ

其ノ診断及治療ハ甚ダ困難ナリ。

トラホームニ合併スル慢性涙囊炎ハ單純ノトラホームニアラズ(第七章参照)。

5. 一眼トラホーム

トラホームハ兩眼ヲ侵スヲ常トスレドモ極メテ稀ニ一眼ノミニ限局セラレ、コトアリ。然レドモトラホームガ時トシテ肉眼ニテハ殆ンド見得ザルガ如キ微細ナル癬痕ヲ貽シテ治癒スルコトモアリ。又一眼ガ侵サレテヨリ3—5年ヲ經テ他眼ニ來リタル例アルヲ以テ觀レバ一眼トラホームハ或ハ兩眼トラホームノ特別ノ時期ナルカモ知レズ。又例外トシテハ終始一眼ノミニ止マルコトアルベクレドモ之ハ非常ニ稀ナルモノナルベシ。

第七章 トラホームノ合併症

トラホームノ合併症中必要ナルハ角膜潰瘍及涙囊炎ナリ。此ノ二者ハ患者ニ苦痛ヲ與フルコトノ大ナルト失明ノ虞アルトニ由リ最モ注意ヲ要ス。

角膜潰瘍ハ屢々諸種ノ結膜炎ニ合併スルモノニシテ加答兒性潰瘍又ハ邊緣潰瘍ト云フ。直接毒素ノ爲メカ又ハ榮養障礙ノ爲メカニ因リテ起リ通常角膜ノ邊緣ニ近キ部分カ又ハパンヌスノ縁ニ近キ部分ニ生ズ。最初其ノ部ニ小ナル點狀ノ浸

潤ガ一箇又ハ數箇出來表面粗糙ニシテ溷濁ス。球結膜ハ充血シ羞明流涙異物ノ感疼痛等アリ。尙ホ瞳孔領侵サレレバ視力障礙起ル。之ガ漸次増大シ或ハ又隣接セル浸潤ガ互ニ相融合シ破レテ潰瘍トナル。形ハ圓キコトモアレドモ多クハ角膜縁或ハパンヌスノ縁ニ平行ノ半月形ヲ成ス。治療ヲ加フレバ通常進行止ミ附近ノ結膜ヨリ血管進入シテ恢復性パンヌストナリ終ニ角膜翳ヲ貽シテ治癒ス。

涙囊炎ハ鼻涙管ガ先ヅトラホームノ爲ニ狭窄シ涙囊ニ蓄溜セル涙液ニ肺炎球菌連鎖狀球菌葡萄狀球菌等ノ細菌進入シ繁殖シテ起リタル慢性炎症ニシテ之ヨリ膿汁常ニ結膜囊中ニ流れ出デ、結膜ヲ刺戟シ其ノ炎症ヲ助長シ徒ニ結膜炎ノ治療ヲ施スモ分泌止マズ患者之ガ爲ニ絶エズ憊マサル、ノミナラズ時トシテ匍行性角膜潰瘍ヲ起シテ失明スルノ危険アリ。診断ハ涙囊部ヲ指壓スレバ涙點ヨリ膿汁ヲ漏スコトニ由リテ容易ナリ。其ノ原因ガ鼻涙管狭窄症ニアルヲ以テ容易ニ治癒セズ。多クハ終ニ涙囊摘出術ヲ行ハザルベカラズ。

第八章 トラホームノ經過

トラホームハ通常極メテ慢性ノ經過ヲ取り持續的ノ障礙ヲ與フルモノニシテ其ノ經過中屢々再發増悪シ結膜ガ既ニ全ク癬痕化シタル後ニモ時トシテ顆粒パンヌス角膜潰瘍

等ノ起ルコトアリ。然レドモ 通常ハ 適當ナル治療法ニ依リ 又長キ間ニハ 自然ニモ 治癒シテ 若干ノ 癍痕ヲ胎シ 自覺的ニモ 亦 他覺的ニモ 結膜炎ノ 症状ハ 全ク 消退スルコトアリ。即チ トラホーム ガ 癍痕ヲ胎シテ 治癒シタルモノナリ。

然レドモ 上述ノ如ク トラホーム ガ 一旦 癍痕化スルモ 又 屢々 再發スルコトアルガ故ニ トラホーム ノ 治癒シタルコトヲ 診斷スルニハ 炎症ノ 全ク 消退シタル後 少ナクトモ 一箇年 乃至 二箇年間 再發セザルコトヲ 確カメザルベカラズ。

吾人ノ 結膜ハ 常ニ 外界ノ 種々ナル 刺激ニ 遭遇スルモノナルヲ以テ 從テ 健康結膜ニモ 亦 若干ノ 充血ト 乳嘴ノ 増殖 (特ニ 睑管部ニ著シ) ヲ 見ルヲ 常トス。又 時トシテ 其ノ度 稍々 強クシテ 結膜炎ノ 症状ヲ 呈スルコトモアリ。故ニ トラホーム ノ 全治後ニ 尚 若干ノ 充血ト 乳嘴ノ 増殖トヲ 胎スコトノ 屢々ナルハ 了解スルニ 難カラズ。此ノ理ニ由リ 結膜ニ トラホーム 經過ノ 癍痕アリ 且ツ 若干ノ 充血 乳嘴ノ 増殖 アルモノハ 一見シタルノミニテハ 其ノ トラホーム ナリヤ 否ヤヲ 診斷シ難キ 場合 屢々アリ。此ノ場合ニハ トラホーム 疑似症ト 診斷シ 經過ヲ 觀察スルヲ 至當トス。此ノ際 若シ トラホーム ノ 既ニ 治癒シタルモノナラバ 決シテ 再發スルコトナキモ 否ラザル場合ニハ 經過中 必ズ 再發 増悪スルコト 前述ノ如シ。

トラホーム ト云ヒ バンヌスト云フハ 畢竟 結膜 又ハ 角膜ノ 炎症ニ 附シタル 名稱ナルヲ以テ 結膜ニ 汎發性ノ 浸潤モ 顆

粒モナク 唯癍痕ト 其ノ續發症タル 眼瞼内翻症 睫毛亂生症 睑球癒着症 鼻涙管狭窄症 等ノ 胎リアルモノ 又ハ 角膜翳ニ 血管ノ 入り居ルモノヲ以テ 尙ホ 癍痕性トラホーム 又ハ 角膜バンヌスト爲スハ 恰モ 筋炎後ノ 癍痕ニ因スル 關節ノ 強剛ヲ以テ 癍痕性筋炎ト 名ツクルカ如キモノニシテ 其ノ不合理ナルコトハ 明カナリ。宜シク トラホーム 後ノ 眼瞼内翻症 バンヌス後ノ 翳 等ト爲スベキナリ。癍痕性トラホーム ナル名稱ハ 主トシテ 癍痕ノ 現ハル・ トラホーム ノ意ニシテ トラホーム 性炎症ハ 尙ホ 存在スルモ 乳嘴ヤ 顆粒ヨリモ 癍痕ノ 比較的 著名ナルヲ 謂フナリ。

第九章 トラホームノ診断

病原體ノ 未ダ 明カナラザル今日 トラホーム ノ 診断ハ 主トシテ 肉眼的 所見ニ依ルノ 外ナキヲ以テ 從テ 大ニ 熟練ヲ要ス。先ヅ 豫メ 健康結膜ノ 所見ヲ 十分ニ 知得シ 診断ニ方リテ 微小ナル 變化ト雖 直チニ 發見シ得ル如ク 練習スルヲ要ス。場合ニ依リ 擴大法 斜照法 等ヲ 應用セザルベカラザルコトアリ。

トラホーム ノ 診断ニ方リ 目標トナル所ノ 症状ハ次ノ如シ。

1. 結膜ノ 發赤 肥厚 溷濁 及 乳嘴ノ 増殖
2. 顆粒
3. 汎發性癍痕
4. トラホーム 性バンヌス

5. 續發症 (眼瞼内翻症 睫毛亂生症 瞼裂縮小症 後瞼球癒着症等)

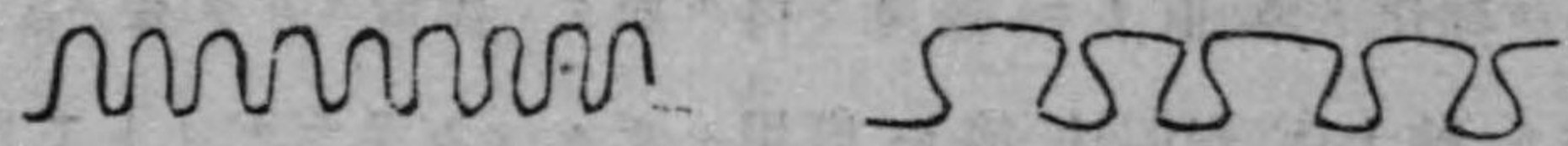
1. 結膜ノ發赤 肥厚 濁濁 及 乳嘴ノ増殖

汎發性浸潤ノ爲ニ起ル結膜ノ發赤 肥厚 濁濁ハ 慢性結膜炎ニ共通ノ症狀ニシテ トラホーム モ亦 一種ノ 慢性結膜炎ナル以上バ 此ノ症狀ガ 診断上 極メテ 必要ナルハ 言フ俟タズ。然レドモ トラホーム ヲ 診断スル爲ニハ 此ノ以外ニ 必ズ 2.-5.ノ 症狀ノ 一ツ以上ヲ 併有セザルベカラズ。

組織 肥厚ノ 結果 瞼結膜ニ於テハ 乳嘴 Papille 増殖ス。乳嘴ハ 通常 血管ニ 富ミタル 小ナル 乳嘴狀ノ 突起ニシテ 之レガ 無數ニ 結膜面ニ 發生スルヲ以テ 結膜面ハ 一帯ニ 赤ク 且ツ 粗糙ニシテ 下層ノ 血管ヲ 透視スルコト能ハズ 一見 天鷲絨ノ如シ。又 乳嘴ノ 大ニシテ 石垣ノ如ク見ユルハ 春季加答兒ニ 特有ナリ。

甲

乙



第 83 圖 乳嘴ノ略圖

甲=トラホームノ乳嘴

乙=春季加答兒ノ乳嘴

2. 顆粒 又ハ 濾胞

顆粒 Korn ハ 一ニ 濾胞 Follikel トモ云フ。然レドモ 通常ハ

トラホームノ時 顆粒ト稱ヘ 他ノ 良性ノモノヲ 濾胞ト云ヒテ 之ヲ 區別ス。顆粒(濾胞)ハ 前述ノ如ク 細胞ノ集落ニシテ 血管 及 結締織ニ乏シキヲ以テ 視診上 灰白色 殆ソド透明ナル 圓形 又ハ 橢圓形ノ粒 (直徑 約 0.5—1 耗) トナリテ見ユ。然レドモ トラホームノ時 顆粒ノ 周圍ニ 發赤 肥厚 濁濁シタル 組織アリテ 此ノ組織ヲ透シテ 顆粒ヲ見ルトキハ 顆粒ハ 若干 赤味ヲ帶ビ 少シク 濁濁シ 境界 判然セズ 且ツ 結膜面ニ 隆起スルコト 良性ノ濾胞ヨリモ 少ナシ。著シク 大ナル 膠様ノ顆粒ハ トラホームニ 特有ナリ。

トラホームノ外 濾胞ヲ發生スル疾患ハ 結膜濾胞症(學校濾胞) 及 濾胞性結膜炎ナリ。前者ハ 周圍ノ結膜 全ク 健康ニシテ 濾胞モ 小サク 透明ニシテ 水泡ノ如ク 半球狀ニ 突隆シ 且ツ 通常 下穹窿部ニ 最モ多ク 發生スルヲ以テ トラホームトハ 容易ニ 區別シ得レドモ 濾胞性結膜炎ニ 至リテハ 周圍ニ 單性結膜炎アリ 從テ 濾胞モ 稍々 大キク 色モ 少シク赤ク 且ツ 若干 濁濁セルヲ以テ トラホームトノ 鑑別ハ 通常 甚ダ 困難ナリ。唯 此ノ濾胞ハ 下穹窿部ニ 最モ多ク發生スルコト、癢痕ヲ 貽サズシテ 治癒スルコト、ガ トラホームト異ル所ナレドモ 我國ノ如キ トラホーム多キ國ニテハ 濾胞性結膜炎ノ 少シク疑ハシキモノハ 寧ロ トラホームノ疑ト爲シタル方 誤少ナシ。斯ノ如キ場合ニ 其經過ヲ見レバ 多クハ トラホームトナルモノナリ。

乳嘴ノ増殖著シクシテ顆粒ノ有無不明ナルトキハ河本氏食鹽法ニ依リテ顆粒ヲ檢出スルコトヲ得。其法ハ結膜面ニ豫メコカイン水ヲ點眼シ置キテ後食鹽ノ粉末ヲ撒布シ數秒ノ後水ヲ以テ洗滌スルナリ。若シ顆粒アレバ白色不透明ノ點トナリテ現出ス。但シ20—30秒ノ後ニハ再ビ消失スルヲ常トス。

3. 汎發性癍痕

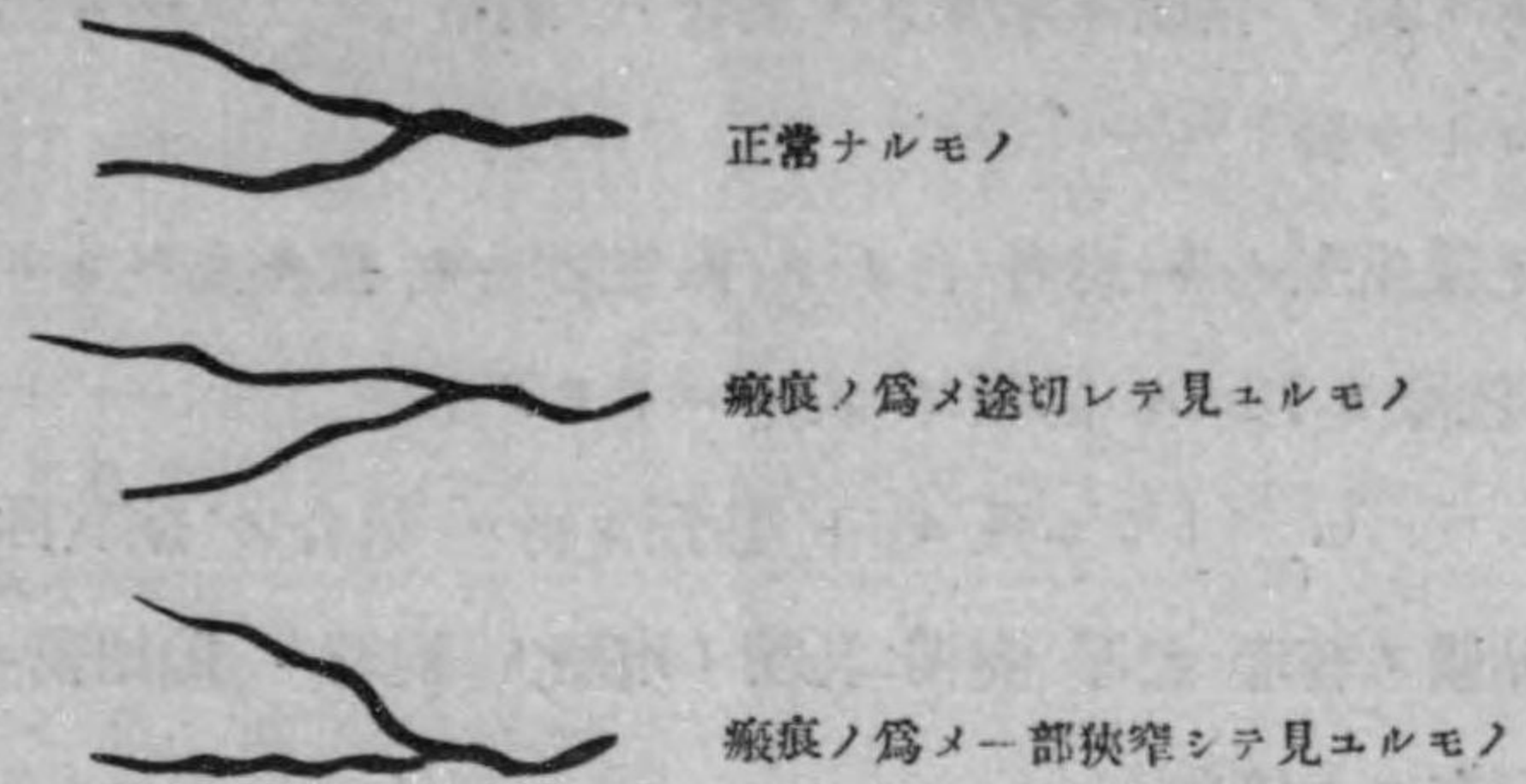
汎發性癍痕ハトラホームノ診斷上極メテ必要ナルモノニシテ兩眼ノ上瞼結膜ニ之アレバ殆ンド確カニトラホームニ罹リタルコトアルモノト診斷スルコトヲ得。然レドモ癍痕ハ炎症ニアラザルヲ以テ現在トラホームニ罹レルコトヲ判定スル爲ニハ必ズ他ニ結膜炎或ハパンヌスノ存在ヲ確カメザルベカラズ。

トラホーム以外ニ結膜ニ癍痕ヲ起スモノハ手術外傷(殊ニ熱傷腐蝕)デフテリヤ天疱瘡等アレドモ多クハ片眼ニシテ且ツ限局性ナリ。

癍痕ノ薄キモノハ時トシテ肉眼ニテ見得ザルコトアリ。此ノ時ハ擴大鏡ヲ用ウベシ。一般ニ潤濁ハ下層ニ暗キ色ノ物アレバ明カニ見ユルモノナルヲ以テ結膜ニテハ下層ノ血管ヲ注意シテ見レバ屢々微細ナル癍痕ヲ發見シ得ルコトアリ。即チ癍痕ノアル所ハ血管狹小トナリ又途切レタル如ク見ユルモノナリ(第84圖)。

上瞼結膜血管ノ不規則ニ走レルハ深部組織ノ侵サレタル證

ニシテ多クハトラホームニ因スルモノナリ。



第84圖

結膜血管ノ略圖

上瞼ヲ翻轉スレバ瞼結膜ノ穹窿部ニ近キ部分ハ壓迫ヲ受ケ時トシテ貧血蒼白トナリ癍痕ノ有無明カナラザルコトアリ。此ノ場合ニハ患者ニ下方ヲ見シメ翻轉シタル上瞼ヲ上方ニ牽引シ且ツ眼球ヲ下瞼上ヨリ若干後方ニ壓スレバ貧血去リテ癍痕其ノ他結膜ノ狀況ヲ知ルコトヲ得

4. トラホーム性パンヌス

トラホーム性パンヌスハ前述ノ如キ特異ノ形狀ヲ有シ他ノパンヌスト誤ルコト殆ンドナシ。フリクラン性パンヌスハフリクランノ出來タル所ヲ頂點トシテ截痕狀ヲ成シ恢復性パンヌス亦同様ナリ。其ノ他眼瞼内翻症睫毛亂生症等ノ爲ニ起ルパンヌスハ其ノ原因ニ由リテ知ルコトヲ得。

5. トラホーム續發症

トラホームノ續發症ハ癍痕形成ノ深部ニ及ボセル證ニシテ前ニ述ベタル外傷デリテリヤ天疱瘡等ニ因リテモ起ルコト

アリ。然レドモ是等ハ鑑別比較的容易ニシテ且ツ稀ナルモノナルヲ以テ兩眼ニ來リタル場合ハ通常トラホームナリト云フコトヲ得。

睫毛亂生症ノ時患者自カラ亂生睫毛ヲ抜キ去ルコトアルヲ以テ注意セザレバ診斷ヲ誤ルコトアリ。

6. トラホーム ト 診斷シ得ル 場合ノ 症狀群

- イ. 結膜ノ發赤 肥厚 潤濁 乳嘴ノ増殖ト 同時ニ 臉結膜ニ 顆粒ノ存在スル場合。
- ロ. 結膜ノ發赤 肥厚 潤濁 乳嘴ノ増殖ト 同時ニ 汎發性癍痕ノ存在スル場合。
- ハ. 結膜ノ發赤 肥厚 潤濁 乳嘴ノ増殖ト 同時ニ トラホーム性パンヌスノ存在スル場合。
- ニ. 結膜ノ發赤 肥厚 潤濁 乳嘴ノ増殖ト 同時ニ トラホーム續發症ノ存在スル場合。
- ホ. 膠様顆粒ノ存在スル場合。
- ヘ. 顆粒ト同時ニ 汎發性癍痕ノ存在スル場合。
- ト. 顆粒ト同時ニ トラホーム性パンヌスノ存在スル場合。
- チ. 顆粒ト同時ニ トラホーム續發症ノ存在スル場合。
- リ. 汎發性癍痕ト同時ニ トラホーム性パンヌスノ存在スル場合。

第十章 トラホーム ト 鑑別ヲ要スル疾患

1. 結膜濾胞症 Folliculosis conjunctivae (學校濾胞)

之ハ學校生徒ニ多キ疾患ニシテ自覺的ニハ毫モ異常ナク他覺的ニモ結膜ニ炎症ヲ見ズ全ク健康ナル穹窿部殊ニ下穹窿部結膜ニ透明ニシテ水泡状ノ小ナル直徑0.5—1.0 耗位ノ境界判然タル圓形或ハ橢圓形ノ濾胞半球状ニ隆起シテ數箇或ハ多數發生スルモノニシテ傳染セズ又何ノ害モナク時ヲ經レバ自然ニ吸收ス。原因不明。

2. 濾胞性結膜炎 Conjunctivitis folliculosa.

之ハ結膜濾胞症ヲ有スル者或ハ之ヲ起スベキ素因アル者ニ單性結膜炎ガ加ハリテ濾胞ノ著明ニ現ハレタルモノニシテ此ノ場合ノ濾胞ハ結膜濾胞症ノヨリハ稍々大ニシテ若干發赤潤濁シ境界モ稍々明瞭ヲ缺キ隆起ノ度モ少ナク結膜ニ炎症アリテ恰モトラホームノ初期ニ彷彿タル状ヲ呈ス。然レドモ本來結膜濾胞症ニ單性結膜炎ノ加ハリタルモノナルヲ以テ若シ細菌検査其ノ他ノ方法ニテ結膜炎ノ性質明カナル場合ニハ之ニ向ツテ適當ノ治療法ヲ施セバ結膜炎ハ去リ濾胞ノミ殘ルカ又ハ同時ニ濾胞モ消失スルヲ以テ診斷容易ナリ。即チ之トトラホームトノ主ナル相違ハ

1. 本體及原因ノ相違

2. 經過及豫後ノ相違

ナリ。故ニ疑ハシキ場合ニハ經過ヲ見ルヲ可トス。

結膜炎ハ傳染性ノコトモ否ラザルコトモアレドモ濾胞ハ傳染セズ又癍痕ヲ形成セズ膠様トナルコトナク又後害ヲ貽スコトナクシテ比較的容易ニ治癒ス。

濾胞性結膜炎中最もトラホームニ似タルハアトロピン加答兒ニシテアトロピンノ點眼ニ因リ時トシテ結膜ノ發赤腫脹潤濁ト共ニ屢々結膜ニモ濾胞ヲ發生シ一見トラホームニ酷似セルコトアリ。原因ヲ去レバ自然ニ治癒ス。

3. 急性單性(加答兒性)結膜炎 Conjunctivitis simplex (s. catarrhalis) acuta.

羞明 流涙 分泌 瞼縁膠着 灼熱 異物感 壓迫感 眼精疲労 等ノ 自覺症アリテ 眼瞼ハ 腫脹シ 瞼結膜 及 穹窿部結膜 亦 發赤 腫脹スレドモ 溼濁少ナク 血管 明カナリ。原因ハ 各種ノ 刺戟 例ヘバ 機械的刺戟 化學的刺戟 熱ノ刺戟 等ニ 因リテモ 起レド



第 85 圖
コツホ ウキークス氏桿菌
(約 100 倍)

モ 最モ多キハ 細菌 殊ニ コツホ ウキークス 氏桿菌ノ 傳染ニ 因リテ 起ルモノナリ。コツホ ウキークス氏桿菌 *Bacillus Koch-Meeks* (第 85 圖) ハ グラム陰性ノ 小ナル 桿菌ニシテ 人類結膜ニノミ 寄生シ 血清ヲ 含ミタル 培養基ニ 發育ス。本菌ニ



第 86 圖
乾燥菌
(約 500 倍)

因ル結膜炎ハ 傳染力 強ク 屢々 家族的ニ 來リ 球結膜ノ 充血 強クシテ 時トシテ 結膜下溢血ヲ 起シ 又 屢々 邊緣フリクテンヲ 生ズルヲ 特徴トス。

分泌物ノ 細菌學的検査ニ方リ 注意スベキコトハ 結膜囊内ニハ 殆ンド常ニ 白色 葡萄狀球菌 ト 乾燥菌 *Xerosisbacillus* (第 86 圖) トガ 棲息シ居ル コトナリ。共ニ グラム 陽性ニシテ 普通ノ 寒天培養基ニ 繁殖シ 無害ナリ。

4. 慢性單性(加答兒性 結膜炎 *Conjunctivitis simplex (s. catarrhalis) chronica.*

症狀 概シテ 急性症ヨリモ 輕ク 自覺的ニハ 眼精疲労 他覺的ニハ 乳嘴ノ 増殖ヲ 主徴候トス。眼脂ハ 少量ニシテ マイボーム氏腺ヨリ 分泌セラレタル 脂肪ハ 涙液ノ 爲ニ 微細ナル 白色ノ 泡トナリテ 瞼縁 殊ニ 外瞼ノ 邊ニ 附着スルコトアリ。瞼結膜ニハ 乳嘴増殖シテ 天鵞絨ノ 如ク 血管 及 下層ノ 組織ヲ 透視シ得ズ

原因ハ 各種ノ 慢性刺戟 例ヘバ 煤烟 塵埃 等 多キ場所ニ 生活スル人 汽車 汽船ノ 火夫 慢性涙囊炎ヲ 有スル人 等ニ 起リ 又 細菌ニ 因ルモノハ モラツクス アクセンフェルド氏重桿菌 *Diplobacillus Morax-Axenfeld* (第 87 圖) ノ 寄生ニ 因ルモノ 最モ多シ。此ノ 菌ハ 大ナル グラム陰性ノ 重桿菌ニシテ 血清培養基ニ 發育シ 凝固血清ヲ 液化ス。本菌ニ 因スル 結膜炎ハ 必ズ 先ヅ 眼瞼ノ 癢癢ヲ 起シ 之ヨリ 細菌 結膜囊ニ 入りテ 繁殖ス。故ニ 之ヲ 一ニ 結膜眼瞼炎 *Blepharocconjunctivitis* ト 云フ。



第 87 圖
モラツクス アクセ
ンフェルド氏重桿菌
(約 800 倍)

5. 膿漏性結膜炎 Conjunctivitis blennorrhoeica.

麻菌ノ傳染ニ因リテ起ル所ノ激シキ急性結膜炎ニシテ潜伏期ハ3日以内早キハ數時間ニシテ發病シ眼瞼發赤腫脹シテ自カラ開瞼シ難ク瞼裂ヨリ膿ノ流出著シ。故ニ膿漏性結膜炎ト云フ。結膜ハ發赤腫脹強ク穹窿部ニ皺襞ヲ成シテ突出シ瞼結膜ハ乳嘴ノ増殖著シクシテ天鵝絨ノ如ク容易ニ出血シ角膜ニ屢々潰瘍ヲ生ズ。分泌物中麻菌ヲ證シ傳染力強シ。

6. 春季加答兒 Conjunctivitis vernalis.

20歳以下ノ男子ニ多ク通常兩眼ニ來リ自覺的ニハ羞明搔痒輕度ノ加答兒症狀アリ。夏季ニ増悪シ冬季ニ輕快シ通常數年反復シ途ニハ痕跡ナク消失ス。組織中ニエオジン嗜好細胞多ク又分泌物中ニモ現ハル。

瞼結膜ヲ侵スコト、球結膜ヲ侵スコト、兩方同時ニ侵スコト、アリ。球結膜ニハ角膜縁ノ瞼裂部ニ汚穢灰褐色膠様ノ隆起ヲ來スヲ以テトラホームトノ鑑別ニハ不必要ナレドモ瞼結膜ノモノハ屢々トラホームト誤診セラル。之ハ瞼結膜ニ第三十圖ニ見ルガ如キ大ナル乳嘴ガ出來指ニテ觸ルレバ硬クシテ軟骨様ノ感覺アリ。鮮紅色ノコトモ乳白色ノコトモアリ。トラホームトノ相違ハ乳嘴ノ大ナルコト軟骨様ノ硬度ヲ呈スルコト顆粒ノナキコト瘰癧ヲ作ラザルコト穹窿部ヲ侵サルコト分泌物中ニエオジン嗜好細胞多キコト等ナリ。稀ナル疾患ナリ。

7. 結膜結核

之ハ結膜ノ何レノ部分ニモ出來ル。主トシテ潰瘍ヲ作ルコト、肉芽ノ増殖ヲ來スコト、粟粒ノ出來ルニト、アリ。此ノ内トラホームト鑑別ヲ要スルハ肉芽ト粟粒トナリ。通常片眼ノ一部ニ限局シ同側ノ頸淋巴腺腫脹ス。

肉芽ノ増殖ヲ來ス型ハ結膜ノ一部著シク發赤肥厚隆起シ表面不平ニシテ處々巖ノ如ク突出シ時トシテ潰瘍又結節ヲ作ルコトアリ。トラホームトノ鑑別ハ通常片眼ナルコト同側ノ淋巴腺腫脹セルコト肉芽ノ増殖著シクシテ表面不平ニ突隆セルコト食鹽法ヲ行フモ顆粒ヲ見ザルコト組織的検査及動物試験ニヨリ結核ヲ證明スルコト等ナリ。

粟粒型ハ結膜上皮ノ下ニ恰モトラホーム顆粒ニ彷彿タル多數ノ結節ヲ生ズルモノニシテトラホームトノ相違ハ通常片眼ナルコト同側ノ淋巴腺ノ腫脹セルコト食鹽ニヨリ白變セザルコト組織的検査及動物試験ニヨリ結核ヲ證明スルコト等ナリ。何レモ稀ナル疾患ナリ。

8. パリノー Parinaud 氏結膜炎

通常一眼ニ來リ惡寒發熱等ノ全身症狀アリテ同側ノ耳前顎下頸淋巴腺等腫脹シ疼痛アリ。結膜ノ一部發赤腫脹シテ肉芽増殖シ表面不平ニシテ顆粒狀ヲ呈スレドモ食鹽法ニヨリ白變セズ。通常2-3箇月ノ後瘰癧ヲ貽スルコトナクシテ治癒ス。原因ハ結核菌ナリトノ説最モ多シ。稀ナル疾患ナリ。

9. 瞼結膜ノフリクテン Phlycten.

フリクテンハ球結膜及角膜ニ發生スルチ常トスレドモ時トシテ瞼結膜ニ來ルコトアリ。此ノ場合ニハ多クハ球結膜ニモフリクテンアリ。結膜發赤腫脹スレドモ潤濁ナク瞼結膜ノ殊ニ縁ニ近キ部分ニ一箇又ハ數箇ノ表在性白色帽針頭大圓形ノ浸潤ヲ生ジ破レテ潰瘍トナリ數日ニシテ治癒ス。通常片眼ナルコト穹窿部ニ變化ナキコト同時ニ他ニフリクテンアルコト表在性ニシテ白色ナルコト等ニヨリトラホームト鑑別シ得。

10. マイボーム氏腺ノ梗塞 Infarkt.

マイボーム氏腺ノ一部ガ何カノ原因ニヨリ閉塞スルコトアレバ其ノ分泌物タル脂肪ガ腺内ニ蓄溜シテ囊腫ヲ作り結膜面ニ現ハル。大サハ通常蠶粟實大ヨリ麻實大ニシテ形ハ多クハ圓形乃至長橢圓形ナレドモ時トシテ不規則ナル形狀ヲ呈シ色ハ黃色乃至灰白色ニシテ不透明ナリ。圓形ナル場合ニハ時トシテトラホーム顆粒ト誤ルコトアレドモ不透明ニシテ通常其ノ形狀モ不規則ナリ。

マイボーム氏腺中ニハ其ノ他軟骨様半透明ノ塊石灰水泡等ノ出來ルコトアリ。

第十一章 トラホームノ分類

大正八年八月 内務省衛生局長ノ定メタル トラホームノ診断分類標準ハ 前記ノ如ク 今之ヲ摘録スレバ 次ノ如シ。

- | | | |
|-----|---|---|
| 重症 | 一 | 結膜ニ 汎ク 顆粒 簇生スルモノ 顆粒ノ發生ト 共ニ 乳嘴ノ増殖 著シキモノ 又ハ 炎症 高度ニシテ 分泌 旺盛ナルモノ。 |
| | 二 | トラホーム性パンヌスヲ起シ 其ノ 進行中ニアルモノ。 |
| 軽症 | 一 | 顆粒ノ發生 乳嘴ノ増殖 等 トラホーム性病變ガ 睑結膜ノ 内外眦部 半月狀皺襞 又ハ 穹窿部ニ 限局スルモノ。 |
| | 二 | 結膜ニ於ケル病變 輕度ニシテ 分泌少ナキモノ。 |
| 疑似症 | 一 | トラホームニ類似スル症狀アルモ 直ニ トラホームト診定シ難キモノ。 |
| | 二 | 結膜ニ トラホーム經過ノ 疑アル 癍痕アリテ 炎症ヲ 伴フモノ。 |

之ニヨレバ トラホームハ 重症 輕症 ノ二種ニ分タレ 別ニ 疑似症ガ 設ケラレタリ。

從來 トラホームノ分類ニ 臨床上主ナル症狀ニ依リテ 分タレタルモノ (後出) 病的變化ノ輕症ニ依リテ 分タレタルモノ (後出) 選兵ノ目的ニ依リテ 分タレタルモノ (後出) 等ア

リテ 夫レ夫レ 目的ノ異ナルニ從ヒ 分類標準モ 亦 異ナリ 統一スルコトハ 理論上 困難ニシテ 又 其ノ 必要ナキモノト云ハザルベカラズ。而シテ 内務省ノ標準ハ 傳染力ノ強弱ト 治療ノ緩急トニ 基キテ 分類セラレタルモノナレバ 從來ノ分類法トハ 其ノ成立ニ於テ 既ニ 相違アリ。而シテ 傳染力ノ強弱ト 治療ノ緩急トハ 又 常ニ 相伴フモノニアラズ。

元來 トラホームヲ 豫防絶滅セント欲セバ 必然 ソノ傳染力ニ重キヲ置キ 傳染力ノ強大ナルモノヲ 危險ナル症トシテ 隔離シ 且ツ 速ニ 治療セザルベカラズ。然ラバ 傳染力ノ強弱ハ 何ニ由リテ知ルカト云フニ 今日マデ 之ニ就キテ 系統的ノ研究行ハレタルコトナキヲ以テ 確實ニハ知リ難キモ トラホームガ 患者ノ眼脂ヨリ 傳染スルコトハ 經驗上 疑ナキヲ以テ 眼脂ノ分泌 旺盛ナルモノヲ 傳染ノ虞 大ナルモノト 看做スヲ 至當トス。固ヨリ 眼脂ノ量ノミニテハ 病毒ノ濃度ヲ 知リ難キモ 今日 是レ以上 適當ナル方法ナキヲ以テ 已ムヲ得ズ 斯ノ如ク 假定シタルナリ。

サテ 眼脂ノ量ヲ 定ムルニハ 一定時間ノ 觀察ヲ要シ 檢診等ノ場合ニ 一見シテ 直チニ 之ヲ知リ難キ 不便アルヲ以テ 大體 眼脂ノ分量ハ 結膜ニ於ケル 炎症ノ程度ニ 比例スルモノト 看做シ 炎症 高度ナルモノヲ 傳染ノ虞 大ナルモノトシタルナリ。即チ 傳染力ノ強弱ヨリ見テ 重症トラホームト爲スベキハ「トラホーム性炎症 高度ニシテ 分泌 旺盛ナルモノ」トナル。之ヲ

稍々具體的ニ書キ表ハシタルモノガ即チ内務省分類ノ重症トラホームノ一ナリ。

次ニハ治療ノ緩急ニ關スル問題ナリ。假ニ今一人ノトラホーム患者アリトス。分泌ハ旺盛ト云フニアラザルモ角膜ニハ重キパンヌスアリテ目下盛ニ進行シツ、アリ患者ハ之ガ爲ニ苦痛甚ダシク夜間安眠ヲ得ズ且ツ日々視力減退ヲ覺エ數日ノ後ニハ遂ニ失明セントスル状態ナリトセヨ。假令分泌多カラズ傳染力強大ナラズトスルモ之ヲ輕症トシテ悠々タル處置ヲ取り患者ヲシテ失明ノ不幸ヲ嘆ゼシムルハ豫防法ノ精神ニアラズ、故ニ斯ノ如キ患者ハ傳染力ノ如何ニ係ラズ速ニ治療ヲ加ヘ失明ノ不幸ヨリ救助セザルベカラズ。是レ即チ内務省分類ノ重症トラホームノ二ナリ。即チ重症トラホームノ二ハ「角膜ニ進行中ノパンヌス潰瘍等アリテ速ニ治療セザレバ失明ノ虞アルモノ」ト云フ意ナリ。分類標準ニ進行中ノパンヌスノミ掲ゲテ其ノ他ヲ省略シタルハ稍々不明瞭ノ感ナキニアラズ。然レドモ前ニ「重症トラホームトハ概ネ左ノ如キモノヲ謂フ」トアルハ「左ニ掲グルモノヲ謂フ」ト云フ意ニハアラズシテ之ニ類スルモノヲ廣ク指シタルナリ。故ニ進行中ノパンヌスト同程度ノモノ例ヘバ進行中ノ角膜潰瘍睫毛亂生症ニ因スル角膜炎等モ當然之ニ加フベキモノトス。

以上述ベタル所ニ由リ重症ノ一ハ傳染力ノ強大ナリト認

メラル、モノニシテ重症ノ二ハ速ニ治療ヲ要スルモノナルコトヲ知ル。故ニ接客業者ノ從業ヲ停止スルハ重症ノ一ノミニテ可ナリ(衛生局長
注意事項)。

次ニ輕症トラホーム中ニハ重症ヲ除キタル他ノ總テノトラホームガ入ル。即チ「トラホーム性炎症輕度ニシテ分泌少ナキモノ」ナリ。然レドモ之ヲ稍々具體的ニ書キ且ツ從來汎ク行ハレタルヒルシュベルグ及グレーツフノ分類法(後出)陸軍ノ分類法(後出)等ニ成ルベク近キモノトナストキハ概ネ内務省ノ標準ノ如キモノトナル。即チ内務省ノ輕症トラホームノ一ハ初期ノトラホームニシテ之ハ當然輕症ノ二ノ中ニ含マルベキモノナリ。而シテ之ヲ分離シタル理由ハ從來ノ分類法ガ多ク初期ノトラホームヲ輕症トナシアリタルヲ以テナリ。但シ假令初期ノトラホームニテモ炎症高度ニシテ分泌旺盛ナルモノハ重症ノ一ニ入ルベキナリ。

以上述ベタル所ニヨリ輕症トラホームヲ二項ニ分チタルハ重症ノ場合ト異ナリ初期ノトラホームヲ從來ノ分類標準ニ倣ヒテ分離シタルニ過ギザルヲ知ル。

本標準ニ據レバ重症ト輕症トノ境界ハ極メテ漠然タルヲ以テ其ノ中間ニ在ル程度ノトラホームハ人々ニ由リ何レニ入ルベキカノ意見ヲ異ニスルコトアルベシ。然レドモ之ハ何レノ分類標準ニモ共通ノ缺點ニシテ今日ノ學術ノ程度ニテハ避ク難キ所ナリ。而シテ本標準ハ全國一般ニ用フルモノ

ナルヲ以テ地方ノ狀況即チトラホームノ多寡ニ由リ幾分標準ノ程度例ヘバ從業停止ノ標準ヲ加減スル必要アルベキヲ以テ若干漠然タル方ガ却テ好都合ナリト云フコトヲ得ベシ。

要スルニ内務省ノ標準ハヒルシユベルグ及グレーツフノ標準及陸軍ノ標準ノ重症ト中等症トヲ合セテ重症トナシタルモノト考フレバ可ナリ。

中等症ヲ除キタル理由ハ必要以上ニ細別セザル方針ト傳染力ノ最も大ナルベキモノヲ中等症トスルコトハ實行上不便ナルトノ爲ナリ。

次ニトラホーム疑似症ハ「経過ヲ觀察セザレバトラホームナリヤ否ヤノ判定困難ナルモノ」ナリ。之ヲ二項ニ分チアリ。即チ其ノ一ハ從來ノ標準ト同一ニシテトラホームノ初期ニ濾胞性結膜炎トノ鑑別困難ナル場合ナリ。此ノ場合ニ経過ヲ觀察スレバ濾胞性結膜炎ハ結膜炎ノ治療法ニ依リテ比較的容易ニ治癒シ瘢痕ヲ貽スコトナクトラホームハ之ニ反スルヲ以テ鑑別スルコトヲ得。

疑似症ノ二ハトラホームノ治癒期ニ之ガ全治セシヤ否ヤノ不明ナルモノナリ。トラホームノ治癒スルヤ通常極メテ徐々ニシテ且ツ屢々反復増悪シ一旦治癒セシガ如ク見エテ又再發スルコトアリ。故ニ確實ニ全治ヲ診斷スル爲ニハ1-2年間経過ヲ觀察セザルベカラズ。而シテ此ノ期間ハトラホームガ治癒シタルモノナリヤ否ヤ不明ナルヲ以テ當然疑似症

ト爲スベキナリ。然レドモ斯ノ如クスレバ疑似症甚ダ多數トナリ。實行上不便ナルベキモ若シ學術上正當ナルヲ欲スル場合ニハ蓋シ已ムヲ得ザルナリ。

參考ノ爲メ從來ノ分類標準ノ若干例ヲ次ニ示ス。

1. 臨床上主ナル症狀ニ依リテ分類

セラレタルモノ

1. 急性トラホーム。

- | | | |
|------------|---|-----------|
| 2. 慢性トラホーム | } | 乳嚙性トラホーム。 |
| | | 顆粒性トラホーム。 |
| | | 瘢痕性トラホーム。 |
| | | 混合性トラホーム。 |
| | | 膠樣トラホーム。 |

2. ヒルシユベルグ及グレーツフ氏分類法即

チ病的變化ノ輕重ニ依リテ分タレタルモノ。

1. 疑似症。

診斷ヲ確定スルニハ長日月ノ觀察ヲ要スルモノ。

2. 輕症。

中等度ノ結膜肥厚穹窿部ニ少數ノ顆粒アルモ軟骨部結膜ニハ異常ナク分泌物ナキモノ。

3. 中等症。

上下眼瞼ニ(軟骨部結膜ニモ)多數ノ顆粒アリ上穹窿部ハ著シク突隆シ分泌物アルモノ。

4. 重症。

既ニパンヌス眼瞼内腫症睫毛亂生症等ノ續發症ヲ呈スルモノ。

3. 陸軍ノ分類法 即チ 選兵ノ目的ニ依リテ 分タルモノ

1. 疑似症。

容易ニトラホームナリヤ否ヤチ決定シ難キモノ。

2. 輕症。

病變穹窿部結膜乃至半月狀皺襞ニ限局スルモノ。

病變瞼結膜ニ及ブモ其ノ程度極メテ輕ク自覺的殆ンド健康ニシテ分泌著シカラザルモノ。

3. 中等症。

輕症ヨリ高度ノ病變ヲ呈スルモ著明ノパンヌスナク重キ續發症ヲ有セザルモノ。

4. 重症。

角膜ニ著明ノパンヌスアルモノ。

眼瞼内翻症 睫毛亂生症ヲ續發セルモノ。

以上二項ニ準ズベキモノ。

4. 米國渡航者ノ診眼標準

次ノ各號ニ該當スル患者ハ不合格トス。

1. トラホーム。

(イ) 顆粒 乳嘴増大 及 炎症ヲ併有スルモノ。

(ロ) 顆粒ヲ認メザルモトラホーム經過中ニ在ル加答兒ト認ムベキモノ。

(ハ) 癍痕ト化セルモ尙結膜組織間ニ炎症々候ヲ殘シ又ハ刺戟等ニヨリ炎症々候ヲ起サントスルノ虞アルモノ(單ニ癍痕ノミヲ殘セルモノハ妨ゲナシ)。

(ニ) トラホームニ疑ハシキモノ。

2. 濾胞性結膜炎。

(イ) 濾胞性結膜炎ハ上下眼瞼ノ何レニ存スルヲ問ハズ不可ナリ。

(ロ) 下眼瞼ニノミ濾胞存在シ炎症々候ヲ伴ハザルモノ所謂結膜濾胞症ハ

可ナリ。

3. 急性及慢性ノ膿漏性結膜炎 實布煙里性 及 格魯布性結膜炎 コツホウイークス氏菌 モラツクス アクセンフェルド氏菌ニヨル結膜炎 腫脹性結膜加答兒 春季加答兒 其他 梅毒性 及 結核性眼疾 等。

第十二章 トラホームノ治療法

1. 治療總論

トラホーム療法ノ今日行ハルモノハ何レモ之ヲ根本的原因的ニ治療スル方法ニアラズシテ唯比較的其ノ經過ヲ短縮シ傳染ヲ豫防シ自覺的及他覺的症狀ヲ輕減シ成ルベク後害ヲ貽サバル如ク治療セシムルニ在リ。

元來トラホームハ通常極メテ慢性ノ經過ヲ取り往々數年ニ亘リ一弛一張シテ容易ニ治療シ難キモノナルヲ以テ從テ其ノ治療モ能ク耐忍シテ長ク繼續セザルベカラズ。然レドモ或ル人々ノ考フルガ如ク決シテ不治ニハアラズシテ寧ロ治療ノ奏効スルコト比較的確實ナル疾患ノ一ナリ。即チ適當ナル治療ヲ加フレバ夫レダケ自覺的及他覺的症狀輕快スルヲ常トス。故ニ曰ク。

「トラホームは不治の疾患にあらず」

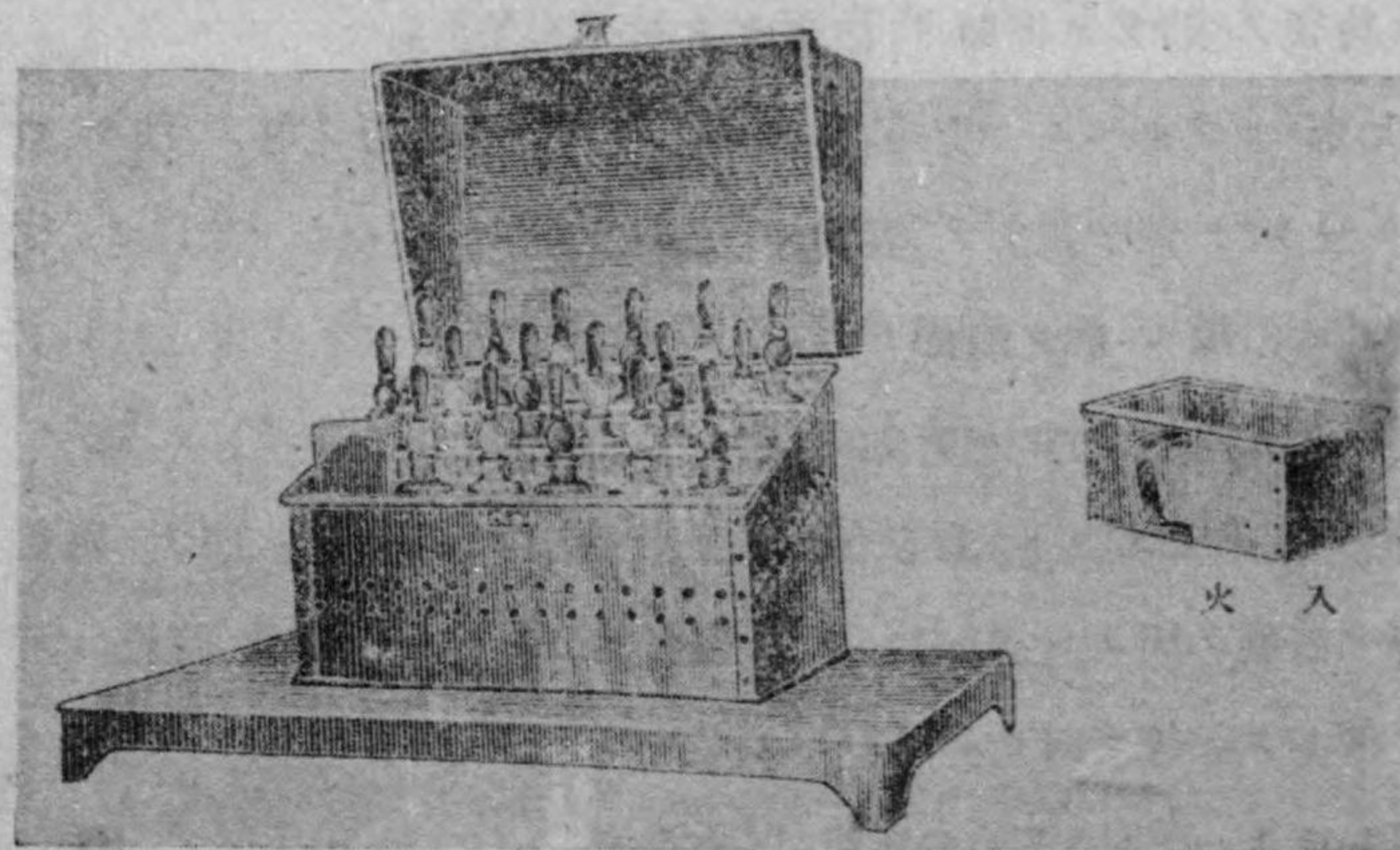
「トラホームの療治は重荷を負うて遠き道を行くが如し急ぐべからず」。

トラホームノ治療ニ方リ常ニ心得ベキコト次ノ如シ。

1. 眼ハ知覺最モ過敏ニシテ容易ニ損傷ヲ受ケ且ツ僅微ノ

損傷モ其ノ障碍ヤ甚ダ大ナリ。故ニ眼ノ取扱ハ極メテ温和ニシテ徒ニ患者ニ苦痛ヲ與ヘ又ハ眼ニ傷害ヲ與ヘザル如ク注意スルヲ要ス。

2. 角膜及結膜ノ大部分ハ熱ヲ感ゼザル代リニ冷覺ハ甚ダ鋭敏ナリ。故ニ冷タキ點眼藥冷タキ洗眼藥ヲ用ウレバ患者ハ甚ダ不快ヲ感ジ反射的ニ瞼裂ヲ閉ヅ。故ニ氣候ノ寒冷ナル際ニハ點眼藥及洗眼藥ノ保温裝置ヲ用ウルヲ要ス(83-92圖)。又コカインヂオニン等吸收ニ由リテ作用スル點眼藥ハ之ヲ温ムレバ吸收速カニシテ其ノ効果大ナリ。



第88圖

半田屋型乾燥點眼瓶保温裝置

3. 眼ヲ刺戟スレバ結膜炎起ル。故ニトラホームノ治療ニハ患者ニ注意ヲ與ヘテ決シテ手等ニテ眼ヲ摩擦セシメザル

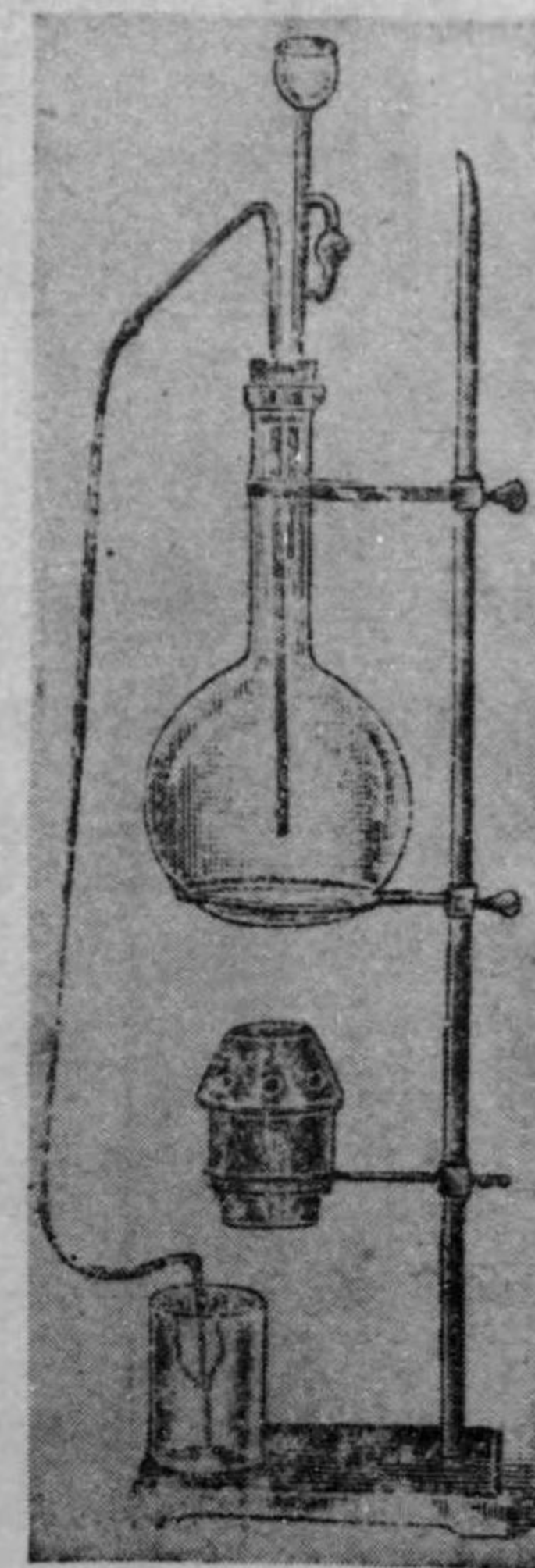


第89圖

井上氏湯入
點眼瓶保温裝置

コト塵埃煤煙等ノ多キ場所ニ居ラシメザルコト眼ノ疲勞ヲ感ズルガ如キ近業ヲ避ケシムルコト睡眠ヲ充分ナラシムルコト酒煙草ヲ攝セシムルコト等必要ナリ。

4. 清キ水ニテ眼ヲ洗フコトハトラホームノ治療上甚ダ有効ナリ。トラホームハ自

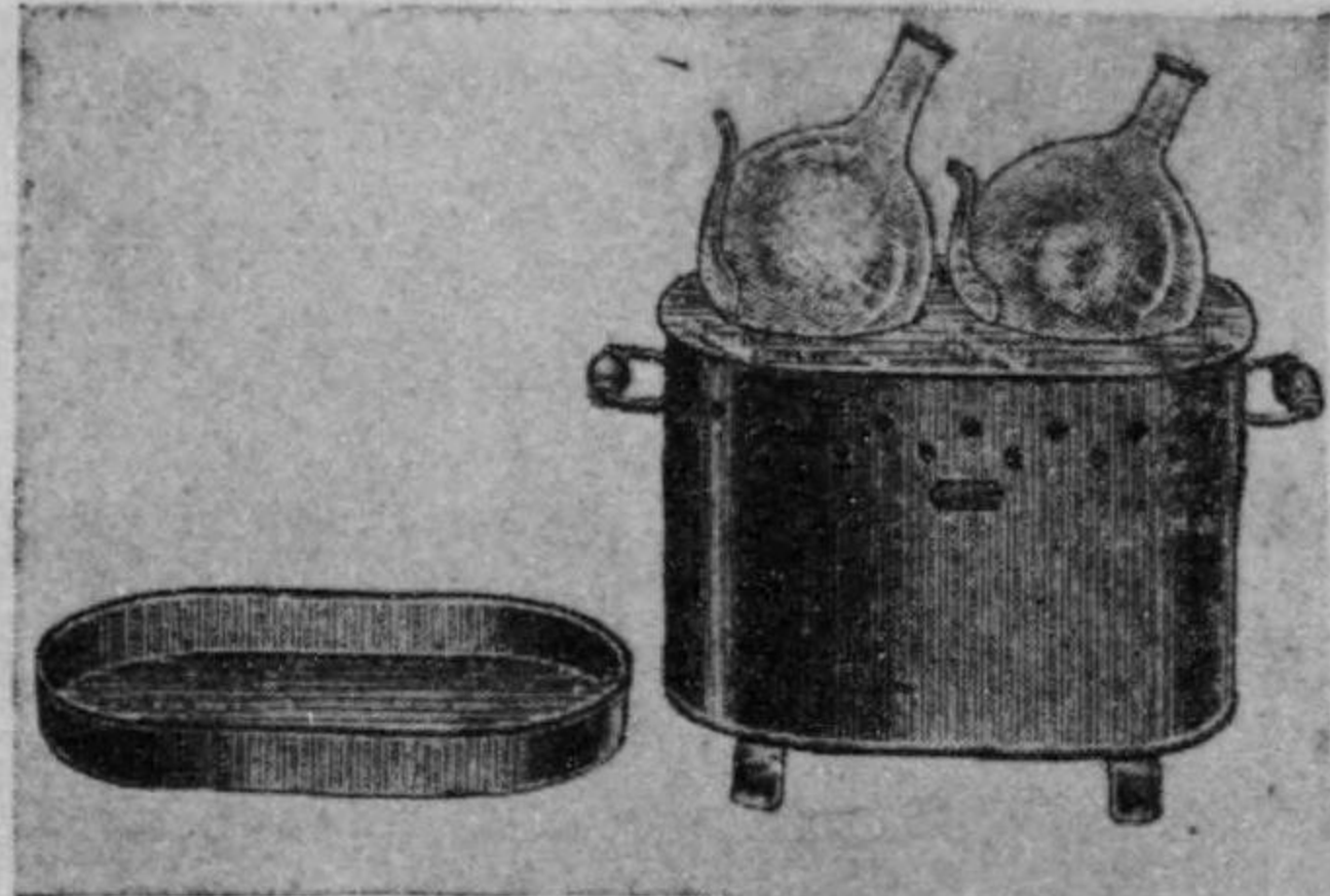


第90圖

須田氏保温洗眼裝置

然ニモ 治癒シ得ベキ 疾患ナルヲ以テ 努メテ 眼ヲ 洗ヘバトラ
ホームカ 治癒スト云フ説ハ 強チ 誤ニハアラス。故ニ 患者
若シ 分泌物ノ 爲メ 眼ノ 朦朧トナルコトアラバ 手巾 等ニテ 眼
ヲ 拭フ代リニ 清水ヲ以テ 洗眼セシムルヲ可トス。是レ一舉兩
得ノ法ナリ。

「トラホーム 退治の 最良武器は 清潔なり」



第 91 圖

半田屋型 洗眼瓶
保温装置

5. 吾人ノ智識ハ 淺薄
ナリ。故ニ 吾人ノ 今
日 適當ト信ズル所ノ
療法モ 往々ニシテ 奏
効 確實ナラザルコト
アリ。殊ニ トラホー
ムノ如キ 適確ノ療法
ニ乏シキ 慢性疾患ハ
治療ヲ 繼續スルコト



第 92 圖

荻生氏 保温洗眼器
(懐爐灰應用)

ニ因リテ 却テ 治機ヲ 遅延セシムルコト 無キニシモアラズ。故
ニ 硝酸銀ヤ 硫酸銅ヤ 或ハ 物理的 手術的療法ヤ 種々之ヲ用
キテ 更ニ 効ナキ場合ニハ 暫時 休療セシメテ 總テノ 刺戟ヲ 廢
シ 經過ヲ 觀察スルモ 亦一案ナリ。予ハ之ニ由リテ 屢々 意外
ノ 好結果ヲ 得タリ。某小學校長曰ク「トラホーム デ 校醫カラ
オ前ノ 眼ハ 重症ノ トラホームダカラ 捨テ置ケバ 失明スルト 云
ハレタ生徒ガ 其ノ後 全ク 治療ヲ 受ケナカツタノニ 徴兵検査
ノ時ニハ トラホームハ 既ニ 全ク 治癒シテ居ツテ 甲種ニ 合
格シタ」ト 又以テ 他山ノ 石ト ナスベシ。

トラホームノ 治療法ハ 之ヲ 大別シテ 藥物的療法 物理的療
法 及 手術的療法ト爲ス。而シテ 其ノ 奏効ノ 速カナルハ 手術
的療法ノ 長所ニシテ 患者ニ 苦痛ヲ 與フルコトノ 大ナルト 癢
痕ヲ 貽スコトノ 大ナルト 施術ノ 稍々 困難ニシテ 時間ト 勞
力トヲ 費スコトノ 大ナルトハ 共ニ 其ノ 短所ナリ。

恰モ 鞏膜ノ 結核ガ 搔爬 燒灼 瀉血 等ニヨリテ 治癒スルガ如
ク トラホームモ 亦 是等ノ 處置ニヨリテ 著シク 輕快シ 或ハ
治癒スルモノナリ。然レドモ 之ニヨリテ 再發ヲ 確實ニ 豫防ス
ルコト 能ハザルハ 偶々 一部ノ 學者ヲシテ 手術ハ 徒ニ 癢痕ヲ
大ナラシメ 米國渡航ノ 防碍トナリ 害アリテ 益ナキモノナリト
ノ 誤解ヲ 懷カシムルニ 至リタル 所以ナリ。

然シ乍ラ 翻テ考フレバ 手術ノ 爲ニ 起リタル 癢痕ハ 通常 表
在性ニシテ 之ガ 爲ニ 著シキ 障礙 例ヘバ 眼瞼内腫症 睫毛亂生

症ノ如キヲ起シタルコトハ予未ダ之ヲ知ラズ。之ニ反シテ
斯ノ如キ高度ノ癍痕萎縮ハ却テ早期ニ適當ノ治療ヲ施サズ
シテ自然ノ経過ニ委シタル場合ニ多シ。且ツ結膜ノ癍痕ハ米
國渡航ノ障礙トナラザルコト第十一章(51頁)ニ於テ見ルガ
如シ。

トラホーム療法トシテ予ガ一般ニ推奨セント欲スルハ先
ヅ危害少ナキ藥物的及物理的療法ヲ主トシ適當ノ時期ニ
適當ノ手術ヲ加ヘ用ウルコトナリ。スベテ同一ノ療法ヲ長時
日繼續スルトキハ漸次其ノ効果ヲ減少スルモノナルヲ以テ
時々之ヲ變換シ又藥物的物理的及手術的療法ヲ交互ニ用
ウル等種々工夫加減スルヲ可トス。

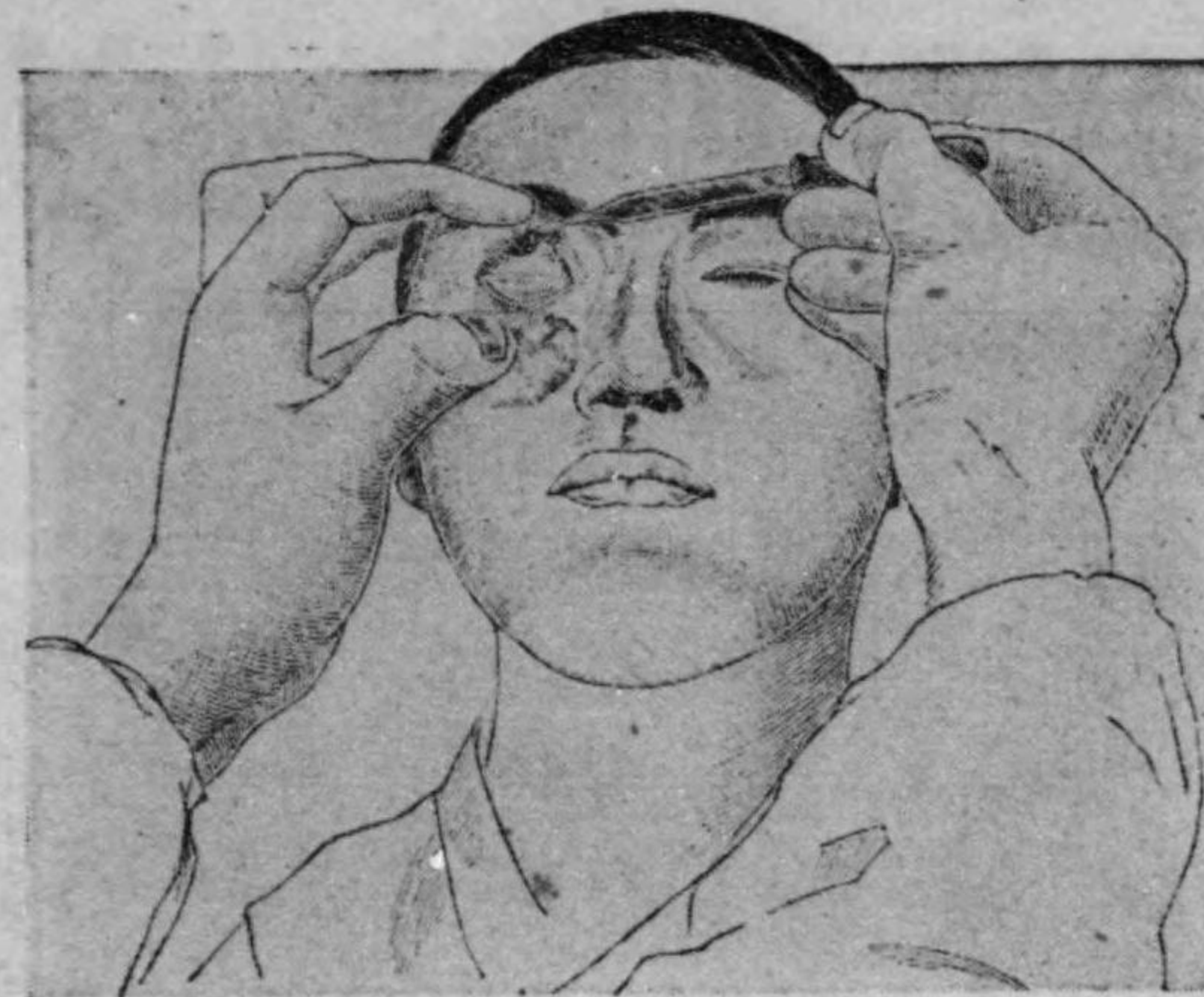
2. 藥物的療法

トラホームニ用ウル藥物ノ性狀効用處方例等ハ卷末附
録ニアリ。

藥液點眼ノ方法ハ先ヅ患者ヲ椅子ニ凭リテ顔面ヲ仰向カシメ左手ニ直徑
3-4種位ノ脱脂綿塊ヲ取り拇指ニテ其ノ綿塊ヲ患者ノ下眼瞼上ニ當テ示指ヲ
上眼瞼上ニ置キ拇指ニテ下眼瞼ヲ下方ニ牽引轉シ患者ニ命シテ上方ヲ眺メシ
メ或ハ眼ヲ閉テ角膜ヲ上眼瞼ノ下ニ入ル、如ク爲シ藥液ヲ下穹窿部ノ結膜
上ニ點滴ス。1-2滴。次テ拇指及示指ヲ弛メ瞼裂ヲ閉テシムレバ藥液ノ一部
ハ通常瞼裂外ニ溢レ出ヅ。之ヲ直チニ綿塊ニ吸ヒ取ラシム(第93圖)。

點眼ニ方リ右手ハ示指ト拇指トノ間ニ點眼管ヲ撮ミ小指ヲ患者ノ前額又ハ
額部ニ當テ、動搖ヲ防ギ點眼管ヲ角膜面ニ對シテ斜メニ保持シ徐ニ點滴ス。

點眼管ヲ角膜ニ直角ニスレバ誤リテ之ヲ傷クル虞アリ。又患者ヲ仰向クシメ
ザレバ點滴シ難シ、點滴ニ方リ點眼管ノ先端ニ藥液ノ懸滴ヲ作り之ヲ以テ結膜

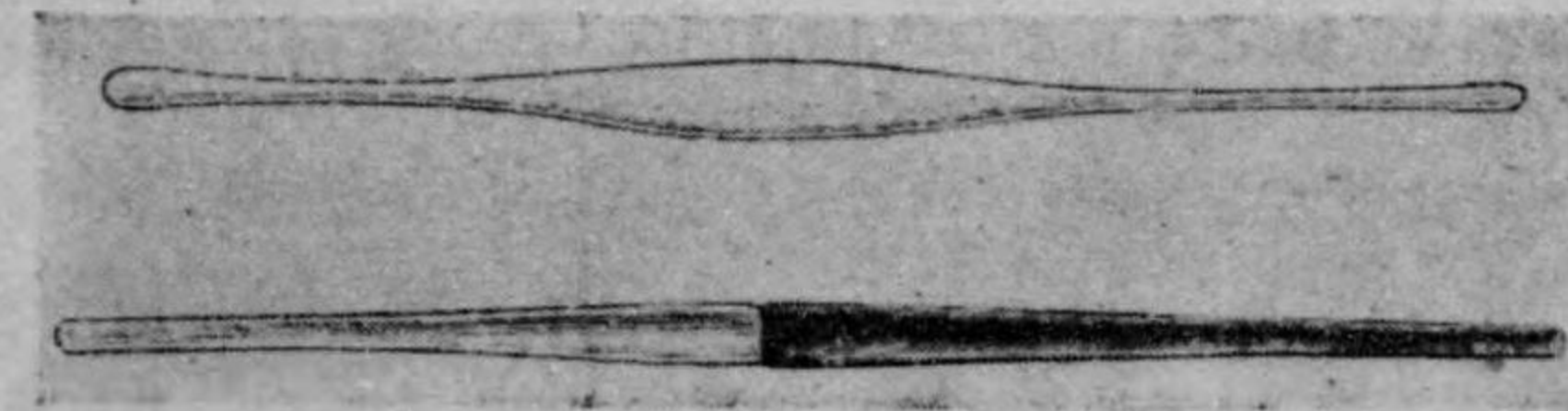


第93圖
藥液點眼ノ圖

面ニ觸ル、方法ハ汚物ヲ點眼管中ニ吸ヒ込ミ藥液ヲ汚染スル虞アルヲ以テ點眼
管ヲ結膜面ヨリ約1種以上離シテ點眼スベシ。

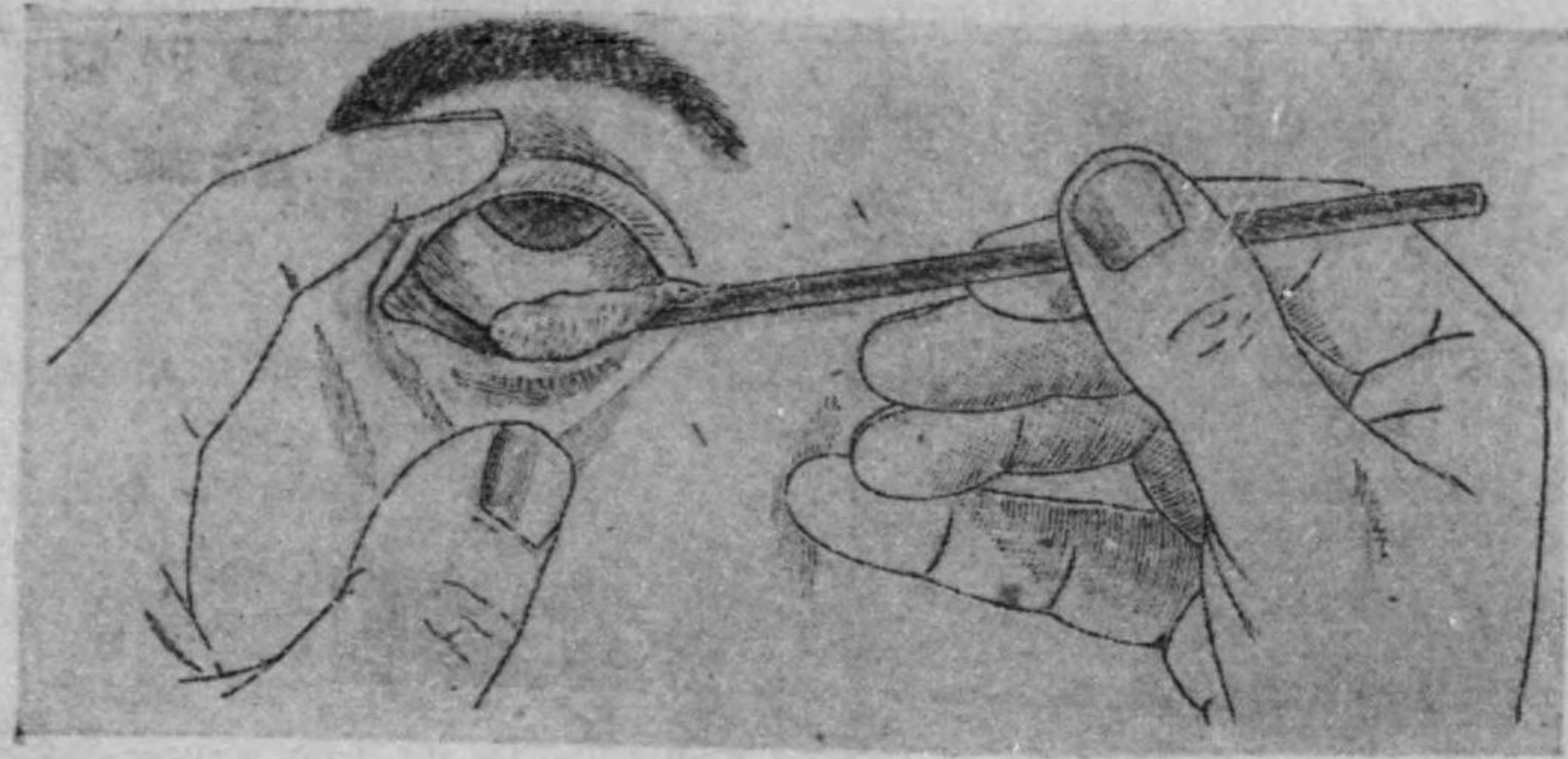
下穹窿部ニ點眼セラレタル藥液ハ毛細管作用ニ由リテ結膜
囊ノ全般ニ擴ガル。

點眼前ニ分泌物多クシテ結膜面ヲ被フトキハ豫メ3% 硼
酸水或ハ1% 食鹽水ニテ洗滌スベシ。然ラザレバ點眼シタ
ル藥液ガ結膜面ニ作用スルコト少ナシ。



第94圖
硝子棒

點眼藥 若シ軟膏劑ナラバ 硝子棒(第94圖)ヲ用キ 其ノ一端ニ藥液ノ1-2滴分量ノ軟膏ヲ附ケ 之ヲ藥液點眼ト同様ニシテ 下穹窿部ニ入レ(第95圖) 硝子棒ニテ少シク下穹窿部ヲ下方ニ壓スル如クシテ 其ノ儘左手ノ指ヲ弛メ 眼裂ヲ閉ゲタル後 硝子棒ヲ背側ノ方向ニ抜キ取ルベシ。



第95圖

軟膏點眼ノ圖

點眼藥ノ トラホームニ用キラル、主ナルモノハ 硝酸銀 硫酸銅 及 硫酸亞鉛ナリ。其ノ他 硝酸銀ノ代リニ 銀ノ他ノ製劑 例ヘバ プロタルゴール イトロール アルギロール 等ヲ用キ 硫酸銅ノ代リニ 銅ノ他ノ製劑 例ヘバ 枸橼酸銅 クシロール 等ヲ用キ 硫酸亞鉛ノ代リニ 明礬 醋酸鉛 等ヲ用ウルコトアリ。又 刺戟ノ目的ニ ジエキリチー Jequirity 豆ノ製劑 黃降汞軟膏 等ヲ用ウルコトアリ。

イ. 硝酸銀(附録LVII)

硝酸銀ハ 約200年前ヨリ 眼科ニ用キラレタレドモ グレーフエ Graefe 氏 以來 結膜炎治療上 必要 缺クベカラザルモノトナ

リタリ。

硝酸銀ハ 0.5% 以上ノ 濃度ニテハ 腐蝕藥トシテ 作用シ 其レ 以下ノ 濃度ニテハ 收斂作用ヲ 現ハス。適應症ハ 炎症 高度ニシテ 分泌 旺盛ナル時期ナリ。即チ 毎朝 起床時 分泌物ノ爲メ 臉縁ノ 膠着スル 程度ノ 炎症ニハ 最モ効アリ。普通ノ 慢性 トラホームニモ 用キテ 可ナリ。

硝酸銀ヲ 點眼スレバ 結膜面 腐蝕セラレテ 白色ノ 義膜ヲ 生ジ 少時ノ後 脱落シ 炎症 輕快ス。

結膜ニハ 通常 腐蝕藥トシテ 2.0% 1.0% 0.5% ノ三種 收斂藥トシテ 0.3% 0.2% 等ヲ用ウ。

硝酸銀ノ 性状 用法 等ニ就キテハ 附録 LVII ヲ 參照スベシ。而シテ 本品 使用上 注意スベキハ 光ヲ遮ルコト 不潔物ノ 混入ヲ 遮クルコト 器物 衣服 等ニ 附着セシメザルコト 使用後 食鹽水(1%)ニテ 洗滌スルコト 結膜銀病ヲ 起ス虞アルコト 等ナリ。



第96圖

五十嵐氏三角受水器

硝酸銀ヲ 使用スルニハ 豫メ 食鹽水ト 受水器(第96圖)トチ 用意シ 先ヅ 患者ヲ シテ 受水器ヲ 其ノ 頰部ニ 接着シテ 保持セシメ(第97圖) 上眼瞼ヲ 翻轉シ 通常 左手ノ 中指(或ハ 示指)ニテ 之ヲ 保持シ 次テ 示指(或ハ 拇指)ヲ以テ 下眼瞼ヲ 翻轉シ 若シ 角膜が見ユレバ 命シテ 眼ヲ 閉ゲサセテ 角膜ヲ 上眼瞼ノ 下ニ 隠シ 右手ヲ以テ 銀液ヲ 點眼 或ハ 塗布(第98圖)シ 後 食鹽水(1%)ニテ 充分ニ 洗滌ス。硝酸銀ヲ 塗布スルニハ 硝子棒ノ 先端ニ 脫脂綿ヲ 卷キ 之ヲ 銀液ニテ 濕ホシ 結膜面ニ 壓シ付クルナリ。或ハ(第99圖)ノ如ク 二本ノ 綿卷硝子棒ヲ 右手ニ 保持シ 一方ヲ 銀液 一方ヲ 食鹽水ニ 浸シ 之ヲ以



第 97 圖

硝酸銀點眼ノ圖

テ 順次ニ 結膜面ニ 塗布スルナリ。

腐蝕後ハ 通常 灼熱 疼痛 異物ノ感 等アルヲ以テ 直チニ 冷水ヲ以テ 冷ヤスベシ (物理的療法 罨法ノ條 參照)。コカインハ 成ルベク 用キザルガヨシ。腐蝕ノ度ハ 溶液ノ濃度ト 點眼或ハ 塗布ノ量ト 食鹽ニテ 洗滌スルマデノ 時間トニ 關係ス。而シテ 結膜ノ炎症 高度ナルホド 腐蝕ノ度ヲ 強クシ 炎症ノ 漸次 輕快スルニ 從ヒ 漸次 其ノ度ヲ 弱クシ 急性炎症去レバ 通常 他ノ藥物 例ヘバ 硫酸銅ニ 移ル。

腐蝕ハ 通常 1日1回 之ヲ行フ。其間 収斂藥 例ヘバ 硫酸亞



第 98 圖

硝酸銀塗布ノ圖

鉛水(0.2—0.5%) 硫酸銅水 0.1—0.4%) 等 及 罨法藥 例ヘバ 3%硼酸水 0.02%青酸々化汞水 又ハ 處方 19 ノ液 等ヲ 自宅 用トシテ 與ヘ 1日 3—5回 先ヅ 冷罨法 (20—30分間) ヲナシ 後 點眼モシム。分泌 多クレバ 尙 3%硼酸 ワゼリンノ如キ 軟膏ヲ 與ヘテ 就床前 險縁ニ 塗布セシメ 分泌物ノ 結膜内ニ 蓄溜スルヲ 防グヲ 可トス。

硝酸銀ハ 良藥ナレドモ 疼痛アルヲ以テ 已ムヲ得ザレバ 銀ノ 他ノ製劑 例ヘバ 5—20% プロタルゴール (附録 XXXVI) イ トロール末 (附録 I) 1—10% アルギロール (附録 XLVI) 等 ヲ 用ウルコトヲ 得レドモ 其ノ効力ハ 遙ニ 硝酸銀ニ 及バズ。



第 99 圖

硝酸銀及食鹽
水塗布ノ圖

ロ. 硫酸銅 (附録 XIII)

トラホーム治療薬トシテ 最も多ク 使用セラル、モノニシテ 慢性トラホームニ 結晶 溶液 或ハ 軟膏トシテ 用フ。結晶 及 濃厚溶液 (5—10%) ハ 腐蝕 及 刺戟作用アレドモ 稀釋液 (0.1—0.5%) ハ 收斂ノ効アリ。故ニ 通常 醫師ハ 結晶 及 濃厚液ヲ 使用シ (1日1回) 患者自宅用トシテ 稀釋液ヲ 與フ。

結晶ハ 小川氏硫酸銅桿ヲ 用ウルカ 又ハ 結晶ノ 比較的 大ナルヲ 削リ 温布ニテ 其ノ面ヲ 滑カニシ 要スレバ 硫酸銅挾(第100圖)ニ 挟ミ 之ニテ 結膜面ヲ 輕ク 1—2 回 擦過スルナリ。其ノ法ハ 下眼瞼ナラバ 之ヲ 翻轉シ 患者ニハ 眼ヲ 閉サセテ 角膜ヲ 隠シ 結晶ニテ 結膜面ヲ 横ニ 撫テレバヨシ。此ノ際 角膜面ニ 觸レザル如ク 注意スベシ。上眼瞼ハ 穹窿部ニ 結晶ヲ 挿入スルトキ 角膜ニ 觸ル、虞アルヲ以テ 若



第 100 圖

硫酸銅 挾

干ノ技術ヲ 要ス。即チ 先ヅ 上眼瞼ヲ 翻轉シ 下眼瞼皮膚ノ上ニ 結晶ヲ 置キ 下眼瞼ニテ 角膜ヲ 保護シツ、之ヲ 上穹窿部ニ 送り 同時ニ 上眼瞼ヲ 翻轉シタル 儘 少シク 下方ニ 壓シ下グレバヨシ (第101圖)。次テ 瞼結膜ヲ 撫テ 終ツテ 食鹽水 又ハ 硼酸水ニテ 洗滌ス。或ハ 洗滌ヲ 省略スルコトヲ 得。

硫酸銅結晶ハ 通常 硝酸銀ヨリモ 一層 疼痛アルヲ以テ 擦過後 冷水ヲ以テ 眼ヲ 冷ヤスヲ可トス (物理的療法 卷法ノ條参照)。



第 101 圖

硫酸銅桿使用ノ圖

疼痛ノ爲メ 結晶ヲ 用キ難キ場合 或ハ 炎症ノ 輕度ナル 場合

ニハ 硫酸銅ノ濃厚溶液 (處方 28 29) ヲ結膜面ニ點眼 或ハ塗布シ後洗滌スルヲ可トス。

尙ホ 自宅用トシテ 0.2—0.5% 硫酸亞鉛水 (處方 33 34) 0.1—0.4% 硫酸銅水 (處方 26 27) 0.5—2.0% クシロール水 (處方 63 64) 等ノ收斂藥及 罌法藥 (處方 14 19 111 等) ヲ與ヘ 硝酸銀ノ場合ト同様ニ使用セシム。

硫酸銅ノ適應症ハ 通常 長時日 持續スルヲ以テ 硝酸銀水 (0.5—1.0%) 結膜按摩法 等ト交互ニ之ヲ使用シ 結膜ヲシテ同一藥品ニ慣レシメザル如ク スルヲ可トス。

若シ 疼痛ノ爲メ 硫酸銅ヲ使用シ難ケレバ 銅ノ他ノ製劑例ヘバ 枸橼酸銅ノ如キ 刺戟少ナキモノヲ用ウルコトヲ得。

枸橼酸銅 (附録 XXXI) ハ 水ニ不溶ナルヲ以テ 5—10% ノ軟膏ト爲シ 1 日 2 回 硝子棒ニテ點眼ス 此ノ 枸橼酸銅軟膏ヲアルト Arlt 氏ハ 特ニ クプロチトロール Cuprocitrol ト命名セリ。

アルト氏ハ 更ニ 枸橼酸銅ヲ 可溶性ト爲シタルモノヲ製シ之ヲ クシロール Cusylol ト命名セリ (附録 XXXII)。近時 二種ノ 邦製品 出來タリ。一ヲ チクロールト云ヒ 一ヲ 可溶性枸橼酸銅ト云フ。0.5—2% ノ水溶液ト爲シ 1 日 2—3 回點眼セシム。刺戟少ナシ。

ハ. 硫酸亞鉛 (附録 XIV)

患者ノ 自宅用トシテ 最も多ク用キラル、所ノ 收斂藥ナリ。

通常 0.2—0.5% 水溶液 (處方 33—38) ヲ用ウ。炎症ノ 極メテ 輕度ナル場合 若クハ 硝酸銀 硫酸銅 等ヲ用キタル間ニ 時々點眼ス。又 重桿菌性結膜眼瞼炎ノ 特效藥ナリ (0.5—1.0% 1 日 5—6 回點眼)。

醋酸鉛 (附録 XLVII) モ良好ナル 收斂藥ナレドモ 角膜ニ 上皮ノ 損傷アル場合ニ 用クレバ 不滅ノ 白色斑ヲ 貽スヲ以テ 多ク用キラレズ。

明礬 (附録 L) ハ 結晶ヲ以テ 硫酸銅ト 同様ニ 結膜面ヲ 摩擦スルモノニシテ 刺戟 殆ンド 無ケレドモ 効果モ 著シカラズ。

ニ. 刺戟藥

慢性ノ疾患ハ 時トシテ 之ヲ 急性ニ 變セシムルコトニ依リテ 比較的 速ニ 治癒セシメ 得ルコトアリ。トラホームモ亦 之ヲ 強ク刺戟シテ 急性炎症ヲ 起サシメ 或ハ 之ヲ 弱ク刺戟シテ 充血ヲ 起サシメ 治癒ヲ 促進スルコトヲ得。然レドモ 此ノ方法ハ 一時 病症ヲ 増悪セシムルト 時トシテ 不快ナル 合併症 例ヘバ 角膜潰瘍ヲ 起スコトアルヲ以テ 注意スベシ。此ノ部ニ 屬スル藥品ニ ジエキリチ—豆ヨリ 製シタル ジエキリトール Jequiritol (Merck) 其ノ他 ヨ—ド酸 (附録 XXII) 黃降汞 (附録 XVII) 等アリ。

3. 物理的療法

物理的療法ノ 最も 普通ニ 用キラル、モノハ 洗眼 罌法 及 按摩ナリ。

イ. 洗 眼

洗眼ノ トラホーム治療上 有効ナルコトハ 前既ニ 之ヲ述ベタリ。醫師ノ行フ洗眼ハ 通常 點眼 或ハ 手術ノ 前後ニ於テス。

其ノ方法ハ 前ニ 硝酸銀ノ條下ニ 述ベタル如ク 患者ヲシテ 膝メ 受水器ヲ 其ノ

頬部ニ接着シテ保持セシメ(第97圖)患者若シ仰臥シアレバ助手チシテ受水器
チ顫動部ニ接着シテ保持セシメ上下眼瞼ヲ翻轉シ洗眼コルベン(第102圖)洗眼
ピベット(第103圖)又ハイルリガートルニテ結膜面ヲ洗滌スルナリ。



第102圖

洗眼コルベン

第103圖

洗眼ピベット

藥品ハ無刺激性ノモノハ生理的食鹽水(處方106)リンゲル氏
液(處方107)2—3%硼酸水(處方14)1%硼砂重曹水(處方19)
等ニシテ消毒藥ハ5000倍昇汞水(處方102 103)3000—5000倍
青酸々化汞水(處方111)10000倍過マンガン酸カリウム水(處方60
61)等ナリ。

洗眼藥ノ温度ハ成ルベク體温ニ近キヲ可トス。之ガ爲メ
冬季ハ殊ニ保温裝置(第90及91圖)ヲ必要トス。

洗眼ニ方リ注意スベキハ藥液ヲ角膜ニ注ガカケザルコトナ
リ。之ガ爲メ患者ニハ眼瞼ヲ翻轉シタル後要スレバ眼ヲ堅ク
閉ヂサスベシ。角膜ヲ洗滌スレバ時トシテ潰瘍ヲ生ズルコト
アリ。

患者自カラ洗眼ヲ行フニハ清水或ハ藥液ヲ茶碗又ハ洗面器ノ如キモノニ
容レ顔ヲ其ノ上ニ出レガーセ(一尺四方位ノモノ)或ハ脱脂綿塊ニ液ヲ成ルベ
ク多量ニ含マシメ眼ニ當テ、反復洗フナリ。コノ際眼ハ閉テ或ハ僅カニ開テ
藥液ハ眼ノ中ニ入ラザルモヨシ。成ルベク瞼縁ヲ摩擦セザル如ク注意ス。一回
使用シタル藥液ハ再ビ使用スベカラズ。少量ノ不潔ナル藥液ヲ以テ洗眼スルヨ

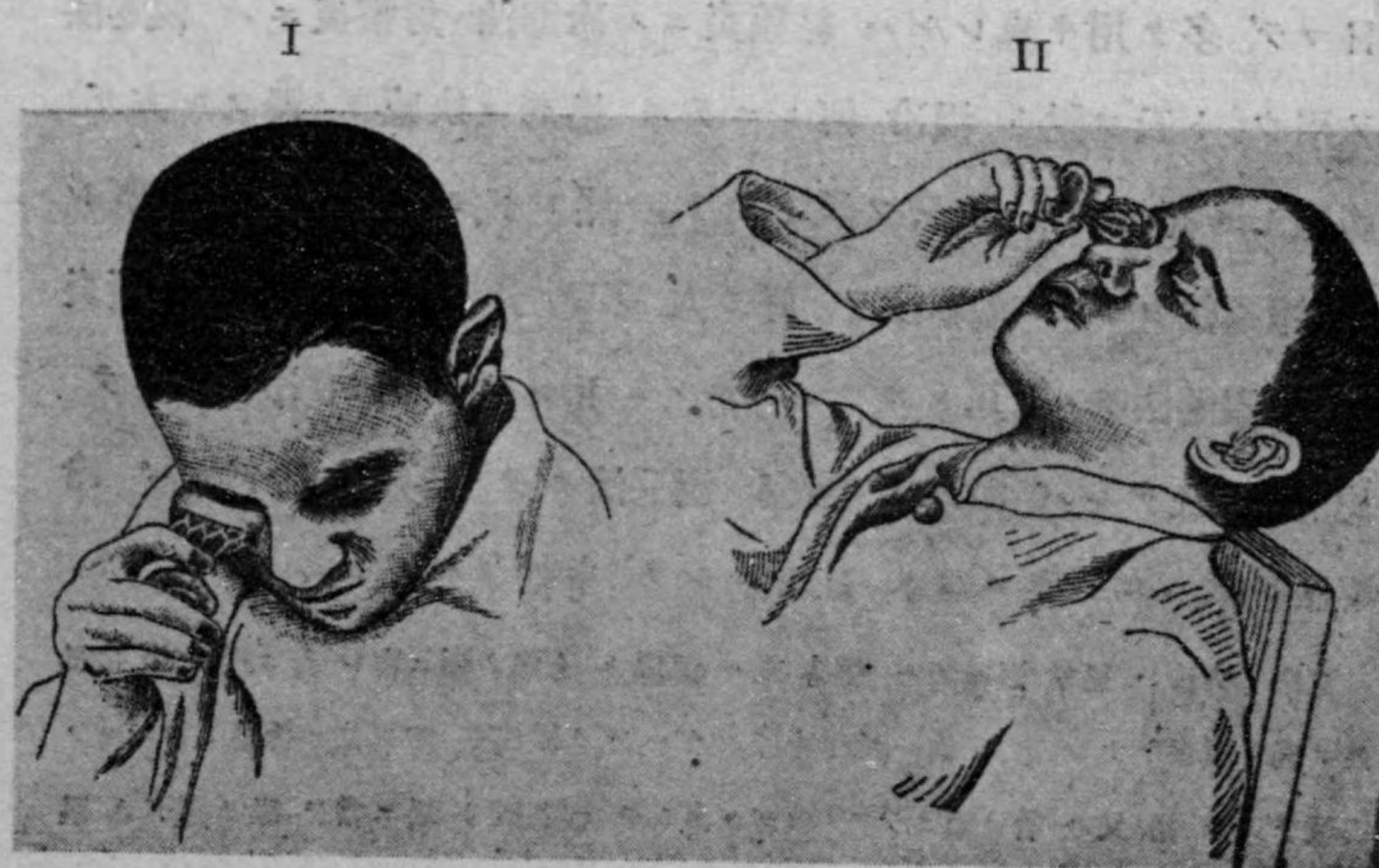


第104圖

眼浴コップ

第105圖

眼浴コップ使用ノ圖



リモ 寧ろ 多量ノ 清潔ナル 水ヲ用ウルヲ 可トス。或ハ 眼浴コップ(第104圖)ヲ用ヒ (第105圖)ノ如クシテ 眼浴ヲ行フモ可ナリ。

ロ. 電 法

之ニ 熱電法(約50.) 温電法(約40.) 冷電法(約10.) 水電法 等ヲ 區別ス。コノ中 トラホームニ用ウルハ 主トシテ 温電法 及 冷電法ナリ。

温電法ハ 血行ヲ 盛ナラシメ 病的産物ノ 吸收ヲ促シ 組織ノ 再生ヲ 速カナラシム。

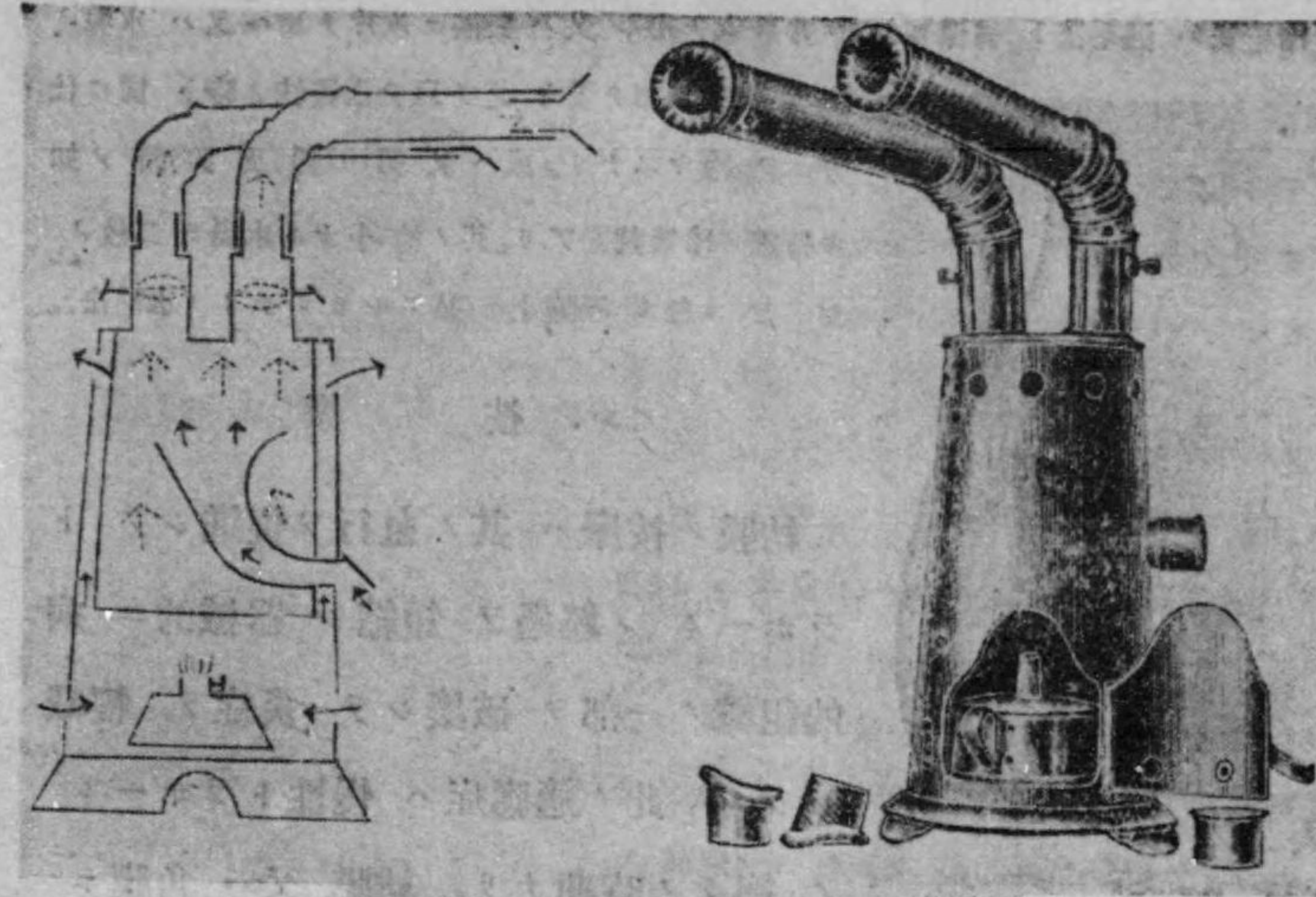
冷電法ハ 貧血ヲ起シ 血行ヲ 緩和ナラシメ 炎症ヲ 制限ス。 又 血管ヲ 麻痺セシメ 鬱血ヲ 起スコトアリ。

温電法モ 冷電法モ 共ニ 疼痛ヲ 緩解スルノ 効アリ。而シテ 其ノ 適應症ニツキテハ 相反セル 種々ノ 説アリテ 一定セズ。今日マデ 多ク用キ來レルハ 結膜炎ニハ 冷電法 角膜炎ニハ 温電法ヲ用ウト云フ説ト 温冷 何レニテモ 患者ニ 快感ヲ 與フル方ガ 適應セル 證據ナリト云フ説トナリ。然レドモ 今日ニテハ 概シテ 冷電法ヨリモ 温電法ヲ 好ム人 多ク 角膜炎ハ 勿論 結膜炎ニモ 温電法ヲ 賞用スルモノ アルニ至レリ。但シ 冷電法ニテ 患者 不快ナレバ 温電法ヲ 試ミ 温電法ニテ 疼痛去ラザレバ 冷電法ヲ 試ムルコトニヨリ 往々ニシテ 卓効ヲ見ルコトアリ。

電法ノ方法ハ 通常 温電法ハ 藥品 或ハ 温湯ヲ 土鍋ノ類ニ容レ 火ニ掛ケ 概テ 風呂ノ湯ノ温度トナシ 之ニ 約一尺四方許ノ ガーゼヲ 縦横共 四ツ位ニ 折疊ミタルモノ 二枚ヲ入レ 指 又ハ 箸ノ類ニテ 一枚ヅク 出シテ 輕ク 絞リ 眼ニ當テ 眼ヲ閉ガテ 眼瞼ノ上ヨリ 之ヲ 温タメ $\frac{1}{2}$ —2分 時ニシテ 他ノモノト 交換シ 交互ニ 眼ニ當テ 15—30分

第106圖

山田氏熱氣電法器



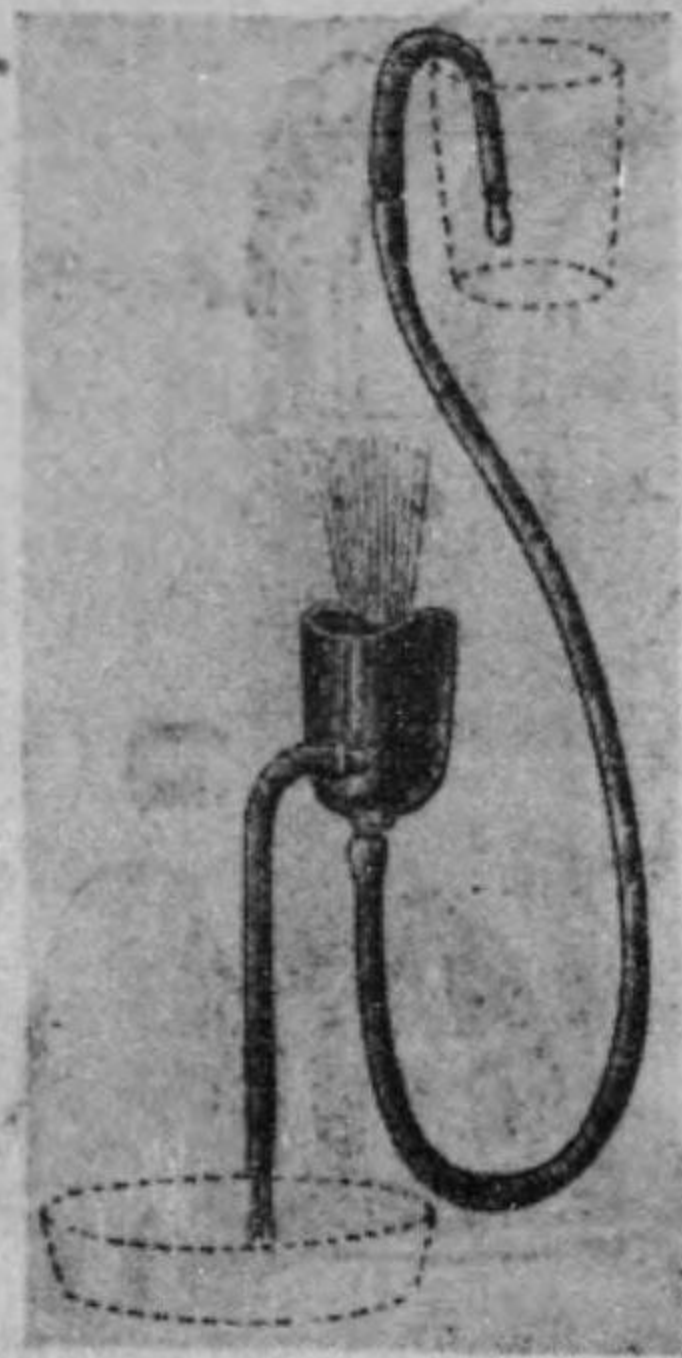
第107圖

小川氏冷眼器



間ツ、1日3—4回行フ。又第106圖ノ如キ特殊ノ温眼装置アリ。其ノ他 懐爐ヲ以テ温ムルモ可ナリ。

冷電法ハ 温電法ト 同様ニシテ 井戸水ヲ用キ 又ハ 藥液ニ氷片ヲ加ヘ 又ハ 氷塊ノ上ニ 交互ニ布ヲ置キ 之ヲ以テ温電法ノ時ト 同シ仕方ニテ 冷ヤスナリ。或ハ 又 第107圖 及 108圖 ノ如キ特殊ノ冷眼装置アリ。其ノ他 小ナル氷囊ヲ二枚ノガーゼニ包ミ 眼脛上ニ 貼スルモ可ナリ (氷電法)。



第108圖
ウキンドレル型
冷眼器

ハ. 按 摩
結膜ノ按摩ハ 其ノ血行ヲ促進シテ ト
ラホーム ノ経過ヲ 短縮シ 器械的ニ 病
的組織ノ一部ヲ 破壊シテ 炎症ヲ 輕減
セシム。此ノ適應症ハ 慢性トラホーム
ノ 總テノ時期ナリ。結膜 又ハ 角膜ニ
急性炎症アル 場合ニハ 之ヲ 避クルヲ
可トス。

結膜按摩ノ方法ハ 硝子棒ヲ以テスル方法ト カイニング氏綿球
摩擦法ト トラホーム鉏子ヲ以テスル方法トアリ。又燈心草ヲ



第109圖
結膜按摩用硝子棒

以テ 結膜面ヲ 摩擦スルコトハ 我國ニ於テ 古ク 行ハレタル方
法ナリ。

硝子棒按摩法ハ 第109圖ノ如キ 硝子棒ノ一端ヲ 醫師 若クハ 患者自カラ 上穹窿部
ニ 挿入シ(第110圖) 成ルベク 角膜ヲ 壓迫 セザル如ク 注意シ 硝子棒ノ 先端ヲ 少

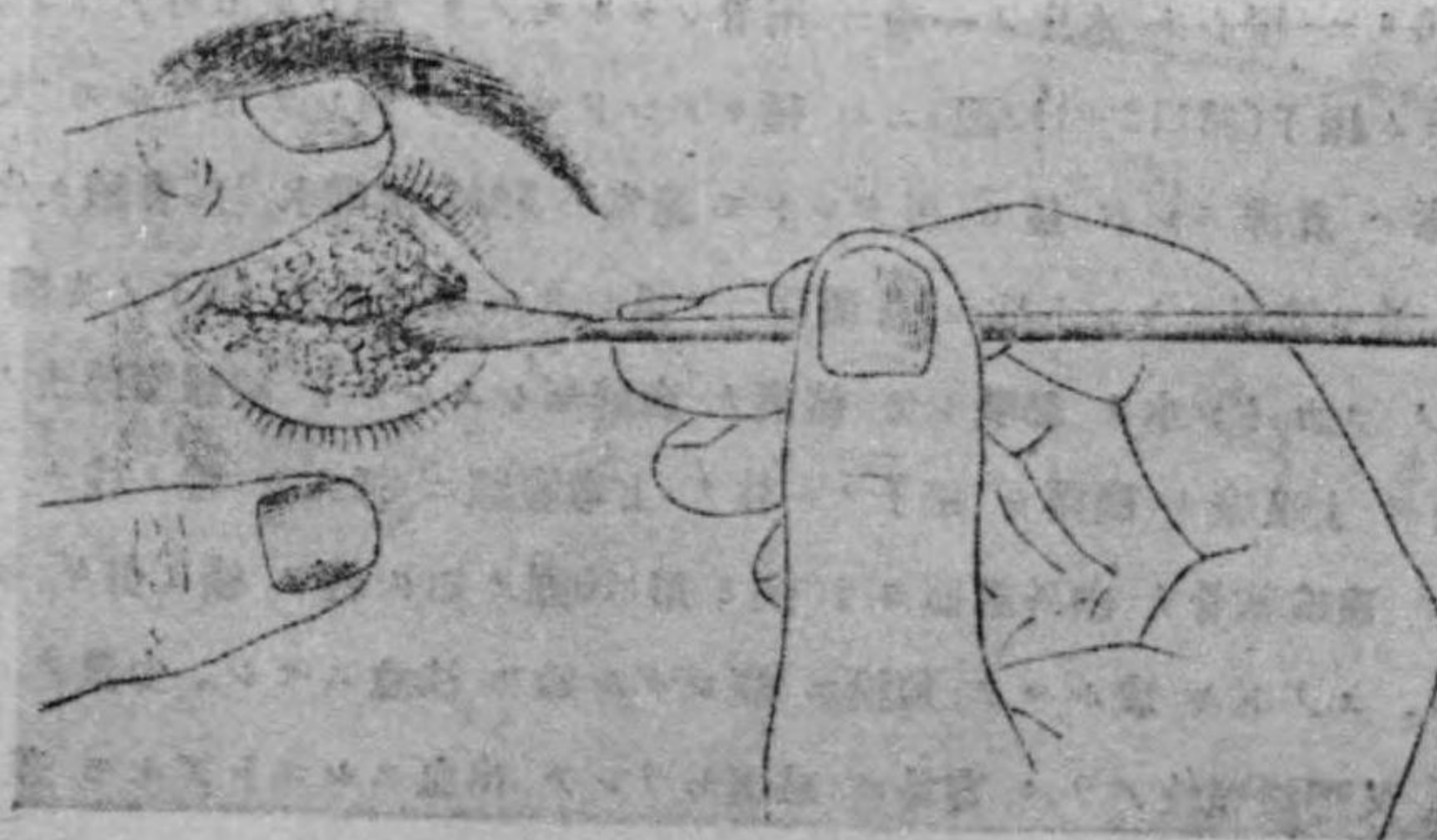


第110圖
硝子棒按摩法

シク 前方ニ 引キツ、左右ニ 反復 運動セシメ
以テ 結膜面ヲ 按摩ス。次テ 下穹窿部ヲ 摩擦
ス。疼痛ナキヲ以テ 麻醉藥ヲ 要セズ。一日 2
—3 回 反復スルコトヲ得。此ノ方法ハ 組織ヲ
傷クルコト 少ナク 患者ニ 快感ヲ與フレドモ
治療ノ効果ハ 他ノ按摩法ニ 及バズ。

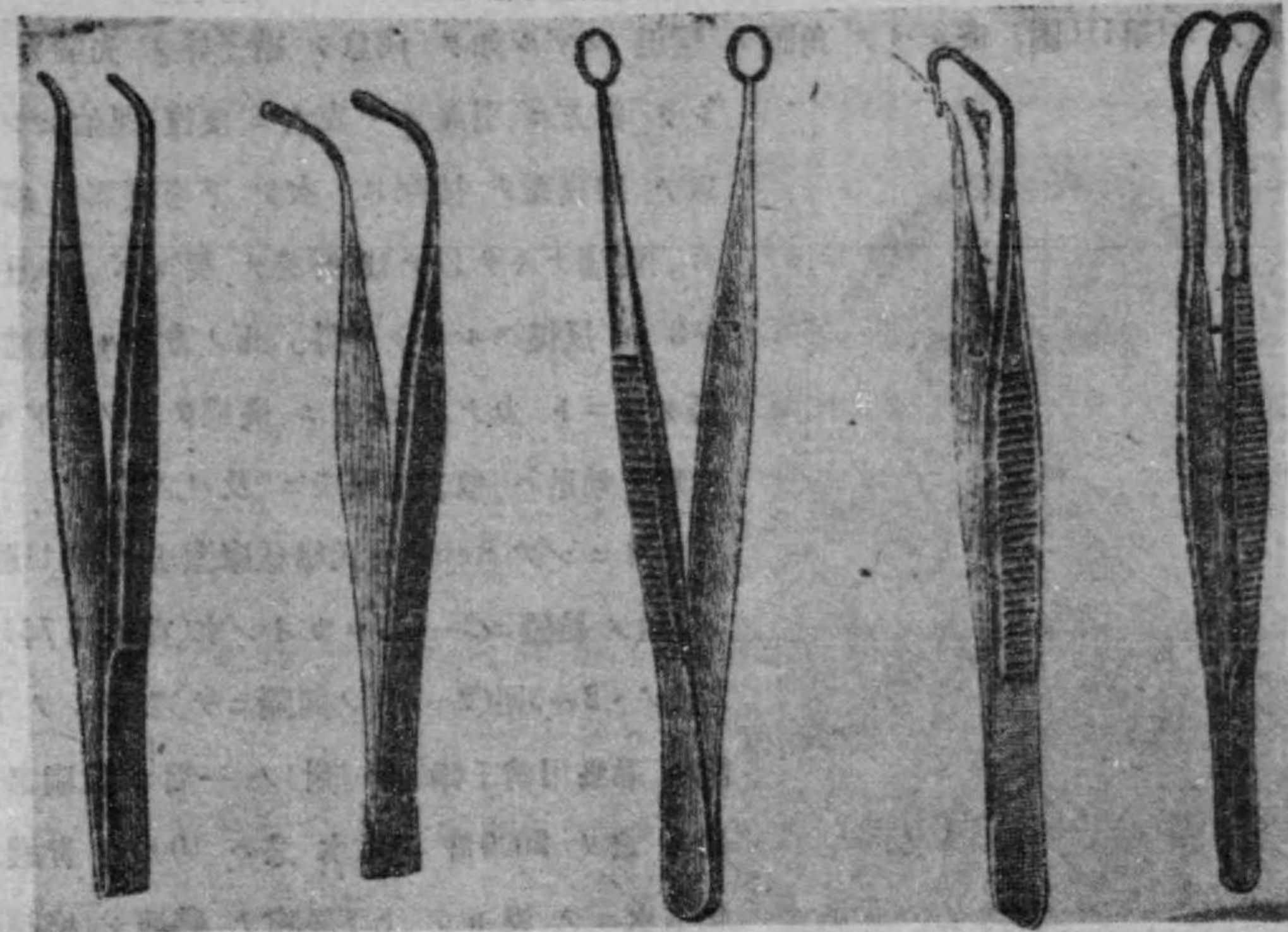
カイニング Keining 氏綿球摩擦法(第111圖)
ハ 豫メ 結膜ニ 2—4% コカイン水(處方7374)ヲ
2滴ツ、2—3回(2—3分ノ間隔ニテ)點眼シテ 麻
醉シ 點眼用硝子棒(第94圖)ノ 一端ニ 脫脂綿ヲ
卷キ 之ヲ 2000倍 昇汞水 又ハ 1000倍 青酸々
化汞水ニテ 濕ホシ 上下眼脛ヲ 翻轉シ 結膜面
ヲ 摩擦シテ 僅カニ 出血スルニ 至ラシム。

施術ノ前後ニ 5000倍 昇汞水 又ハ 3000倍 青
酸々化汞水ニテ 洗眼スレバ 一層 可ナリ。
術後 冷電法ヲ 行ハシム。創面ノ全ク治癒スルマテハ 次回ノ摩擦ヲ 行フベカラズ。



第111圖

カイニング氏綿球摩擦法



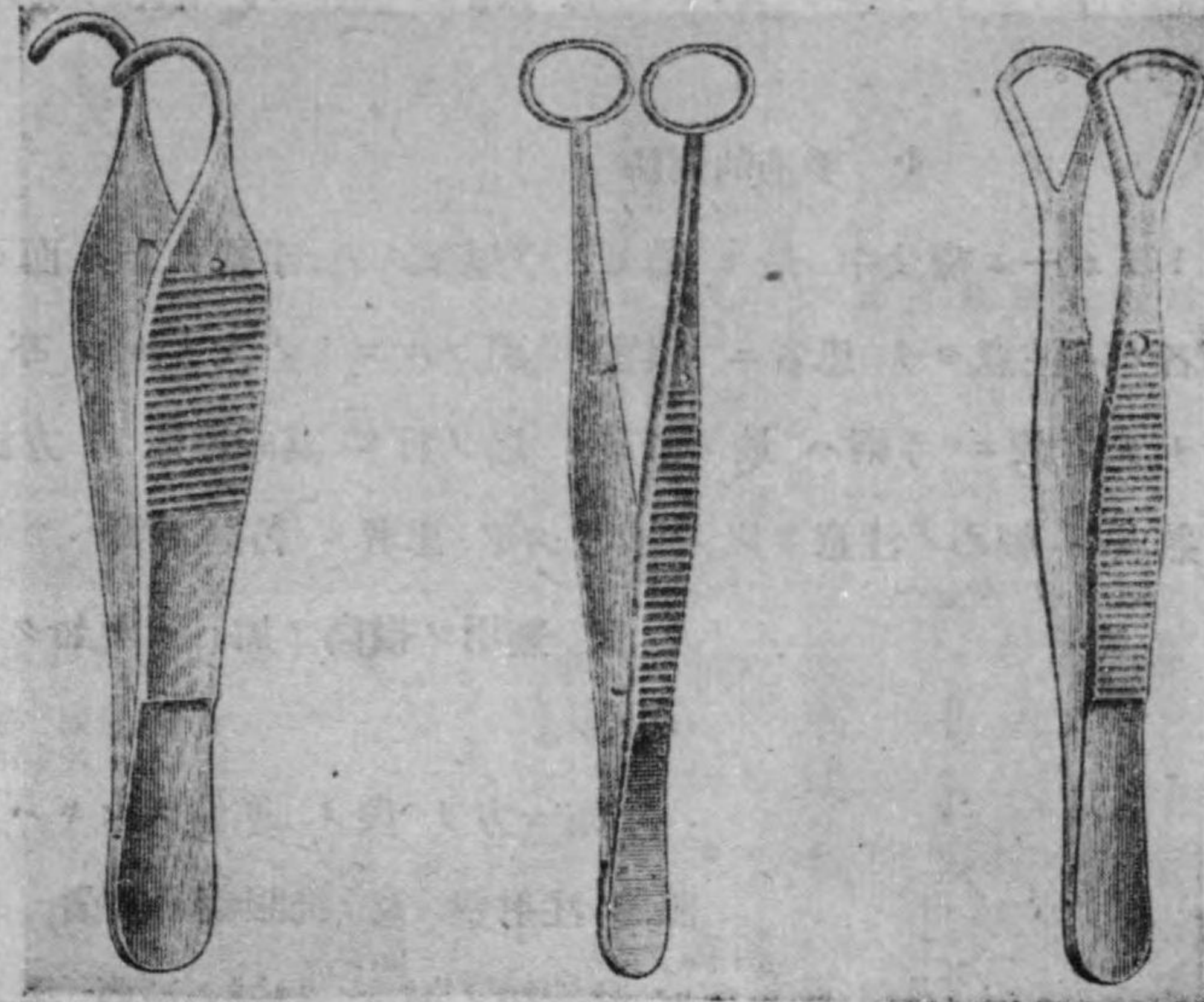
第112圖 第113圖 第114圖 第115圖 第116圖

通常 隔日一回 行フコトヲ得。

綿球ノ代リニ 燈心ヲ 木片ノ一端ニ 附着シタルモノヲ 用ウルモ可ナラン。

トラホーム 鑷子(第112-119圖)ニハ 種々アレドモ 其ノ何レヲ用ウルモ 大差ナシ。
 鑷子ノ消毒ハ 煮沸スレバ 最モ 可ナレドモ 通常ハ 5%石炭酸水 1%青酸々化汞水 等
 ニ浸漬ス。最モ簡單ニセメント欲セバ 酒精ニテ濕シタル 綿球ニテ 鑷子ノ先端ヲ 拭フ
 ベシ。豫メ コカイン水ヲ 點眼シテ 結膜ヲ 麻醉セシムルコト 綿球摩擦法ノ時ト 同
 様ニシ 先ヅ 上眼瞼ヲ 翻轉シ 鑷子ノ一技ヲ 上穹窿部ニ 挿入シ 他ノ枝ヲ 上瞼結膜
 上ニ置キテ 眼瞼軟骨ヲ 内外兩面ヨリ 挾ミ 第120圖ノ如ク 輕ク 横ニ引キ 反復 十數
 回 按摩ス。コノトキ 成ルベク 角膜ニ 觸レザル如ク 注意スベシ。少量ノ 出血アル
 モ 妨ナシ。又 膠様顆粒アラバ 容易ニ 破壊セラレテ 出血スルコトアルモ 差支ナシ。

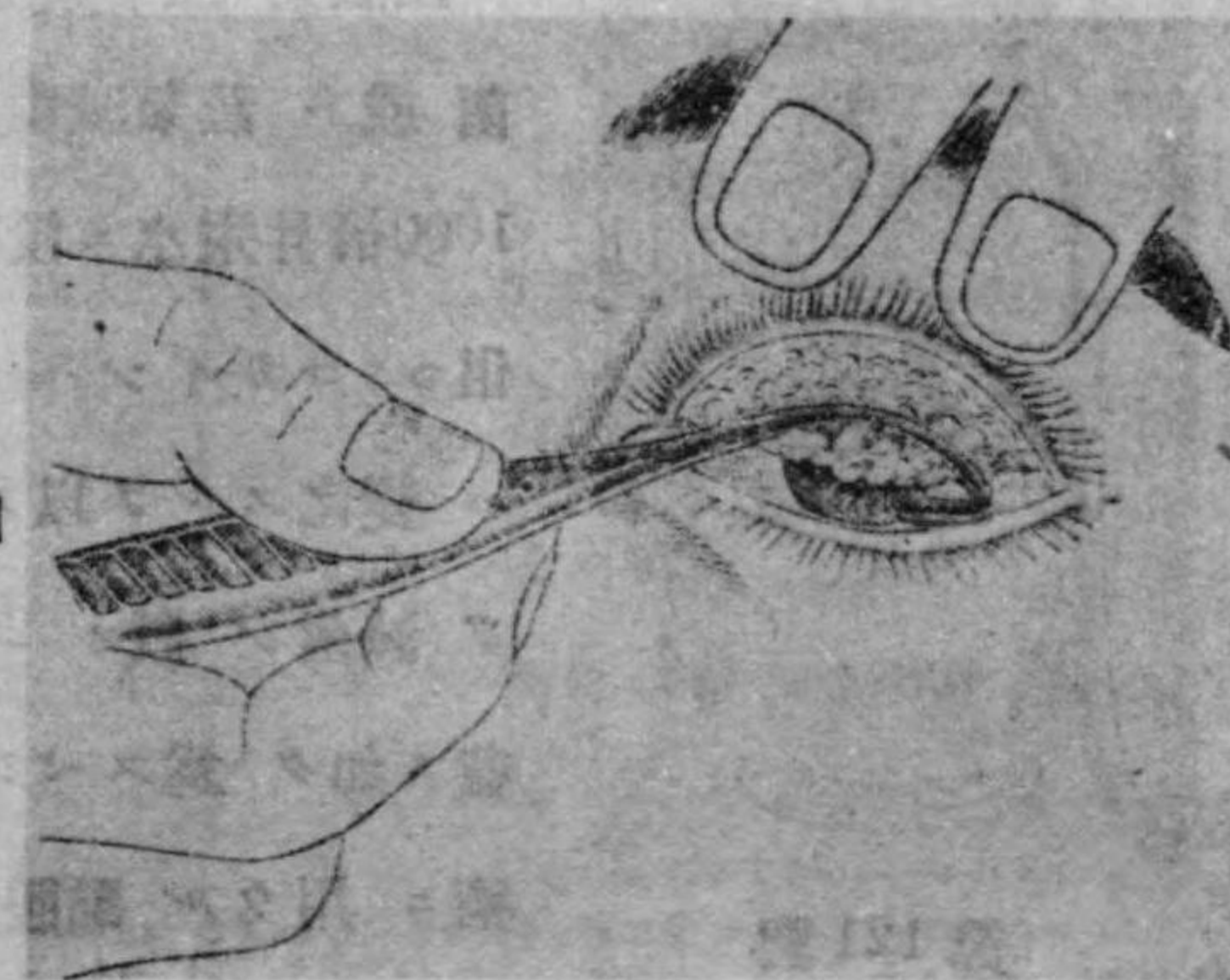
下眼瞼ハ 場合ニヨリ 鑷子ノ一技ヲ 皮膚ニ置キ 他枝ヲ 結膜面ニ當テ、眼瞼ヲ 内
 外兩面ヨリ 挾ミ 按摩スルモ 可ナリ。通常 隔日 一回 行フコトヲ得。其ノ他 綿球



第117圖 第118圖 第119圖

第120圖

横松氏トラホーム
鑷子ヲ以テ結膜按摩ノ圖



摩擦法ノ條下ニ述ベタルト同シ。コノ際患者ニハ成ルベク仰臥位ヲ取ラシムルヲ可トス。

4. 手術的療法

トラホーム療法中 最モ 効果ノ卓越セルハ 手術ナリ。而シテ 術者ノ不注意ヨリ 患者ニ 損害ヲ 與フルコトノ大ナルモ 亦 手術ナリ。故ニ 手術ハ 最モ 慎重ニ 之ヲ行ヒ 其適應症ト 方法ト ヲ熟慮シ 細心ノ注意ヲ以テ 成ルベク 患者ニ 苦痛ヲ與ヘザル如ク 又 無用ノ損傷ヲ加ヘザル如ク 爲スベシ。

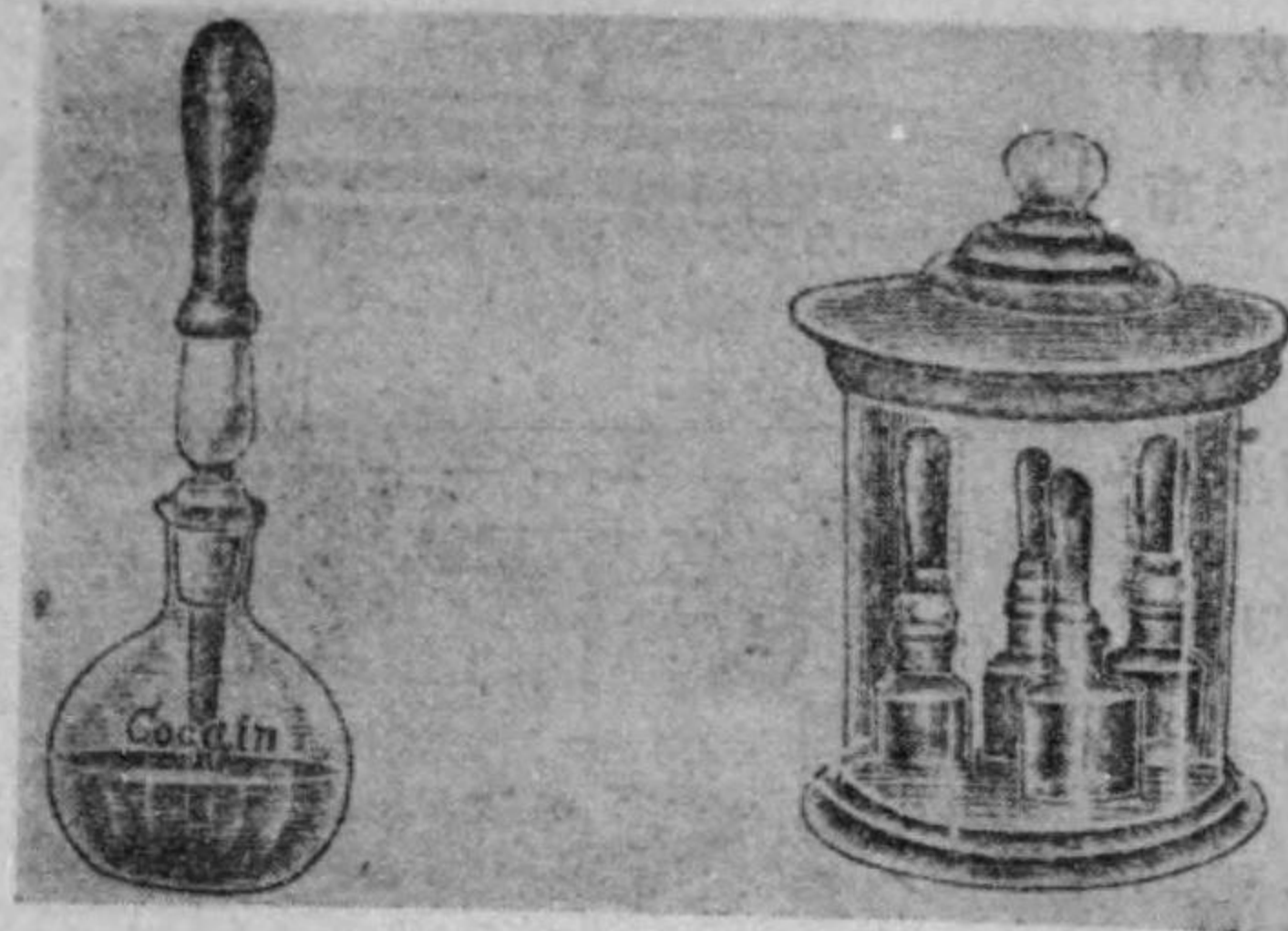


第121圖 點眼藥滅菌ノ圖

又 無用ノ損傷ヲ加ヘザル如ク 爲スベシ。

手術ニ方リ 豫メ 準備スベキハ 點眼藥 注射藥 及 洗眼藥ノ滅菌 ガーゼ 拭綿類ノ滅菌 器械ノ滅菌 術者ノ手ノ消毒 手術局部ノ消毒 等ナリ。

點眼藥 注射藥 及 洗眼藥ハ 煮沸滅菌 或ハ 蒸氣滅菌ヲ行フ。ゴム帽ハ 1000倍昇汞水ニ浸漬ス(第121—123圖) 但シ コカインハ 反復 煮沸スルトキハ 變化スルヲ以テ 成ルベク 少量ヅツ 滅菌シ 概ネ 2 週間以内ニ 使用シ 盡ス如ク 爲スベシ。又 トラホーム手術ニ 用ウル 點眼藥ハ 煮沸ノ代リニ 消毒藥ヲ加ヘ製スルモ可ナリ (處方73)。

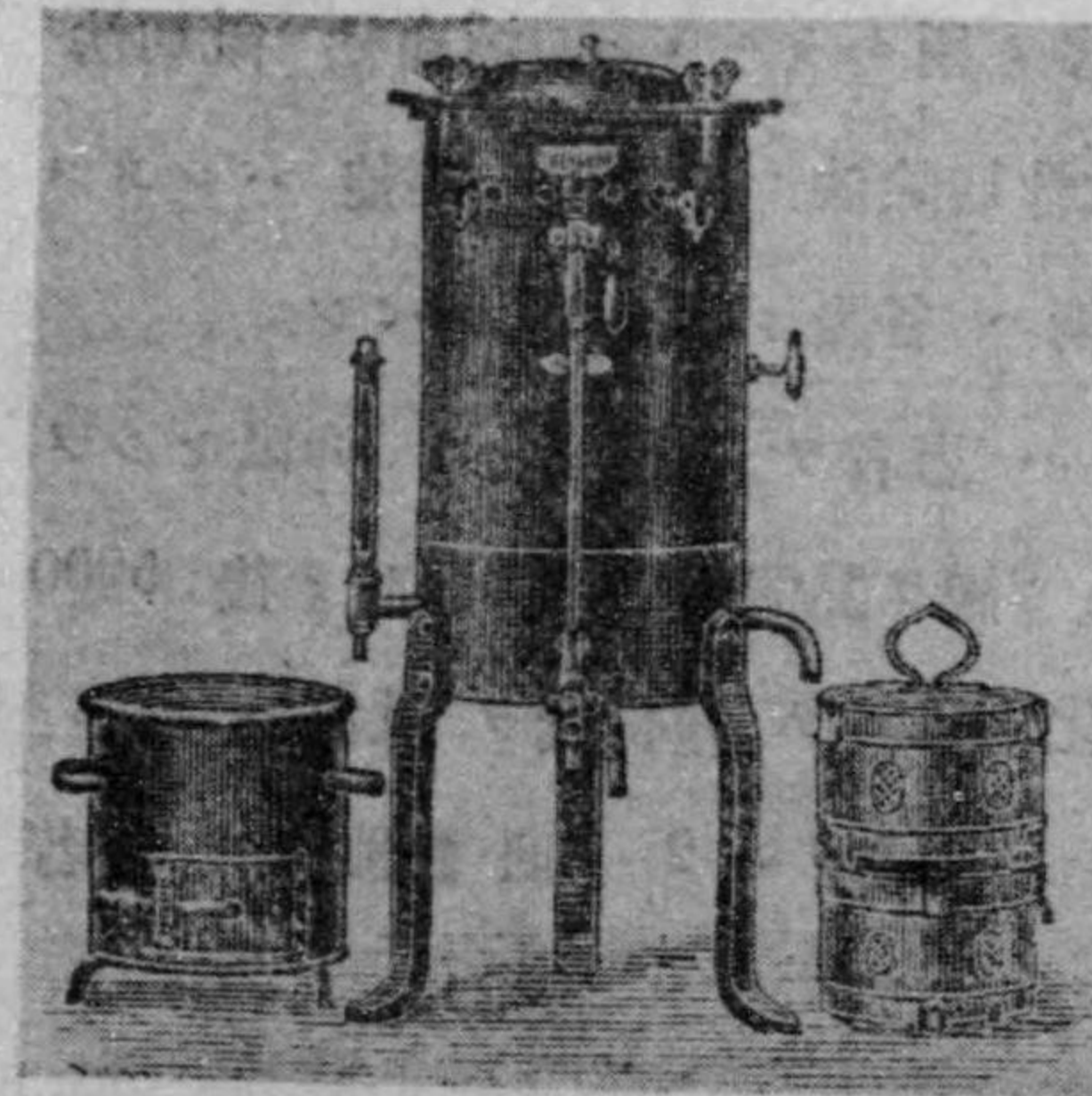


第122圖

點眼藥ノ滅菌ヲ了リ
ゴム帽ヲ裝シタル圖

第123圖

滅菌點眼瓶容器



第124圖

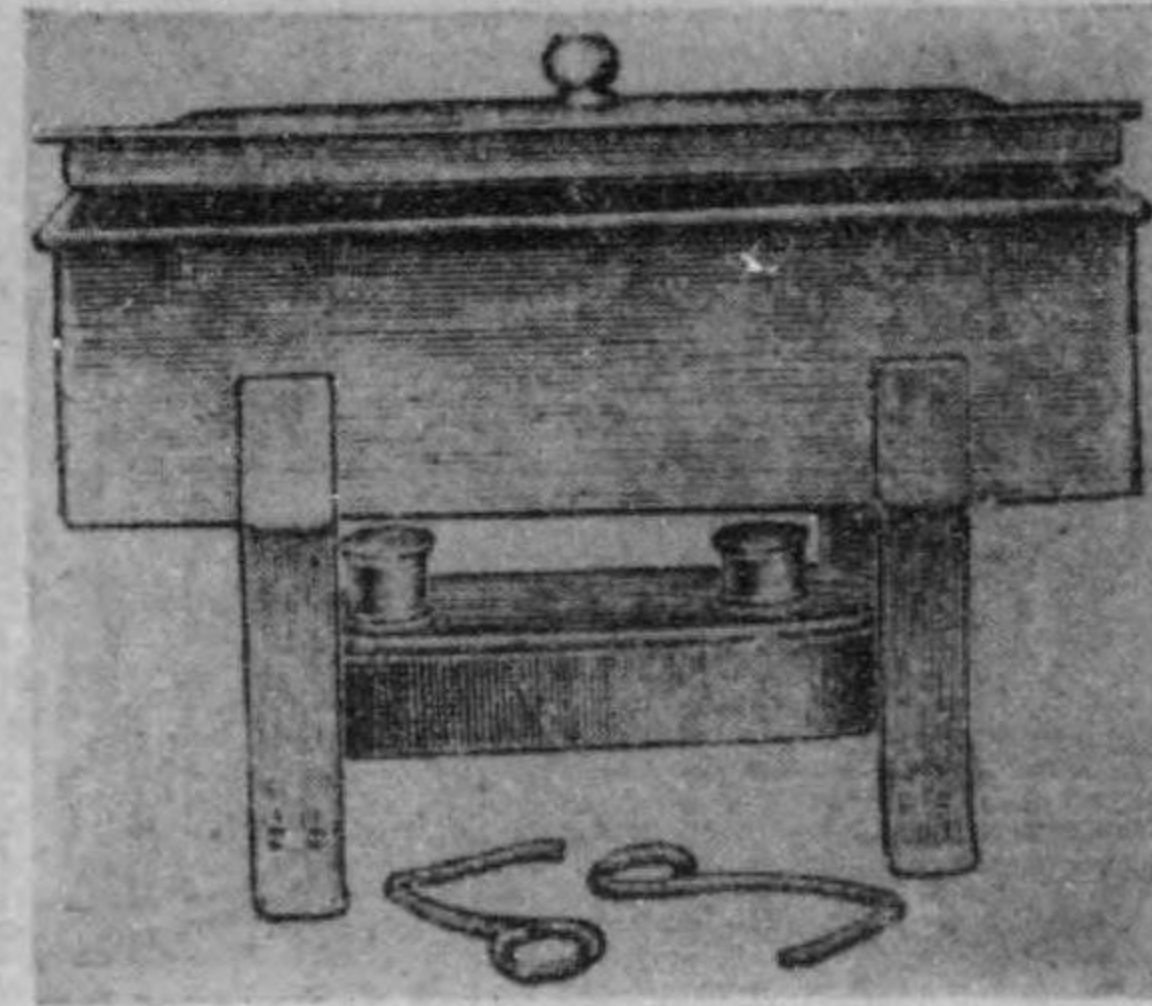
蒸氣滅菌器(炭火用)

ガーゼ 及 拭綿ノ類ハ 蒸氣滅菌ス (第124圖)。但シ 拭綿ハ 1000倍青酸々化汞液ニ浸シ 絞リタルモノヲ 代用スルコトヲ得。

器械ハ 煮沸滅菌ス (第125圖)、但シ 場合ニヨリ 5% 石炭酸水 或ハ 1% 青酸々化汞水ニ 浸漬シテ 煮沸ニ 代用スルコトヲ得。注射器

ハ 酒精ニ浸漬スルヲ 可トス。注射針ハ 酒精中ニ 1%ノ割合ニ 苛性曹達ヲ加ヘタルモノニ 浸シ置ケバ 發錆ヲ 防ギ得ベシ。縫合絲ハ 一旦 煮沸シ 1000倍ノ昇汞水中ニ 貯フ。

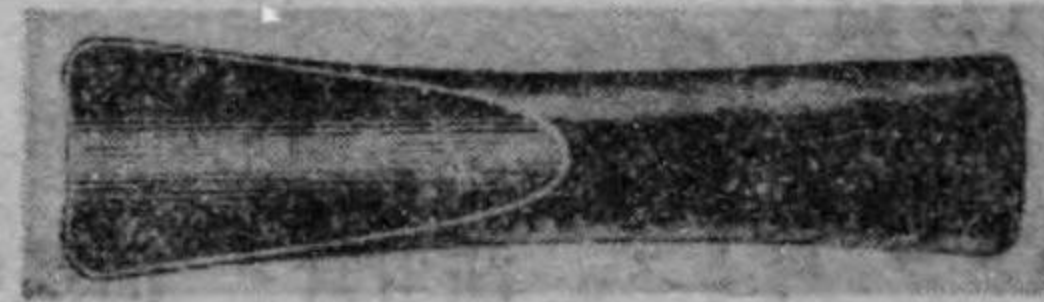
手術局部ノ消毒ハ皮膚ナラバ5%沃度丁幾ヲ塗布シ。後酒精ニテ拭ヒ取ルベシ。但シコノ際藥液ノ結膜囊内ニ入ラザル如ク注意ヲ要ス。又結膜ナラバ5000倍昇汞水或ハ3000倍青酸々化汞水ニテ洗滌ス。



第125圖
輕便煮沸滅菌器

トラホームノ手術中最モ多ク用キラルハ瀉血法亂切法搔爬法燒灼法顆粒壓碎法軟骨切除法等トス。其他バンヌス及續發症ニ對スル特種ノ手術ハ各論ニ於テ述ブベシ。

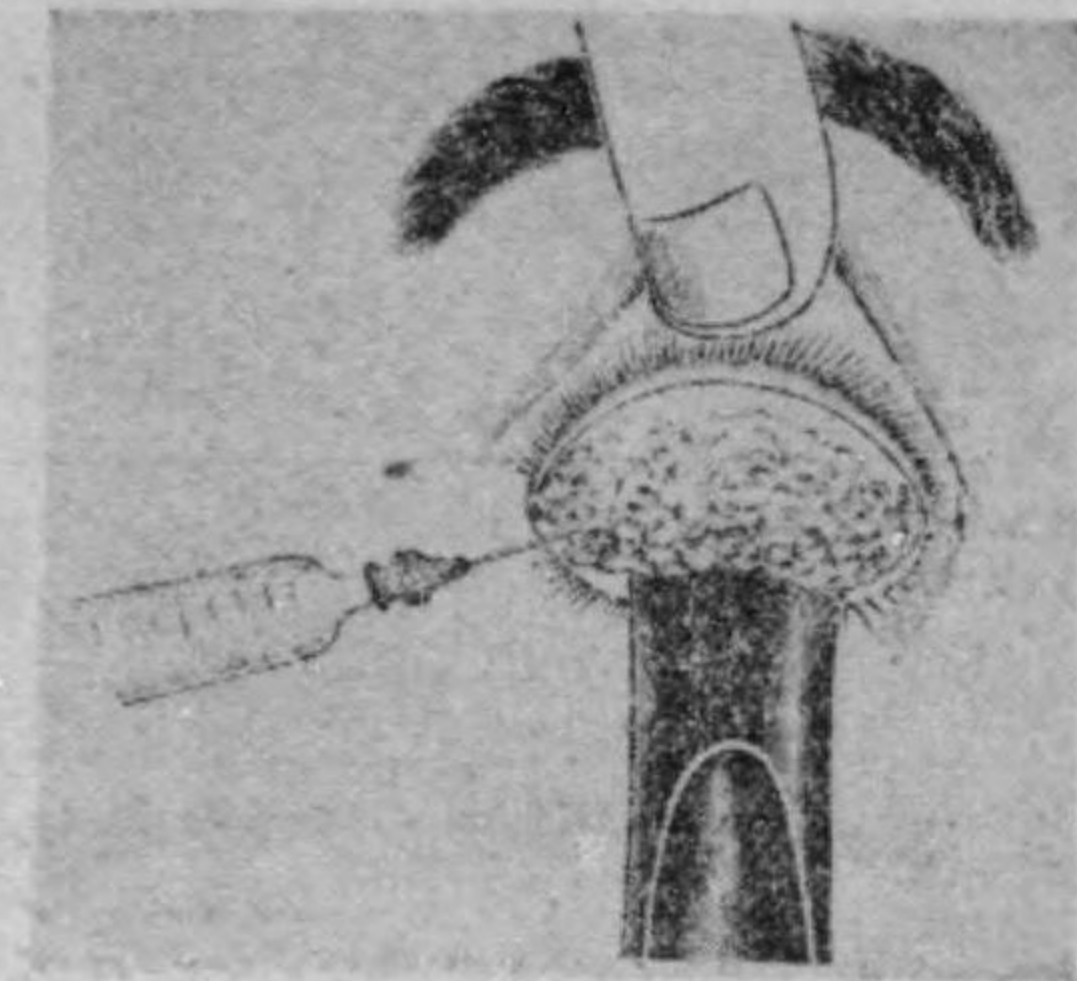
手術ノ準備ヲ了リタルトキハ患者ヲ手術臺上ニ仰臥セシメ2-4%コカイン水(處方7377)2滴ヲ點眼シ2-3分間ノ後5000倍昇汞水或ハ3000倍青酸々化汞水ニテ結膜囊ヲ洗滌シ更ニコカイン水ヲ2-3分ノ間隔ニテ2滴ヅ、2-3回點眼スルカ若クハ眼瞼ヲ翻轉シ



第126圖
角板

ヲ穹窿部ニ挿入シテ角膜ヲ保護シ0.5-1.0%コカイン水(處方7678)或ハ1-2%ノウオカイン水(處方56)約1筒ヲ穹窿部ノ

結膜下ニ注射シ(第127圖)瀉血法ハトラホーム刷子(第128129圖)又ハトラホーム針(第130131圖)ニテ結膜面ヲ宛モ入墨ノ時ノ要領ニテ廣ク且ツ淺ク數十回亂刺シ出血セシメ亂切法ハ亂切刀(第132圖)ヲ以テ結膜ヲ瞼縁ニ平行ノ向



第127圖
結膜局所麻醉ノ圖

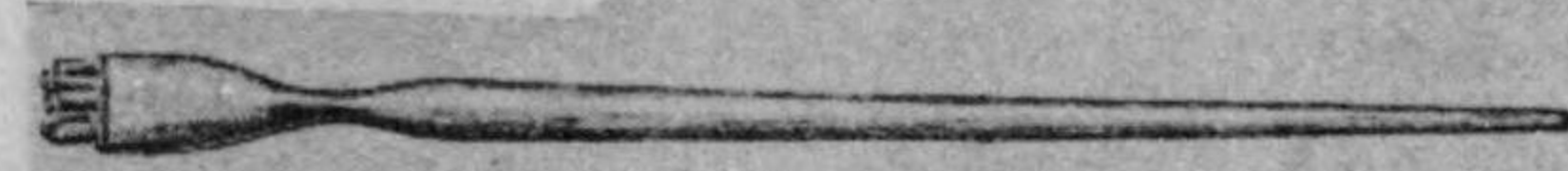
第128圖

トラホーム刷子



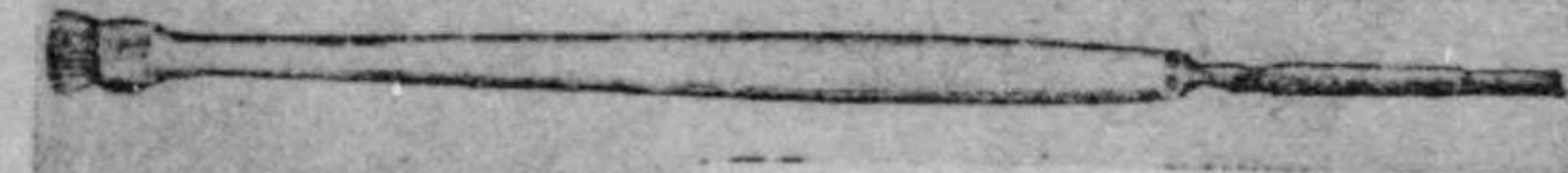
第129圖

河本氏
トラホーム刷子



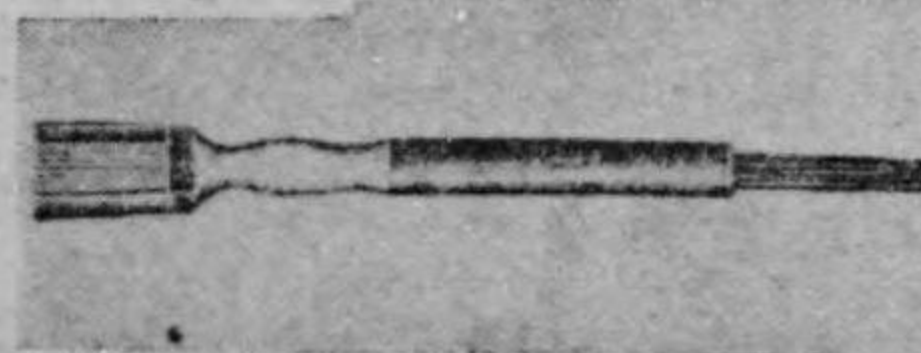
第130圖

河本氏トラホーム刷
子兼用トラホーム針

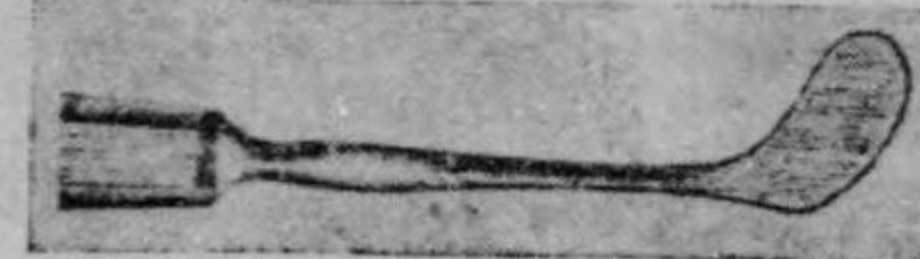


第131圖

トラホーム針ノ先端

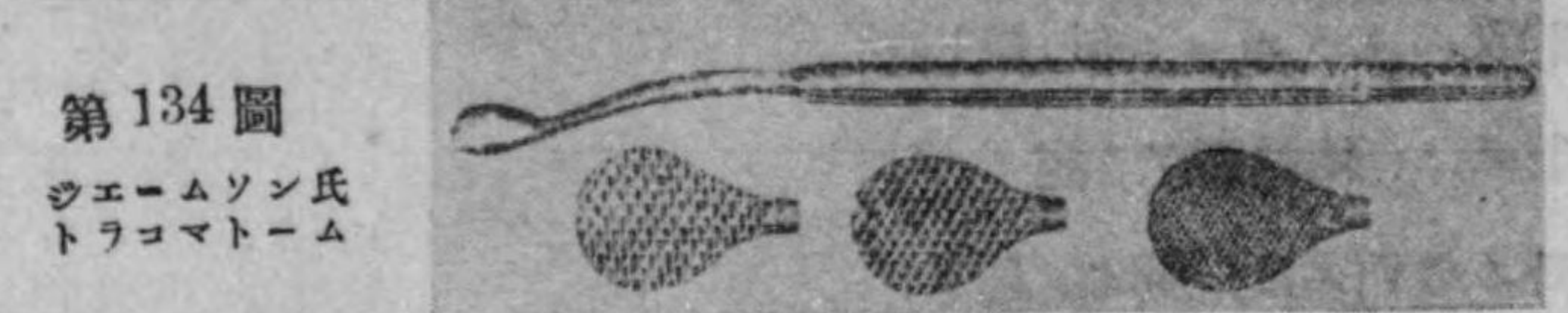


第132圖
亂切刀



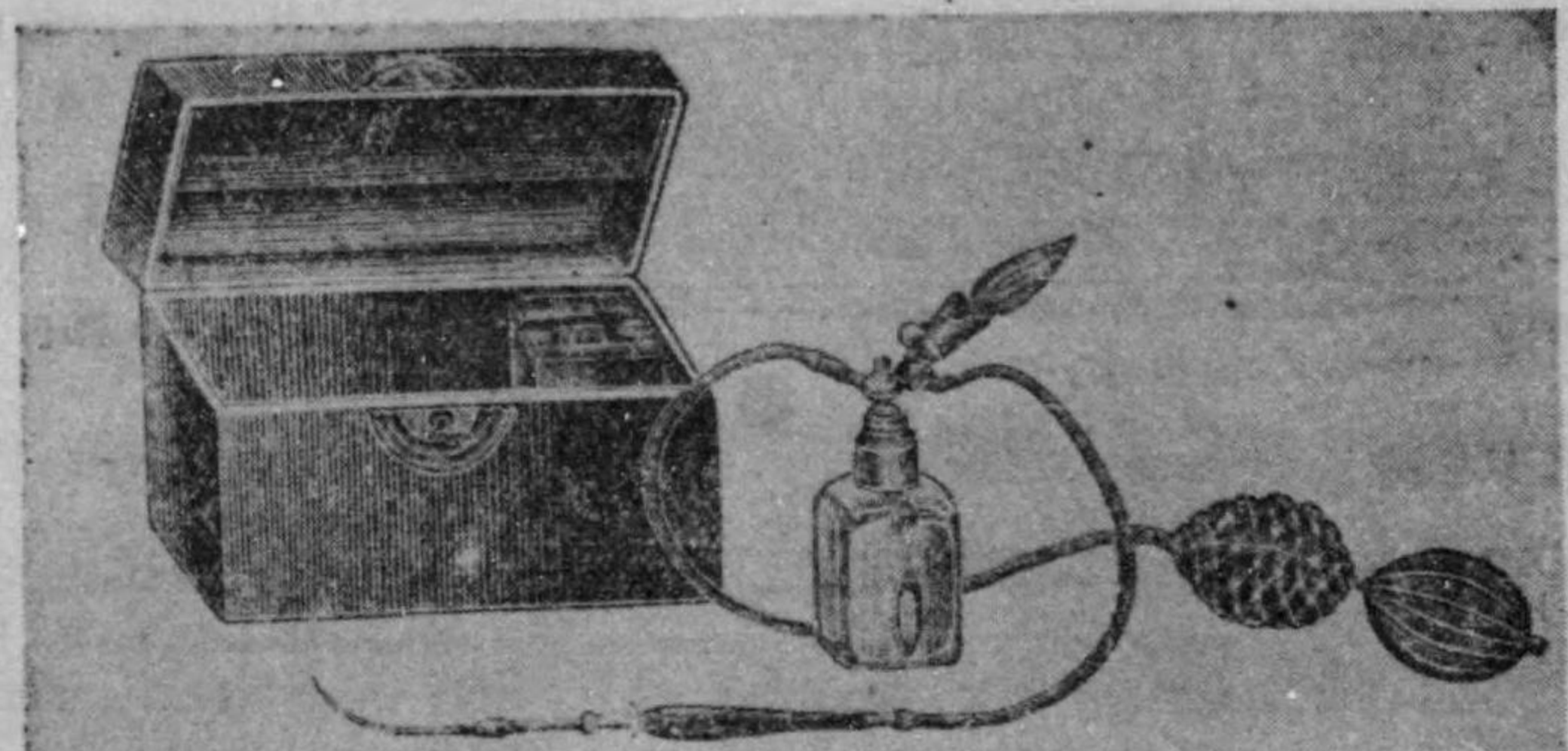


第133圖
ドンベルグ氏
トラホーム鉗



第134圖
シエームソン氏
トラコマトーム

キニ 淺ク 數條 亂切シテ 出血セシメ 搔爬法ハ トラホーム刷子 (第128圖) 鉗(第133圖) トラコマトーム(第134圖) 鮫ノ皮鳥 賊ノ甲等ヲ以テ 淺ク 且ツ 廣ク 搔爬シ 出血セシメ 同時ニ表 在性ノ顆粒ヲ 破壊シ 燒灼法ハ バクレン氏烙白金 (第135圖第



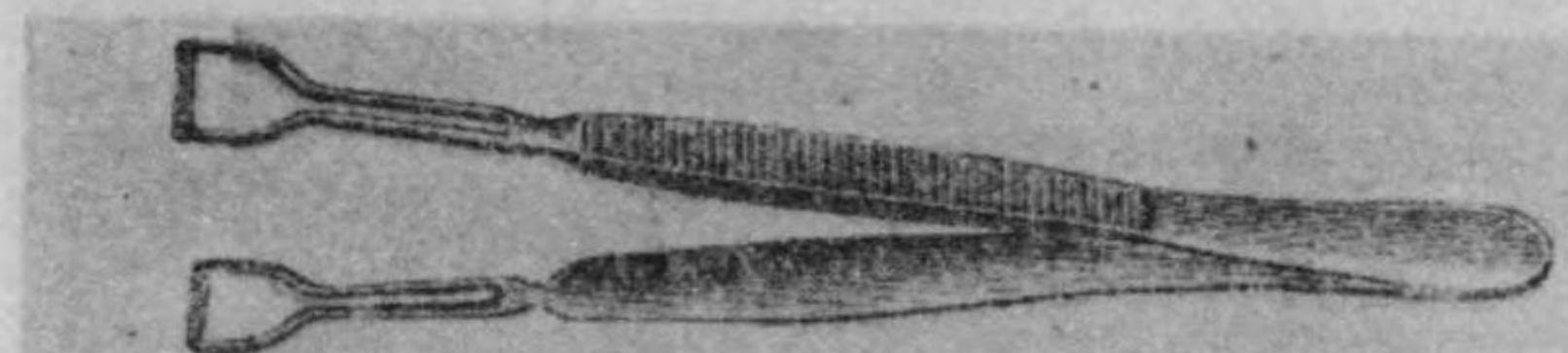
第135圖

バクレン氏烙白金

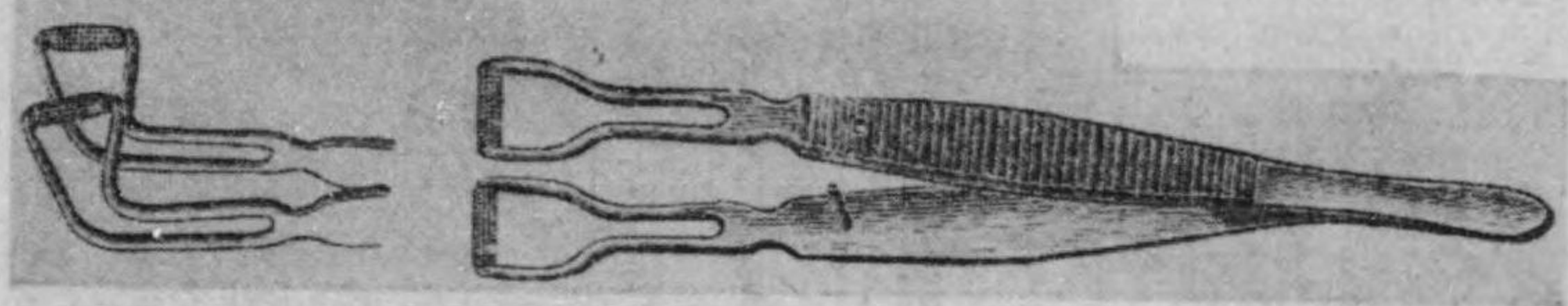


第136圖
烙白金ノ先端

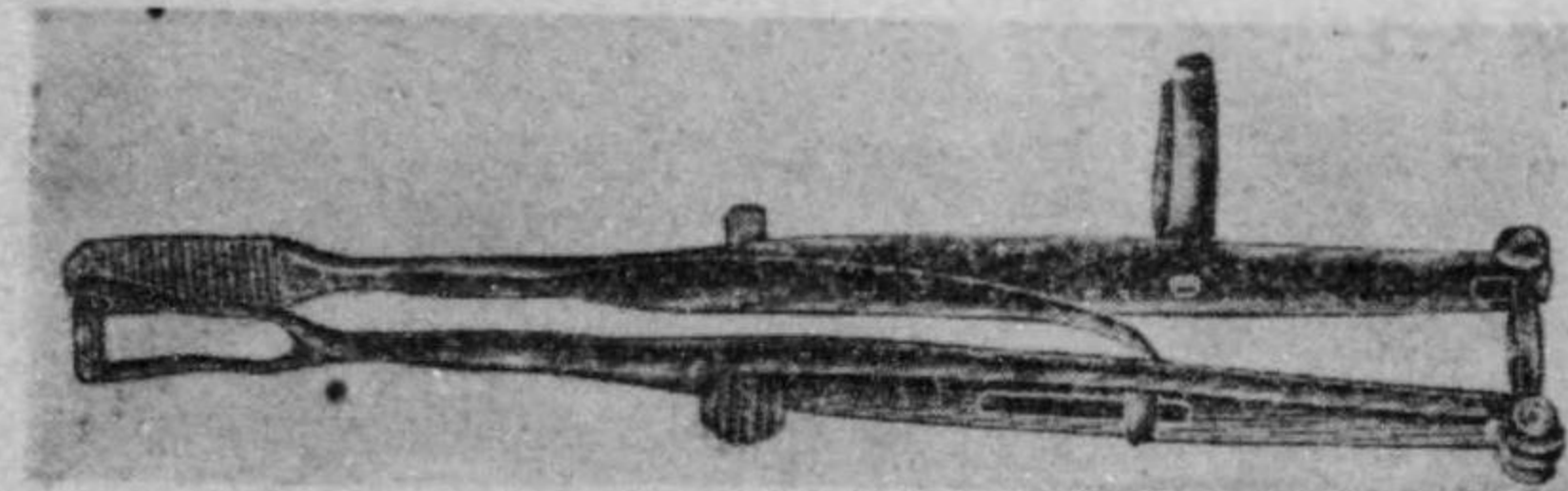
136圖)ヲ以テ 結膜ノ表面ヲ 極メテ 輕ク 且ツ 汎ク 燒灼ス。烙白金ガ 結膜面ニ辛ウジテ 觸レタル位ニテ 可ナリ。又 顆粒壓出法ハ トラホーム鑷子(第112—



第137圖
クナツブ氏車轉鑷子



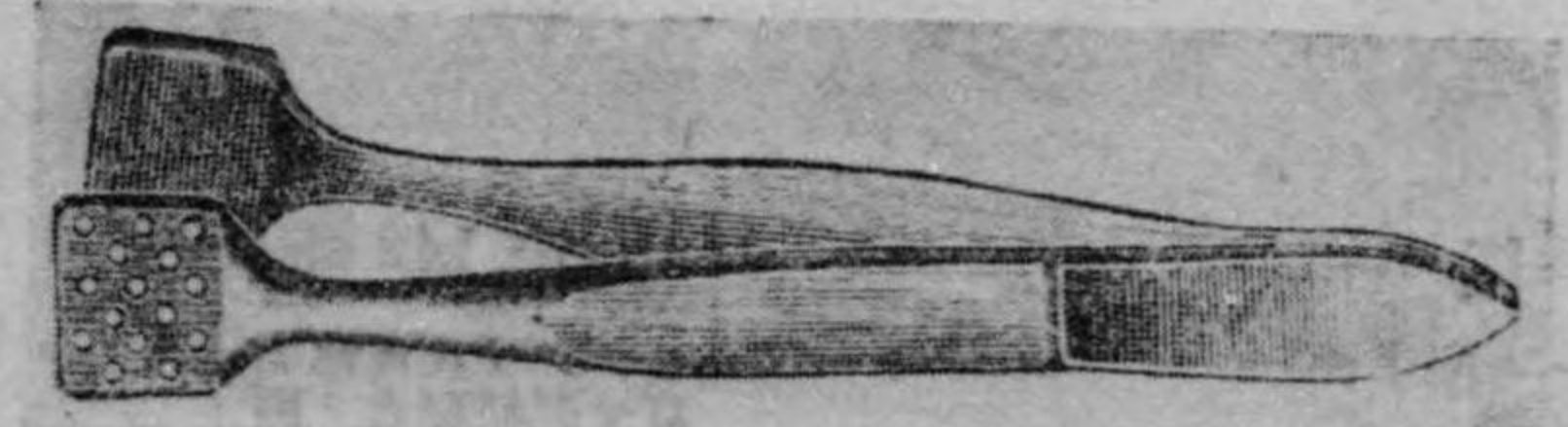
第138圖
グリーンホルン氏車轉鑷子

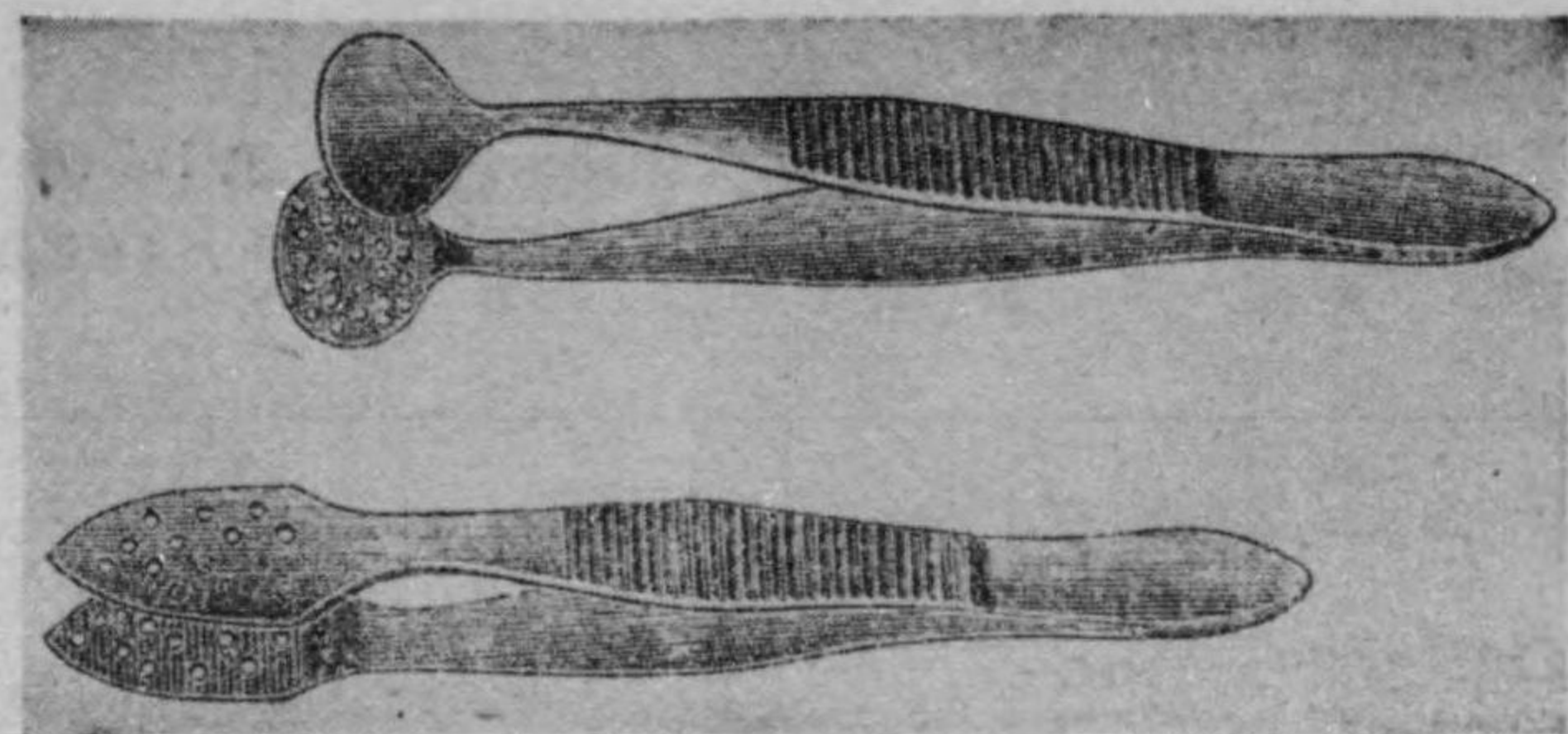


第139圖
ホイトニー氏
車轉鑷子

119圖) 或ハ 車轉鑷子(第137—139圖) 或ハ 顆粒壓碎器(第140圖)ヲ以テ 第141圖 及 第142圖ノ如ク 結膜ヲ 壓窄シ 以テ表 在性ノ顆粒ヲ 破壊シ 且ツ 深部ニアル顆粒ヲ 挫碎ス。次デ同 様ニシテ 下結膜ヲ 手術ス。

手術後ハ 假繃帶ヲ 施シ 通常 冷卷法ヲ 行ハシム。

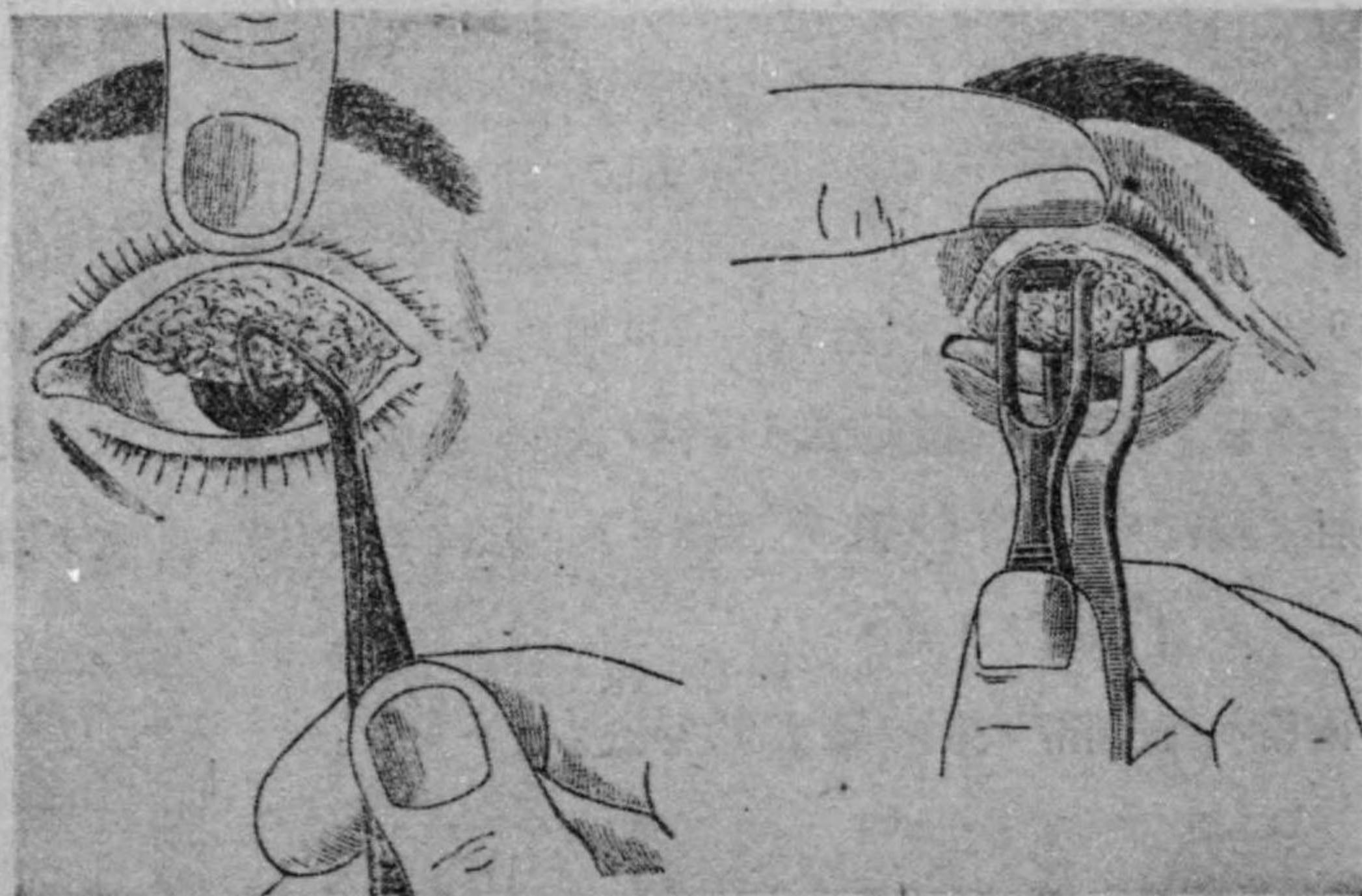




第140圖

グーント氏顆粒壓碎器

燒灼法ノ代リニ 近時 雪狀炭酸ヲ以テ 結膜ノ表層ヲ 凍冷 壞死セシムル方法モ行ハル。



第141圖

横松氏トラホーム鑷子ヲ以テ顆粒壓出ノ圖

第142圖

クナツブ氏車轉鑷子ヲ以テ顆粒壓出ノ圖

軟骨切除法ハ稍々複雑ナリ。

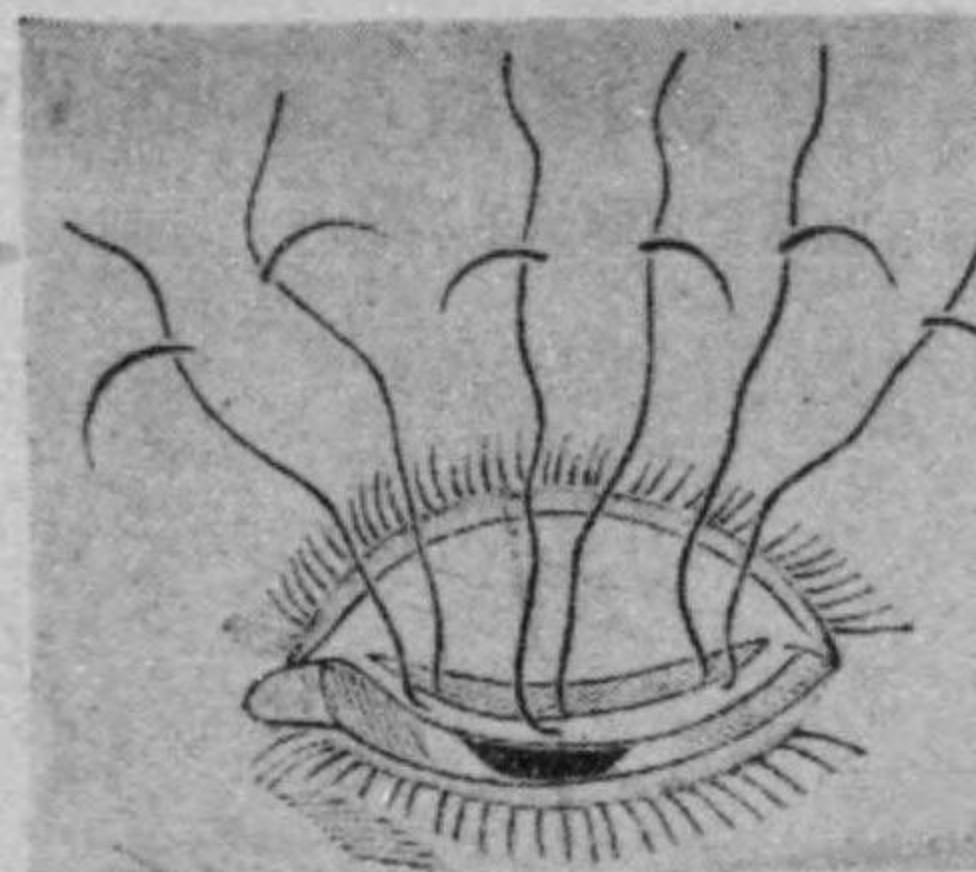
所要器械

注射器 角板 絲3本(兩端ニ針ヲ附ス) 持針器 圓刃刀 反鏡 有鉤鑷子

準備

2-4%コカイン水2滴ヲ點眼シ 5000 倍昇汞水 或ハ 3000 倍青酸々化汞水ニテ 洗眼シタル後 上眼瞼ヲ翻轉シ 角板ヲ入レ 上穹窿部ニ注射ス。

術式



先ヅ 軟骨上縁ニ沿ヒ 結膜ヲ切開シ 穹窿部側ノ創縁ニ 3 本ノ絲ヲ貫ク(第143圖)。次ニ 瞼縁ヲ距ル約2耗ノ所ニ於テ瞼縁ニ 平行ニ 結膜 及 軟骨ヲ切開シ 軟骨ノ一端ヲ 有鉤鑷子ニテ撮ミ 反鏡ヲ以テ 之ヲ結膜ト共ニ切除ス(第144圖)。次テ 翻轉シタル眼瞼ヲ 整復シ 穹窿部結膜ニ貫キタル

第143圖

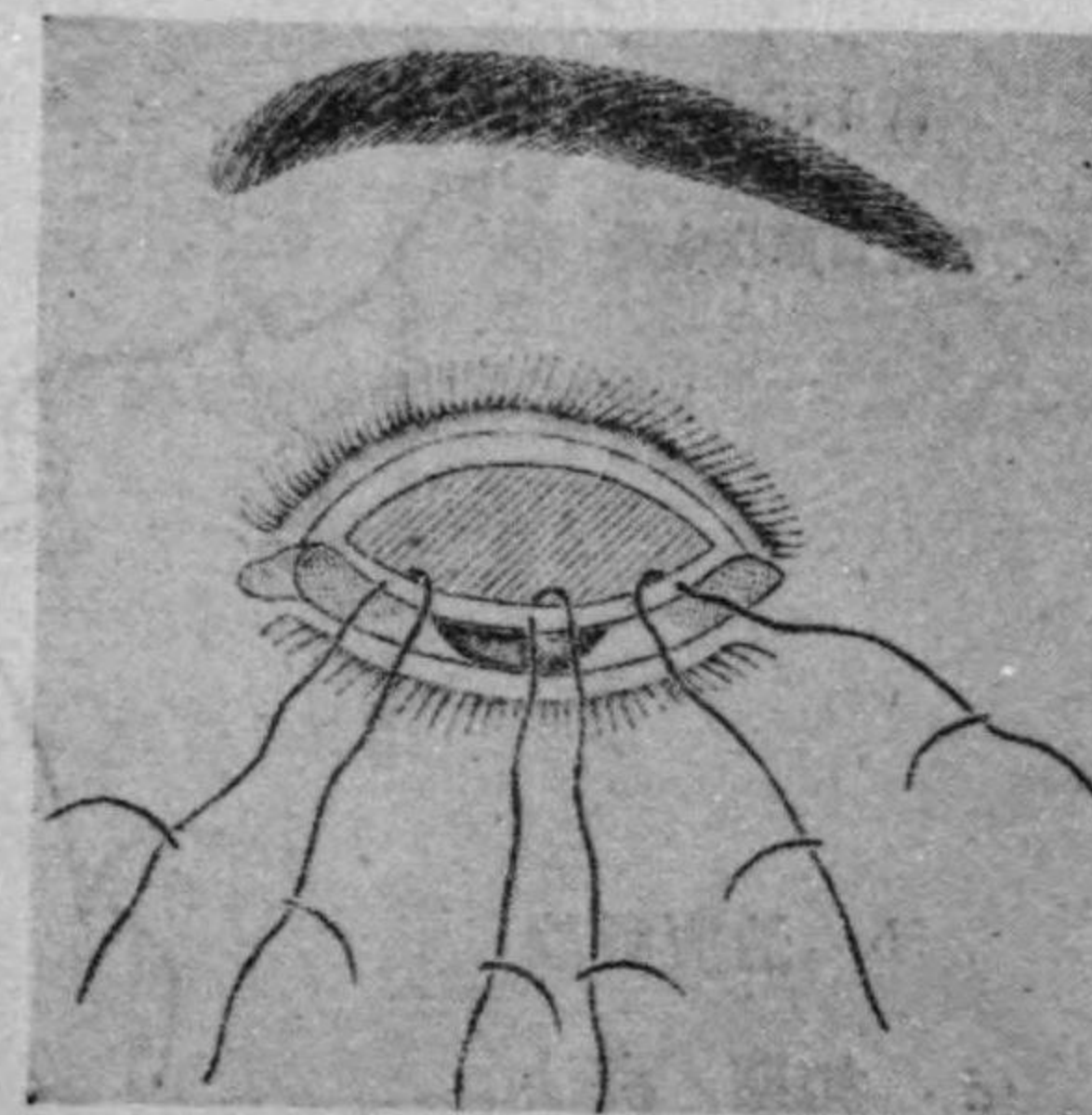
軟骨切除法第一節

絲ノ 兩端ニアル針ヲ 軟骨ノ切開縁ノ附近ヨリ 睫毛ヲ距ル 2-3 耗ノ皮膚ニ出シ 結紮ス(第145圖 及 第146圖)。

若シ 眼瞼内腫症ニ 此ノ手術ヲ用ケル場合ニハ 針ヲ 成ルベク睫毛ニ 近ク出ス如ク 注意スベシ。

後處置

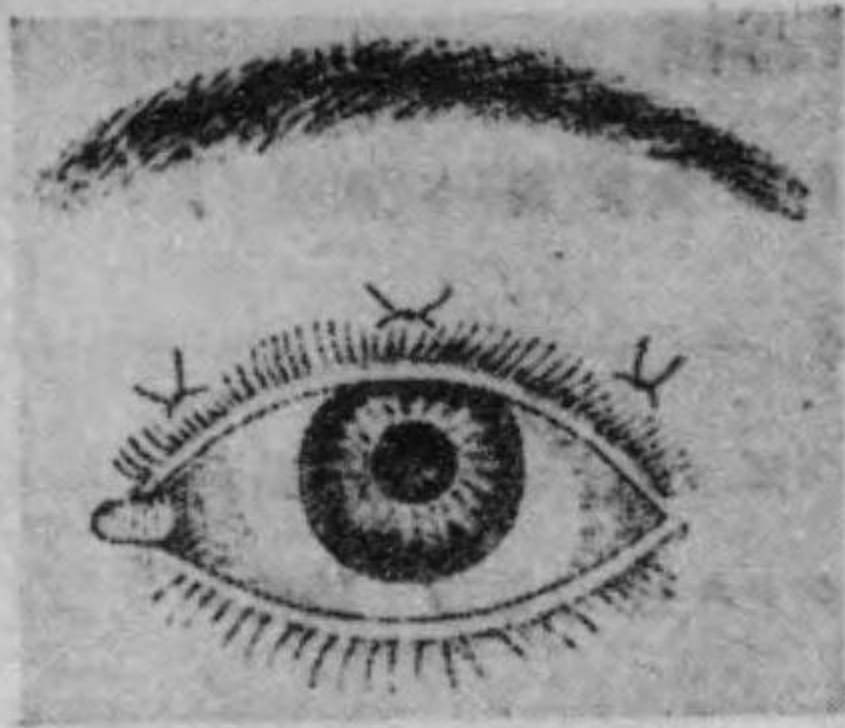
手術後 繃帶ヲ施シ 毎日 之ヲ交換シ 通常 4日ノ後 抜絲シ 後温療法ヲ行ハシム。



第144圖

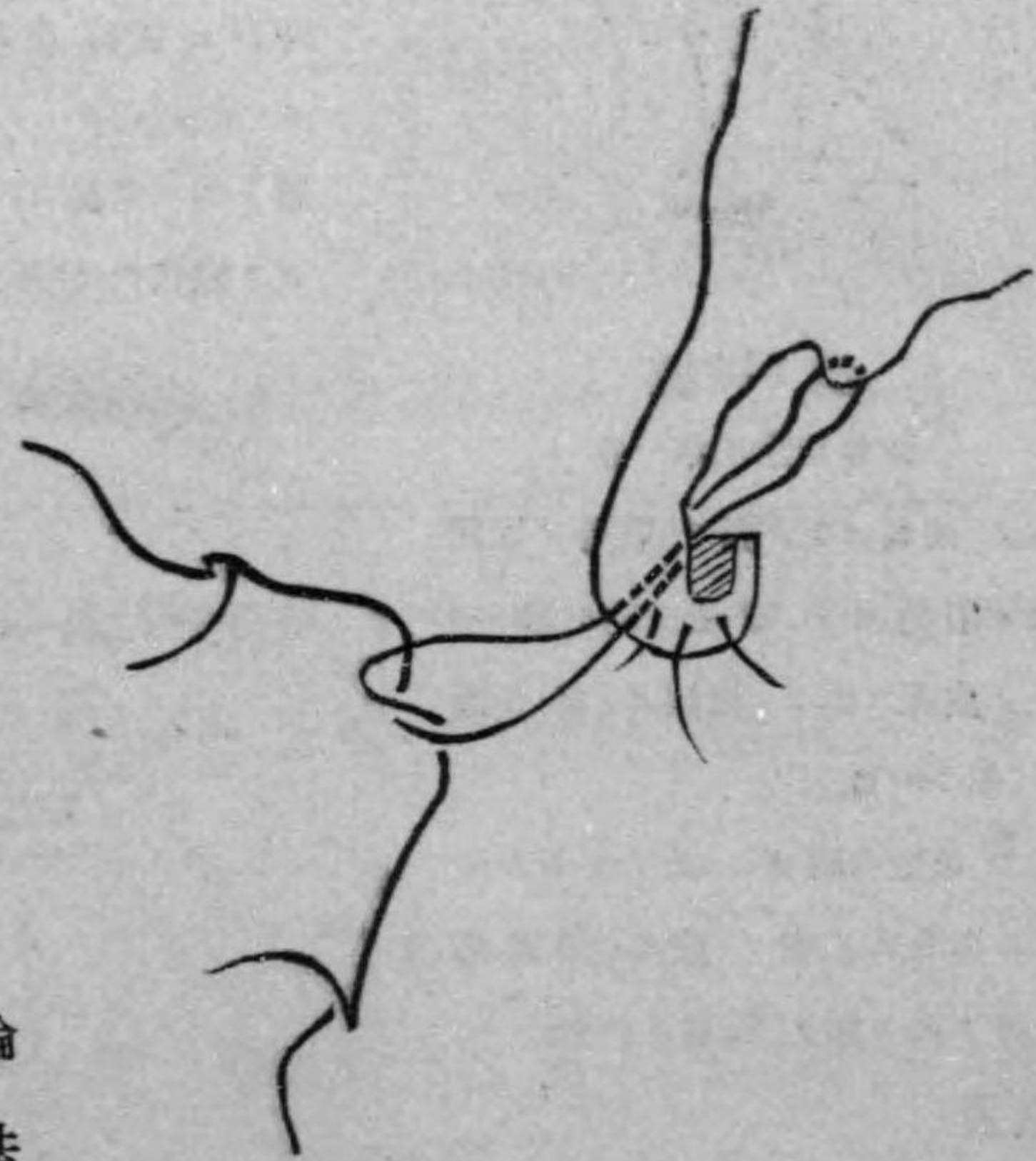
軟骨除去法第二節

手術的療法ノ内 瀉血法 亂切法 搔爬法 及 燒灼法ハ 炎症並ニ肥厚ノ著シキ時期ニ之ヲ用キ 顆粒壓碎法ハ 主トシテ 膠様期顆粒ニ之ヲ用キ 軟骨切除法ハ 骨ノ肥厚強キ場合 或ハ 軟骨ノ彎曲セル爲メ 内膿症ヲ起シタル場合等ニ用キラル。



第145圖
軟骨切除法第三節

第146圖
軟骨切除法略圖



5. 治療各論

イ. 初期ノ療法

内務省分類標準中 輕症トラホームノ一ニ該當スルモノニシテ 若シ 結膜ノ發赤 及 肥厚 強クシテ 分泌稍々多キ場合ニハ 0.5—

1% 硝酸銀水 點眼 (1日1回) 加之 3% 硼酸水 又ハ 5000 倍青酸々化汞水 冷罨法、1日3—4回 10—20分間宛 ヲ行フ。炎症輕度ナレバ 0.2—0.4% 硫酸銅水 點眼 (1日2—3回 處方26 27) 加之 冷罨法 同前。炎症最輕ケレバ 0.2—0.5% 硫酸亞鉛水 點眼 (1日2—3回 處方33 34) ヲ

ロ. 全盛期ノ療法

分類標準中 重症 トラホーム ノ一ニ該當スルモノニシテ 若シ 結膜ノ發赤 及 肥厚 高度ニシテ 分泌旺盛ナラバ 1—2% 硝酸銀水 點眼 (1日1—2回) 加之 5000 倍青酸々化汞水 同% 昇汞水 10000 倍過マンガン酸カリウム水 等ノ冷罨法 (1日4—5回 15—30分間宛)。又 場合ニヨリ 手術 (バクレン 瀉血 亂切 搔爬等) ヲ行フ。

分泌減少スレバ 硫酸銅結晶 (1日1回) 加之 冷罨法 同前。或ハ 更ニ 自宅ニ於テ 0.3—0.5% 硫酸銅水 (處方26 27) 0.5—2.0% クシロール水 (處方63 64) 5—10% クプロチトロール (處方62) 等ヲ 1日2—3回 點眼セシム。場合ニヨリ 硫酸銅結晶 硝酸銀水 結膜按摩法等ヲ 交互ニ用ウ又 場合ニヨリ 手術 (バクレン 瀉血 亂切 搔爬等) ヲ行フ。

ハ. 癥痕期ノ療法

若シ 膠様顆粒アレバ 之ヲ 器械的ニ 壓碎スルカ 或ハ 結膜按摩法 硫酸銅結晶 等ニテ 漸次吸收セシム。

乳嘴ノ増殖 顆粒 等 尙 存スレバ 硫酸銅 (結晶 或ハ 溶液) 結膜按摩 硝酸銀 (0.2—1%) 等ヲ 1日1回 行ヒ 尙 自宅ニ於テ 0.2

—0.4%硫酸銅水(處方26) 0.3—0.5%硫酸亞鉛水(處方33 34) 0.5—1%クシロール水(處方63 64) 5—10%クプロチトロール(處方62)等ヲ1日2—3回 點眼セシメ 且ツ 3%硼酸水 又ハ 5000倍青酸酸化汞水 等ノ冷罨法(1日3回 10—20分間宛)ヲ行ハシム。

症狀 一層 輕快シテ殆ンド治癒ニ近ヅケバ 弱キ 收斂劑 即チ前記ノ自宅療法ノミヲ 持續ス。

炎症 消退シテ 癢痕ノミ 貽レバ 治療ヲ休止ス。但シ 全治ニ至ルマデハ 屢々 再發スルコトアルヲ以テ 再發ノ場合ニハ 時期ヲ失セズ 再ビ 治療ヲ 行フヲ要ス。

ニ. 急性トラホームノ療法

急性トラホームノ 疑アルトキハ 必ズ 分泌物ノ 細菌學的 検査ヲ 行フベシ。是レ トラホーム ニハ 往々 他ノ 結膜炎ノ 合併スルコト アルヲ以テナリ。而シテ 分泌物中 若シ コツホウキークス氏桿菌 其ノ他 急性結膜炎ノ 原因トナル菌 アレバ 1—2%硝酸銀水 點眼(1日1—2回) 5000倍青酸々化汞水 冷罨法 等ニテ 通常 數日ノ後 急性炎症去リ 慢性トラホームノ 症狀ヲ 呈スベシ。

又 分泌物中 モラックス アクセンフェルド氏重桿菌 アレバ 0.5—1%硫酸亞鉛水ノ 點眼(1日 5—6回) 及 0.5%硫酸亞鉛水ノ 洗眼ヲ 行ハシムレバ 數日ニシテ 輕快ス。

分泌物中 菌ヲ發見セザレバ 前記ノ 硝酸銀水 點眼 及 冷罨法ヲ 行ハシムベシ。若シ トラホーム ニ 他ノ 結膜炎ノ 加ハリタ

ル者ナレバ 之ニテ 漸次輕快スベシ。若シ 又 眞ノ 急性トラホーム ナレバ 硝酸銀ニテハ 通常 容易ニ輕快セザル者ナレドモ 1—2箇月間 治療ヲ繼續スレバ 通常 徐々ニ 輕快ス。或ハ 場合ニ依リ 手術(バクレン 瀉血 亂切 搔爬 等)ヲ 行フモ 可ナリ。

ホ. バンヌスノ療法

トラホーム性バンヌスノ 治療ハ バンヌスト 同程度ノ 炎症ガ 結膜ニ 存在スルモノト 見做シテ 結膜ヲ前記ノ 方法ニテ 處置シ バンヌスニ 向ツテハ 通常 温罨法ヲ 行ヘバ 漸次 輕快スルモノトス。例ヘバ 分類標準ノ 重症トラホームノ 二ニ 該當スル如キ 進行中ノ バンヌス アル場合ニハ 上眼瞼ヲ 翻轉シ 瞼結膜ヲ 2%硝酸銀水(1日1—2回)ニテ 十分ニ 腐蝕スルカ 又ハ バクレン 燒灼法 等ヲ施シ 角膜ニ 向ツテハ 温罨法ヲ 行ハシムレバ 通常 バンヌスハ 漸次 輕快スレドモ 尙 病勢ノ 頓挫セザル場合ニハ 上瞼結膜ヲ 手術(バクレン 瀉血 亂切 搔爬 等)シタル後 開瞼器(第147—149圖)ヲ以テ 瞼裂ヲ開キ 毛筆ニ 10—15%硝酸銀液ヲ 含マシメ 角膜周擁 即チ

第150圖斜線ノ部ニ 塗布シ 後直



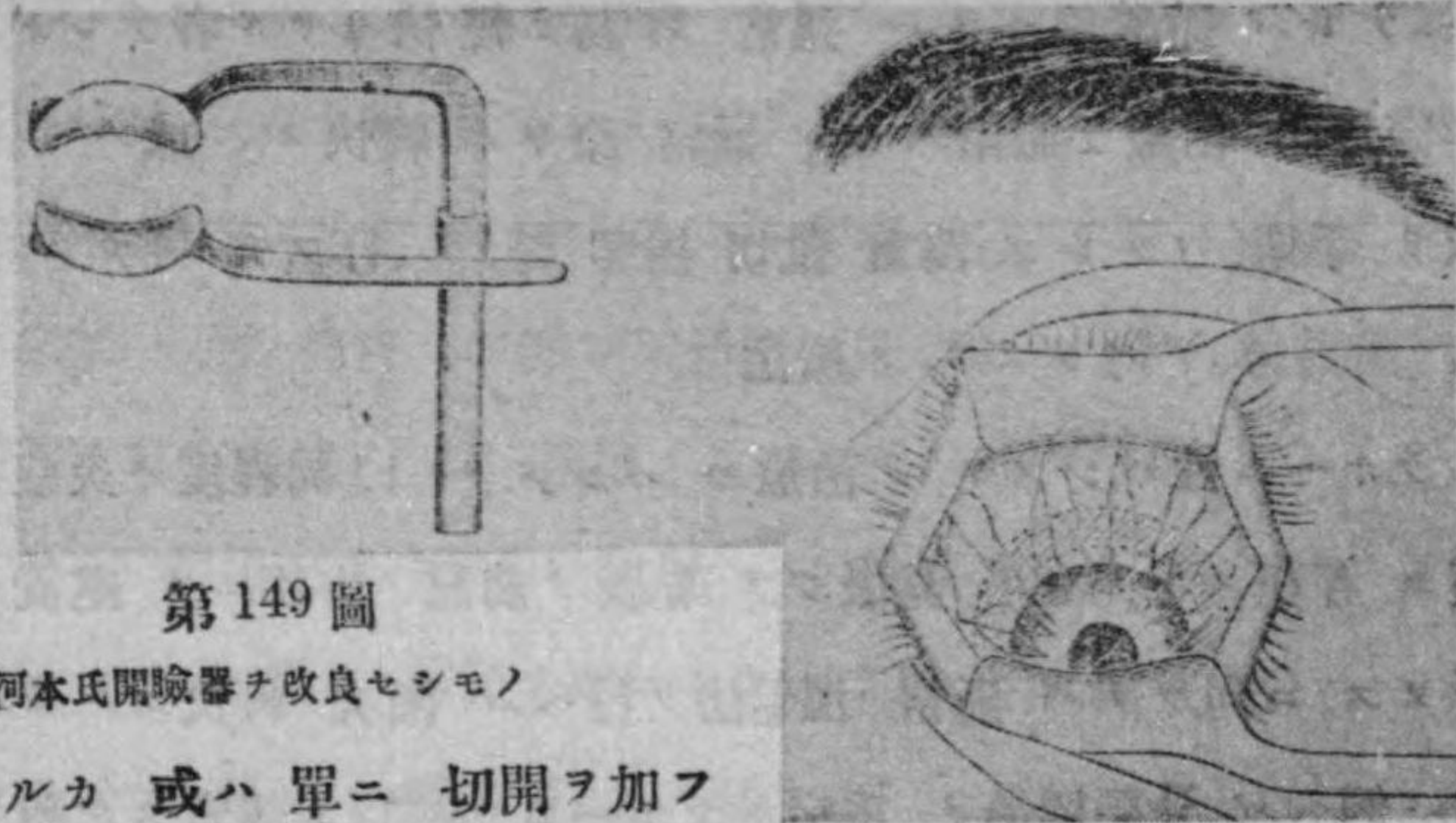
第147圖

デスマル氏開瞼器



第148圖
河木氏開瞼器

チニ 1%食鹽水ニテ 洗滌スルカ 或ハ 此ノ部ノ 球結膜ヲ 切除



第 149 圖

河本氏開瞼器ヲ改良セシモノ

スルカ 或ハ 單ニ 切開ヲ加フ
ルカ スレバ 一層 確實ニ 奏効
ス。

第 150 圖

トラホーム性パンヌス手術ノ圖

手術後 假繃帶ヲ施シ 後 温罌法ヲ行ハシム。但シ 之ニテ 疼
痛 堪ヘ難ケレバ 一時 冷罌法ヲ 試ムルモ 可ナリ。

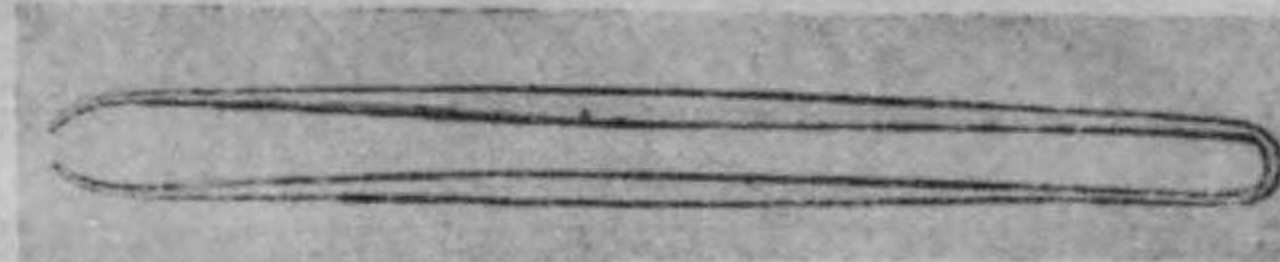
へ. 眼瞼内翻症 及 睫毛亂生症ノ療法

眼瞼内翻症 及 睫毛亂生症ハ 重症トラホーム ノ末期 或ハ 其
ノ後遺症トシテ來リ 其ノ障碍ハ 睫毛ノ 角膜面ヲ摩擦シテ 炎症
ヲ起シ 視力ヲ害スルニ在リ。故ニ 其ノ療法モ 亦 此ノ害ヲ除ク
ヲ以テ 主眼トス。

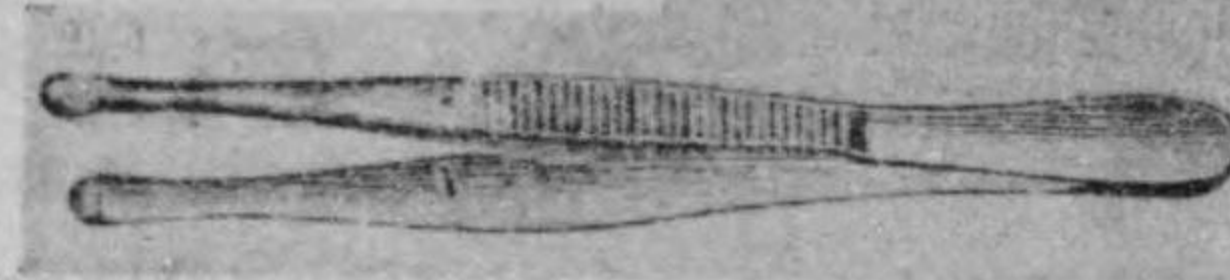
最モ簡易ナルハ 睫毛鑷子(第 151 圖 及 第 152 圖)ヲ以テ 角膜
ニ向ヘル睫毛ヲ 一々 抜キ去ルナリ。然レドモ 此ノ方法ハ 患者
ニ 一時的ノ輕快ヲ與フルノ ミニシテ 極メテ 微細ナル睫毛ヲ 見
落スコト多キト 2—3週間ノ後 其ノ再生スルトニ由リ 到底 姑

息的ノ療法タルヲ 免レズ。

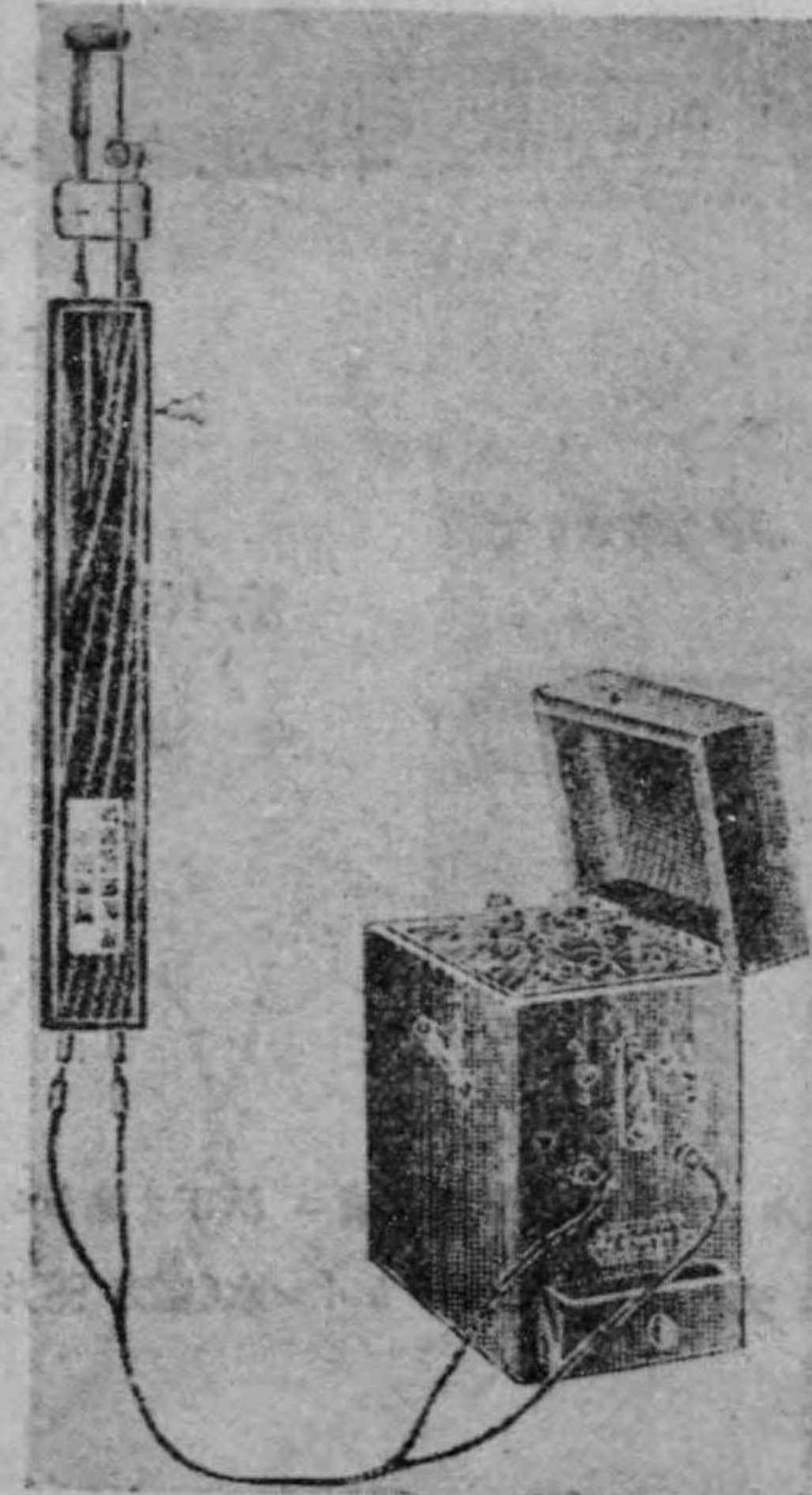
第 151 圖
日本ノ睫毛鑷子



第 152 圖
西洋ノ睫毛鑷子



若シ 少數ノ睫毛ノ ミ 角膜ニ向ヘル場合ニハ 睫毛電氣分解針



第 153 圖

高村氏睫毛電氣分解針

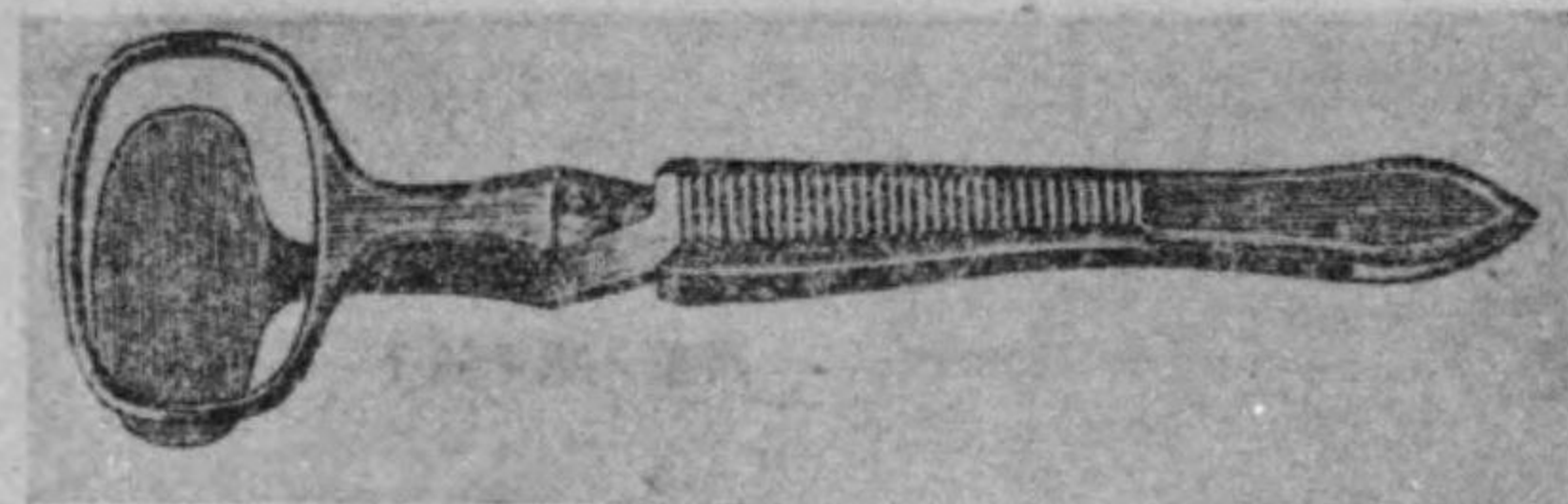
(第 153 圖)ヲ 睫毛ノ根ニ沿ヒ
テ刺シ 之ニ 弱キ陰極電流ヲ
通ズレバ 針ノ周圍ニ 泡末ヲ
生ジ 睫毛根ハ破壊セラレ 睫
毛ノ拔去 容易ニシテ 再生セ
ズ。然レドモ多クノ場合ニハ
亂生睫毛 多ク 且ツ極メテ細
小ナルモノアリテ 到底 此ノ
方法ヲ以テ 十分ノ奏効ヲ 見
ルヲ能ハズ。故ニ 通常 手術
的療法ニ 依ラザルベカラズ。

手術中 最モ多ク用キラル
ルハ ホツツ Hotz 氏式ナリ。

其ノ法 次ノ如シ。

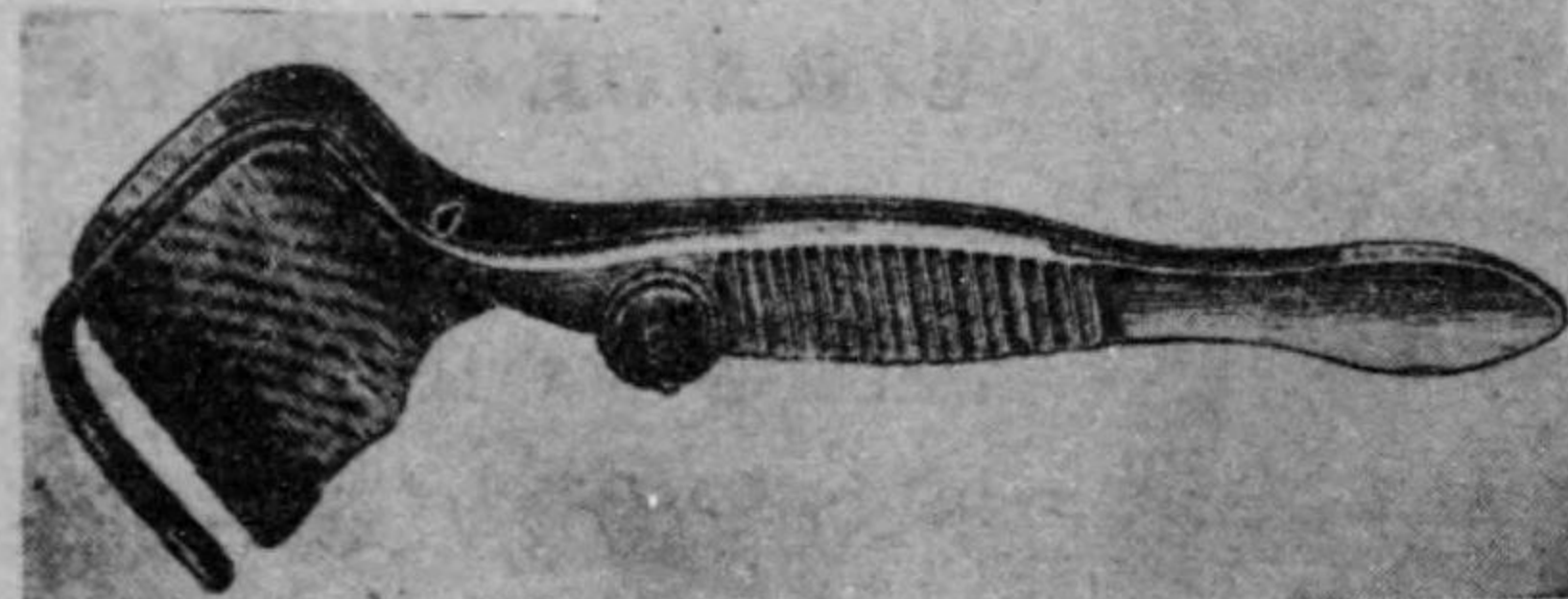
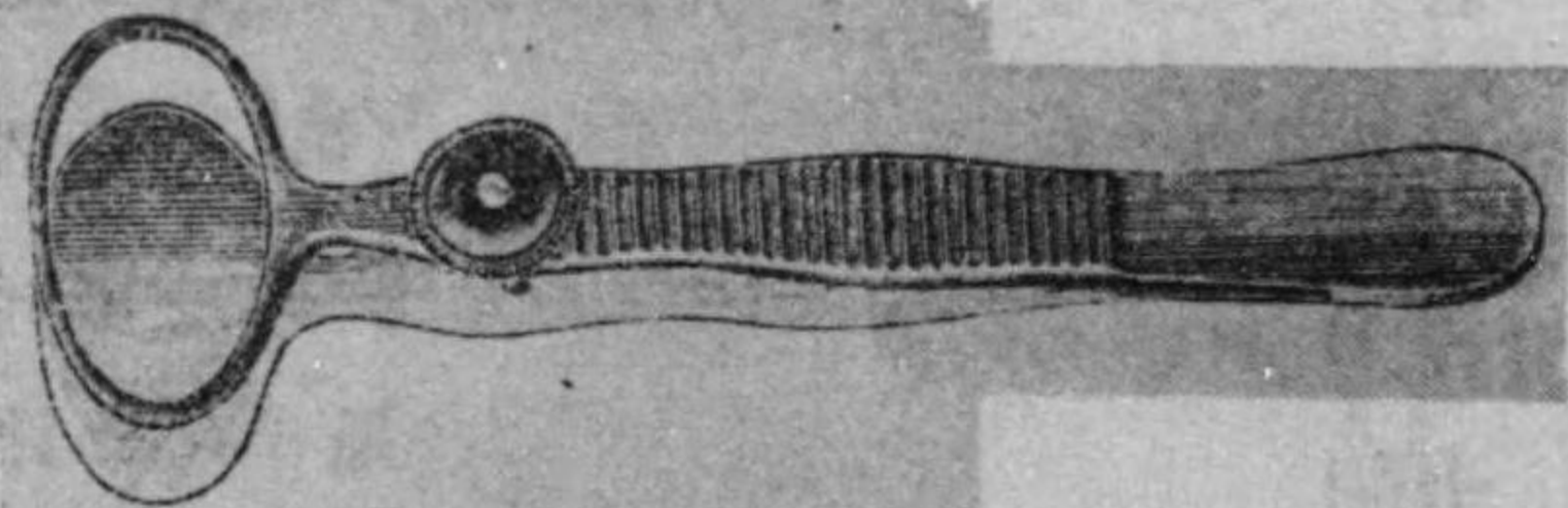
所要器械

注射器 夾瞼器(第154—156圖) 圓刃刀 有鉤鑷子!反鉗 絲5本(一端ニ針ヲ附ス) 持針器



第154圖
グーンツ氏
夾瞼器

第155圖
デスマル氏
夾瞼器



第156圖
スネルレン氏
夾瞼器

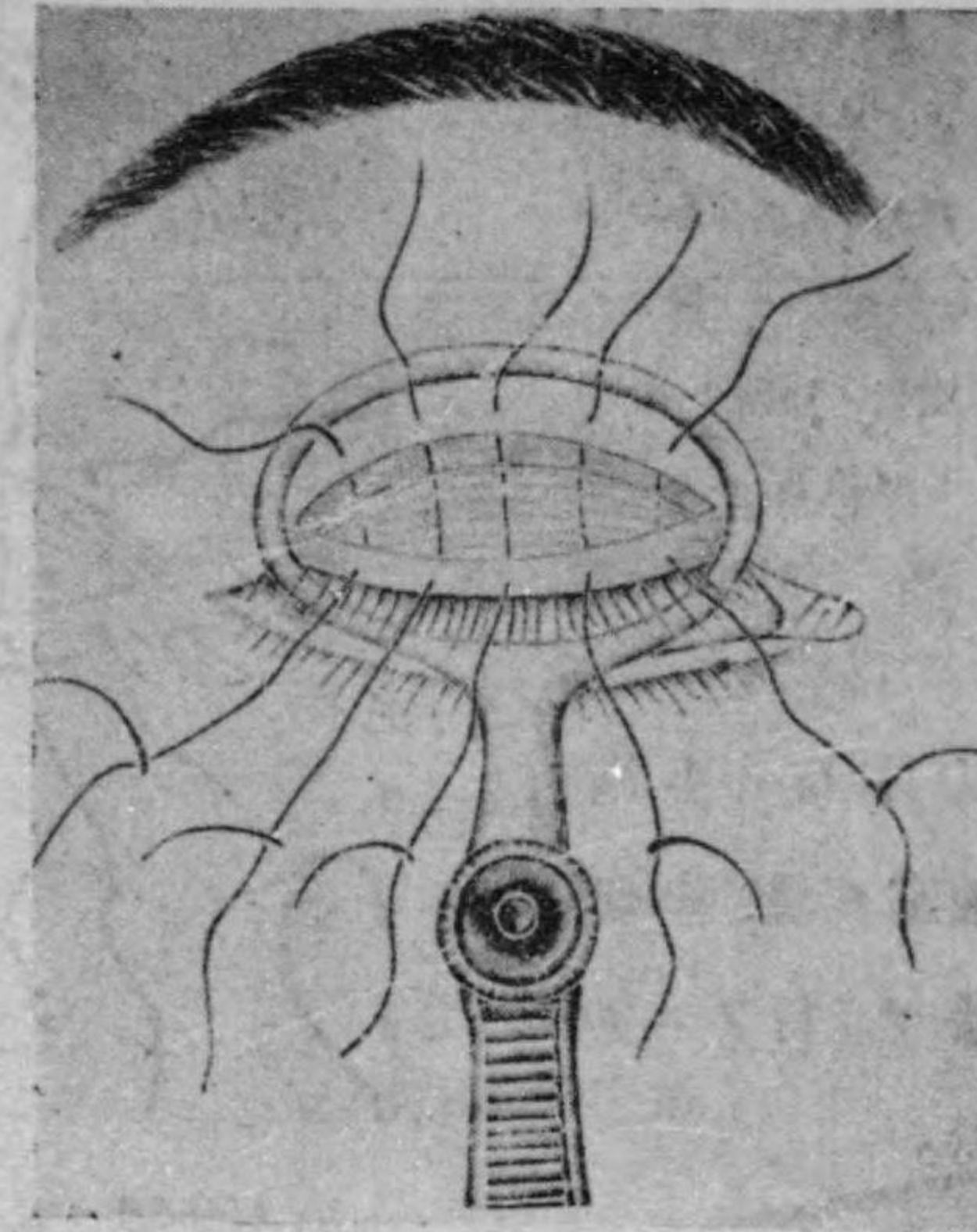
準備

5000倍昇汞水 又ハ 3000倍青酸々化汞水ニテ洗眼シ 眼瞼皮膚ニ 沃丁ヲ塗布シ 眼瞼ノ皮下ニ 1%コカイン水(處方 76 78) 又ハ 1-2%ノウオカイン水(處方 56)約 1筒ヲ注射ス。

術式

夾瞼器ニテ 眼瞼ヲ夾ミ(第157圖) 眼瞼縁ヨリ 2-3糸ヲ隔テ、瞼縁ニ平行ノ皮

切ヲ加フ。此ノ際 軟骨ニ達スルマテ深ク切り 軟骨ヲ切ラザル如ク。次ニ此ノ切開線ノ 兩端ヨリ 概ネ 軟骨上縁(下眼瞼ナラバ下縁)ニ 一致シテ 前ト同様ノ要領ニテ 皮切ヲ加ヘ 鑷子ト 鉗トニテ 其中間ノ皮膚ヲ 輪匝筋ト共ニ 除去シテ 紡錘形ノ創ヲ作り 針ヲ瞼縁ニ近キ創縁ニ貫キ 更ニ軟骨上縁(下眼瞼ナラバ下縁)ノ 強靱ナル組織ニ 貫キ之ヲ 軟骨上縁(下縁)ノ創縁ニ出シ(第158圖)之ト 同様ナル操作ヲ 4-5 箇所ニ行ヒ(第157圖) 絲ヲ結紮ス。



第157圖 ホツツ氏手術

後處置

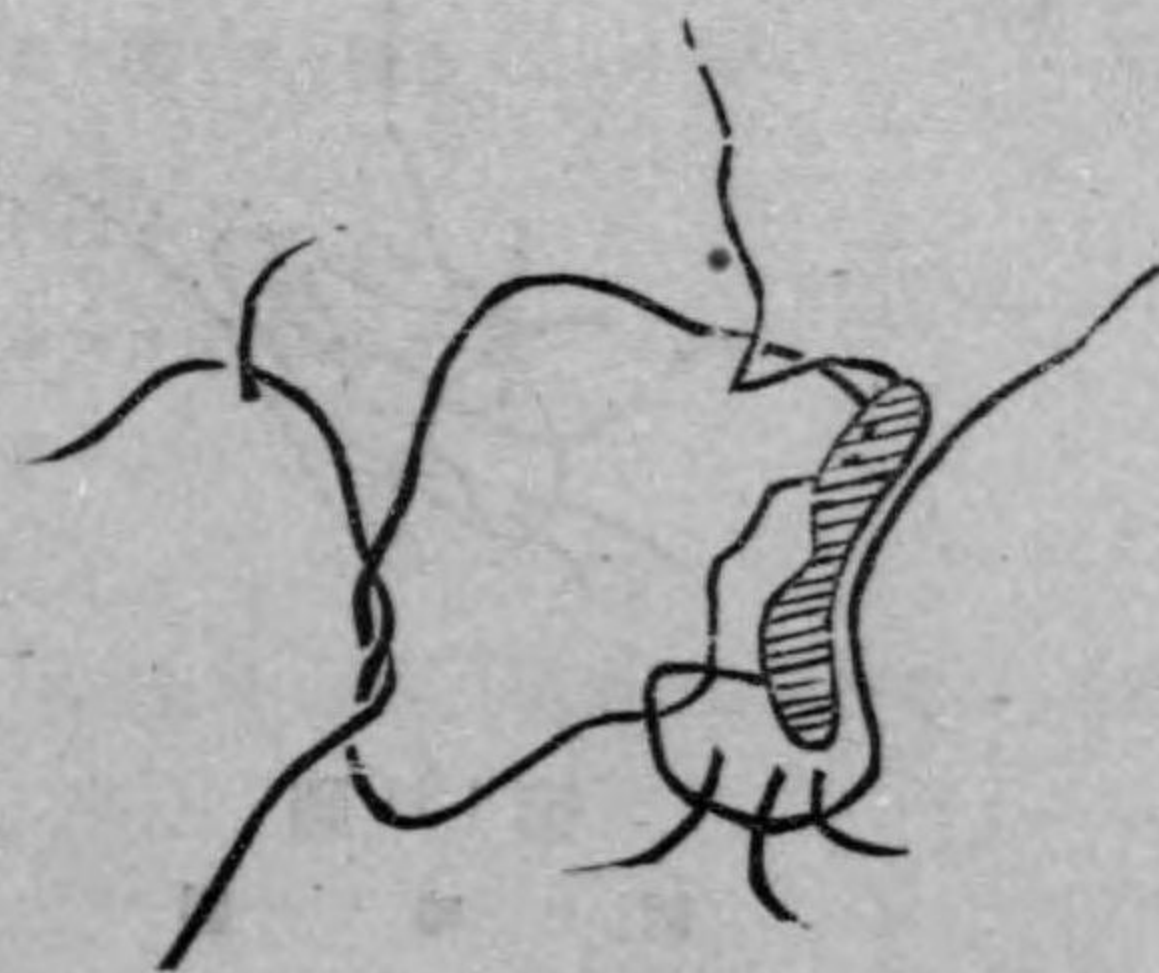
術後 夾瞼器ヲ去リ 縫合線ニ 沃丁ヲ 塗布シ 繃帶ス。毎日繃帶ヲ交換シ 約 4日ノ後 抜絲シ 後 5000倍青酸々化汞水ノ 溫浴法ヲ行ハシム。

注意

皮切ヲ加フルニ方リ 成ルベク 皮膚ヲ多ク切除セザルコト 即チ 創ノ形狀ヲ 口廣ク 底狭ク ナラザル如ク スベシ(第158圖參照)。

夾瞼器ノ 小形ニ過アルハ 皮切 短カクナリテ 不可ナリ。

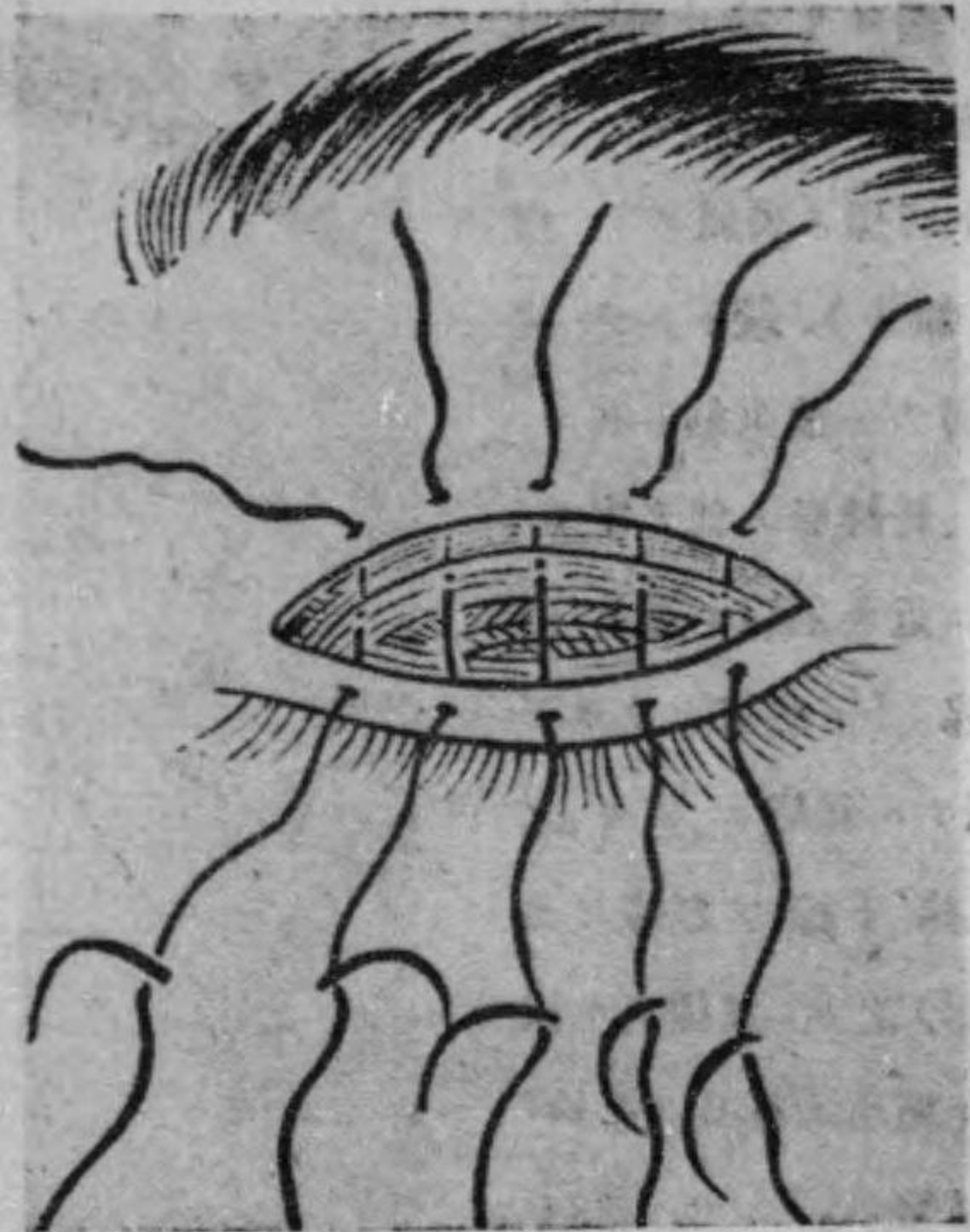
軟骨ノ彎曲 強キトキハ 縫合ニ先テ 軟骨前面ノ中央部ヲ



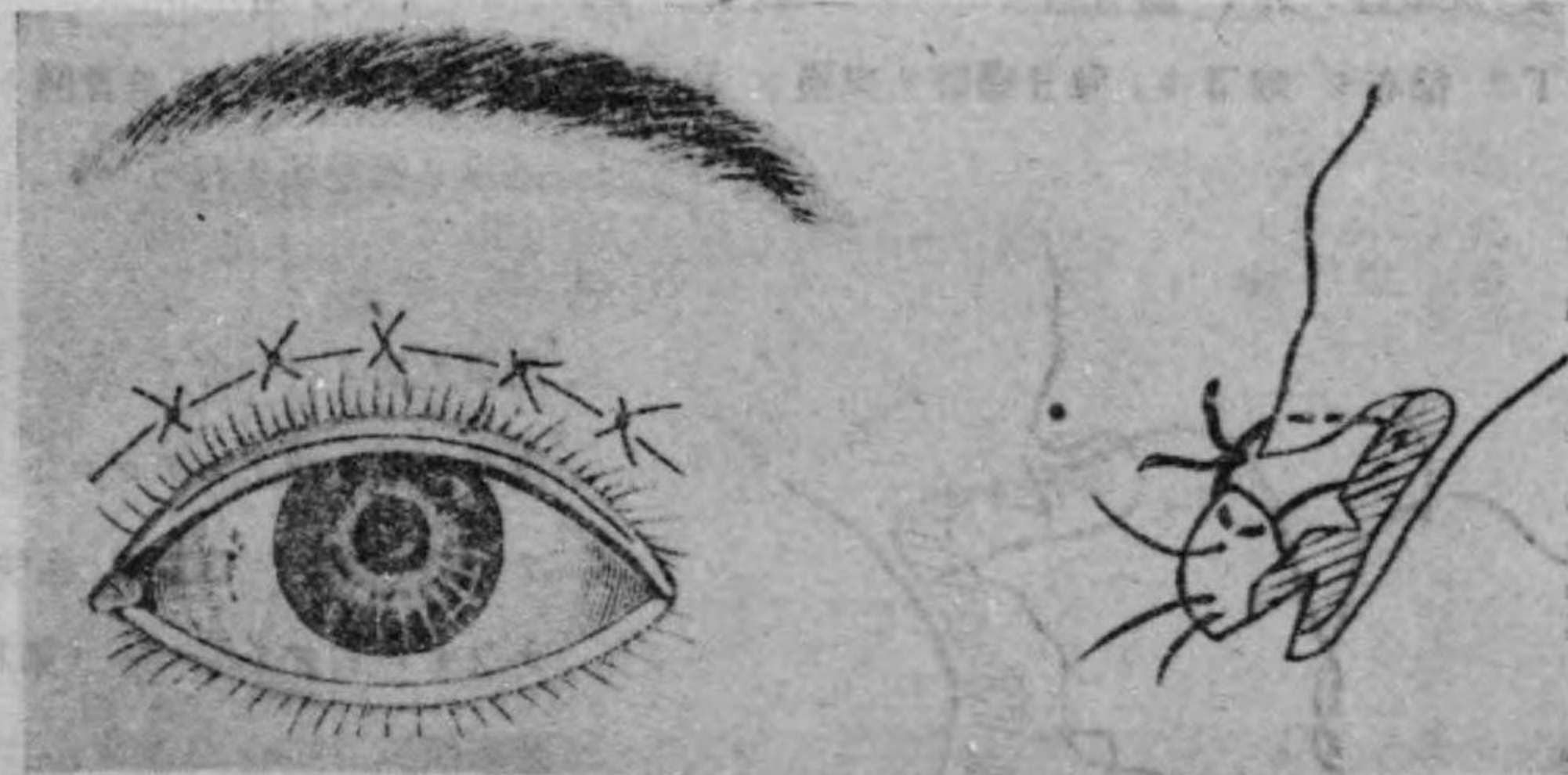
第158圖
*ツツ氏手術式略圖

横ニ細長ク楔状ニ削リ取ルヲ可トス(第158圖 第159圖)。尙之ニ加フルニ 瞼縁ニ横ニ線状ノ切開ヲ加フレバ効果一層大ナリ(第160圖 第161圖)。

又本症ノ手術ニ前述ノ軟骨切除法ヲ行フコトヲ得。



第159圖 ホツツ氏手術變法ノ一



第160圖

ホツツ氏手術變法ノ二

第161圖

同略圖

ト. 瞼裂縮小症ノ療法

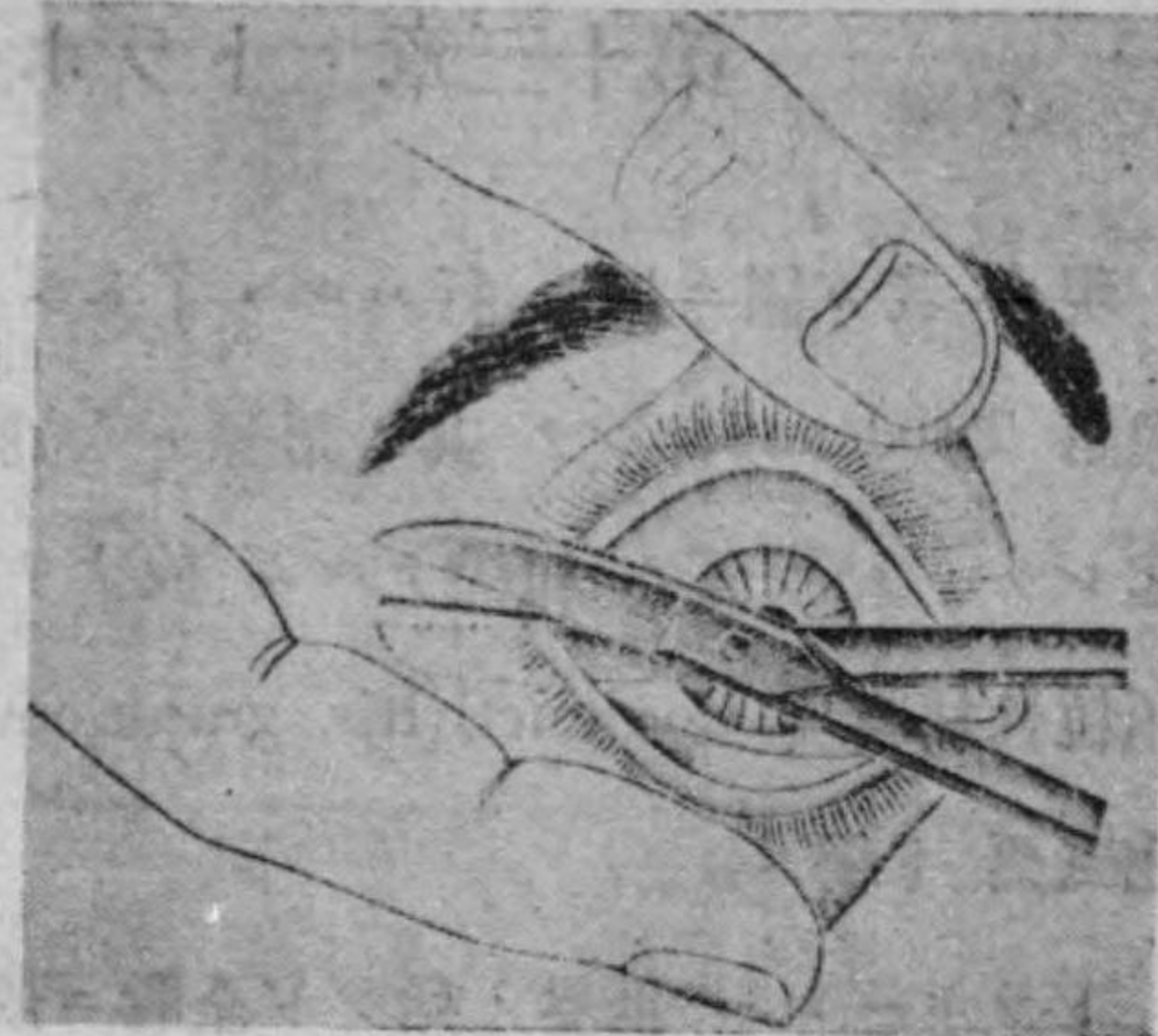
此ノ手術ハ 外眥ヲ切リ廣グルナリ(外眥成形術)。

所要器械

注射器 直鉗有鈎鑷子 角板 絲3本(一端ニ針ヲ附ス) 持針器。

準備

5000 倍昇汞水 又ハ 3000倍青酸々化汞水ニテ 洗眼シ 2%コカイン水1滴ヲ 點眼シ 外眥部ノ皮膚ニ 沃丁ヲ塗布シ 此ノ部ニコカイン水(處方76 78) 又ハ ノソオカイン水(處方 56) 約1筒注射ス。



【第162圖】

外眥成形術第一節

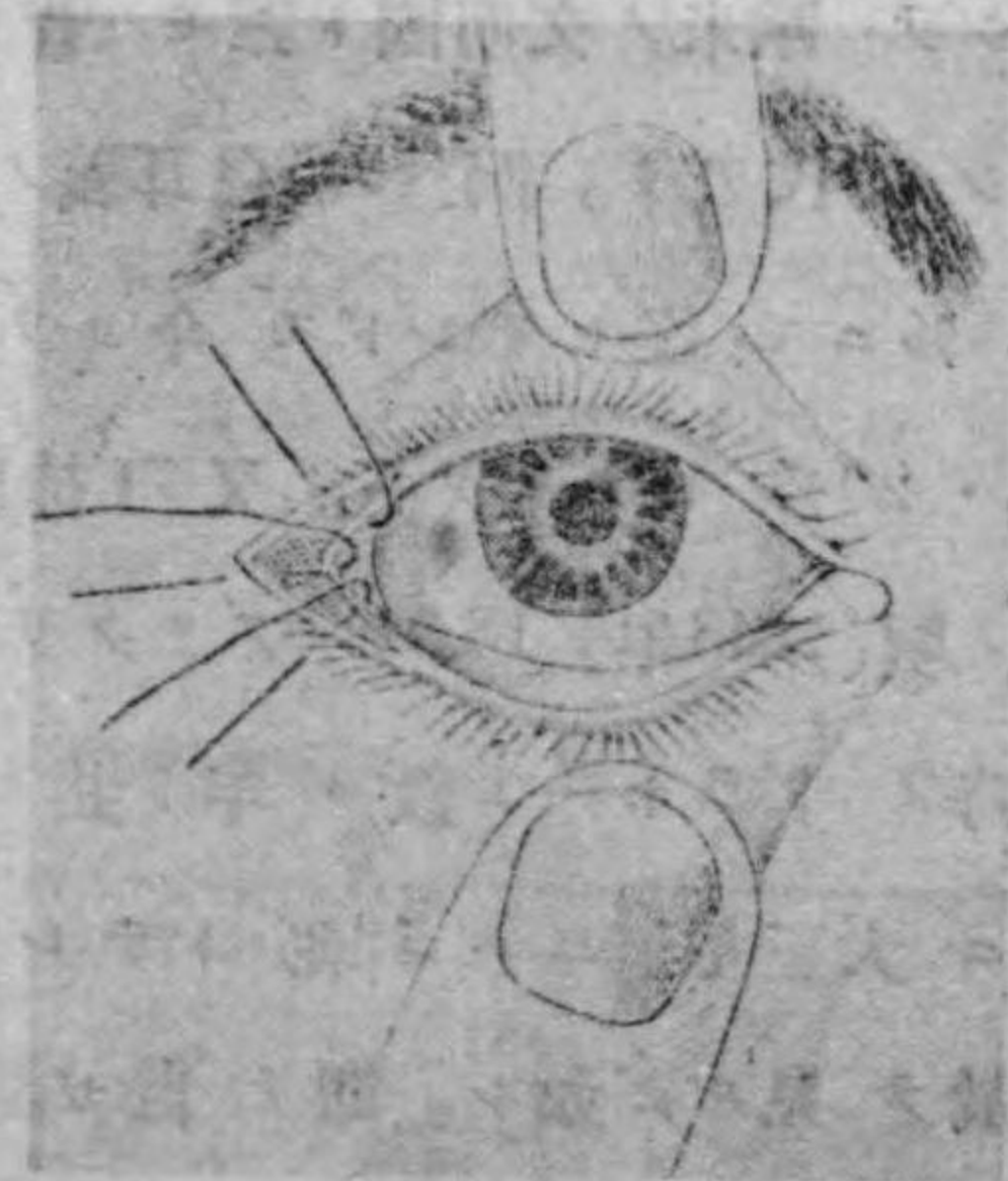
術式

直鉗ヲ以テ 外眥ヲ 第162圖ノ如ク 横ニ 切リ廣ゲ 之ヲ第163圖ノ如ク 縫合ス。

縫合ノ際 出血多クシテ 施術稍々困難ナルヲ以テ 角板ヲ以テ 創面ヲ壓シツ、縫合スヲ可トス。

後處置

ホツツ氏式ニ於テ 述ベタル所ニ等シ。



第163圖

外眥成形術第二節

第十三章 トラホームノ由來

現今 我ガ國ニ於テ 行ハル、「トラホーム」ナル語ハ 元來 獨逸語 Trachom ニシテ 其ノ語源ハ 希臘語ノ *traxo's* (粗糙)ヨリ 起レリ。結膜面ノ 粗糙ナルガ 故ナリ。又 顆粒ノ出來ル所ヨリ 顆粒性結膜炎 *Conjunctivitis granulosa* トモ云フ。漢法ニテハ 險生風粟 ト稱ス。

トラホーム ハ世界ノ殆ンド全般ニ擴ガリ 殊ニ多キハ 附圖第二 及 第三ニ於テ見ルガ如ク 埃及 アラビヤ 及 支那地方ニシテ 歐米ノ文明國ニハ 極メテ 少ナシ。

「トラホームは 未開の 標識なり」。

而シテ 歐米ノ文明國ト雖モ 昔シハ矢張り トラホームノ 多カリシ 時代アリ。例ヘバ 白耳義ノ陸軍ニハ 現今ハ トラホームハ 0.1%ニモ 達セザレドモ 今ヨリ 約 80年前 即チ 西曆 1840年ニハ 20% モアリタリ。又 丁抹國 コペンハーゲン ノ軍隊ニモ 其ノ頃(1848年) 18.8% アリタリト云フ。我ガ國ニ於テモ 徴兵 検査時ノ トラホーム數ハ 年ト共ニ 減少シテ 大正元年 24% ナリシニ 大正九年ニハ 13% トナレリ。其ノ遞減ノ 狀況ハ 99頁ノ 表ニ於テ 見ルガ如シ。即チ 世ガ開ケ 人々ノ智識ガ 進ムニ從ヒ トラホームハ 減少ス。

學校ニ於ケル トラホーム數(%)ハ 文部省ノ統計ニ據ルニ 次

ノ如シ。

| 學校別 | 大正元年 | 二年 | 三年 | 四年 | 五年 | 六年 |
|---------|------|------|------|------|------|------|
| 小學校(男) | 16.7 | 17.2 | 17.1 | 16.1 | 15.9 | 15.9 |
| 小學校(女) | 17.6 | 18.7 | 18.7 | 17.8 | 18.3 | 17.4 |
| 中學校 | 9.1 | 9.4 | 8.5 | 7.7 | 7.2 | 6.6 |
| 高等女學校 | 7.0 | 10.1 | 10.0 | 9.2 | 7.4 | 7.5 |
| 師範學校(男) | 5.5 | 7.5 | 6.0 | 6.0 | 5.6 | 5.4 |
| 師範學校(女) | 6.1 | 6.9 | 5.8 | 5.4 | 5.2 | 5.2 |

トラホームノ多寡ハ 又 概ネ 國民ノ富ノ程度ニ 比例ス。即チ 世界各國ノ富力ト 其ノ トラホーム數トヲ 比較スルニ 多クハ

「貧しき國は トラホームに富む」

ト云フ結果ヲ得。又 我ガ國ニ於テモ 本病ハ下層社會 乃至 貧民ノ家庭ニ多キコトハ 學習院生徒ニ 本病ノ少ナキコト(1%以下)ニ由リテモ知ラル。

我ガ國ニ於ケル トラホーム分布ノ狀ハ 次ニ掲グル所ノ 徴兵時ノ患者數 及 附圖第一ニ由リテ 見得ルガ如ク 東北 及 九州地方ニ最モ多ク 東京 以西 京都ニ至ル地區ニ最モ少ナシ。

徴兵トラホーム患者府縣別表(%)

| 府縣名 | 大正元年 | 二年 | 三年 | 四年 | 五年 | 六年 | 七年 | 八年 | 九年 |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 北海道 | 17.7 | 20.3 | 19.1 | 17.4 | 20.7 | 24.5 | 21.3 | 21.9 | 20.8 |
| 青森 | 47.0 | 51.9 | 50.2 | 50.0 | 43.0 | 40.4 | 38.8 | 38.4 | 30.0 |
| 岩手 | 30.6 | 28.7 | 24.2 | 24.9 | 19.8 | 25.2 | 28.1 | 17.9 | 14.9 |
| 秋田 | 26.3 | 27.1 | 30.7 | 29.4 | 29.0 | 22.4 | 21.4 | 21.7 | 18.5 |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 山 | 形 | 34.4 | 35.1 | 35.8 | 15.3 | 9.0 | 10.2 | 15.8 | 18.1 | 19.3 |
| 宮 | 城 | 49.2 | 49.4 | 46.9 | 33.7 | 26.9 | 19.3 | 18.3 | 16.7 | 19.2 |
| 福 | 島 | 52.7 | 36.0 | 35.2 | 16.0 | 14.7 | 12.1 | 13.4 | 17.5 | 20.6 |
| 茨 | 城 | 30.2 | 19.6 | 15.9 | 20.9 | 14.8 | 15.7 | 23.3 | 15.1 | 11.7 |
| 栃 | 木 | 34.4 | 27.9 | 17.3 | 39.9 | 32.2 | 23.3 | 19.2 | 14.8 | 14.2 |
| 群 | 馬 | 21.8 | 22.8 | 40.5 | 42.0 | 27.8 | 10.5 | 13.6 | 12.1 | 10.1 |
| 埼 | 玉 | 20.6 | 19.5 | 18.3 | 19.0 | 15.9 | 14.5 | 11.7 | 8.8 | 16.2 |
| 千 | 葉 | 19.2 | 13.4 | 15.0 | 12.4 | 6.4 | 12.3 | 8.2 | 10.8 | 10.3 |
| 東 | 京 | 15.8 | 12.2 | 17.2 | 12.9 | 8.4 | 9.0 | 6.2 | 5.2 | 6.4 |
| 神 | 奈 | 15.9 | 13.0 | 17.1 | 16.5 | 10.6 | 8.1 | 16.2 | 13.2 | 4.2 |
| 新 | 川 | 19.5 | 14.1 | 14.1 | 15.2 | 17.7 | 9.3 | 7.3 | 9.5 | 9.7 |
| 富 | 湯 | 9.4 | 7.2 | 14.4 | 9.6 | 12.8 | 9.0 | 6.0 | 8.1 | 11.9 |
| 石 | 山 | 12.0 | 9.5 | 14.8 | 12.2 | 9.1 | 10.6 | 11.2 | 11.7 | 14.4 |
| 福 | 川 | 17.5 | 15.1 | 13.4 | 11.3 | 9.5 | 8.0 | 12.9 | 10.7 | 12.7 |
| 長 | 井 | 12.2 | 11.1 | 9.0 | 8.3 | 5.3 | 8.6 | 5.7 | 6.0 | 6.1 |
| 岐 | 野 | 11.2 | 11.5 | 11.5 | 9.2 | 11.4 | 13.8 | 15.5 | 10.3 | 11.7 |
| 滋 | 阜 | 12.9 | 12.0 | 4.7 | 5.4 | 5.8 | 5.7 | 3.8 | 5.9 | 9.0 |
| 山 | 賀 | 10.3 | 8.6 | 13.4 | 17.6 | 11.0 | 9.3 | 18.5 | 18.5 | 16.0 |
| 静 | 梨 | 14.8 | 9.1 | 9.3 | 10.8 | 9.1 | 7.6 | 7.2 | 5.1 | 3.5 |
| 愛 | 岡 | 23.5 | 20.8 | 19.9 | 17.7 | 18.3 | 19.6 | 15.9 | 17.2 | 18.4 |
| 三 | 知 | 18.7 | 18.6 | 16.1 | 14.8 | 15.0 | 18.3 | 8.7 | 11.4 | 13.9 |
| 京 | 重 | 25.9 | 18.0 | 10.0 | 8.1 | 9.8 | 9.5 | 8.4 | 7.9 | 6.5 |
| 兵 | 都 | 30.0 | 24.3 | 29.3 | 19.5 | 20.8 | 21.9 | 16.7 | 18.4 | 16.7 |
| 大 | 庫 | 21.5 | 22.4 | 18.3 | 25.4 | 23.0 | 24.8 | 16.5 | 20.5 | 17.5 |
| 奈 | 阪 | 27.0 | 21.5 | 16.7 | 18.1 | 23.5 | 22.4 | 20.3 | 31.2 | 21.0 |
| 和 | 歌 | 9.2 | 11.6 | 11.3 | 8.9 | 12.4 | 7.8 | 6.3 | 7.3 | 7.7 |
| 島 | 山 | 14.8 | 14.5 | 18.2 | 17.1 | 12.1 | 12.1 | 13.1 | 10.6 | 10.9 |
| 岡 | 取 | 19.8 | 15.7 | 13.6 | 9.5 | 8.9 | 12.8 | 10.8 | 9.4 | 8.0 |
| 廣 | 根 | 24.2 | 24.9 | 19.9 | 19.9 | 20.1 | 19.0 | 19.6 | 18.7 | 13.6 |
| 山 | 山 | 21.3 | 22.2 | 16.2 | 12.0 | 13.6 | 11.6 | 14.8 | 13.9 | 13.3 |
| 德 | 島 | 14.6 | 11.7 | 10.6 | 14.2 | 11.1 | 16.2 | 15.9 | 12.8 | 12.5 |
| 香 | 口 | 20.4 | 17.1 | 23.9 | 29.8 | 15.5 | 14.2 | 12.5 | 14.9 | 9.4 |
| | 川 | 27.7 | 22.9 | 22.5 | 21.6 | 22.4 | 23.6 | 17.5 | 17.4 | 20.4 |

| | | | | | | | | | | |
|---|---|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 愛 | 媛 | 14.7 | 14.9 | 9.3 | 13.9 | 12.9 | 14.9 | 16.2 | 16.2 | 14.1 |
| 高 | 知 | 11.1 | 8.7 | 9.1 | 5.2 | 6.5 | 7.8 | 12.3 | 9.3 | 8.5 |
| 大 | 分 | 54.7 | 38.3 | 35.3 | 29.7 | 18.7 | 21.0 | 19.5 | 18.6 | 18.0 |
| 福 | 岡 | 39.2 | 31.1 | 34.8 | 30.5 | 24.0 | 28.2 | 29.2 | 27.7 | 14.3 |
| 佐 | 賀 | 38.0 | 25.1 | 26.9 | 24.0 | 22.5 | 24.8 | 19.8 | 17.1 | 14.5 |
| 長 | 崎 | 39.4 | 13.2 | 18.3 | 18.6 | 19.8 | 21.6 | 17.2 | 15.3 | 11.4 |
| 熊 | 本 | 19.6 | 23.4 | 23.5 | 22.7 | 25.3 | 24.9 | 17.5 | 16.3 | 11.7 |
| 宮 | 崎 | 40.3 | 24.3 | 28.7 | 19.3 | 21.0 | 17.1 | 16.5 | 19.2 | 15.0 |
| 鹿 | 兒 | 25.6 | 27.1 | 26.5 | 11.5 | 20.3 | 16.6 | 17.0 | 15.6 | 13.5 |
| 沖 | 島 | 17.8 | 22.6 | 27.9 | 32.1 | 26.8 | 30.3 | 21.4 | 28.8 | 14.3 |
| 朝 | 繩 | 21.4 | 21.3 | 11.4 | 13.1 | 11.1 | 12.6 | 15.5 | 11.0 | 10.6 |
| 養 | 鮮 | 18.8 | 16.0 | 8.3 | 8.2 | 10.6 | 9.0 | 6.9 | 6.0 | 6.7 |
| 禰 | 灣 | 8.9 | 15.5 | 15.6 | 17.4 | 23.9 | 9.9 | 25.5 | 22.5 | 22.2 |
| 關 | 東 | 13.2 | 10.2 | 17.4 | 12.9 | 13.5 | 19.2 | 17.2 | 10.8 | 8.9 |
| 青 | 州 | — | — | — | — | 25.4 | 20.0 | 18.9 | 17.3 | 8.8 |
| 支 | 島 | 15.4 | 26.7 | 9.3 | 5.6 | 7.1 | 12.0 | 9.9 | 7.4 | 2.6 |
| 中 | 支 | — | — | — | — | — | — | — | 7.0 | 2.4 |
| 計 | | 24.0 | 20.7 | 20.5 | 18.6 | 16.8 | 16.5 | 15.3 | 14.8 | 13.4 |

トラホームガ何時頃ヨリ世界ニ存在セシモノナルカハ不明ナルモ歐羅巴ニ於テハ既ニ千七百年前本病ニ關スル記載アリ。然レドモ一般世人ノ注意ヲ惹クニ至リシハ彼ノ有名ナルナポレオンノ埃及遠征以來ノコトナリ。

即チ西歴1798年五月ナポレオンボナバルトハ35000ノ軍ヲ率キテ埃及ニ遠征シ連戦連勝セシモ當時埃及ニハ傳染性眼疾流行シ遠征軍ハ之ガ爲ニ著シク憊マサレ傷者ハ傷ヨリモ一層眼疾ノ爲ニ苦シミ特別ノ眼病院ガカイロー外ニ箇所ニ設ケラレタリト云フ。此ノ眼疾ハ1801年八月佛軍ノ歸還セシ後始メテ下火トナリシモ尙1816年マデハ散發性ニ佛軍中ニ存在セリ。又ナポレオンノ敵タリシ英軍ハ1800年埃及ニ上陸セシ以來佛軍ト同様ニ殆ンド全軍トラホームニ罹リ數箇ノ眼病院建設セラルハニ至レリ。1803年同軍ノ歸還セシ際眼病

ハ軍隊ノ到着セシ到ル處ニ傳播シ就中殊ニ烈シク英國ニ流行セリ。其ノ當時ノ眼疾ノ何ナリシカハ明カナラザルモ其ノ大部分ハトラホームナリシコト推測セラル。爾來此ノ眼疾ヲ軍陣眼炎 Ophthalmia militaris 又ハ埃及眼炎 Ophthalmia aegyptiaca ト稱シトラホームノ歴史的異名トセラル。

日本ニモ昔ヨリトラホームハ存在セシナランモ其ノ人々ノ注意スルニ至リタルハ近年ノコトナリ。

第十四章 トラホームノ豫防法

トラホームノ豫防撲滅ハ大別シテ二トス。曰ク

1. 現在患者ヲ治療スルコト
2. 新患者ノ發生ヲ豫防スルコト

是ナリ。

現在トラホームニ罹リ居ル者ヲ治療シ治癒セシメムガ爲ニハ先ヅ患者ヲ發見スルコトニ努メザルベカラズ。即チトラホームノ檢診ヲ普及セシムルコト必要ナリ。

「トラホームの檢診は 轉ばぬ先の 杖と知れ 日本トラホーム豫防協會」

「トラホームの下女を 雇入れて見よ 然らば 日ならずして 汝の子女は 悉く トラホーム患者となるべし」

「輕きトラホームは 見逃すこと多し」

「二つありとて 油斷をするな 眼ほど大事な ものではない 杉山警察醫」

「次ニトラホーム患者ヲ發見セバ 其傳染力ノ強大ナルモノト

否ラザルモノト 速ニ治療ヲ要スルモノト 否ラザルモノトヲ區別シ傳染力強大ナルモノハ之ヲ隔離シ治療ヲ要スルモノニハ強制的ニ治療ヲ命ズ。之ガ爲ニハトラホームノ診療ニ堪能ナル醫師ノ養成及公設診療機關ノ設置ヲ要ス。醫師ノ養成ニハ希望者ヲ募リ大學其他ノ醫學校ニ於テ1-2箇月間講習ヲ受ケシムレバ可ナリ。又診療機關トシテハ成ルベク受診者ヲシテ費用ト時間ト勞力トヲ節約シ得ル方法ヲ講ズルヲ要ス。

匈牙利國ニハ8箇ノトラホーム病院ト42人ノ政府トラホーム醫アリ。尙18人ノ地方醫師ニトラホーム治療ノ爲手當ヲ支給シ便宜ノ場所ニ診療所ヲ設ケテ無料ニテ診療シ輕症者ハ1週1回日曜日毎ニ又重症者ハ1週2-3回ヲ來ラシメ必要ニ應ジ入院治療セシメラル。此ノ場合ニハ患者及附添人ノ汽車賃ハ半減セラル。

「早期に治療すれば トラホームは 容易に治癒す」

「迷信は 却てトラホームを 蔓延せしむ」

次ニ新患者ノ發生ヲ豫防スル爲ニハトラホームニ關スル智識ヲ普及セシムルコト最モ必要ナリ。即チトラホームノ害及其傳染性疾患ナルコト傳染ハ分泌物ニ依ルコト及其傳染經路之ニ對スル豫防方法等ヲ一般ニ知ラシムルコトナリ。

之ガ爲ニハ印刷物ノ配付 揭示 新聞雜誌ノ利用 衛生講話 展覽會 幻燈 活動寫真ノ應用等種々ナル方法アルベシト雖概シテ讀ミタルヨリモ聞キタル方了解シ易ク又聞キタルヨリモ見タル方感覺強ク且ツ長ク記憶スルモノナルヲ以テ實物模型 標本 圖畫等ノ供覽ハ最モ有効ナル方法ナルベシ。

「トラホーム豫防の最良武器は清潔なり 日本トラホーム豫防協會」
 「驚く勿れ 我が國に 一千万のトラホーム患者あり 同上」
 「トラホームの蔓延は 文明國民の恥辱なり 同上」
 「トラホームの種は 兒童に蒔かれ 後 失明の實を結ぶ 同上」
 「トラホームを絶滅せよ 之によつて 吾等は 年々 一億圓の富を得べし」

トラホームノ傳染ハ 患者ノ 眼脂ヨリス。故ニ 患者ノ 使用シタル 手拭 寢具 衣服 洗面器 其ノ他ノ 器具ハ 危險物トシテ 之ニ 觸レザル如クスベシ。又 之等ノ 物品ハ 成ルベク 屢々 消毒スルヲ 要ス。既ニ 第四章ニ 於テ 述ベタルガ 如ク トラホームノ 病原體ハ 乾燥 及 熱ニ 對シテ 抵抗力 比較的 弱キモノナルヲ 以テ 前記ノ 危險物ハ 成ルベク 日光ニ 曝シテ 乾燥セシメ 又 屢々 熱湯ヲ 以テ 洗フヲ 可トス。

「手拭が手傳をする トラホーム 小波」

「手拭は親子の中も 他人なり 小波」

「日光の はいらぬ家に やまひ入る」

吾人ノ 手ハ 何時 如何ナル 場所ニテ トラホームノ 病毒ニ 觸レタルヤモ 計リ難キヲ 以テ 爪ヲ 短剪シ 且ツ 屢々 石鹼ヲ 以テ 洗フヲ 可トス。手ヤ 顔ヲ 屢々 洗フト云フコトガ トラホーム豫防 及 治療上 卓効アルハ 明カナリ。

「トラホームの病毒は 不潔を好む」

手ヲ 以テ 眼ニ 觸レザル如ク スルコトハ 亦 極メテ 必要ナリ。

手ヲ 以テ 眼ヲ 摩擦スレバ トラホーム病毒ガ 眼ニ 入ル 危險アルノ ミナラズ 眼ニ 充血 乃至 結膜炎ヲ 起シ トラホームノ 感染ヲ 容易ナラシム。又 患者ニ 就キラ云ヘバ 眼ニ 觸レザル如ク 注意スルコトハ 病毒ヲ シテ 散蔓セシメザルノ 利アリ。

結膜ニ 損傷 又ハ 炎症アレバ トラホームニ 罹リ易キコトハ 前述ベタル如ク 實驗上 明カナル事實ナリ。故ニ 眼ハ 常ニ 健康ナラシメ 若シ 異常アレバ 速ニ 治療ヲ 要ス。

「巨萬の富も 一の眼を 購ふこと 能はず」

「花を見るも 眼なり 月を賞するも 眼なり」

「人生 快樂の大半 は失明と共に失はる」

尙 トラホーム豫防上 守ルベキ攝生法 次ノ如シ。

塵埃ノ 眼ニ 入ラザル如ク スルコト

空氣ノ 不潔ナル場所ヲ 避クルコト

過度ニ 眼ヲ 使用セザルコト

酒 煙草 刺戟性調味料ヲ 節スルコト

睡眠ノ 不足セザルコト 夜深カシ セザルコト 等」

附録一 トラホーム豫防法規

『トラホーム』豫防法 (大正八年三月廿六日法律第二十七號)

第一條 醫師「トラホーム」患者ヲ診斷シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ患者又ハ其ノ保護者ニ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ指示スヘシ

當該官吏又ハ吏員ハ必要ト認ムルトキハ「トラホーム」患者又ハ其ノ保護者ニ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ指示スヘシ

第一項又ハ前項ノ規定ニ依リ指示ヲ受ケタル者ハ其ノ指示ニ從ヒ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ行フヘシ

第二條 「トラホーム」患者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケヘシ

「トラホーム」患者ノ保護者ハ其ノ患者ヲシテ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケシムヘシ

第三條 行政官廳ハ「トラホーム」患者ニシテ治療ヲ受クルノ途ナキ者ニ對シ治療ヲ施行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ治療ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ患者所在地ノ市町村ノ負擔トス

第四條 行政官廳ハ「トラホーム」豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ行フコトヲ得

- 一 檢診ヲ施行スルコト
- 二 「トラホーム」患者ニ對シ客ニ接スル業務ニ從事スルヲ停止スルコト
- 三 學校・幼稚園・製造所其ノ他ノ多衆ノ集合スル場所又ハ旅店・料理店・理髮店其ノ他ノ客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ付病毒傳播ノ媒介トナルヘキ事項ヲ制限シ若ハ禁止シ又ハ場所ノ管理ヲ爲ス者若ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ對シ「トラホーム」豫防上必要ナル施設ヲ爲サシムルコト

地方長官ニ於テ前項第一號ノ檢診ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第五條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ「トラホーム」ノ豫防及治療ニ關スル施設ヲ爲スヘシ

第六條 北海道地方費又ハ府縣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ「トラホーム」ノ豫防及治療ノ爲費用ノ支出ヲ爲ス市町村ニ對シ其ノ費用ノ補助ヲ爲スヘシ

第七條 國庫ハ前條ノ補助ノ爲其ノ他「トヲホー△」ノ豫防及治療ノ爲費用ノ支出ヲ爲ス北海道地方費又ハ府縣ニ對シ其ノ支出額ノ六分ノ一ヲ補助ス

第八條 官廳、公署、官立公立ノ學校製造所等ニ於テハ其ノ長ハ第四條第一項第三號ノ規定ニ準シ「トヲホー△」豫防ニ關スル事項ヲ施行スヘシ

第九條 第一條第一項又ハ第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十條 第四條第一項ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十一條 本法ニ於テ保護者ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一 未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ未成年者若ハ禁治産者ノ後見人、親權ヲ行フ者又ハ後見人ナキトキハ戶主、戶主未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ戶主ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ戶主ノ後見人

二 教育、監護又ハ備使ノ目的ヲ以テ未成年者ヲ寄寓セシムル者又ハ其ノ法定代理人

第十二條 本法中市町村トアルハ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノトス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

「トヲホー△」豫防法施行期日ノ件 (大正八年八月二十三日) 勅令第四百十三號

トヲホー△豫防法ハ大正八年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

告諭第四號

トヲホー△豫防ニ關シテハ明治三十二年四月告諭第二號ヲ發シ爾來豫防ニ關スル規程ヲ設ケ又ハ各種方法ヲ以テ之カ豫防撲滅ニ努ムル處アリシモ未タ十全ヲ期シ難キノミナラス本縣ニ於ケルトヲホー△ハ其ノ蔓延殊ニ甚シク全國中殆ト其ノ比ヲ見サルノ狀態ナルハ甚タ遺憾ニ堪ヘス隨テ之カ損害ノ莫大ナルハ今更言テ俟タス之カ豫防撲滅ニ關シテハ一日モ忽緒ニ付スヘカラサルナリ之ヲ以テ政府ハ本年三月法律第二十七號ヲ以テトヲホー△豫防法ヲ制定公布シ患者又ハ其ノ保護者ニ對シテハ醫師當該吏員等ノ指示ニ從ヒ消毒其ノ他ノ豫防方法ノ實行及受療ノ義務ヲ課シタル次第ナルカ先般勅令

ヲ以テ愈之カ豫防法施行ノコト、ナレリ蓋シ本病ノ如キ慢性傳染病ノ豫防撲滅ハ獨リ官憲ノ手ノミヲ以テ克クスヘキニアラス必ラスヤ國民自衛心ノ發達ト治術救濟ノ完全トニ俟タサルヘカラスサレハ法規ノ精神ヲ体得シ概ネ左記豫防心得ニ依リ病毒ニ感染セサル様注意スルハ勿論其ノ既ニ病患アル者ハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ據リ特ニ之カ豫防消毒ノ方法ヲ嚴行スルト共ニ速ニ醫師ノ診療ヲ受ケ一日モ早ク治癒セシムルコトニ努メラル、ヲ要ス

大正八年十二月二十六日

宮城縣知事 森 正 隆

豫 防 心 得

- 一 手拭手巾ノ類ハ清潔ヲ保チ相互ニ貸借セサルコト
- 二 風呂湯ニテ顔ヲ洗ヒ又ハ數人同一ノ湯水ニテ洗面セサルコト
- 三 洗面器ハ勿論衣類、寢具、居室其ノ他ノ清潔ヲ保持シ且可成塵埃ノ飛散煤烟ノ發生等ヲ防クコト
- 四 常ニ手指顔面殊ニ眼ノ清潔ニ努メ指爪ハ短剪スルコト
- 五 眼脂ハ清潔ナル専用ノ白布類ニテ拭ヒ手指ニテ目ヲ擦ラサルコト
- 六 患者ノ手拭ト洗面器ハ必ス専用トシ特ニ清潔ヲ保持スルコト
- 七 患者ノ使用シタル手拭洗面器其ノ他ノ器具等ヲ不得止使用セムトスルトキハ必ス煮沸スルカ又ハ熱湯ニテ洗淨スルコト

縣令第一號

トヲホー△豫防法施行細則左ノ通定ム

明治四十一年二月縣令第七號ハ之ヲ廢止ス

大正九年一月六日

宮城縣知事 森 正 隆

トヲホー△豫防法施行細則

第一條 市町村ハ豫防及治療ニ關シ左ノ施設ヲ爲スヘシ

- 一 市町村内居住者ニ對シ毎年二月ヨリ四月ノ間ニ於テ檢診ヲ行フコト但シ壯丁ニ對シテハ前年十二月ニ於テ之ヲ行ヒ爾後徵兵檢査ニ至ル迄毎月施行スルコト
- 二 前號檢診ニ於テ發見シタル患者ノ名簿ヲ調製シ患者又ハ保護者ニ治療券ヲ交付

シテ治療ヲ督勵スルコト

- 三 治療ヲ受ケルノ途ナキ患者並特ニ必要アリト認ムル者ニ對シ治療ノ方法ヲ講スルコト
- 四 患者専用ノ洗面器手拭等ヲ購入スヘキ資力ナキ者ニ對シテハ市町村ニ於テ給與又ハ貸與スルコト
- 五 前各號ノ外土地ノ狀況ニ依リ豫防及治療ニ關シ相當施設ヲ爲スコト

第二條 警察官署長ニ於テ治療ヲ受ケルノ途ナキ患者ナルコトヲ認知シタルトキハ所在地市町村長ニ通知シ治療ヲ施行セシムヘシ

第三條 市町村長ハ檢診成績ヲ調査シ五月三十日限所轄警察官署ニ報告スヘシ

警察官署長ハ之ヲ集計シ六月十五日迄ニ報告スヘシ

壯丁トラホーム檢診成績ハ市町村ニ在リテハ翌月五日迄警察官署長ハ十日迄前項ニ依リ報告スヘシ

第四條 市町村長ハ治療成績ヲ調査シ翌年一月末日迄ニ所轄警察官署ニ報告スヘシ警察官署長ハ之ヲ集計シ二月末日迄ニ報告スヘシ

第五條 左記ノ者ニ對シテハ第一條第一號ノ規定ニ依ルノ外臨時檢診ヲ行フコトアルヘシ但本條第一號及第二號ニ掲ケル者ニシテ重症トラホームニ該當スルトキハ必要ノ期間從業ヲ停止スルモノトス

- 一 旅人宿、下宿屋、料理店、飲食店、貸座敷、理髮店、湯屋、其他客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ於ケル從業者
- 二 看護婦、按摩、鍼、灸術營業、藝妓、娼妓、酌婦、仲賣其ノ他直接客ニ接スル業務ニ従事スル者
- 三 其ノ他必要ト認メタル者

第六條 施行規則第二條ニ依ル適用場所ノ外左ノ通指定ス

- 一 第一項ヲ適用スヘキモノ
 - 貸座敷、遊技場、飲食店、貸席、鑛泉浴場、神佛禮拜所、鑛泉場、海水浴場等ノ貸家工場其他多衆ノ寄寓若ハ集合スル場所又ハ客ノ來集ヲ目的トスル場所

第七條 市町村ニ於テ設備スヘキ帳簿並報告其他ノ様式左ノ如ク定ム

治療券

トラホーム治療券

郡市 町字 番地

何ノ誰ノ年齢

一 重

一 輕

一 疑似

交付年月日

遵守事項

- 一 患者ノ手拭ハ専用トシ其ノ清潔ニ注意スルコト
- 二 洗面器ハ患者用ト健康者用トヲ區別スルコト
- 三 患者ノ常用手拭又ハ洗面器ノ類ヲ代人ニ交付シ又ハ使用セシメムトスルトキハ煮沸スルカ又ハ熱湯ヲ以テ洗淨スルコト
- 四 眼脂ヲ拭フニハ清潔ナル専用ノ布片類ヲ用フルコト
- 五 指爪ヲ短剪シ顔面手指ノ清潔ニ注意スルコト
- 六 以上ノ外醫師又ハ當該吏員ノ指示シタル事項
- 七 療治ヲ受ケルトキハ必ス此券ヲ提出シ醫師ノ捺印ヲ受ケヘシ
- 八 治癒シタルトキハ備考ニ醫師ノ證明ヲ受ケ市町村長ニ返納スヘシ
- 九 當該吏員ノ請求アリタルトキハ本券ヲ提示スヘシ

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 何 | 一日 | 二日 | 三日 | 四日 | 五日 | 六日 | 七日 | 八日 | 九日 | 十日 | 十一日 | 十二日 | 十三日 | 十四日 | 十五日 | 十六日 |
| 月 | 十七日 | 十八日 | 十九日 | 二十日 | 廿一日 | 廿二日 | 廿三日 | 廿四日 | 廿五日 | 廿六日 | 廿七日 | 廿八日 | 廿九日 | 三十日 | 卅一日 | |

備考

縣令第二號

ト ラ ホ ー ム 豫 防 費 補 助 規 程 左 ノ 通 定 ム

大正九年一月六日

宮城縣知事 森 正 隆

ト ラ ホ ー ム 豫 防 費 補 助 規 程

- 第一條 郡ニ於テト ラ ホ ー ム 豫 防 及 治 療 ニ 關 シ 支 出 シ タ ル 費 用 ニ 對 シ テ ハ 其 ノ 四 分 ノ 一 以 內 縣 費 ヨ リ 補 助 ス
- 第二條 市 町 村 ニ 於 テ ト ラ ホ ー ム 豫 防 及 治 療 ニ 關 シ 精 算 額 參 拾 圓 以 上 ナ 支 出 シ タ ル 費 用 ニ 對 シ 左 ノ 區 分 ニ 依 リ 縣 費 ヨ リ 補 助 ス 但 シ 支 出 過 當 ト 認 ム ル ト キ ハ 查 定 ス ル コ ト ア ル ヘ シ
 - 一 治 療 ニ 關 ス ル 費 用 三 分 ノ 一
 - 二 豫 防 ニ 關 ス ル 費 用 四 分 ノ 一
- 第三條 市 町 村 ノ 支 出 額 其 ノ 負 擔 ニ 堪 ヘ ス ト 認 ム ル ト キ 又 ハ 特 別 ノ 事 由 ア ル ト キ ハ 前 條 ノ 區 分 制 限 ニ 拘 ラ ス 支 出 額 ノ 二 分 ノ 一 又 ハ 全 部 迄 ナ 補 助 ス ル コ ト ア ル ヘ シ
- 第四條 本 令 ニ 依 リ 補 助 受 ケ ム ト ス ル ト キ ハ 第一 號 様 式 ニ 依 リ 翌 年 六 月 三 十 日 迄 ニ 之 ナ 申 請 ス ヘ シ 但 シ 止 ム ナ 得 サ ル 事 情 ノ 爲 メ 本 期 間 內 ニ 申 請 ス ル コ ト 能 ハ サ ル ト キ ハ 理 由 ナ 具 シ 期 日 前 ニ 認 可 ナ 受 ケ ン
- 第五條 申 請 書 ニ 添 付 ス ヘ キ 精 算 書 ハ 第二 號 様 式 ニ 依 リ 調 製 ス ヘ シ
- 第六條 支 出 ニ 伴 フ 收 入 又 ハ 寄 附 金 ア ル ト キ ハ 支 出 總 額 ヨ リ 其 ノ 收 入 ナ 控 除 シ 其 ノ 旨 申 請 書 ニ 明 記 ス ヘ シ
- 第七條 本 令 ニ 依 リ 町 村 長 ヨ リ 提 出 ス ヘ キ 書 類 ハ 郡 長 ナ 經 由 ス ヘ シ
- 第八條 郡 長 ニ 於 テ 補 助 ノ 申 請 又 ハ 延 期 申 請 ナ 受 理 シ タ ル ト キ ハ 相 當 調 査 ナ 遂 ケ 意 見 ナ 具 シ 速 ニ 進 達 ス ヘ シ

衛發第八五號

大正九年一月九日

宮城縣警察部長

各警察官署長殿

依命通牒

ト ラ ホ ー ム 豫 防 施 行 ニ 關 件 ス ル

今 回 縣 令 第一 號 ナ 以 テ ト ラ ホ ー ム 豫 防 法 施 行 細 則 ハ 發 布 相 成 候 處 ト ラ ホ ー ム 豫 防 法 ハ 醫 師 ナ シ テ 患 者 又 ハ 保 護 者 ニ 消 毒 其 ノ 他 ノ 豫 防 方 法 ナ 指 示 ス ル ノ 義 務 ナ 負 ハ シ メ 患 者 又 ハ 保 護 者 ニ 對 シ テ ハ 之 ナ 遵 守 シ テ 治 療 ス ル ノ 義 務 ナ 課 シ 若 シ 治 療 ナ 受 ク ル ノ 途 ナ キ 者 ニ 對 シ テ ハ 強 制 治 療 ナ 爲 ス コ ト ナ 得 セ シ メ 又 接 客 業 者 ノ 檢 診 若 ハ 從 業 停 止 其 ノ 他 多 衆 集 合 ス ル 場 所 又 ハ 客 ノ 來 集 ナ 目 的 ト ス ル 場 所 ニ 對 ス ル 制 限 殊 ニ 法 第三 條 ノ 治 療 強 制 ニ 關 シ テ ハ 警 察 官 署 長 之 ナ 行 ヒ 同 時 ニ 一 層 監 督 指 導 ノ 任 ナ 重 フ セ ラ レ タ ル ナ 以 テ 之 カ 施 行 ニ 就 キ テ ハ 大 要 左 ノ 各 項 ニ 依 リ 慎 重 計 劃 ナ 樹 テ 實 施 上 遺 算 ナ カ ラ シ メ 以 テ 所 期 ノ 目 的 ナ 達 成 セ ム コ ト ニ 努 メ ラ ル ベ シ

- 一 法 第一 條 第二 項 ニ 依 リ 當 該 官 吏 又 ハ 吏 員 ノ 指 示 ス ヘ キ 消 毒 其 ノ 他 ノ 豫 防 方 法 ノ 內 容 ニ 關 シ テ ハ 大 体 ニ 於 テ 施 行 規 則 第一 條 ノ 醫 師 ノ 指 示 ス ヘ キ 事 項 ニ 準 據 ス ル コ ト 尤 モ 患 家 ノ 狀 況 等 ニ 依 リ 右 事 項 以 外 ニ 涉 リ 豫 防 上 必 要 ナ リ ト 認 ム ル 事 項 ナ 指 示 ル コ ト ナ 得
- 二 施 行 規 則 第一 條 ニ 規 定 ス ル 醫 師 ノ 指 示 ス ヘ キ 事 項 ハ 醫 師 ノ 指 示 ス ヘ キ 義 務 ノ 最 大 限 ナ 定 メ ラ レ タ ル モ ノ ナ ル ト 同 時 ニ 醫 師 ノ 指 示 ナ 遵 守 ス ヘ キ 義 務 ノ 範 圍 ナ 確 定 シ タ ル モ ノ ナ リ 尤 モ 本 則 ノ 定 ム ル 事 項 以 外 ニ 豫 防 上 必 要 ナ リ ト 認 ム ル 事 項 ナ 指 示 ス ル 妨 害 ナ 只 此 ノ 場 合 ニ 於 テ ハ 指 示 ナ 受 ケ タ ル 者 ハ 法 律 上 之 ナ 遵 守 ス ヘ キ 義 務 ナ キ モ ノ ナ ル コ ト
- 三 法 第一 條 ノ 義 務 不 履 行 ニ 對 シ テ ハ 法 第九 條 ニ 依 リ 科 料 ニ 處 セ ラ ル ヘ シ ト 雖 モ 制 裁 ナ 以 テ 罷 ム ハ 豫 防 上 已 ム ナ 得 サ ル 場 合 ニ 限 ル ヘ ク 安 リ ニ 此 等 ノ 者 ニ 制 裁 ナ 加 ヘ サ ル コ ト
- 四 法 第三 條 ニ 依 リ 警 察 官 署 長 ニ 於 テ 治 療 ナ 受 ク ル ノ 途 ナ キ 患 者 ニ 對 シ 治 療 ナ 施 行 ス ル ニ 當 リ テ ハ 豫 メ 患 者 所 在 地 ノ 市 町 村 長 ト 親 シ ク 協 議 ス ヘ ク 若 シ 協 議 調 ハ サ ル 場 合 ニ 於 テ ハ 情 ナ 具 シ 指 揮 ナ 受 ク ル コ ト
- 五 法 第四 條 第一 項 第二 號 ニ 依 リ 行 政 官 廳 ニ 於 テ ト ラ ホ ー ム 患 者 ニ 對 シ 客 ニ 接 ス ル 業 務 ニ 從 事 ス ル コ ト ナ 停 止 ス ル 場 合 ニ 於 テ ハ 安 リ ニ 事 由 ナ 拘 束 ス ル カ 如 キ コ ト ナ キ 様 慎 重 ニ 之 ナ 決 ス ヘ ク 其 ノ 必 要 ア ル ト キ ハ 豫 メ 症 狀 ナ 詳 具 シ 指 揮 ナ 受 ク ル コ ト 從 業 ナ 停 止 ス ヘ キ 患 者 ノ 症 狀 ハ 第十 一 項 ニ 示 セ ル 診 斷 分 類 標 準 中 重 症 ト ラ ホ ー ム ノ 「イ」 ニ 該 當 ス ル モ ノ ナ ル コ ト

六 理髮店ニ於ケル洗面器ハ可成撤去セシメ流出装置ノ洗面所ヲ設備セシムルコト
湯屋ニ於ケル洗面所亦同シ

七 工場法及鑛業所ノ適用セラル、工場及鑛業ニ對シテハ該法ニ特別ノ規定アル範圍ニ於テ本法ハ適用セラレサルコト

八 治療施行ノ方法トシテハ市町村長ト協議シ概ネ左ノ各號ニ依リ施行セシムルコト

- (一) 適宜治療所ヲ設ケ必要ノ人員ヲ雇入レ及器具藥品等ヲ設備スルコト
- (二) 巡回治療、夜間治療其ノ他治療ノ普及方法ヲ講スルコト
- (三) 可成トラホーム診療ニ經驗アル醫師ヲシテ治療ニ方ラシムルコト

九 細則第一條第五號ノ豫防施設中ノ必行事項左ノ如シ

- (一) 印刷物、講話其ノ他ノ方法ニ依リ豫防上ノ智識普及徹底ヲ圖ルコト
- (二) トラホーム豫防上必要ナル風習ノ改良ヲ行フコト
- (三) 市街地又ハ人家稠密多衆集合ノ場所ニ在リテハ塵埃ノ飛散ヲ防クタメ撒水ヲ勵行スルコト

一〇 警察官署ニハ市町村ト同一様式ノ患者名簿ヲ調製シ治療ヲ督勵スヘシ

一一 市町村及施行規則第二條ニ於ケル豫防及治療ニ關スル規程又ハ施設事項ヲ報告スルコト其ノ改訂シタルトキ亦同シ

一二 トラホーム診断分類ハ左ノ標準ニ據ル

(一) 重症

- イ 結膜ニ汎ク顆粒簇生スルモノ顆粒ノ發生ト共ニ乳嘴ノ増殖著シキモノ又ハ炎症高度ニシテ分泌旺盛ナルモノ
- ロ トラホーム性パンヌスヲ起シ其ノ進行中ニアルモノ

(二) 輕症

- イ 顆粒ノ發生乳嘴ノ増殖等トラホーム性病變カ瞼結膜ノ内外眦部半月狀皺襞又ハ穹窿部ニ限局スルモノ
- ロ 結膜ニ於ケル病變程度ニシテ分泌少ナキモノ

(三) 疑似症

- イ トラホームニ類似スル症狀アルモノ直ニトラホームト診定シ難キモノ

ロ 結膜ニトラホーム經過ノ疑アル癩痕アリテ炎症ヲ伴フモノ

衛發第八七號

大正九年一月九日

宮城縣知事 森 正 隆

宮城縣醫師會長殿

トラホーム豫防法實施ニ關スル件

今般トラホーム豫防法實施ノ結果同法第一條第一項及施行規則第一條ニ於テ醫師ハ患者又ハ保護者ニ對シ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ指示スルノ義務ヲ課セラレ候處同規定ノ醫師ノ指示スヘキ義務ノ最大限ヲ定メラレタルモノナルト同時ニ患者又ハ保護者ニ於テ醫師ノ指示ヲ遵守スヘキ義務ノ範圍ヲ確定シタルモノニ有之候ヘ共患者ノ狀況等ニ依リ本則ノ定ムル事項以外ニ豫防上必要ナリト認ムル事項ヲ指示スルモ妨ケナク只此ノ場合ニ於テハ指示ヲ受ケタル者ハ法律上之ヲ遵守スヘキ義務ナシト雖モ豫防上必要ノ事項ハ可成懇諭實行ヲ期セラレ候様致度尙トラホーム診断分類標準左ノ通全國統一ノ意味ヲ以テ其ノ筋ヨリ通牒ノ次第モ有之ニ付右ニ依リ御取扱相成今後一層豫防救治ノ目的ヲ達成スルコトニ御援助相成候様各郡市醫師會員ニ徹底方特ニ御取計相煩度追テ別冊トラホーム診断指針十八部及送付候條各郡市醫師會ニ御配付相成度

トラホーム診断分類標準

トラホーム豫防上傳染力ノ強弱及治療ノ緩急ニ基キトラホームヲ重症輕症ノ二種ニ分ナ別ニ疑似症ヲ設ケ

重症

重症トラホームハ概ネ左ノ如キモノヲ謂フ

- イ 結膜ニ汎ク顆粒簇生スルモノ顆粒ノ發生ト共ニ乳嘴ノ増殖著シキモノ又ハ炎症高度ニシテ分泌旺盛ナルモノ
- ロ トラホーム性「パンヌス」ヲ起シ其ノ進行中ニアルモノ

輕症

輕症トラホームハ概ネ左ノ如キモノヲ謂フ

- イ 顆粒ノ發生、乳嘴ノ増殖等トラホーム性病變カ瞼結膜ノ内外眦部、半月狀皺襞又ハ穹窿部ニ限局スルモノ

ロ 結膜ニ於ケル病變輕度ニシテ分泌少ナキモノ

疑似症

トヲホー ム疑似症トハ概ネ左ノ如キモノヲ謂フ

- イ トヲホー ムニ類似スル病狀アルモ直ニトヲホー ムト診定シ難キモノ
- ロ 結膜ニトヲホー ム經過ノ疑アル癩痕アリテ炎症ヲ伴フモノ

『トヲホー ム』豫防法施行規則

(大正八年八月廿三日
内務省令第十三號)

第一條 「トヲホー ム」豫防法第一項ノ規定ニ依リ醫師ノ指示スヘキ消毒其ノ他ノ豫防方法ハ左ノ各號ニ準據スヘシ

- 一 患者ノ手拭ハ専用トシ其ノ清潔ニ注意スルコト
- 二 洗面器ハ患者用ト健康者用トヲ區別スルコト
- 三 患者ノ常用シタル手拭、洗面器ノ類ヲ他人ニ交付シ又ハ使用セシノムトスル時ハ煮沸スルカ又ハ熱湯ヲ以テ洗濯スルコト
- 四 眼脂ヲ拭フニハ清潔ナル専用ノ布片類ヲ用キルコト
- 五 指爪ヲ短剪シ顔面手指ノ清潔ニ注意スルコト

第二條 學校、幼稚園、製造所又ハ鐵道電車船舶自動車馬車等ノ發着待合所、劇場、寄席、活動寫眞館、旅店、下宿屋、料理店、理髮店、湯屋其ノ他地方長官ノ指示シタル多衆ノ集合スル場所又ハ客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ於テハ左ニ掲ケル事項ヲ遵守スヘシ

- 一 貸手拭又ハ共用手拭ヲ備ヘサルコト但シ使用者毎ニ清潔ナルモノヲ使用セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 - 二 手洗水ハ流出裝置トナスコト
- 學校、幼稚園、製造所其ノ他地方長官ノ指定シタル場所ニ於テハ前項各號ノ外洗面器ハ患者用ト健康者用トヲ區別スヘシ

第三條 「トヲホー ム」豫防法第六條ノ規定ニ依ル北海道地方費又ハ府縣ノ補助ハ左ノ區分ニ依ル但シ市町村ノ支出額參拾圓未滿ナルトキハ補助セサルコト得

- 一 治療ニ關スル費用ハ支出額ノ四分ノ一以上

二 豫防ニ關スル費用ハ支出額ノ六分ノ一以上

前項ノ支出額トハ事業ニ伴フ收入又ハ寄附金ノ額ヲ控除シタル支出精算額ヲ謂フ

第四條 「トヲホー ム」豫防法第三條行政官廳ノ職務ハ警察署長又ハ警察分署長、同法

第四條行政官廳ノ職務ハ内務大臣又ハ地方長官之ヲ行フ

「トヲホー ム」豫防法及本令ノ規定ニ依ル地方長官ノ職務ハ東京府ニ在リテハ警視總監之ヲ行フ

附 則

本令ハ「トヲホー ム」豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

トヲホー ム 豫防法施行ニ關スル 注意事項

衛發第二〇二號

大正八年八月二十八日

衛生局長

各地方長官宛(東京ハ總監及知事連名)

「トヲホー ム」豫防法施行ニ付依命通牒

來ル九月一日ヨリ「トヲホー ム」豫防法及其ノ施行規則施行相成候處實施上注意スヘキ事項等左記ノ通御了知相成度

- 一 法第一條第二項ニ依リ當該官吏又ハ吏員ノ指示スヘキ消毒其ノ他ノ豫防方法ノ内容ニ關シテハ大體ニ於テ施行規則第一條ノ醫師ノ指示スヘキ事項ニ準據スルコト尤モ患者ノ狀況等ニ依リ右事項以外ニ涉リ豫防上必要ナリト認ムル事項ヲ指示スルヲ得ルコト
- 二 施行規則第一條ニ規定スル醫師ノ指示スヘキ事項ハ醫師ノ指示スヘキ義務ノ最大限ヲ定メタルモノナルト同時ニ醫師ノ指示ヲ遵守スヘキ義務ノ範圍ヲ確定シタルモノナリ尤モ本則ノ定ムル事項以外ニ豫防上必要ナリト認ムル事項ヲ指示スルモ妨ケナク只此ノ場合ニ於テハ指示ヲ受ケタル者ハ法律上之ヲ遵守スヘキ義務ナキモノナルコト
- 三 法第一條ノ義務不履行ニ對シテハ法第九條ニ依リ科料ニ處セラルヘシト雖モ制裁ヲ以テ泄ムハ豫防上已ムヲ得サル場合ニ限ルヘク妄リニ此等ノ者ニ制裁ヲ加ヘサ

ルコト

- 四 法第三條ニ依リ警察署長又ハ警察分署長ニ於テ治療ヲ受クル途ナキ「トラホーム」患者ニ對シ治療ヲ施行スルニ當リテハ豫メ患者所在地ノ市町村長ト親シク協議スヘク若シ協議調ハサル場合ニ於テハ地方長官ノ指揮ヲ受ケシムルコト
- 五 法第四條第一項第二號ニ依リ行政官廳ニ於テ「トラホーム」患者ニ對シ客ニ接スル業務ニ従事スルコトヲ停止スル場合ニ於テハ妄リニ自由ヲ拘束スルカ如キコトナキ様愼重ニ之ヲ決セラレタシ尙從業ヲ停止スヘキ業態及患者ノ症狀ハ大體左ノ標準ニ據ルコト

(甲) 從業停止ヲ行フヘキ業態

旅店、下宿屋、料理店、理髮店、其ノ他客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ於ケル從業者ニシテ直接客ニ接スル者及看護婦、按摩、鍼灸業者、藝妓、娼妓其ノ他直接客ニ接スル業務ニ従事スル者

(乙) 從業停止ノ必要アル患者ノ症狀ノ程度

第十項ニ定ムル診斷分類標準中重症「トラホーム」ノ一ニ該當スルモノ

- 六 「トラホーム」豫防ノ爲メ此ノ際可成專任技術官ヲ設置セラレタキコト
- 七 工場法及鑛業法ノ適用セラル、工場及鑛業ニ對シテハ該法ニ特別ノ規定アル範圍ニ於テハ本法ハ適用セラレサルコト
- 八 施行規則第二條ニ掲ケタル事項ハ全國一般ニ遵守セシムル必要アル事項ナルヲ以テ此ノ以外ニ尙地方ノ事情ニ因リ豫防上必要アリト認ムル事項ハ地方長官ニ於テ之ヲ命スルヲ妨ケサルコト
- 九 市町村ノ豫防及治療ニ關スル施設ノ完備ヲ獎勵スル爲メ市町村ノ支出シタル此等ノ費用ニ對シ府縣ニ於テハ可成充分ノ補助ヲ爲スコト
- 十 「トラホーム」診斷分類ニ付テハ左ノ標準ニ據ルコト

「トラホーム」診斷分類標準

「トラホーム」豫防上傳染力ノ強弱及治療ノ緩急ニ基キ「トラホーム」ヲ重症輕症ノ二種ニ分テ別ニ疑似症ヲ設ク

重症

重症「トラホーム」トハ概ネ左ノ如キモノヲ謂フ

- 一、結膜ニ汎ク顆粒發生スルモノ顆粒ノ發生ト共ニ乳嘴ノ増殖著シキモノ又ハ炎症

高度ニシテ分泌旺盛ナルモノ

- 二、「トラホーム」性「パンヌス」ヲ起シ其ノ進行中ニアルモノ

輕症

輕症「トラホーム」トハ概ネ左ノ如キモノヲ謂フ

- 一、顆粒ノ發生、乳嘴ノ増殖等「トラホーム」性病變カ驗結膜ノ内外眥部半月狀皺襞又ハ穹窿部ニ局限スルモノ
- 二、結膜ニ於ケル病變輕度ニシテ分泌少ナキモノ

疑似症

「トラホーム」疑似症トハ概ネ左ノ如キモノヲ謂フ

- 一、「トラホーム」ニ類似スル病症アルモ直ニ「トラホーム」ト診斷シ難キモノ
- 二、結膜ニ「トラホーム」經過ノ疑アル癬痕ヲ伴フモノ

『トラホーム』診斷指針

(一、「トラホーム」診斷指針ハ「トラホーム」診斷ノ指針タラシムル爲メ内務省囑託醫學博士石原忍ヲシテ記述セシメタルモノナリ)

第一「トラホーム」ハ一種ノ傳染性結膜炎ニシテ通常極メテ徐々ニ始マリ慢性ニ經過シ結膜殊ニ上下穹窿部、半月狀皺襞又テ驗結膜ノ内外眥部尙進ンテハ驗結膜ノ全般ニ發赤、肥厚、潤濁ト共ニ顆粒ヲ發生シ驗結膜ニ於テハ尙乳嘴ノ増殖ヲ來シ自覺的眼脂ノ分泌眼精疲勞等アリ

是等ノ他覺的及自覺的症狀ハ通常數年間繼續シ其ノ間一弛一張シ終ニハ汎發性癬痕ヲ形成シテ治癒ス

「トラホーム」ハ又稀ニ急性ニ發病スルコトアリ此場合ニハ上下穹窿部及驗結膜著シク發赤、腫脹、潤濁シテ表面粗糙トナリ分泌比較的多カラサレトモ凝固性ニ富ミ急性結膜炎ノ治療ヲ加フルモ容易ニ輕快セス通常數週間持續シ炎症ノ輕快スルニ從ヒ漸次顆粒ヲ現ハシ終ニ微細ナル癬痕ヲ貽シテ治癒ス又時トシテ慢性ニ移行スルコトアリ「トラホーム」ノ經過中ニ屢々角膜ニ「パンヌス」ヲ起スコトアリ然ルトキハ自覺的羞明、流淚、異物ノ感乃至疼痛アリ又瞳孔領侵サレハ視力減退ス他覺的ニハ角膜上縁ニ接スル球結膜充血シ角膜ノ上部潤濁シテ表面粗糙トナリ結膜ノ血管之ニ進入ス「パンヌス」ノ經過モ略々結膜ニ於ケル病變ノ經過ニ等シク一弛一張終ニ癬痕(角膜

翳) ナ胎シテ治癒ス

「パンヌス」ノ外「トラホーム」ノ合併症トシテ角膜ニ加答兒性潰瘍ヲ發生スルコトアリ其好シテ起ル部位ハ角膜ノ周邊部ナレトモ時トシテ又中央部ニ起ルコトアリ潰瘍ノ恢復期ニハ屢々結膜ヨリ血管進入シテ恢復性「パンヌス」ヲ形成ス
結膜及角膜ノ外「トラホーム」ハ又淚器ヲ侵ス淚器ノ「トラホーム」ハ通常他覺的著變ヲ認メス自覺的ニモ亦其癢痕朝ニ鼻淚管狹窄ノ爲流淚症ヲ訴フルコトアルニ過キサルヲ常トス但シ往々慢性淚囊炎ヲ併發シ淚囊部ヲ壓迫スレハ淚點ヨリ濃汁ヲ漏出スルコトアリ

「トラホーム」ハ好シテ眼瞼ノ深部ニ進入シ且癢痕化スルヲ以テ其ノ末期ニ於テハ屢々瞼裂縮小シ眼瞼内腫シ睫毛亂生シ爲ニ角膜ハ睫毛ノ機械的刺戟ヲ受ケテ發炎シ潤濁ス

第二 「トラホーム」ハ即チ「トラホーム」性結膜炎ナリ故ニ之ヲ診斷スルニハ

- (イ) 結膜・角膜等ニ炎症ノ存在スルコト
- (ロ) 其炎症ガ「トラホーム」性ノモノナルコト
ノ二ツガ必要ナリ

第三 「トラホーム」ノ診斷ハ主トシテ肉眼的所見ニ依ルノ外ナキヲ以テ從テ大ニ熟練ヲ要スルノミナラス豫メ健常結膜及角膜ノ所見ヲ十分ニ知得スルコト肝要ナリ
健常結膜ノ要件ハ其菲薄透明ニシテ表面滑澤ナルコトナリ從テ其色鮮ニシテ能ク下層ノ組織ヲ透視シ明ニ血管走行ノ狀ヲ見ルコトヲ得
健常角膜ノ上縁ハ境界判然タル半月狀ノ半透明ノ一帯ヲ以テ鞏膜ト界セラル

第四 検査ノ順序ハ概ネ左ノ如クスルヲ便トス

先ツ下眼瞼上ニ拇指ヲ置キ被検査チシテ上方ヲ見シメ下眼結膜及下穹窿部ヲ檢ス次テ上眼瞼ヲ翻轉シテ上眼結膜ヲ見尙一方ノ拇指ヲ以テ翻轉シタル儘上眼瞼ヲ上方ニ牽引シ被検査チシテ下方ヲ見シメツ、他方ノ拇指或ハ示指ト中指トヲ以テ下眼瞼上ヨリ眼球ヲ少シク後方ニ壓スレバ通常上穹窿部ヲ見ルコトヲ得次テ内眥ニ近ク上眼瞼ヲ上方ニ牽引シ被検査チシテ外下方ヲ見シメ半月狀皸裂ヲ檢ス次ニ要スレハ指ヲ以テ淚囊部ヲ壓迫シ淚點ヨリ膿或ハ其他ノ液體ノ出ツルヤ否ヲ檢ス
角膜ノ微細ナル變化ヲ見ルニハ斜照法ヲ行ヒ尙要スレハ「ルーペ」ヲ以テ擴大シ檢ス
ヘシ

第五 「トラホーム」ノ診斷上必要ナル症状ハ概ネ左ノ如シ

- (一) 結膜ノ發赤、肥厚、潤濁及乳嘴ノ増殖
- (二) 顆粒
- (三) 汎發性癢痕
- (四) 「トラホーム」性「パンヌス」
- (五) 眼瞼内腫症、睫毛亂生症、瞼裂縮小症、後瞼味癒着症等ノ續發症

而シテ「トラホーム」ト診斷シテ概ネ誤ナキ場合ハ左ノ如シ

- (イ) 結膜ノ肥厚、潤濁、乳嘴ノ増殖ト同時ニ顆粒ノ存在スル場合
- (ロ) 結膜ノ肥厚、潤濁、乳嘴ノ増殖ト同時ニ汎發性癢痕ノ存在スル場合
- (ハ) 結膜ノ肥厚、潤濁、乳嘴ノ増殖ト同時ニ「トラホーム」性「パンヌス」ノ存在スル場合
- (ニ) 結膜ノ肥厚、潤濁、乳嘴ノ増殖ト同時ニ「トラホーム」續發症ノ存在スル場合
- (ホ) 膠様ノ大ナル顆粒ノ存在スル場合
- (ヘ) 顆粒ト同時ニ汎發性癢痕ノ存在スル場合
- (ト) 顆粒ト同時ニ「トラホーム」性「パンヌス」ノ存在スル場合
- (チ) 顆粒ト同時ニ「トラホーム」續發症ノ存在スル場合
- (リ) 汎發性癢痕ト同時ニ「トラホーム」性「パンヌス」ノ存在スル場合

「トラホーム」性「パンヌス」ノミアリテ他ニ全ク變化ナキモノハ之ヲ疑似症ト爲ス可トシ又「トラホーム」續發症ノミアルモノハ場合ニ依リ疑似症ト爲シ或ハ「トラホーム」ノ既ニ治癒シタルモノト爲ス可トス

第六 結膜ノ發赤、肥厚、潤濁及乳嘴ノ増殖ハ慢性結膜炎ニ共通ノ症状ニシテ「トラホーム」ノ診斷上最必要ナルトモ唯此レノミヲ以テ直チニ「トラホーム」ト診斷スルコト能ハス必ス同時ニ他ノ前記ノ症状ノ一ツ或ハ二ツ以上ヲ具備セサルヘカラス(第五參照)

第七 顆粒ト濾胞トハ組織學上大差ナキモノニシテ只「トラホーム」ノ時ニ之ヲ顆粒ト稱シ他ノ良性ノモノハ之ヲ濾胞ト謂ヒテ區別スルノミ
顆粒(濾胞)ハ組織學上白血球ノ聚落ニシテ大小種々アリ圓形又ハ橢圓形ニシテ境界判然タルモノナレトモ之ヲ圍邊スル組織ノ異ナルカ爲ニ臨床上左ノ如キ各種ノ狀ヲ呈ス

- (イ) 濾胞ノ周圍ノ結膜健康ニシテ非薄透明ナラハ濾胞ハ一見水泡ノ如ク境界判然トシテ半球狀ニ突出ス之ヲ結膜濾胞症ト謂フ結膜濾胞症ノ濾胞ハ小ニシテ其好發部位ハ下穹窿部ナリ
- (ロ) 結膜濾胞症ニ單性結膜炎ヲ合併セルモノヲ濾胞性結膜炎ト謂フ此場合ニハ濾胞ノ周圍ニ發赤腫脹シタル組織アルヲ以テ濾胞モ亦若干發赤腫脹シテ見ユ「トラホーム」トノ相違ハ結膜ニ肥厚・潤濁及乳嘴ノ増殖ノ著シカラサルコト及濾胞ノ通常小ニシテ主トシテ下穹窿部ニアルコトナリ然レドモ時トシテ濾胞ノ下穹窿部以外ニモ發生スルコトアリ又周圍ノ潤濁ノ比較的高度ナルコトアリテ「トラホーム」ニ極メテ類似ノ狀ヲ呈スルコトアリ但シ濾胞ハ決シテ相融合スルコトナク又大ナル膠様ノ顆粒ヲ形成スルコトナシ
- (ハ) 「トラホーム」顆粒ノ特徴ハ周圍ニ肥厚・潤濁シタル組織アリ或ハ乳嘴増殖シテ顆粒ヲ蔽ヒ爲ニ顆粒ハ潤濁シテ境界明カナラサルコトナリ而シテ穹窿部及半月狀皺襞ニ於テハ顆粒ハ通常濾胞ヨリモ大ニシテ稍隆起スレトモ瞼結膜ニ於テハ通常隆起スルコトナク帶黃色ノ斑點トナリテ現ハル又乳嘴増殖ノ著シキ場合ニハ顆粒ハ全ク其中ニ埋没シテ見エサルコトアリ
- (ニ) 「トラホーム」ノ癒痕期ニ主トシテ穹窿部及半月狀皺襞ニ大ナル膠様ノ顆粒ヲ發生スルコトアリ此場合ニハ周圍ノ組織ハ既ニ大部分癒痕トナリテ收縮シ結膜非薄ナルヲ以テ顆粒ハ稍半球ニ突出シ帶黃白色ニシテ光澤アリ一見膠様ノ觀ヲ呈シ好シテ相融合シテ花壇狀ヲ爲シ壓スレハ容易ニ破壊ス此膠様ノ顆粒ハ稀ニ結膜ノ他ノ部分即チ瞼結膜球結膜又極メテ稀ニ角膜ニモ發生スルコトアリ
- 癒痕期ニ於ケル瞼結膜ノ顆粒ハ稀ニ膠様ノ觀ヲ呈スレトモ多クハ之ヨリ小ニシテ隆起セス帶黃白色ニシテ境界判然タリ

濾胞性結膜炎ト「トラホーム」トノ相違ハ本態及原因ノ相違ト經過及豫後ノ相違トナリ而シテ本態及原因ハ容易ニ之ヲ知り難キモ經過ヲ觀察スルトキハ濾胞ハ癒痕ヲ胎サスシテ比較的容易ニ治癒シ「トラホーム」ハ之ニ反ス

第八 結膜ニ於ケル汎發性癒痕珠ニ上瞼結膜ニ汎發スル癒痕ハ「トラホーム」以外ノ疾患ニ因リテ來ルコト殆ントナシ故ニ結膜珠ニ上瞼結膜ニ汎發性癒痕アラハ現在「トラホーム」ニ罹レルカ若クハ嘗テ「トラホーム」ニ罹リタルコトアルカノ何レカナリ

ト謂フコトヲ得而シテ現在「トラホーム」ニ罹リ居ルコトヲ診定スル爲ニハ必ス尙「トラホーム」性炎症ノ存在スルコトヲ確カメサルヘカラス(第五参照)然レニ吾人ノ結膜ハ外界ノ種々ナル刺激ニ因リテ容易ニ發炎スルモノナルヲ以テ「トラホーム」ノ既ニ治癒シタル後モ往々ニシテ尙結膜炎ノ症狀ヲ呈シ屢々「トラホーム」ノ治否ニ就イテ診斷ニ迷フコトアリ斯ノ如キ場合ニハ暫ク之ヲ疑似症トシ經過ヲ觀察スルヲ可トス然ルトキハ「トラホーム」ノ未タ治癒セサルモノナラハ一二年ノ經過中ニハ通常再ヒ増悪シテ其特有ノ症狀ヲ現ハスモノナリ

「トラホーム」ハ一旦治癒シタル如ク見ユルモ好テ再發増悪スルモノナルヲ以テ診斷ニ方リ注意スルヲ要ス

第九 「トラホーム」性「パンヌス」ハ極メテ特種ノ形狀ヲ爲シ常ニ角膜上縁ヨリ始マリ漸次下方ニ進行シ其ノ下縁ハ概テ横ニ走ル一線ヲ以テ界セラレ結膜ノ血管數條概テ縦ニ相平行シテ垂下シ其狀宛モ簾ヲ垂レタルカ如シ

「パンヌス」ノ治癒後ニハ翳ヲ胎シ角膜上縁ニ於ケル鞏膜トノ境界不明瞭トナリ屢々細小ナル血管ノ之ニ進入スルヲ見ル

「パンヌス」ト「パンヌス」經過後ノ角膜翳トノ臨床上ノ相違ハ「パンヌス」ニハ角膜炎ノ症狀アリ即チ自質ノ羞明・流淚・異物ノ感等アリ他覺的角膜ノ潤濁及其表面ノ粗糙球結膜ノ充血ヲ呈スレトモ角膜翳ハ自覺的ニハ唯場合ニ依リ視力障礙アルノミ他覺的角膜潤濁スレトモ其表面滑澤ニシテ球結膜ニ充血ヲ見サルニ在リ

第十 眼瞼内腫症・睫毛亂生症等癒痕收縮ニ因スル諸種ノ續發症カ相合併シテ兩眼ニ來ルハ殆ント常ニ「トラホーム」ニ基因スルモノナリ然レトモ癒痕ハ炎症ニアラサルヲ以テ之ヲ「トラホーム」ト診斷スル爲ニハ必ス結膜ニ尙「トラホーム」性炎症ノ存在スルコトヲ確カメサルヘカラス(第五参照)

眼瞼内腫症・睫毛亂生症等アルトキハ睫毛角膜ヲ摩擦シテ屢々角膜炎乃至「パンヌス」ヲ起ス而シテ此角膜炎乃至「パンヌス」ハ「トラホーム」性「パンヌス」トハ全然別種ノモノニシテ診斷上必要ナルモノニハアラス然レトモ斯ノ如キ場合ニハ通常結膜モ亦若干ノ炎症々狀ヲ呈スルヲ以テ「トラホーム」ノ既ニ治療シタリヤ否ヤノ診斷困難ナルコト屢々アリ此場合ニハ前ニ第六ニ於テ述ヘタルカ如ク暫ク疑似症トシテ其ノ經過ヲ觀察スルヲ可トス

眼瞼内腫症・睫毛亂生症等ハ傳染ノ顧慮ヨリスレハ殆ント意義ナキモノナレトモ角

膜ヲ刺戟シ視力ヲ害スルヲ以テ治療ヲ要スル點ニ於テハ「パンヌス」又ハ角膜潰瘍ニ準シテ取扱ハルヘキモノナリ

第十一 「トラホーム」ノ傳染ハ患者ノ眼脂ヨリスルモノナルヘキヲ以テ豫防上ヨリ見レハ分泌ノ多量ナル「トラホーム」ハ傳染ノ虞レ大ナルモノトシテ最注意スルヲ要ス然レトモ分泌ノ量ハ容易ニ之ヲ知り難キヲ以テ分泌ノ概ネ結膜ニ存スル炎症ノ程度ニ比例スルモノト看做シ結膜炎ノ高度ナルモノヲ以テ傳染ノ虞レ大ナルモノトシ之ヲ重症トシテ處置スルヲ適當トス

又角膜ニ「パンヌス」或ハ潰瘍アリ或ハ眼症内腫症、睫毛亂生症等アル者ハ速ニ之ヲ治療セザレハ視力ノ障礙益々大ナルヘキヲ以テ治療ヲ要スル程度ト患者ノ苦痛トノ方面ヨリ亦之ヲ重症ニ加フルヲ可トスレトモ其ノ傳染力ハ遙ニ前者ノ後ニアルモノト謂フヘシ

第十二 経過ヲ觀察セザレハ「トラホーム」ナリヤ否ヤノ診斷ヲドシ難キ場合概ネ左ノ如シ

(イ) 結膜ニ炎症アリ且濾胞等アリテ「トラホーム」ノ疑アルモ直チニ「トラホーム」ト診定シ難キモノ

(ロ) 結膜ニ汎發性癢痕アリ或ハ眼瞼内腫症、睫毛亂生症等アリ或ハ角膜上部ニ「パンヌス」経過後ノ翳アル等一旦「トラホーム」ニ罹リタル痕跡アリ且結膜ニ若干ノ炎症々狀アリテ尙「トラホーム」再發ノ虞アルモノ

第十三 「トラホーム」診斷分類標準中重症一ハ結膜ノ炎症高度ニシテ角膜潰瘍及眼瞼内腫症、睫毛亂生症等ニ因スル角膜炎等モ之ニ準スヘキモノナリ(第十一参照)

輕症一ハ初期ノ「トラホーム」ナリ(第一参照)但シ初期ノ「トラホーム」ト雖分泌旺盛ニシテ傳染ノ虞レ大ナルモノハ重症一ニ入ルヘキモノトス又輕症ニハ結膜ニ於ケル炎症輕ク分泌少ク傳染ノ虞レ亦比較的大ナラサルモノナリ

疑似症ハ第十二ニ述ヘタルモノニシテ豫防及治療上「トラホーム」ニ準シテ處置スヘキモノナリ

「トラホーム」ハ何レノ時期ニモ傳染力ヲ有ス而シテ重症ト謂ヒ輕症ト謂フハ唯其ノ傳染力ノ程度ニ差アルヲ示スノミナリ而シテ疑似症中ニハ傳染力ノ大ナルモノモ小ナルモノ又皆無ナルモノモアリ

附錄二 トラホーム用藥物及處方

ABC 順索引

| | | |
|---|---------------------------|----------------------------|
| A | アドレナリン..... XLV. | 可溶性枸橼酸銅..... XX. XXXII. |
| | アイロール..... XLIV. | キセロフォルム..... XLIX. |
| | アルギロール..... XLVI. | 皓礬..... XXXVIII. XIV. |
| B | バンカイン..... IV. XXVI. | コカイン..... XXXVII. |
| C | チアン汞..... IX. LV. | 枸橼酸銅..... XXXI. |
| | チクロール..... XII. XXXII. | クプロチトロール..... XXX XXXI. |
| | チオジナミン..... X. | クロールアムモニウム..... XXVIII. |
| D | テルマトール..... XLIII. | クロールナトリウム..... XXVII. LII. |
| | デオニン..... XI. | クシロール..... XXXII. |
| | 碓砂..... VIII. XXVIII. | M 明礬..... L. |
| E | 鹽化アドレナリン..... XL. XLV. | N ナルベリツン..... XXV. XXXIII. |
| | 鉛錯..... XII. LIII. | ネオカイン..... XXIV. XXVI. |
| | 鹽酸コカイン..... XLII. XXXVII. | ノウオカイン..... XXVI. |
| | 鉛糖..... XXXIX. XLVII. | 乳酸..... V. |
| F | フイプロリジン..... XXXIII. | O オイカイン..... XV. |
| | フルオレスチン }..... XXXIV. | 黄降汞..... XVII. |
| | フルオレスセイン }..... XXXIV. | オキシチアン汞..... XIX. LVI. |
| | フォルマリソ..... XXXV. | オルトフォルム..... XVI. |
| H | 白降汞..... III. | 黄色酸化汞..... XVIII. XVII. |
| | 硼酸..... VI. | P ビオクタニン..... LIV. |
| | 硼砂..... VII. | プロタルゴール..... XXXVI. |
| I | イヒチオール..... II. | R 硫酸亞鉛..... XIV. |
| | イトロール..... I. | 硫酸銅..... XIII. |
| J | デオニン..... XI. | S 醋酸鉛..... XLVII. |
| | 次醋酸鉛液..... LIII. | 酸化チアン汞..... XLVIII. LVI. |
| | ヨードフォルム..... XXI. | 青酸汞..... VI. |
| | ヨード酸..... XXII. | 青酸々化汞..... LVI. |
| K | 過マンガン酸カリウム..... XXIX. | 石炭酸..... LVIII. |
| | | 昇汞..... LI. |

| | |
|----------------------|--------------------|
| 食鹽.....LII. | チオシナミン.....X. |
| 硝酸銀.....LVII. | Y ヨードフォルム.....XXI. |
| スピカイソ.....LIX. XXVI. | ヨード酸.....XXII. |
| T タンニン酸.....XXIII. | |

(主薬名イロハ順)

I. イトロール

Itrol.

枸橼酸銀ナリ。白色 微細ノ粉末。水ニ溶解シ難キヲ以テ 水溶液ヲ製スルニハ 先ツ本劑ニ 少量ノ冷水ヲ加ヘテ 振盪シ 之ニ殘餘ノ水ヲ 熱シテ加ヘ 振盪スベシ。無刺激性消毒薬ナリ。光ニヨリテ 變化スルヲ以テ 著色壺ニ容レ 貯フベシ。

| | |
|-------------------|-------------------|
| 1 イトロール | 漏性結膜炎 (トラホーム)。但シ特 |
| 以上 褐色廣口壺ニ入レ 毛筆ヲ以 | 異質アリテ 角膜ニ 浸潤ヲ起スコ |
| テ 結膜面ニ散布ス。1日1回 (膜 | トアルヲ以テ 注意スベシ。 |

II. イヒチオール

Ichthyol.

本名 スルフォイヒチオール酸アムモニウム。焦土様ノ臭氣アル 暗赤褐色テール状ノ液。水ト混和ス。消炎 防腐 及 鎮痛ノ效アリ。

| | | | |
|-------------------|--------|----------|----------|
| 2 イヒチオール | 0.15 | 亞鉛華 | } 各 10.0 |
| 亞鉛華 | 5.0 | 澱粉 | |
| 澱粉 | 3.0 | ワセリン | |
| ワセリン | 15.0 | 同上 | |
| 以上研和 爲パーテルス氏泥膏 | 1 | 4 イヒチオール | 1.0 |
| 日1-3回點眼 (急性結膜炎 重桿 | | 亞鉛華 | 0.1-1.0 |
| 菌性結膜炎) | | 澱粉 | 1.0 |
| 3 イヒチオール | 0.20.5 | ワセリン | 10.0 |

| | | | |
|---------------------|----------|--------------------------------|----------|
| 同上 (アキセンフェルド氏) | | 以上混和 結膜面ニ塗布 $\frac{1}{2}$ -1 分 | |
| 5 イヒチオール | 5.0-10.0 | 時ノ後 水ヲ以テ洗滌ス (結膜炎) | |
| 蒸留水 | 10.0 | 7 イヒチオール | 3.0-10.0 |
| 以上混和 1日1回 眼瞼結膜面ニ塗 | | ワセリン | 10.0 |
| 布 後 1-2分間 按摩ス (結膜炎) | | 以上研和 貼用 (眼瞼縁炎 麥粒腫 | |
| (バナ氏) | | 急性涙囊炎) | |
| 6 イヒチオール | 5.0 | 8 イヒチオール | 0.1-1.0 |
| グリセリン | 1.0 | ワセリン | 10.0 |
| 蒸留水 | 4.0 | 以上點眼 按摩 (春季加答兒) | |

III. 白降汞

Hydrargyrum

praecipitatum album.

白色ノ粉末 又ハ塊片 主ニ軟膏トシテ 眼瞼縁炎 脂漏性濕疹等ニ用ヒラル。弱キ腐蝕作用 及 防腐ノ效アリ。

| | | | |
|------------------|---------|-----------|------|
| 9 白降汞 | 0.1-0.5 | 同上 | |
| ワセリン (又グリセリン軟膏) | 10.0 | 11 白降汞 | 0.5 |
| 以上研和 不透明器ニ容レ 塗布料 | | 亞鉛華 | 5.0 |
| (眼瞼縁炎) | | ワセリン | 10.0 |
| 10 白降汞 | 0.1-0.5 | 同上 (頭部濕疹) | |
| ラノリン | } 各 5.0 | | |
| ワセリン | | | |

IV. バンカイン

Bancaïn.

ノウオカイント同一物ナリ

V. 乳酸

Acidum lacticum.

無色 無臭 舍利別状ノ液。水ト混和ス。專ラ 結膜結核ニ用ヒラル。刺激強キヲ以テ 豫メ コカイン水 ノ點眼ヲ要ス。

12 乳酸

以上結膜面ニ塗布 後 直ニ水ヲ以テ洗滌ス (結膜結核)

| | |
|-------|---------|
| 13 乳酸 | } 各 5.0 |
| 蒸留水 | |
| 同上 | |

VI. 硼 酸

Acidum boricum.

無色ノ結晶。25倍ノ水ニ溶解ス。刺激ナキ 弱キ消毒 及 收斂藥。

| | | | |
|--------------|-----------|------------------------------|---------|
| 14 硼酸 | 20.0-30.0 | ワセリン | 20.0 |
| 水 | 1000.0 | 以上研和 塗布料 (無刺激性軟膏) | |
| 以上洗滌料 或ハ 巻法料 | | 17 硼酸 | 0.1-0.2 |
| 15 硼酸 | 10.0 | 茴香水 | 1.0 |
| サリチール酸 | 1.0 | 蒸留水 | 9.0 |
| 水 | 500.0 | 以上點眼料 1日3回 (無刺激性點眼液) (春季加答兒) | |
| 以上洗滌料 | | | |
| 16 硼酸 | 0.5-1.0 | | |

VII. 硼 砂

Borax.

白色ノ結晶。17倍ノ水ニ溶解ス。弱キ收斂藥。

| | | | |
|--------------------|------|-------|---------|
| 18 硼砂 | 0.3 | 19 硼砂 | } 各 4.0 |
| 硼酸 | 0.1 | 重曹 | |
| 蒸留水 | 15.0 | 食鹽 | |
| 以上點眼料。1日3回 (慢性結膜炎) | | 蒸留水 | 400.0 |
| | | 以上巻法料 | |

VIII. 礮 砂

Salmiak.

クロールアムモニウムノ條下ヲ見ヨ。

IX. チア ン 汞

Hydrargyrum cyanatum.

青酸汞ノ條下ヲ見ヨ。

X. チオジナミン

Thiosinamin.

苦味ヲ有スル無色ノ結晶。水ニ溶解ス。癬癩ヲ軟化 吸收セシムルノ效アリ。之トサリチール酸ナトリウムトノ複體ヲファイプロリジント云フ。

| | | | |
|-----------------|---------|-----------|------|
| 20 チオジナミン | } 各 1.0 | 21 チオジナミン | 15.0 |
| アンチピリン | | アンチピリン | 7.5 |
| 蒸留水 | | 10.0 | 蒸留水 |
| 以上點眼 後 按摩 (角膜翳) | | 同上 | |

XI. チオ ニ ン

Dionin.

苦味ヲ有スル 白色 結晶性ノ粉末。水ニ溶解ス。モルヒネノ透導體ニシテ 結膜ニ用フレバ 充血 及 浮腫ヲ起シ 灼熱ヲ感ズ。數時ニシテ 經過ス。吸收ヲ促シ 又 鎮痛ノ效アリ。角膜ノ潤濁 虹彩炎 角膜潰瘍 等ニ用ヒラル。

| | | | |
|-------------|-------------|----------------------------|---------|
| 22 チオニン | 0.2-0.5-1.0 | 鹽酸ピロカルピン | 0.1-0.2 |
| 蒸留水 | 10.0 | 蒸留水 | 10.0 |
| 以上點眼 1日1-2回 | | 以上點眼 每時2-3滴 (膿濃眼ニ合併セル角膜潰瘍) | |
| 23 チオニン | 0.5 | 25 チオニン | 0.1 |
| 青酸タ化汞 | 0.002 | ラノリン | } 各 25 |
| 蒸留水 | 10.0 | ワセリン | |
| 同上 | | 以上研和 爲チオニン軟膏 點眼 | |
| 24 チオニン | 0.1 | | |

XII. チクロール

Ciculol.

クシロールト同一物ナリ。

XIII. 硫 酸 銅

Cuprum sulfuricum.

透映藍色ノ結晶。3.5倍ノ水ニ溶解シ 藍青色ノ液トナル。濃厚ナルモノハ 結膜 及 角膜ヲ腐蝕シ 稀薄液ハ 收斂作用ヲ有ス。主トシテ慢性結膜炎 殊ニトラホームニ用ヒラル。

| | |
|--------------------|----------|
| 26 硫酸銅 | 0.05 |
| 薔薇水 | |
| 蒸溜水 | 15.0 |
| 以上點眼 1日3回 (患者自宅用) | |
| 27 硫酸銅 | 0.1 |
| 蒸溜水 | } 各 10.0 |
| グリセリン | |
| 同上 (同上) | |
| 28 硫酸銅 | 0.5—2.0 |
| 蒸溜水 | } 各 10.0 |
| グリセリン | |
| 以上1日1回點眼 後 水ヲ以テ洗滌ス | |
| 29 硫酸銅 | 0.5 |
| 蒸溜水 | 10.0 |

| | |
|---|-----------|
| 同上 | |
| 30 硫酸銅 | 0.05—0.25 |
| ワセリン | 5.0 |
| 以上研和 1日1回點眼 | |
| 31 硫酸銅 | } 各 0.25 |
| 鹽酸コカイン | |
| グリセリン軟膏 | |
| 同上 (ヒルシュベルグ氏) | |
| 32 硫酸銅結晶 | |
| 以上濕シタル砥石ヲ以テ磨シ 稜角ヲ去リテ 平滑ニシ 結膜面ヲ輕ク2—3回擦過シ 直チニ 水ヲ以テ洗滌ス (慢性トラホーム) | |

XIV. 硫酸亞鉛

Zincum sulfuricum.

別名 皓礬。無色ノ結晶ニシテ 水ニ溶解ス。硝酸銀ト並ンテ 最も多ク用ヒラル。所ノ必要ナル收斂劑ナリ。

| | |
|------------------|-----------|
| 33 硫酸亞鉛 | 0.03—0.05 |
| 蒸溜水(或ハ1%食鹽水) | 10.0 |
| 以上點眼 1日3回 (結膜炎) | |
| 34 硫酸亞鉛 | 0.03 |
| 茴香水(或ハ杏仁水) | 2.0 |
| 蒸溜水(或ハ1%食鹽水) | 8.0 |
| 以上點眼 1日3回 (結膜炎) | |
| 35 硫酸亞鉛 | 0.02—0.04 |
| 鹽化アドレナリン(1:1000) | 1.0 |
| 蒸溜水 | 9.0 |
| 同上 | |
| 36 硫酸亞鉛 | 0.03—0.05 |
| 鹽酸コカイン | 0.05 |
| 蒸溜水(或ハ1%食鹽水) | 15.0 |
| 同上 | |

| | |
|----------------------------------|-------|
| 37 硫酸亞鉛 | 0.05 |
| 阿片丁幾 | 0.1 |
| 蒸溜水 | 15.0 |
| 茴香水 | 5.0 |
| 同上(シュミットリムブレル氏) | |
| 38 礫砂 | 0.5 |
| 硫酸亞鉛 | 1.25 |
| 蒸溜水 | 200.0 |
| 以上混和之ニ | |
| 精製樟腦 | 0.4 |
| 酒精(70%) | 20.0 |
| ノ溶液及 | |
| サフラン | 0.1 |
| ヲ加ヘ 24時間温浸シ 其間屢振盪シ 後濾過ス。爲黃色收斂性眼水 | |

| | | | |
|------------------|----------|-----------------------|-------|
| 適宜稀釋シ點眼ス (ホルスト氏) | | 蒸溜水 | 100.0 |
| 39 硫酸亞鉛 | 0.05—0.1 | 杏仁水 | 25.0 |
| 米國製白色ワセリン | 10.0 | 以上洗滌料 1日3回 (結膜炎 眼瞼綠炎) | |
| 以上研和 爲眼軟膏 點眼 | | | |
| 40 硫酸亞鉛 | 0.1—0.2 | | |

XV. オイカイン

Eucaïn.

通常 鹽酸メタオイカイン 又ハ 乳酸メタオイカイン ナ用フ。白色ノ結晶末。4%マテ水ニ溶解ス。局所麻痺藥トシテ コカイン ニ代用セラル。其長所次ノ如シ。1) 毒性 コカイン ノ 1/4—1/5 ナリ。2) 熱氣消毒ニ堪フ。3) 溶液ハ約4箇月間 變化セズ。4) 散瞳作用ナシ。5) 角膜ヲ侵サズ。2%ヨリ以上ハ 結膜ヲ刺戟ス。又 コカイン ニ反シテ 若干 充血ヲ起スノ不快アリ。

| | | | |
|--------------|------|------------------|------|
| 41 鹽酸メタオイカイン | 0.2 | 鹽化アドレナリン(1:1000) | 1.0 |
| 食鹽 | 0.08 | 食鹽 | 0.08 |
| 蒸溜水 | 10.0 | 蒸溜水 | 10.0 |
| 以上點眼 | | | |
| 鹽酸メタオイカイン | 0.1 | 以上煮沸滅菌シ 注射料トス | |

XVI. オルトフォルム

Orthoform.

無味 無臭 白色 微細ノ結晶性粉末。水ニハ徐々ニ溶解ス。鎮痛 防腐 及 分泌制止ノ効アリ。鎮痛作用ハ 末梢神經露出シアル場合ニ 最も顯著ナリ。

| | | |
|---------|---------|--------------------|
| オルトフォルム | 0.4 | 以上研和 爲10% オルトフォルム |
| ワセリン | } 各 2.0 | 軟膏 點眼 (トラホーム 角膜潰瘍) |
| ラノリン | | |

XVII. 黃降汞

Hydrargyrum precipitatum

flavum.

本名 黃色酸化汞。黃色無晶形ノ粉末。水ニ不溶。強キ刺戟劑ニシテ 古來軟膏トナシ 角膜瞶 眼瞼綠炎 フリクテン 等ニ用ヒラル。即チ パーゲンステツヘル氏軟膏ナリ。其

製法種々アリ。硝子上ニ塗抹シルーベテ以テ擴大シ檢スルモ黄降汞ノ顆粒ヲ見ザル事ヲ要ス。光線ニ因リ還元シテ灰白色トナルヲ以テ常ニ不透明器ニ貯フルヲ要ス。

44 黄降汞 0.05-0.2-1.0

米國製白色ワセリン 10.0

以上密ニ研和シパーゲンステッヘル氏軟膏トナシ不透明器ニ容レ硝子棒ヲ添フ。1日1-2回小豆大ヲ點眼シ3-5分間按摩ス(或ハ眼瞼縁ニ塗布)。

此ノ製法ハ先ヅ黄降汞ヲ取り之ニ約同量ノワセリンヲ加ヘ硝子製乳鉢ニ容レ重湯煎上ニ於テ温タメワセリンノ熔融スルヲ度トシテ重湯煎ヨリ下ロシ熔融シタルワセリ中ニテ研磨シ凝固スレバ再ビ温タメテ溶カシ斯克シテ高熱ヲ加フルコトナク研磨スルコト約20-30分間ニシテ冷ヤシ之ニ殘餘ノワセリンヲ加ヘテ研和スベシ(フックス氏法)。

45 黄降汞(新製未乾燥ノ含水粥狀ノモノ) 0.1-0.5

ワセリン } 各 1.0-2.0

蒸留水 }

米國製白色ワセリン 10.0

XVIII. 黄色酸化汞

Hydrargyrum oxydatum flavum.

黄降汞ノ條下ヲ見ヨ。

XIX. オキシチアン汞

Hydrargyrum oxycyanatum.

青酸々化汞ノ條下ヲ見ヨ。

XX. 可溶性枸橼酸銅

Cuprum citricum solubile.

同上(シャンツ氏)

此ノ製法ハ先ヅ昇汞2.0+食鹽2.0ヲ温湯40.0ニ溶解シ約30ノ温ニ冷却シタル後之ヲ15%ナトロン滴汁6.0+水10.0中ニ攪拌シツ、徐々ニ注加シ光ヲ遮リ1時間放置シ上清液ヲ捨テ之ヲ30ノ温湯ヲ以テ洗滌シ上清液ヲ捨ツルコト反復數回ニシテ其上清液ニ硝酸銀液ヲ加フルモ著明ノ濁濁ヲ起ササルニ至リテ其沈澱ヲ取り減壓濾過シテ水分ヲ去リ之ヲ秤量シ之ニ約9倍ノ無水ワセリンヲ加ヘテ研和スレバ約10%ノ黄降汞軟膏ヲ得。故ニ之ニ更ニ米國製白色ワセリンヲ加ヘテ所要ノ濃度トナスベシ。

46 黄降汞 0.25-0.5

ワセリン 10.0

豚脂 } 各 5.0

亞鉛華 }

澱粉 }

以上研和 塗布(眼瞼濕疹)

クシロールト同一物ナリ。

XXI. ヨードフォルム

Jodoform.

光澤アル黄色ノ結晶性粉末。特異ノ臭氣ヲ有シ水ニ不溶。分泌物ニ觸ルレバ徐々ニ分解シテ防腐ノ作用ヲナス。諸種ノ創面ニ用ヒラル。

47 ヨードフォルム粉末

ワセリン } 各 10.0

以上廣口壺ニ容レ毛筆ヲ以テ角

ワセリン }

膜潰瘍 其他 諸種ノ創面ニ撒布ス

以上研和 1日1-2回點眼

48 ヨードフォルム末 0.4-2.0

XXII. ヨード酸

Acidum jodicum.

無色ノ結晶性粉末。同量ノ水ニ溶解ス。腐蝕藥ナリ。

49 ヨード酸 0.1-0.3

50 ヨード酸 0.15

蒸留水 10.0

米國製白色ワセリン 10.0

以上點眼 1日3回(トラホーム)

同上(同上)

XXIII. タンニン酸

Acidum tannicum.

タンニン 或ハ鞣酸トモ稱ス。帶黄白色ノ粉末。味澁ク水ニ溶解ス。植物性收斂藥ニシテ同時ニ止血及防腐ノ効アリ。

51 タンニン酸 0.1-0.5

53 タンニン酸 1.0

蒸留水 10.0

蒸留水 100.0

以上點眼 1日3回(長時ノ貯藏ニ堪

以上鞣法料(ゴールドナーヘル氏)

ヘズ)(結膜炎)

54 タンニン酸 3.0

52 タンニン酸 0.03

澱粉 1.0

杏仁水 2.0

グリセリン 20.0

蒸留水 10.0

以上混和 塗布料(表皮剝離部)

同上

XXIV. ネオカイン

Neocain.

ノウォカイント同一物ナリ。

XXV. ナルベリジン

Narbelysin.

ファイプロリジント同一物ナリ。

XXVI. ノウオカイン

Novocain.

無色 小鍼状ノ結晶。味微ニ苦ク 同量ノ水ニ溶解ス。局所麻酔藥。効力 コカイント伯仲スレドモ 毒力弱シ。點眼スルモ 瞳孔ヲ散大セシメズ。又眼壓ヲ高ムルコトナシ。注射スルニ 全然 無刺激性ナレドモ 効力ノ持續短カクシテ 僅ニ數分時ニ過ギズ。然レドモ 之ニアドレナリンヲ加フレバ 麻酔ノ効ヲ高メ 且持續時間ヲ長カラシム。パンカイン スピカイン 及 ネオカインハ 日本製ノウォカインナリ。

| | | |
|------------------|---------|------------------|
| 55 ノウオカイン | 0.5—1.0 | 以上煮沸滅菌シ 注射（涙囊別出 |
| 酸化アドレナリン(1:1000) | 1.0 | 睫毛亂生症手術等) |
| 蒸餾水 | 10.0 | 57 ノウオカイン |
| 以上點眼（角膜ノ麻酔） | | 酸化アドレナリン(1:1000) |
| 56 ノウオカイン | 0.2 | 無水ラノリン |
| 鹽化アドレナリン(1:1000) | 1.0 | 米國製白色ワセリン |
| 蒸餾水 | 10.0 | 以上研和 點眼 1日2—3回 |

XXVII. クロールナトリウム

Natrium chloratum.

食鹽ノ條下ヲ見ヨ。

XXVIII. クロールアムモニウム

Ammonium chloratum.

礫砂トモ云フ。白色 結晶性ノ粉末 或ハ纖維状ノ 堅キ結晶塊。3 倍ノ水ニ溶解ス

| | | | |
|-----------------------|----------|----------------------|----------|
| 58 クロールアムモニウム液(2—12%) | | 酒石酸 | 0.02—0.1 |
| | 400.0 | 水 | 100.0 |
| 以上眼浴 1日3回 10—20分間（角 | | 以上眼浴 1日數回 1/2—1時間（角膜 | |
| 膜石灰沈着） | | 鉛濁濁） | |
| 59 クロールアムモニウム | 5.0—10.0 | | |

XXIX. 過マンガン酸カリウム

Kalium permanganicum.

紫黑色ノ結晶。16倍ノ水ニ溶解シ 紫紅色ノ液トナル。濃厚液ハ 腐蝕作用アルモ 稀薄液ハ 防腐 防臭 ノ效アリ。主トシテ 膿漏性結膜炎 等 ノ洗滌料トシテ用ヒラル。

| | | | |
|---------------|---------|-------------------|------|
| 60 過マンガン酸カリウム | 0.1—0.2 | 蒸餾水 | 20.0 |
| 水 | 1000.0 | 以上茶碗一杯ノ微温湯ニ 4滴ヲ加 | |
| 以上洗滌料 | | ハ洗滌料トス（茶碗ヲ 100グラム | |
| 61 過マンガン酸カリウム | 1.0 | トスレバ 約8000倍液トナル） | |

XXX. クプロチトロール

Cuprocitrol.

5—10% 枸橼酸銅軟膏。フォン アルト氏 ノ初メテ用フル所ナリ。枸橼酸銅ノ條下ヲ見ヨ。

XXXI. 枸橼酸銅

Cuprum citicum.

綠色 微細ノ 輕キ粉末。水ニ殆ンド不溶。腐蝕作用アリ。5—10%ノ軟膏トナシ クプロチトロールト稱シ 慢性トラホームニ常用セラル

| | | |
|-------------------|---------|-------------------|
| 62 枸橼酸銅 | 0.5—1.0 | 棒ヲ添フ。1日2回點眼 後 輕按摩 |
| グリセリン軟膏（又ハ米國製白 | | （慢性トラホーム パンヌス）（フォ |
| 色ワセリン） | 10.0 | ン アルト氏） |
| 以上研和 爲クプロチトロール 硝子 | | |

XXXII. クシロール

Cusylol.

可溶性枸橼酸銅（フォンアルト氏）。綠色ノ粉末。水ニ容易ニ溶解ス。無刺激性銅製劑トシテ 慢性トラホームニ常用セラル。チクロール 及 可溶性枸橼酸銅ハ 日本製クシロールナリ。

| | | | |
|-------------------|----------|-------------------|------|
| 63 クシロール | 0.05—2.0 | 64 クシロール | 0.05 |
| 蒸餾水 | 10.0 | 硼酸 | 0.3 |
| 以上點眼料 1日3回（慢性トラホー | | 蒸餾水 | 10.0 |
| ム） | | 以上點眼 1日數回2—3滴（フォン | |

| | | |
|----------|-----|-------------------|
| アルト氏) | | ワセリン |
| 65 クシロール | 0.5 | 以上點眼 1日2回 (慢性トラホ- |
| 無水ラノリン | 1.0 | ム) |

XXXIII. フィブロリジン

Fibrolysin.

チオツナミン ト サリチール酸ナトリウム トノ複鹽。白色結晶性ノ粉末。水ニ溶解ス。水液ハ 空氣 及 日光ノ作用ニ由リテ 變化スルヲ以テ アムブルレニ 容レアリ。メルク會社製。1 アムブルレ 中ニハ 15%ノ溶液 2.3ccm 即チ チオツナミン 0.2 グラムヲ含ム。隔日1回 1 アムブルレ宛 皮下 靜脈内 又ハ 腎筋内ニ注射ス。(癩瘻組織ノ軟化吸收) ナルベリジン ハ 日本製フィブロリジン ナリ。

XXXIV. フルオレスチン 又ハ フルオレスセイン

Fluorescin. Fluorescein.

酸性アニリン色素。黄赤色ノ粉末。水ニ不溶。アルカリニ溶解ス。然レドモ本品ノアルカリ 鹽ハ直チニ水ニ溶解ス。兩種共ニ 角膜潰瘍ノ診断ニ用ヒラル。

| | | |
|------------|------|--------------------|
| 66 フルオレスチン | 0.4 | 以上1滴ヲ點眼シ 2-3 秒ノ後 水 |
| 炭酸曹達 | 0.7 | ヲ以テ洗滌ス |
| 蒸溜水 | 20.0 | |

XXXV. フォルマリン

Formalin

35% ノ フォルムアルデヒド水溶液。無色透明ノ液。刺激性ノ臭アリ。強キ消毒藥

| | | | |
|-----------------------------------|--------|-----------|-------|
| 67 フォルマリン | 0.5 | 68 フォルマリン | 1.0 |
| 水 | 1000.0 | 水 | 200.0 |
| 以上洗滌料 毎2時1回 (膿漏性結膜炎 急性結膜炎 角膜潰瘍 等) | | 以上器械消毒用 | |

XXXVI. プロタルゴール

Protargol.

本名 プロテイン銀。淡黄色ノ粉末。微ニ鹹味アリ。水ニ溶解ス。殺菌 及 輕度ノ收斂作用アリ。點眼藥トシテ 初生兒膿漏眼ノ豫防 及 結膜炎ニ用ヒラル。熱ニヨリ分解シテ 刺激性トナルヲ以テ 用ニ臨ミ 冷水ヲ以テ 溶解スルヲ可トス。

| | | | |
|-------------|---------|-------------------------|--------|
| 69 プロタルゴール | 0.5-2.0 | 以上研和 塗布 (眼瞼緣炎) | |
| 蒸溜水 | 10.0 | 72 プロタルゴール | 1.5 |
| 以上褐色壞ニ容レ 點眼 | | 亞鉛華 | }各 1.0 |
| 70 プロタルゴール | 2.0 | 澱粉 | |
| グリセリン | 10.0 | ワセリン | 15.0 |
| 同上 | | 以上研和 塗布 (結膜眼瞼炎) (グリセル氏) | |
| 71 プロタルゴール | 0.5-2.0 | | |
| ワセリン | 10.0 | | |

XXXVII. コカイン

Cocain.

通常 鹽酸コカインヲ用フ。白色 無臭ニシテ 苦味ヲ有スル結晶。水ニ溶解ス。貴重ナル局所麻酔藥。點眼 注射 眼軟膏 等トシテ用ヒラル。麻酔ノ効力ハ 點眼後 2分時ニ始マリ 10分時ニシテ 極度ニ達シ 約10分時間持續ス。如上 末梢知覺神經麻痺作用ノ外 交感神經ヲ刺激シ 中等度ノ散瞳 及 局部貧血ヲ起ス。コカインノ水溶液ハ 容易ニ散チ生ジ 且ツ 分解スルヲ以テ 之ニ消毒藥ヲ加ヘ 且ツ 1週間以内ニ 使用スルヲ可トス 熱氣消毒ハ 5分間 1回ニハ堪ヘ得ルモ 數回煮沸スルヲ得ズ。頻回ノ點眼ハ 角膜ヲ侵シ 其上皮ヲ脱落セシム。内服ノ極量ハ 1回 0.05ナレドモ 點眼 及 注射ニハ 之ヲ超ユルモ 差支ナシ。

| | | | |
|--|------|------------------------------|---------|
| 73 鹽酸コカイン | 0.2 | 77 鹽酸コカイン | 0.2-0.4 |
| 五千倍青酸々化汞水 | 10.0 | 鹽化アドレナリン(1:1000) | 2.0 |
| 以上點眼 (局所麻酔 鎮痛) | | 1%食鹽水 | 8.0 |
| 74 鹽酸コカイン | 0.4 | 以上5分間 煮沸滅菌シ 點眼 (手術用) | |
| 蒸溜水(或ハ1%食鹽水) | 10.0 | 78 鹽酸コカイン | 0.05 |
| 以上5分時間 煮沸滅菌シ 手術前20分ヨリ 毎5分時 2滴ヅツ點眼 (局所麻酔) | | 0.9%食鹽水 | 10.0 |
| 75 鹽酸コカイン | 0.2 | 鹽化アドレナリン(1:1000) 10滴 | |
| ワセリン | 10.0 | 以上5分間 煮沸滅菌シ 注射 (手術用) (ブラウン氏) | |
| 以上研和 點眼 (鎮痛) | | 79 鹽酸コカイン水(1:100) | 1.0 |
| 76 鹽酸コカイン | 0.1 | 鹽化アドレナリン(1:1000) 3滴 | |
| 蒸溜水(或ハ1%食鹽水) | 10.0 | 同上 涙囊別出) (アキセンフェルド氏) | |
| 以上 5分間 煮沸滅菌シ 注射料トス (手術用) | | | |

XXXVIII. 皓 礬

Vitriolum album.

XXXIX. 鉛 糖

Bleizucker.

醋酸鉛ノ條下ヲ見ヨ。

XL. 鹽化アドレナリン

Adrenalin hydrochloricum.

アドレナリンノ條下ヲ見ヨ。

XLI. 鉛 醋

Bleissig.

次醋酸液ノ條下ヲ見ヨ。

XLII. 鹽酸コカイン

Cocainum hydrochloricum.

コカインノ條下ヲ見ヨ。

XLIII. デルマトール

Dermatol.

本名 次没食子酸着鉛。無味 無臭 黄色ノ粉末。水ニ不溶。創面ニ用ヒテ 分泌ヲ制限シ 弱キ防腐作用アリ。

| | | | |
|--------------------|------|-------------|------|
| 80 デルマトール | | 澱粉 | 40.0 |
| 以上毛筆ヲ以テ撒布(化膿セザル創面) | | 以上混和 同上(濕疹) | |
| 81 デルマトール | 2.0 | 82 デルマトール | 5.0 |
| 亞鉛華 | 10.0 | ワセリン | 15.0 |
| | | 以上研和 塗布 | |

XLIV. アイロール

Airol.

没食子酸 沃度 及 着鉛ノ化合物。無臭 灰綠色ノ粉末。水ニ不溶。濕氣ニヨリ 分解シテ 赤色トナル。效力 デルマトールニ等シ。

| | | | |
|----------------------|------|---------------------------------------|--------|
| 83 アイロール | | 85 アイロール | |
| 以上毛筆ヲ以テ撒布(化膿セザル創面) | | アラビアゴム漿 | 各 10.0 |
| 84 アイロール | 0.5 | グリセリン | |
| ワセリン | 10.0 | 白陶土 | 20.0 |
| 以上研和 點眼(初生兒膿漏眼角膜潰瘍等) | | 以上研和 爲アイロール泥膏(貼用 眼瞼手術後ノ創面)(フォン プレンス氏) | |

XLV. アドレナリン

Adrenalin.

アドレナリンズブラレニンハ共ニ副腎ノ製劑ナリ。通常 1000倍ノ 鹽化アドレナリン液ヲ用フ。無色ノ液。空氣ニヨリテ 淡紅色ヲ呈スルモ 效力ニ變化ナシ。點眼 或ハ注射ニヨリテ 血管ヲ收縮セシメ 局部貧血ヲ起スノ作用アルヲ以テ 止血薬トシテ 用ヒラル。又 炎症眼ニ用フレバ 點眼薬ノ吸收ヲ促シ 局所麻酔薬ニ加フレバ 其效力ヲ増大セシム。1回ノ注射量 0.0005 即チ 1000倍液 0.5グラムヲ超ユベカラズ。

| | | |
|---------------------------|----------|----------------------------------|
| 86 鹽化アドレナリン(1:1000) | 2.0-10.0 | 鹽化アドレナリン(1:1000) 10滴 |
| 蒸溜水 | 10.0 | 以上五分間 煮沸滅菌シ注射料(手術用) |
| 以上煮沸滅菌シ 點眼(手術前 點眼前等) | | 89 鹽化アドレナリン(1:1000) 1.5 |
| 87 鹽化アドレナリン(1:1000) 2.0 | | 鹽酸コカイン 0.1 |
| 鹽酸コカイン 0.2-0.4 | | 蒸溜水 10.0 |
| 0.9%食鹽水 8.0 | | 同上 |
| 以上五分間 煮沸滅菌シ 點眼(手術又ハ 點眼ノ前) | | 90 鹽酸コカイン 0.01 |
| 88 鹽酸コカイン 0.05 | | 鹽化アドレナリン 0.00013 |
| 0.9%食鹽水 10.0 | | 食鹽 0.009 |
| | | 以上爲一錠 使用前 1グラムノ殺菌蒸溜水ニ溶解注射(アラウン氏) |

XLVI. アルギロール

Argyrol.

銀ノ有機性化合物。水ニ溶解シテ 褐色ノ液トナル。硝酸銀 或ハ プロタルゴールニ比シ 刺戟少ナクレドモ 效力モ亦少ナシ。

| | | | |
|-------------------|---------|--------------------|------|
| 91 アルギロール | 0.1-0.5 | 92 アルギロール | 2.5 |
| 蒸溜水 | 10.0 | 蒸溜水 | 10.0 |
| 以上點眼 1日數回 (急性結膜炎) | | 以上點眼 毎時1回 (膿漏性結膜炎) | |

XLVII. 醋酸鉛

Plumbum aceticum.

鉛糖トモ云フ。無色 或ハ 白色ノ結晶。微ニ醋酸ノ臭アリ。水ニ溶解ス。收斂藥ナレドモ 角膜潰瘍ニ沈着シテ 不滅ノ斑點ヲ貽スヲ以テ 角膜ニ損傷アル場合ヲ禁忌ス。

| | | | |
|-------------------|----------|-------------------|---------|
| 93 醋酸鉛 | 0.05-0.1 | 水 | 100.0 |
| 蒸溜水 | 10.0 | 同上 | |
| 以上點眼 1日1-2回 上眼瞼ヲ翻 | | 96 醋酸鉛 | 5.0 |
| 轉シ結膜面ニ點眼シ 直チニ 水ヲ | | 明礬 | 1.0 |
| 以テ洗滌ス (角膜上皮ノ缺损アル | | 水 | 100.0 |
| 場合ヲ禁忌ス) | | 以上十倍ニ稀釋シ 罌法料トス (急 | |
| 94 醋酸鉛 | 0.1-0.5 | 性濕疹) (アロー氏) | |
| 水 | 100.0 | 97 鉛醋(次醋酸鉛液) | 0.5-1.0 |
| 以上罌法料 | | ワセリン | 10.0 |
| 95 鉛醋(次醋酸鉛液) | 0.5-1.0 | 以上塗布 | |

XLVIII. 酸化チアン汞

Hydrargyrum oxycyanatum.

青酸々化汞ノ條下ヲ見ヨ。

XLIX. キセロフォルム

Xeroform.

本名 トリブローム石炭酸苳鉛。無味 無臭 黄色ノ粉末。水ニ不溶。効力 用法 等アルマトールニ等シ。

| | | | |
|------------------|-----|----------------|--------|
| 98 キセロフォルム | | ワセリン | }各 5.0 |
| 以上毛筆ヲ以テ撒布 (化膿セザル | | ラノリン | |
| 創面) | | 以上研和 點眼 (角膜潰瘍) | |
| 99 キセロフォルム | 0.2 | | |

L. 明礬

Alaun. Alumen.

無色 透映ノ結晶。味收 欝性ナリ。10倍ノ水ニ溶解ス。收斂藥ナレドモ 濃厚ナルトキハ結膜ヲ腐蝕ス。

| | | | |
|------------------|--|--------|-------|
| 100 明礬 | | 101 明礬 | 1.0 |
| 以上稜角ヲ去リテ 平滑トナシ 結 | | 水 | 200.0 |
| 膜面ヲ輕ク2-3回擦過シ 直チニ | | 以上洗滌料 | |
| 水ヲ以テ洗滌ス(慢性トラホーム) | | | |

LI. 昇汞

Hydrargyrum bichloratum.

過クロール汞。白色 透映ノ結晶。16倍ノ水ニ溶解ス。強キ消毒藥。猛毒アリ。金屬ヲ腐蝕ス。消毒藥中 最モ多ク用ヒラル、モノナリ。(皮膚ニハ千倍 粘膜ニハ五千倍)ノ水溶液ハ 無臭ナルヲ以テ 錯誤ヲ避クル爲メ 赤色ノ テール色素ヲ加ヘテ 微ニ着色スルヲ法トス。本品ヲ溶解スルニハ 蒸溜水ヲ用フベシ。若シ地水ヲ用フル場合ニハ 約同量ノ食鹽ヲ加ヘザレバ 水中ノ炭酸アルカリト化合シテ 不溶性ノ物質トナリ 効力ヲ失フ通常本品ニ 食鹽 及 色素ヲ加ヘタル 昇汞食鹽 又ハ昇汞錠ヲ用フルヲ便トス。近來青酸々化汞 漸次勢力ヲ得テ昇汞ヲ 壓倒セントス。内服ノ極量1回0.02 1日0.06。

| | | | |
|-------------------|--------|------------------|--------|
| 102 昇汞 | 0.2 | 104 昇汞 | }各 1.0 |
| 食鹽 | 0.2 | 食鹽 | |
| 水 | 1000.0 | 水 | 1000.0 |
| 以上爲五千倍昇汞水 赤色ノ色素ヲ | | 以上爲千倍昇汞水 赤色ノ色素ヲ以 | |
| 以テ着色シ 洗滌 又ハ 罌法料トス | | テ着色シ 消毒用 (皮膚) | |
| 103 昇汞錠(1錠ノ含量0.5) | | 105 昇汞 | 0.03 |
| 以上1箇ヲ 2.5リートルノ水ニ溶 | | 米國製白色ワセリン | 100.0 |
| 解シ 洗滌料 (結膜等) | | 以上研和 點眼 或ハ 瞼縁ニ塗布 | |
| | | (手術後ノ創面) | |

LII. 食鹽

Sal. culinare.

本名 クロールナトリウム。白色 結晶性ノ粉末。鹹味ヲ有シ 水ニ溶解ス)

| | | | |
|---------------------|---------|------------------|---------|
| 106 食鹽 | 8.5-9.0 | クロールカルチウム | 0.1 |
| 蒸溜水 | 1000.0 | クロールカリウム | 0.075 |
| 以上爲生理的食鹽水 洗滌 又ハ 罌 | | 水 | 1000.0 |
| 法料 或ハ 煮沸滅菌シ 洗滌 又ハ 皮 | | 以上濾過 罌法料 (リッゲル氏) | |
| 下注入 (手術用) | | 108 食鹽 | 0.1-1.0 |
| 107 食鹽 | 8.0 | 蒸溜水 | 10.0 |
| 炭酸ナトリウム | 0.1 | 以上煮沸滅菌シ 爲結膜下注射料 | |

LIII. 次醋酸鉛液

Liquor plumbi subacetici.

鉛醋ト云フ。醋酸鉛 酸化鉛ノ混和水溶液。醋酸鉛ノ條下ヲ見ヨ。

LIV. ビオクタニン

Pyoktanin.

砒素ヲ含マザル メチールグイオレット。アニリン色素ニシテ 青色ト黄色トノ二種アリ。水ニ溶解ス。通常 青色ビオクタニンヲ用フ。防腐及 殺菌ノ効アリ。搔痒ヲ制ス。角膜潰瘍 皮膚ノ創面 濕疹 等ニ用ヒラル。

| | | | |
|----------------------------------|-----------|---|------|
| 109 青色ビオクタニン | 0.1-0.5 | 蒸溜水 | 10.0 |
| 蒸溜水 | 10.0 | 以上點眼後 2-3分間ヲ經テ 5%オニオン水ヲ點眼ス 1日1-2回(角膜潰瘍)(ウイツヘルキ-ウイツツ氏) | |
| 以上塗布 後 水ヲ以テ洗滌ス (角膜潰瘍) 皮膚ハ洗滌ヲ要セズ。 | | | |
| 110 青色ビオクタニン | 0.02-0.05 | | |

LV. 青 酸 汞

Hydrargyrum cyanatum.

チアン汞トモ云フ。無色 透明ナル 稜柱狀ノ結晶。13分ノ水ニ溶解ス。猛毒アリ。其効力 及 用法青酸々化汞ト同様ナリ。青酸々化汞ノ條下ヲ見ヨ。

LVI. 青酸々化汞

Hydrargyrum oxycyanatum.

酸化チアン汞 又 ナキシチアン汞トモ云フ。白色 結晶性ノ粉末。17倍ノ水ニ溶解ス。強キ消毒薬ニシテ 効力 昇汞ト伯仲ス。而シテ 其昇汞ニ優レル點ハ 蛋白質ヲ凝固セシメザルヲ以テ 組織ヲ刺戟スルコト少ナキト 金屬ヲ腐蝕スルコト少ナキトナリ。故ニ 其應用極メテ廣ク 種々ノ方面ニ於テ 昇汞ヲ壓倒スルニ至レリ。青酸汞ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得。

| | | | |
|----------------------|---------|-------------------------------|--------|
| 111 青酸々化汞 | 0.2-0.5 | 水 | 1000.0 |
| 水(煮沸滅菌) | 1000.0 | 以上洗滌料(涙囊炎 結膜炎 角膜潰瘍等) 又ハ 皮膚消毒料 | |
| 以上洗滌料(結膜囊)(手術用)又 覆法料 | | | |
| 112 青酸々化汞 | 0.5-2.0 | 113 青酸々化汞 | 1.0 |
| | | 水 | 100.0 |

以上器械消毒料 (15分間以上浸漬ス)

114 青酸々化汞液(1:1000) 10.0
以上煮沸滅菌シ 爲結膜下注射料

LVII. 硝 酸 銀

Argentum nitricum.

光輝アル 無色 板狀ノ結晶ニシテ 水ニ溶解ス。稀釋液ハ結膜ヲ收斂シ 濃厚液ニ腐蝕ス。腐蝕作用ハ タゞ表面的ニシテ 結膜ニ點ズレバ 上層ノ蛋白質ト化合シ 白色ノ薄キ膜ヲ生ジ 若干時ノ後 脱落ス。コノ際 表層ノ細菌等ハ 共ニ除去セラレ 患者輕快ヲ覺ユ。適應症ハ結膜ノ加答兒性分泌 角膜ノ加答兒性潰瘍等ナリ。刺戟強キヲ以テ 點眼後 冷電法ヲ行フヲヨシトス。結膜ニ沈着シテ所謂銀病ヲ起スノ懼アルヲ以テ 永續シテ用ヒザルヲ可トス。且 點眼後 直チニ(強ク作用セシメムトスルトキハ 若干秒ノ後) 1%食鹽水ヲ以テ 洗滌スベシ。被服 皮膚 等ニ附着スレバ 乾燥後 黒斑ヲ貽スヲ以テ 藥液ノ他ニ附着セザルコトニ 注意スベシ。光線ニヨリテ 分解スルヲ以テ 著色壘ニ容レ 又 蛋白質 食鹽 等ト化合スルヲ以テ 汚物ノ混入ヲ防ギ 屢々新鮮ナルモノト交換スルヲ要ス。皮膚 又ハ 被服ニ附着シタル黒斑ヲ去ルニハ クロール銅2.0ヲ 水10.0ニ溶解シタル液ニテ 濕ホシ 稍白クナリタル後 次亞硫酸曹達液(1:10)ニ浸シ全ク白色ノ消失シタル後 温湯ヲ以テ 能ク洗フベシ。或ハ又 沃度液(沃度加里15.0ヲ水5.0ニ溶解シ 之ニ沃度50.0ヲ加ヘ 全量ヲ 500.0トナシテ貯フ)若クハ 日本藥局方 ヨード丁 幾ニ酒精ヲ加ヘ 2倍ニ稀釋シタルモノヲ滴下シ 褐色ニ變セシメ約5分時間放置シタル後 次亞硫酸曹達液(1:10)ノ温液ニテ 洗ヒ落シ 更ニ水ニテ洗フベシ(森川氏)。又ハ 昇汞クロールアムモニウム 各10.0 蒸溜水 100.0ノ液ヲ 塗布スルモ可ナリ。

| | | | |
|------------------------------------|---------|---|-----------|
| 115 硝酸銀 | 0.2 | 以上眼瞼ヲ翻轉シ 結膜面ニ塗布 | |
| 蒸溜水 | 10.0 | 又ハ 點眼後 1%食鹽水ヲ以テ洗滌ス 1日1回(急性結膜炎 膿漏眼 急性トラホーム等) | |
| 以上硝子棒ヲ以テ 初生兒ニ點眼(初生兒膿漏眼ノ豫防)(クレ-テ氏法) | | | |
| 116 硝酸銀 | 0.1-0.2 | 117 硝酸銀 | 0.03-0.05 |
| 蒸溜水 | 10.0 | 蒸溜水 | 10.0 |
| | | 同上(炎症ノ稍々輕キモノ) | |

LVIII. 石 炭 酸

Acidum carboricum.

無色 線狀ノ結晶ニシテ 特異ノ臭氣ヲ有シ 15倍ノ水ニ溶解ス。強キ消毒薬ナルモ 刺戟強キヲ以テ 眼科ニ於テハ 主トシテ 器械ノ消毒ニ用ヒラル。又 鎮痛ノ爲 結膜下注射トシテ用ヒラルコトアリ。

| | | | |
|---------|------|------------|------|
| 118 石炭酸 | 5.0 | 119 注射用石炭酸 | 0.05 |
| 蒸溜水 | 95.0 | 蒸溜水(煮沸滅菌) | 10.0 |
| 以上器械消毒料 | | 以上結膜下注射料 | |

LIX. スピカイン

Supicain.

スピカイント同一物ナリ。

大正十一年四月十五日印刷

大正十一年四月二十日發行

宮城縣警察部衛生課内

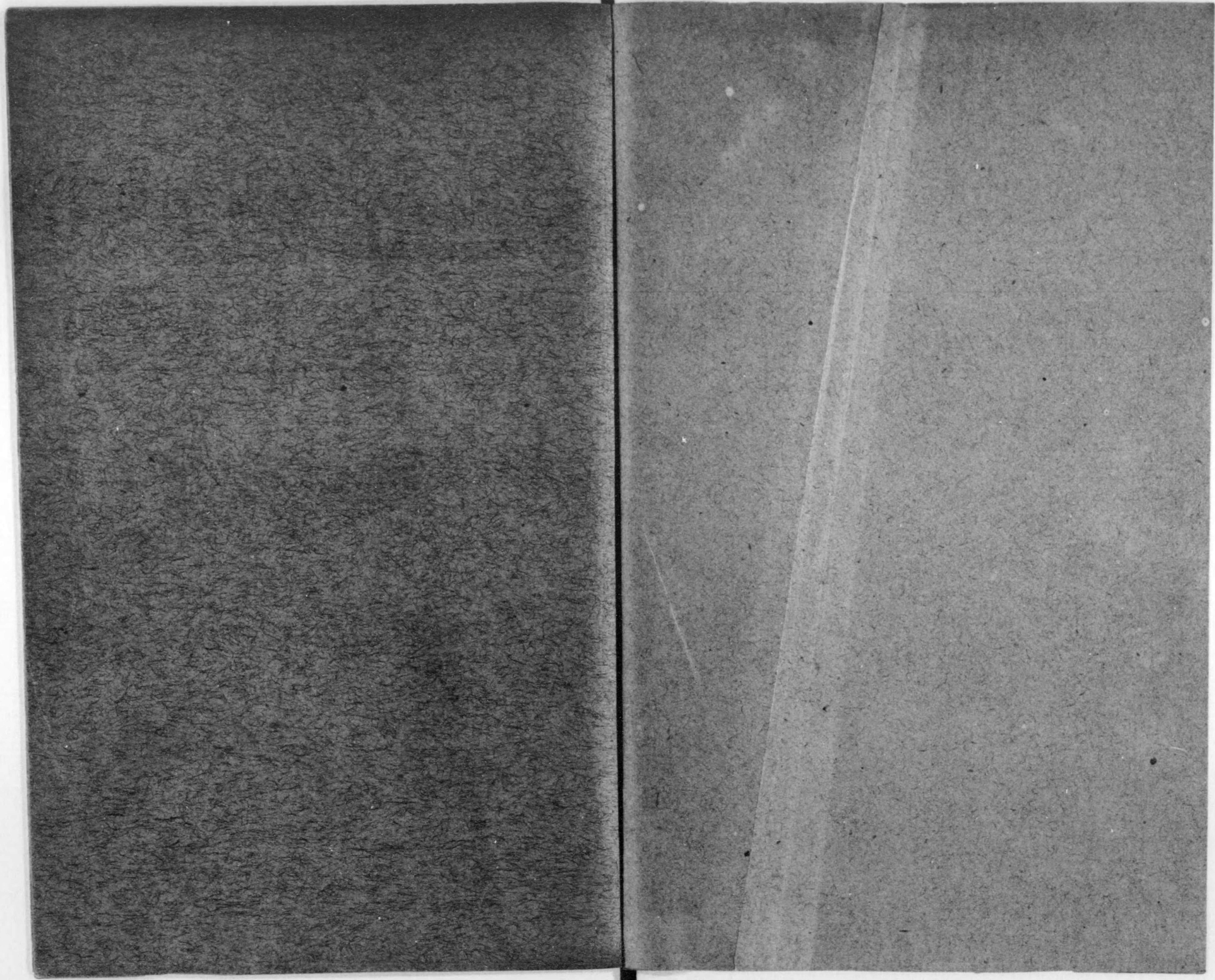
宮城縣私立衛生會

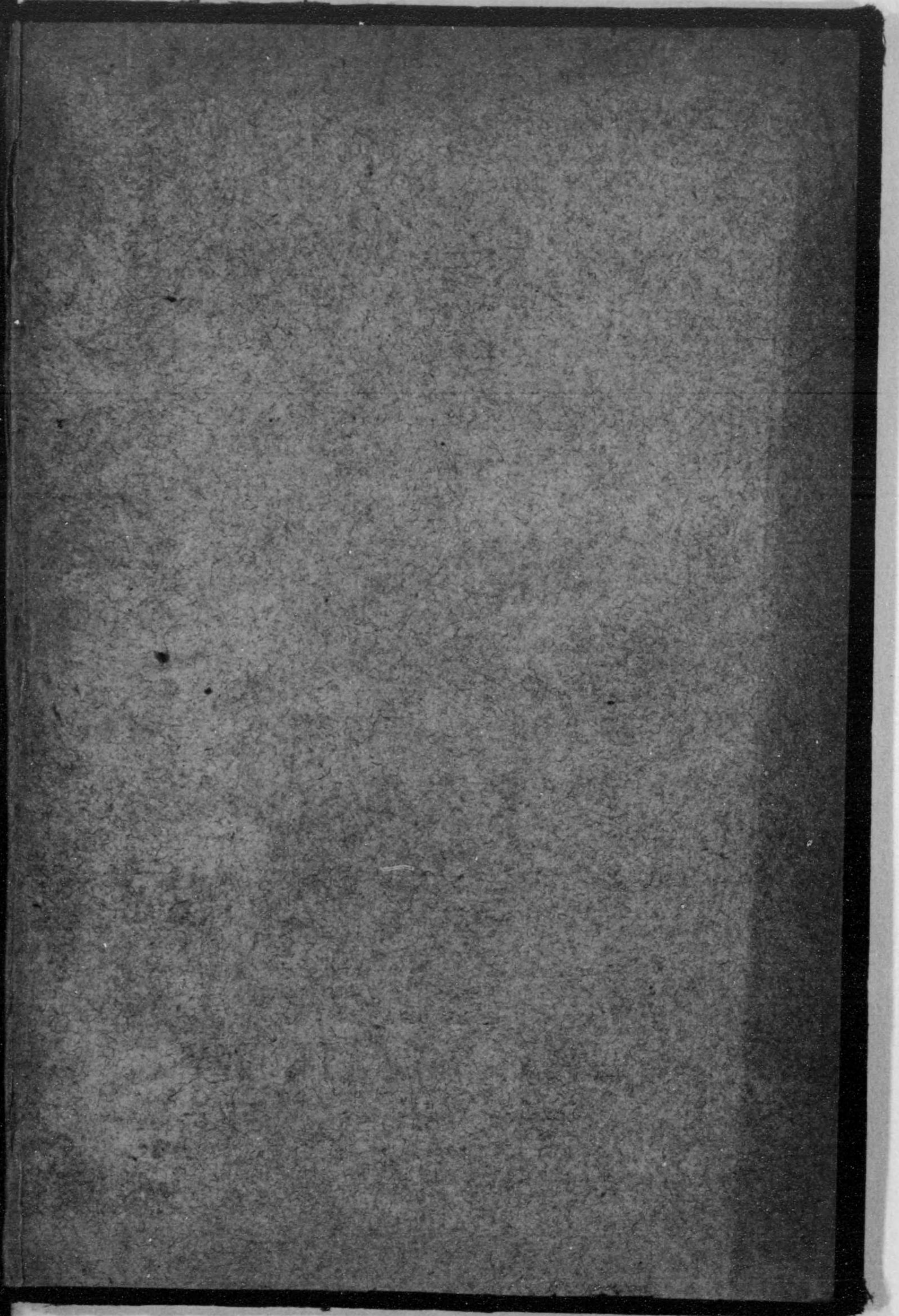
印刷所 東北活版社

仙臺市南町四十二番地
電話 六〇一番

印刷人 股野七郎

仙臺市南町四十二番地





55
121

終